

# 西東京市障害者基本計画策定のための調査

## 報告書

平成 25 年 8 月

西東京市



## 目 次

<b>I 調査の概要</b>	
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査時期	1
4 調査方法	1
5 回収状況	1
6 調査項目	2
<b>II 身体障害者調査の結果</b>	
1 基本的な属性等	
(1) 調査票の記入者	5
(2) 性別・年齢	5
(3) 身体障害者手帳に記載された障害の程度	5
(4) 他の障害の状況	6
2 介助・援助の状況	
(1) 介助・援助を受けている場面	6
3 外出や社会参加について	
(1) 外出の際に困っていること	7
(2) 余暇活動の状況・意向	8
(3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件	9
4 健康状態や医療について	
(1) 最近の健康状態	9
(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	9
5 日中の過ごし方	
(1) 日中の過ごし方	10
6 幼稚園・保育園、学校等について	
(1) 通園・通学先	10
(2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること	10
(3) 学校教育に望むこと	10
(4) 介助員制度の認知状況	11
7 雇用・就労について	
(1) 就労に関するサービスの認知状況	11
(2) 就労状況	12
(3) 就労形態	12
(4) 給与・賃金額	13
(5) 仕事をする上で困っていること	14
(6) 働いていない理由	14
(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件	15
8 相談や情報入手について	
(1) 悩みごとや心配ごとの相談先	16
(2) 希望する相談先や相談体制	16
(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先	19
(4) フレンドリー内施設の認知状況	19
(5) コミュニケーションや情報取得する上で困ること	20
9 福祉サービスについて	
(1) 福祉サービスの認知状況・利用経験	21
(2) 必要なサービスの満足度	27
(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由	27
(4) 障害福祉課窓口の満足度	28
(5) 5年前との比較	30
10 災害対策について	

(1) 災害への備え	32
(2) 避難所の認知状況	32
(3) 災害時要援護者登録の認知状況	32
(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安	33
(5) 必要な災害対策	33
11 差別や人権侵害について	
(1) 差別や人権侵害、虐待の状況	34
(2) 市民理解の進捗	36
(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと	36
(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと	36
(5) 成年後見制度の認知状況	37
(6) 成年後見制度の利用意向	37
12 市への要望等	
(1) 充実させていくべき障害者施策	38
(2) 居住継続意向	39
(3) 意見・要望等	39

### III 知的障害者調査の結果

---

1 基本的な属性等	
(1) 調査票の記入者	45
(2) 性別・年齢	45
(3) 愛の手帳に書かれている障害の程度	45
(4) 他の障害の状況	46
2 介助・援助の状況	
(1) 介助・援助を受けている場面	47
3 外出や社会参加について	
(1) 外出の際に困っていること	48
(2) 余暇活動の状況・意向	49
(3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件	50
4 健康状態や医療について	
(1) 最近の健康状態	51
(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	51
5 日中の過ごし方	
(1) 日中の過ごし方	52
6 幼稚園・保育園、学校等について	
(1) 通園・通学先	52
(2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること	52
(3) 学校教育に望むこと	53
(4) 介助員制度の認知状況	53
7 雇用・就労について	
(1) 就労に関するサービスの認知状況	54
(2) 就労状況	54
(3) 就労形態	54
(4) 給与・賃金額	55
(5) 仕事をする上で困っていること	55
(6) 働いていない理由	56
(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件	56
8 相談や情報入手について	
(1) 悩みごとや心配ごとの相談先	57
(2) 希望する相談先や相談体制	57
(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先	59
(4) フレンドリー内施設の認知状況	59
9 福祉サービスについて	

(1) 福祉サービスの認知状況・利用経験	60
(2) 必要なサービスの満足度	63
(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由	64
(4) 障害福祉課窓口の満足度	65
(5) 5年前との比較	67
10 災害対策について	
(1) 災害への備え	68
(2) 避難所の認知状況	68
(3) 災害時要援護者登録の認知状況	68
(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安	69
(5) 必要な災害対策	69
11 差別や人権侵害について	
(1) 差別や人権侵害、虐待の状況	70
(2) 市民理解の進捗	72
(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと	72
(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと	73
(5) 成年後見制度の認知状況	73
(6) 成年後見制度の利用意向	74
12 市への要望等	
(1) 充実させていくべき障害者施策	74
(2) 居住継続意向	75
(3) 意見・要望等	75

#### IV 精神障害者調査の結果

---

1 基本的な属性等	
(1) 調査票の記入者	83
(2) 性別・年齢	83
(3) 精神障害者保健福祉手帳の有無、及び書かれている障害の程度	83
(4) 他の障害の状況	84
2 介助・援助の状況	
(1) 介助・援助を受けている場面	84
(2) 介助・援助がほしいと思う場面	84
3 外出や社会参加について	
(1) 外出頻度	86
(2) 外出の際に困っていること	86
(3) 余暇活動の状況・意向	87
(4) 余暇活動をするために必要とする環境・条件	87
4 健康状態や医療について	
(1) 最近の健康状態	88
(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	88
(3) 入所・入院期間	88
(4) 退所・退院の見通し	88
(5) 退院後の生活を考えたときの不安	89
5 日中の過ごし方	
(1) 日中の過ごし方	89
6 雇用・就労について	
(1) 就労に関するサービスの認知状況	90
(2) 就労状況	91
(3) 就労形態	91
(4) 給与・賃金額	92
(5) 仕事をする上で困っていること	92
(6) 働いていない理由	93
(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件	93

7	相談や情報入手について	
	(1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先	94
	(2) 希望する相談先や相談体制	95
	(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先	97
	(4) フレンドリー内施設の認知状況	97
8	福祉サービスについて	
	(1) 地域で生活していく上で必要なサービス	98
	(2) 福祉サービスの認知状況・利用経験	99
	(3) 必要なサービスの満足度	100
	(4) 必要なサービスを十分利用できていない理由	101
	(5) 障害福祉課窓口の満足度	101
	(6) 5年前との比較	103
9	災害対策について	
	(1) 災害への備え	105
	(2) 避難所の認知状況	105
	(3) 災害時要援護者登録の認知状況	105
	(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安	105
	(5) 必要な災害対策	106
10	差別や人権侵害について	
	(1) 差別や人権侵害、虐待の状況	106
	(2) 市民理解の進捗	108
	(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと	108
	(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと	109
	(5) 成年後見制度の認知状況	109
	(6) 成年後見制度の利用意向	109
11	市への要望等	
	(1) 充実させていくべき障害者施策	110
	(2) 居住継続意向	111
	(3) 意見・要望等	111

## V 難病患者調査の結果

---

1	基本的な属性等	
	(1) 調査票の記入者	115
	(2) 性別・年齢	115
	(3) 難病者福祉手当を受けている疾病の種類	115
	(4) 他の障害の状況	116
2	介助・援助の状況	
	(1) 介助・援助を受けている場面	116
3	外出や社会参加について	
	(1) 外出の際に困っていること	117
	(2) 余暇活動の状況・意向	117
	(3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件	118
4	健康状態や医療について	
	(1) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	118
5	日中の過ごし方	
	(1) 日中の過ごし方	119
6	幼稚園・保育園、学校等について	
	(1) 通園・通学先	119
	(2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること	119
	(3) 学校教育に望むこと	119
	(4) 介助員制度の認知状況	120
7	雇用・就労について	
	(1) 就労に関するサービスの認知状況	120

(2) 就労状況	120
(3) 就労形態	121
(4) 給与・賃金額	121
(5) 仕事をする上で困っていること	121
(6) 働いていない理由	122
(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件	122
8 相談や情報入手について	
(1) 悩みごとや心配ごとの相談先	123
(2) 希望する相談先や相談体制	123
(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先	125
(4) フレンドリー内施設の認知状況	125
9 福祉サービスについて	
(1) 福祉サービスの利用経験・利用意向	126
(2) 必要なサービスの満足度	127
(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由	127
(4) 障害福祉課窓口の満足度	128
(5) 5年前との比較	129
10 将来の希望	
(1) 今後希望する日中の過ごし方	131
(2) 将来（今後）、希望する暮らし方	132
11 災害対策について	
(1) 災害への備え	132
(2) 避難所の認知状況	132
(3) 災害時要援護者登録の認知状況	132
(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安	133
(5) 必要な災害対策	133
12 差別や人権侵害について	
(1) 差別や人権侵害、虐待の状況	134
(2) 市民理解の進捗	135
(3) 難病・障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと	136
(4) 難病・障害や難病・障害のある人への理解を深めるために必要なこと	136
(5) 成年後見制度の認知状況	137
(6) 成年後見制度の利用意向	137
13 市への要望等	
(1) 充実させていくべき難病者施策・障害者施策	138
(2) 居住継続意向	138
(3) 意見・要望等	139

## VI 高次脳機能障害者調査の結果

---

1 基本的な属性等	
(1) 調査票の記入者	143
(2) 性別・年齢	143
(3) 他の障害の状況	143
(4) 高次脳機能障害の診断の有無	143
(5) 日常生活に支障をきたすこと	143
(6) 充実されるとよい施策	143
2 介助・援助の状況	
(1) 介助・援助を受けている場面	144
3 外出や社会参加について	
(1) 外出の際に困っていること	144
(2) 余暇活動の状況・意向	144
(3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件	144
4 健康状態や医療について	

(1) 最近の健康状態	145
(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	145
5 日中の過ごし方	
(1) 日中の過ごし方	145
6 雇用・就労について	
(1) 就労に関するサービスの認知状況	145
(2) 就労状況	145
(3) 就労形態	145
(4) 給与・賃金額	146
(5) 仕事をする上で困っていること	146
(6) 働いていない理由	146
(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件	146
7 相談や情報入手について	
(1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先	147
(2) 希望する相談先や相談体制	147
(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先	147
(4) フレンドリー内施設の認知状況	147
8 福祉サービスについて	
(1) 福祉サービスの利用経験・利用意向	148
(2) 必要なサービスの満足度	148
(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由	148
(4) 障害福祉課窓口の満足度	149
(5) 5年前との比較	149
9 将来の希望	
(1) 今後希望する日中の過ごし方	149
(2) 将来（今後）、希望する暮らし方	149
10 災害対策について	
(1) 災害への備え	150
(2) 避難所の認知状況	150
(3) 災害時要援護者登録の認知状況	150
(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安	150
(5) 必要な災害対策	150
11 差別や人権侵害について	
(1) 差別や人権侵害、虐待の状況	151
(2) 市民理解の進捗	151
(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと	151
(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと	151
(5) 成年後見制度の認知状況	151
(6) 成年後見制度の利用意向	151
12 市への要望等	
(1) 充実させていくべき障害者施策	152
(2) 居住継続意向	152
(3) 意見・要望等	152

## VII 発達障害者調査の結果

1 基本的な属性等	
(1) 調査票の記入者	153
(2) 性別・年齢	153
(3) 他の障害の状況	153
(4) 発達障害の診断の有無	153
(5) 日常生活に支障をきたすこと	153
(6) 充実されるとよい施策	154
2 介助・援助の状況	



(1) 介助・援助を受けている場面	154
3 外出や社会参加について	
(1) 外出の際に困っていること	155
(2) 余暇活動の状況・意向	155
(3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件	155
4 健康状態や医療について	
(1) 最近の健康状態	155
(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	156
5 日中の過ごし方	
(1) 日中の過ごし方	156
6 幼稚園・保育園、学校等について	
(1) 通園・通学先	156
(2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること	156
(3) 学校教育に望むこと	156
(4) 介助員制度の認知状況	157
7 雇用・就労について	
(1) 就労に関するサービスの認知状況	157
(2) 就労状況	157
(3) 就労形態	157
(4) 仕事をする上で困っていること	157
(5) 働いていない理由	158
(6) 障害のある人が働くために必要な環境・条件	158
8 相談や情報入手について	
(1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先	158
(2) 希望する相談先や相談体制	158
(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先	159
(4) フレンドリー内施設の認知状況	159
9 福祉サービスについて	
(1) 福祉サービスの利用経験・利用意向	160
(2) 必要なサービスの満足度	160
(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由	160
(4) 障害福祉課窓口の満足度	161
(5) 5年前との比較	161
10 将来の希望	
(1) 今後希望する日中の過ごし方	161
(2) 将来（今後）、希望する暮らし方	161
11 災害対策について	
(1) 災害への備え	162
(2) 避難所の認知状況	162
(3) 災害時要援護者登録の認知状況	162
(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安	162
(5) 必要な災害対策	162
12 差別や人権侵害について	
(1) 差別や人権侵害、虐待の状況	162
(2) 市民理解の進捗	163
(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと	163
(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと	163
(5) 成年後見制度の認知状況	163
(6) 成年後見制度の利用意向	163
13 市への要望等	
(1) 充実させていくべき障害者施策	164
(2) 居住継続意向	164
(3) 意見・要望等	164

## VIII 通級指導学級調査の結果

---

1	基本的な属性等	
(1)	性別・年齢	165
(2)	発達障害の診断の有無	165
(3)	発達障害の診断・判断を受けた年齢・きっかけ	165
(4)	日常生活を送る上での困難さ	166
(5)	日常生活で困難があるときに必要とする支援	168
(6)	障害者手帳の取得状況等	169
2	学校について	
(1)	学校生活で困っていること	170
(2)	学校教育に望むこと	171
3	外出や社会参加について	
(1)	外出の際に困っていること	172
4	健康状態や医療について	
(1)	最近の健康状態	172
(2)	健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	172
5	雇用・就労について	
(1)	障害のある人が働くために必要な環境・条件	173
6	相談や情報入手について	
(1)	悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先	173
(2)	希望する相談先や相談体制	174
(3)	障害福祉サービス等の情報の入手先	175
(4)	フレンドリー内施設の認知状況	175
7	福祉サービスについて	
(1)	福祉サービスの利用経験・利用意向	176
(2)	必要なサービスの満足度	176
(3)	必要なサービスを十分利用できていない理由	177
(4)	障害福祉課窓口の満足度	177
8	災害対策について	
(1)	災害への備え	177
(2)	避難所の認知状況	177
(3)	災害時要援護者登録の認知状況	178
(4)	地震や台風などの災害が起こった際の不安	178
(5)	必要な災害対策	178
9	差別や人権侵害について	
(1)	差別や人権侵害、虐待の状況	179
(2)	市民理解の進捗	180
(3)	障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと	180
(4)	障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと	181
10	市への要望等	
(1)	充実させていくべき障害者施策	181
(2)	居住継続意向	182
(3)	意見・要望等	182

## IX 障害者団体等ヒアリングの結果

---

1	ヒアリング実施内容	185
2	ヒアリング結果	185

## 1 基本目的

西東京市障害者基本計画策定の基礎資料とするため、市内に居住する障害のある方々に対して、日常生活上の困難さや支援の必要性等を把握するアンケート調査（質問紙による調査）を実施した。また、あわせて、アンケート調査だけでは浮き彫りになりにくい課題等を把握するため、市内の障害者団体やサービス事業者、関係機関等に対して、ヒアリングを実施した。

## 2 調査対象

### 《アンケート調査》

調査区分	対象者
身体障害者調査	市内在住の身体障害者手帳所持者／無作為抽出 2,566名
知的障害者調査	市内在住の愛の手帳（療育手帳）所持者／無作為抽出 513名
精神障害者調査	市内在住の精神障害者保健福祉手帳の所持者／無作為抽出 542名
難病患者調査	市内在住の難病患者福祉手当の受給者／691名
高次脳機能障害者調査	関係機関を利用する高次脳機能障害があると思われる方のうち協力者
発達障害者	関係機関を利用する発達障害があると思われる方のうち協力者
通級指導学級調査	市内の通級指導学級に通う児童・生徒の保護者／全数 89名

### 《ヒアリング》

障害者団体、サービス事業者、学校関係、就労支援機関関係等

## 3 調査時期

平成25年5月～7月

## 4 調査方法

身体障害者調査、知的障害者調査、精神障害者調査、難病患者調査については郵送配付・郵送回収、高次脳機能障害者調査と発達障害者調査については関係機関を通じて配付・郵送回収、通級指導学級調査については学校を通じて配付・郵送回収。

## 5 回収状況

	身体障害者調査	知的障害者調査	精神障害者調査	難病患者調査	高次脳機能障害者調査	発達障害者調査	通級指導学級調査
有効回収数 (有効回収率)	1,256 (48.9%)	214 (41.7%)	207 (38.2%)	308 (44.6%)	8 —	15 —	33 (37.1%)

## 6 調査項目

<p>身体障害者調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な属性等</li> <li>・ 介助・援助の状況</li> <li>・ 外出や社会参加について</li> <li>・ 健康状態や医療について</li> <li>・ 日中の過ごし方</li> <li>・ 幼稚園・保育園、学校等について</li> <li>・ 雇用・就労について</li> <li>・ 相談や情報入手について</li> <li>・ 福祉サービスについて</li> <li>・ 災害対策について</li> <li>・ 差別や人権侵害について</li> <li>・ 市への要望等</li> </ul>
<p>知的障害者調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な属性等</li> <li>・ 介助・援助の状況</li> <li>・ 外出や社会参加について</li> <li>・ 健康状態や医療について</li> <li>・ 日中の過ごし方</li> <li>・ 幼稚園・保育園、学校等について</li> <li>・ 雇用・就労について</li> <li>・ 相談や情報入手について</li> <li>・ 福祉サービスについて</li> <li>・ 災害対策について</li> <li>・ 差別や人権侵害について</li> <li>・ 市への要望等</li> </ul>
<p>精神障害者調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な属性等</li> <li>・ 介助・援助の状況</li> <li>・ 外出や社会参加について</li> <li>・ 健康状態や医療について</li> <li>・ 日中の過ごし方</li> <li>・ 雇用・就労について</li> <li>・ 相談や情報入手について</li> <li>・ 福祉サービスについて</li> <li>・ 災害対策について</li> <li>・ 差別や人権侵害について</li> <li>・ 市への要望等</li> </ul>
<p>難病患者調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な属性等</li> <li>・ 介助・援助の状況</li> <li>・ 外出や社会参加について</li> <li>・ 健康状態や医療について</li> <li>・ 日中の過ごし方</li> <li>・ 幼稚園・保育園、学校等について</li> <li>・ 雇用・就労について</li> <li>・ 相談や情報入手について</li> <li>・ 福祉サービスについて</li> <li>・ 将来の希望</li> <li>・ 災害対策について</li> <li>・ 差別や人権侵害について</li> <li>・ 市への要望等</li> </ul>

高次脳機能障害者調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な属性等</li> <li>・ 介助・援助の状況</li> <li>・ 外出や社会参加について</li> <li>・ 健康状態や医療について</li> <li>・ 日中の過ごし方</li> <li>・ 雇用・就労について</li> <li>・ 相談や情報入手について</li> <li>・ 福祉サービスについて</li> <li>・ 将来の希望</li> <li>・ 災害対策について</li> <li>・ 差別や人権侵害について</li> <li>・ 市への要望等</li> </ul>				
発達障害者調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な属性等</li> <li>・ 介助・援助の状況</li> <li>・ 外出や社会参加について</li> <li>・ 健康状態や医療について</li> <li>・ 日中の過ごし方</li> <li>・ 幼稚園・保育園、学校等について</li> <li>・ 雇用・就労について</li> <li>・ 相談や情報入手について</li> <li>・ 福祉サービスについて</li> <li>・ 将来の希望</li> <li>・ 災害対策について</li> <li>・ 差別や人権侵害について</li> <li>・ 市への要望等</li> </ul>				
通級指導学級調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な属性等</li> <li>・ 学校について</li> <li>・ 外出や社会参加について</li> <li>・ 健康状態や医療について</li> <li>・ 雇用・就労について</li> <li>・ 相談や情報入手について</li> <li>・ 福祉サービスについて</li> <li>・ 災害対策について</li> <li>・ 差別や人権侵害について</li> <li>・ 市への要望等</li> </ul>				
障害者団体等ヒアリング	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="667 1503 662 1827" style="width: 30%; text-align: center;">(団体)</td> <td data-bbox="667 1503 1436 1827"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体の活動内容</li> <li>・ 活動の参加者（人数、年齢構成、障害種別等）</li> <li>・ 活動をしていて困っていること</li> <li>・ 今後、活動を続けていく上で感じている不安</li> <li>・ 行政に期待する支援内容</li> <li>・ 行政以外（市民や地域）に期待する支援内容</li> <li>・ 活動参加者・利用者から聞かれる不満や要望</li> <li>・ 活動参加者・利用者であればよいと思う支援内容</li> <li>・ 障害者基本計画に盛り込んでほしい理念や施策</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="667 1834 662 2067" style="text-align: center;">(事業所)</td> <td data-bbox="667 1834 1436 2067"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業内容</li> <li>・ サービス利用者数、西東京市民数</li> <li>・ 事業をしていて困っていること</li> <li>・ 今後の事業展開について</li> <li>・ サービス利用者から聞かれる不満や要望</li> <li>・ 利用者を見ていて不足していると思われるサービス内容</li> <li>・ 障害者基本計画に盛り込んでほしい理念や施策</li> </ul> </td> </tr> </table>	(団体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体の活動内容</li> <li>・ 活動の参加者（人数、年齢構成、障害種別等）</li> <li>・ 活動をしていて困っていること</li> <li>・ 今後、活動を続けていく上で感じている不安</li> <li>・ 行政に期待する支援内容</li> <li>・ 行政以外（市民や地域）に期待する支援内容</li> <li>・ 活動参加者・利用者から聞かれる不満や要望</li> <li>・ 活動参加者・利用者であればよいと思う支援内容</li> <li>・ 障害者基本計画に盛り込んでほしい理念や施策</li> </ul>	(事業所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業内容</li> <li>・ サービス利用者数、西東京市民数</li> <li>・ 事業をしていて困っていること</li> <li>・ 今後の事業展開について</li> <li>・ サービス利用者から聞かれる不満や要望</li> <li>・ 利用者を見ていて不足していると思われるサービス内容</li> <li>・ 障害者基本計画に盛り込んでほしい理念や施策</li> </ul>
(団体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体の活動内容</li> <li>・ 活動の参加者（人数、年齢構成、障害種別等）</li> <li>・ 活動をしていて困っていること</li> <li>・ 今後、活動を続けていく上で感じている不安</li> <li>・ 行政に期待する支援内容</li> <li>・ 行政以外（市民や地域）に期待する支援内容</li> <li>・ 活動参加者・利用者から聞かれる不満や要望</li> <li>・ 活動参加者・利用者であればよいと思う支援内容</li> <li>・ 障害者基本計画に盛り込んでほしい理念や施策</li> </ul>				
(事業所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業内容</li> <li>・ サービス利用者数、西東京市民数</li> <li>・ 事業をしていて困っていること</li> <li>・ 今後の事業展開について</li> <li>・ サービス利用者から聞かれる不満や要望</li> <li>・ 利用者を見ていて不足していると思われるサービス内容</li> <li>・ 障害者基本計画に盛り込んでほしい理念や施策</li> </ul>				

### 【この報告書における調査結果の見方】

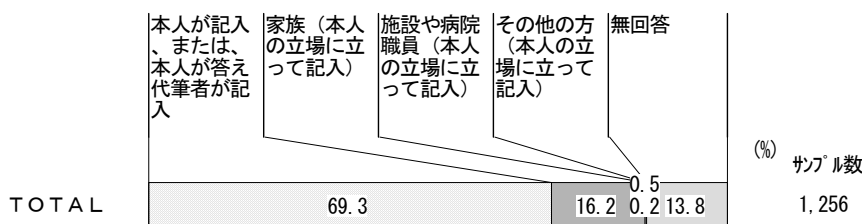
- 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はTOTAL及びnで示している。
- 回答率(%)については、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。
- 回答には、単一回答(○は1つ)と複数回答(○はいくつでも)の2種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は100%を超える場合がある。
- 調査結果を示した図表においては、表側から「無回答」等の項目を省略している場合がある。このような場合、「無回答」の人数(割合)はTOTALのみに計上されているため、各項目の合計値は必ずしも100%とならない場合がある。
- 図表の問のタイトル及び、回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な問のタイトル及び、回答の選択肢は、調査票を参照されたい。
- 自由回答を掲載する場合は、年齢・性別・障害者の種類(身体障害のみ)もあわせて掲載しているが、紙面の都合上、以下のように省略して表記している。
  - 「視覚障害」→「視覚」
  - 「聴覚障害」→「聴覚」
  - 「平衡機能障害」→「平衡」
  - 「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」→「音声」
  - 「上肢・下肢機能障害、脳病変による運動機能障害」→「上下肢」
  - 「体幹機能障害」→「体幹」
  - 「心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸などの機能障害」→「内部」

# 1 基本的な属性等

## (1) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

「本人(宛名の方)が記入、または、本人が答え代筆者が記入」が約7割(69.3%)。

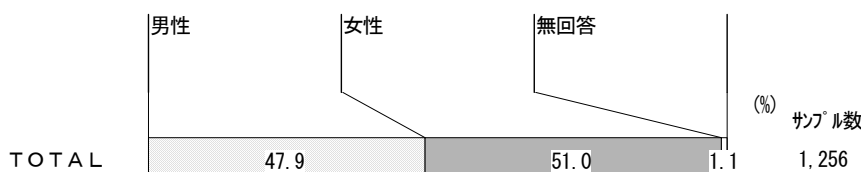


## (2) 性別・年齢

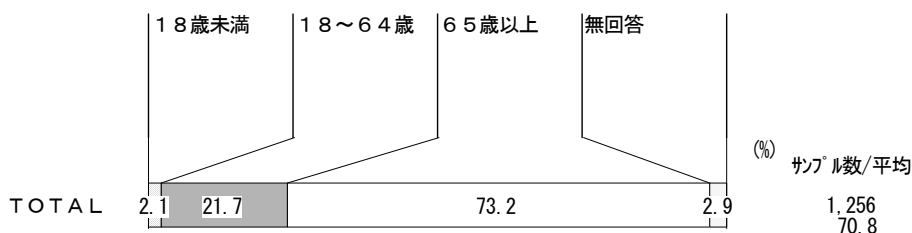
問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

問3 年齢(4月1日現在)を記入してください。

性別は、男性が47.9%、女性が51.0%。



年齢は、70代が33.0%、80歳以上が29.3%で、平均年齢は70.8歳。なお、18歳未満は2.1%、65歳以上と73.2%となっている。



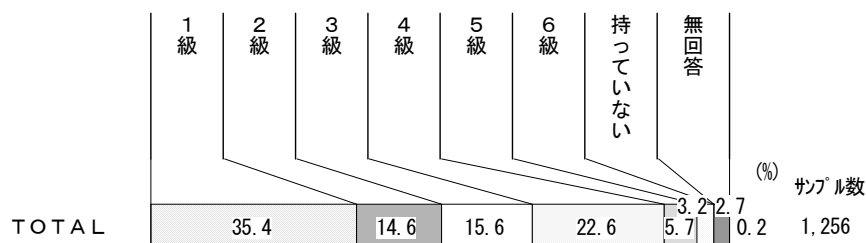
n=1,250	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	平均
	1.4%	0.7%	1.0%	1.8%	4.0%	6.6%	19.2%	33.0%	29.3%	2.9%	70.8 歳

## (3) 身体障害者手帳に記載された障害の程度

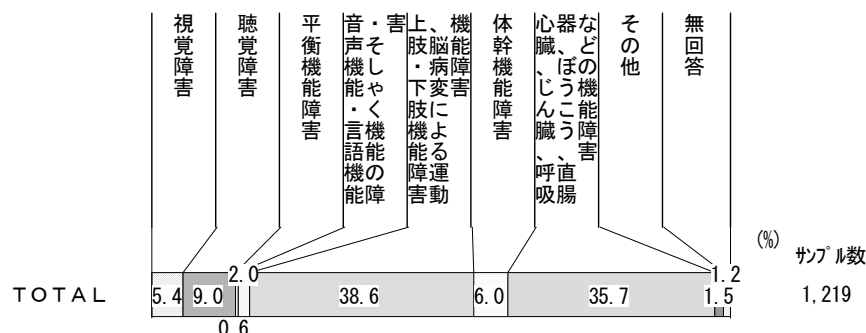
問4 身体障害者手帳に記載された障害の程度をお答えください。(○は1つ)

問5 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。主な障害1つをお答えください。(○は1つ)

1級が35.4%、2級が14.6%と、「重度(1級・2級)」が半数を占めている。



障害の種類は、「上肢機能障害、下肢機能障害、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害」が38.6%と最も多く、次いで「心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸の機能の障害」が35.7%で続いている。

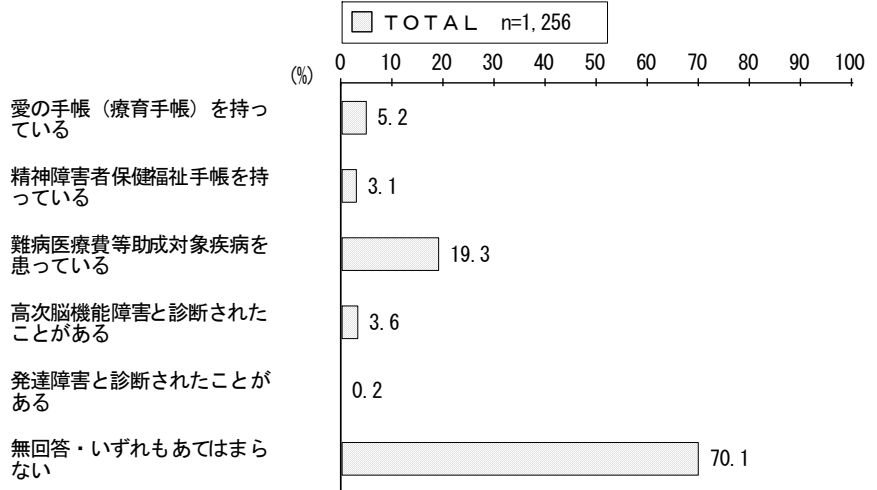


【身体障害者】

(4) 他の障害の状況

問6 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

身体障害以外の障害との重複状況をみると、「難病医療費等助成対象疾病」を患っている人が約2割(19.3%)いる。



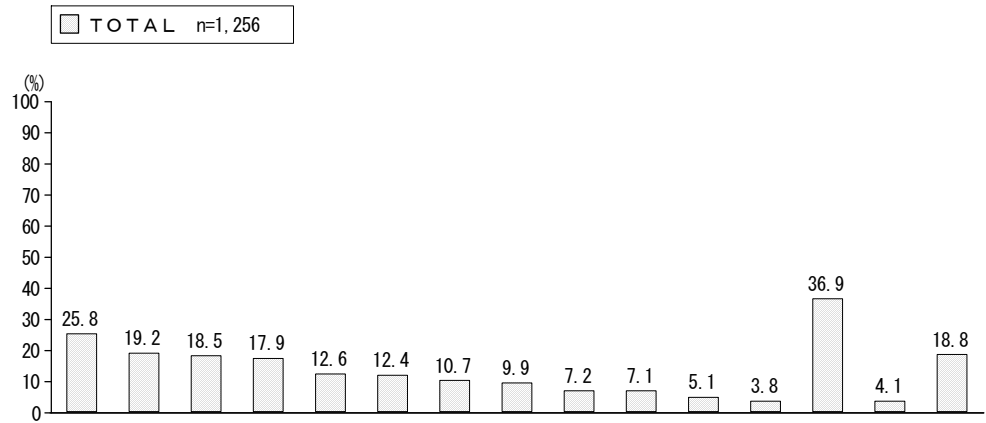
2 介助・援助の状況

(1) 介助・援助を受けている場面

問7 どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

実際に介助・援助を受けている場面としては、「外出するとき」をあげる人が最も多く、概ね4人に1人(25.8%)は介助・援助を受けている。

年代別にみると、18~64歳では、「外出するとき」に介助・援助を受けている人は21.6%、「お風呂に入ったり、身体を洗うとき」は16.5%となっている。



問3 年齢(3区分)	n	8	4	3	12	11	5	6	10	7	2	13	9	1	14	15
		外出するとき	お風呂に入ったり、身体を洗うとき	家事(調理、掃除、洗濯)をするとき	暮らしに必要な事務手続き	生活費などお金の管理	着替えをするとき	トイレの使用やオムツ交換するとき	服薬するとき	家の中の移動をするとき	食事をするとき	相手の話を伝えたいときや自分の話を聞きたいとき	学校や職場、作業所などへの送り迎えのとき	介助・援助は受けていない	その他	無回答
0 TOTAL	1,256	25.8	19.2	18.5	17.9	12.6	12.4	10.7	9.9	7.2	7.1	5.1	3.8	36.9	4.1	18.8
1 18歳未満	27	63.0	59.3	18.5	29.6	22.2	55.6	63.0	59.3	37.0	55.6	22.2	48.1	14.8	11.1	0.0
2 18~64歳	273	21.6	16.5	14.3	14.3	10.6	11.0	7.0	6.6	4.4	5.9	6.2	5.1	46.2	4.8	15.4
3 65歳以上	919	26.3	19.0	20.1	18.9	12.9	11.6	10.3	9.5	7.3	6.0	4.4	2.2	35.1	3.8	19.6
4 無回答	37	16.2	13.5	8.1	10.8	10.8	10.8	10.8	8.1	5.4	8.1	2.7	2.7	29.7	2.7	37.8



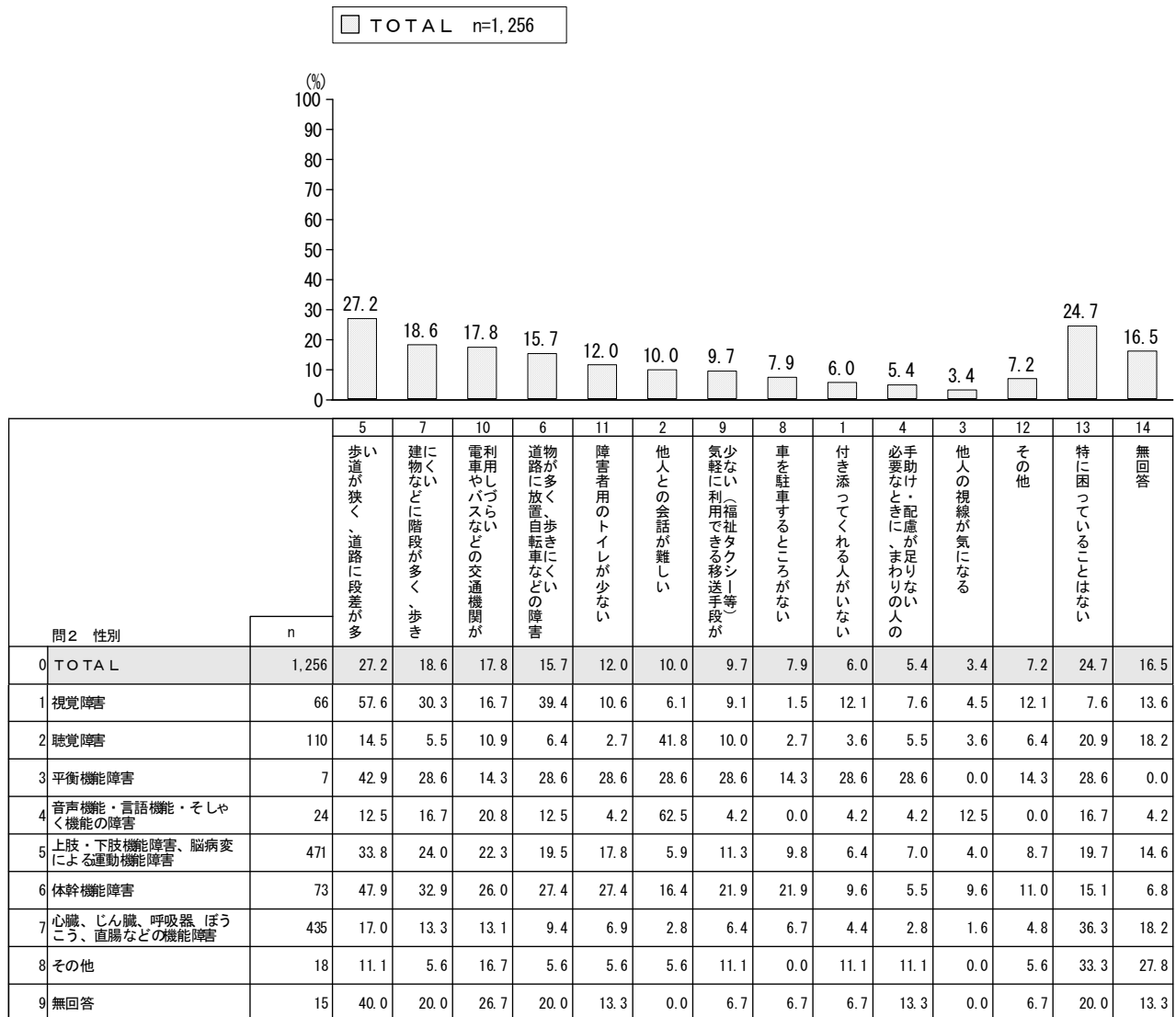
### 3 外出や社会参加について

#### (1) 外出の際に困っていること

問8 外出の際に困っていることはありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることとしては、「歩道が狭く、道路に段差が多い」ことをあげる人が27.2%と最も多い。

主な障害の種類別にみると、視覚障害では6割弱の人が「歩道が狭く、道路に段差が多い」(57.6%)ことで困っている。また、聴覚障害では約4割が「他人との会話が難しい」(41.8%)、体幹機能障害では3割弱が「障害者用のトイレが少ない」(27.4%)と回答しており、障害の種類によって困っている内容が異なっていることがわかる。



#### 【参考】平成13年度調査結果との比較

上位5項目は変わらないが、いずれの項目もあげる人の割合は低下している。中でも、「建物などに階段が多く、歩きにくい」、「道路に放置自転車など障害物が多く、歩きにくい」、「障害者用のトイレが少ない」の3項目は、それぞれ5ポイント以上低下している。

	歩道が狭く、道路に段差が多い	建物などに階段が多く、利用しにくい	道路に放置自転車などの障害物が多く、歩きにくい	電車やバスなどの交通手段を利用しづらい	障害者用のトイレが少ない
13年度 n=2,434	29.7%	25.0%	21.9%	19.2%	17.7%

## 【身体障害者】

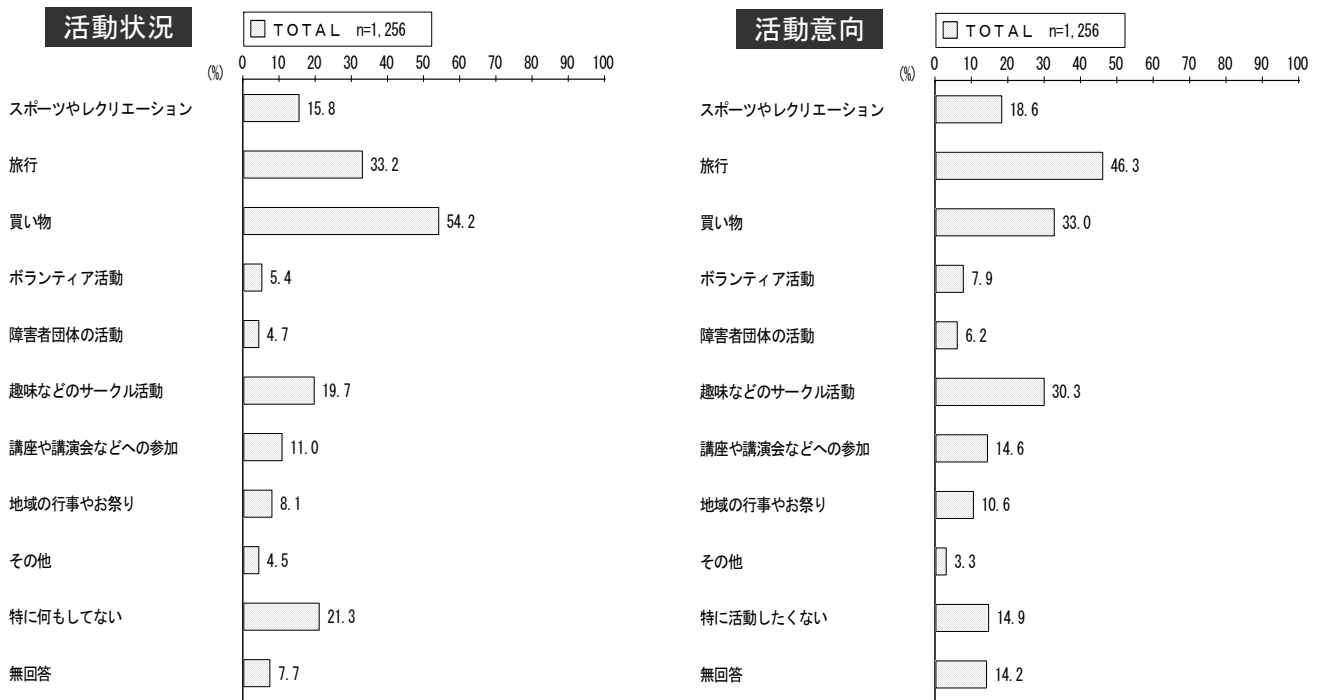
### (2) 余暇活動の状況・意向

問9 この1年くらいの間、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

問10 これからどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

最も活動意向が高いのは「旅行」で、46.3%の人が活動したいと回答している。

活動状況と活動意向を比較してみると、実際の活動状況に比べて特に活動意向が高いのは、「旅行」(実際 33.2%→意向 46.3%) と「趣味などのサークル」(実際 19.7%→意向 30.3%) である。



#### 【参考】平成13年度調査結果との比較

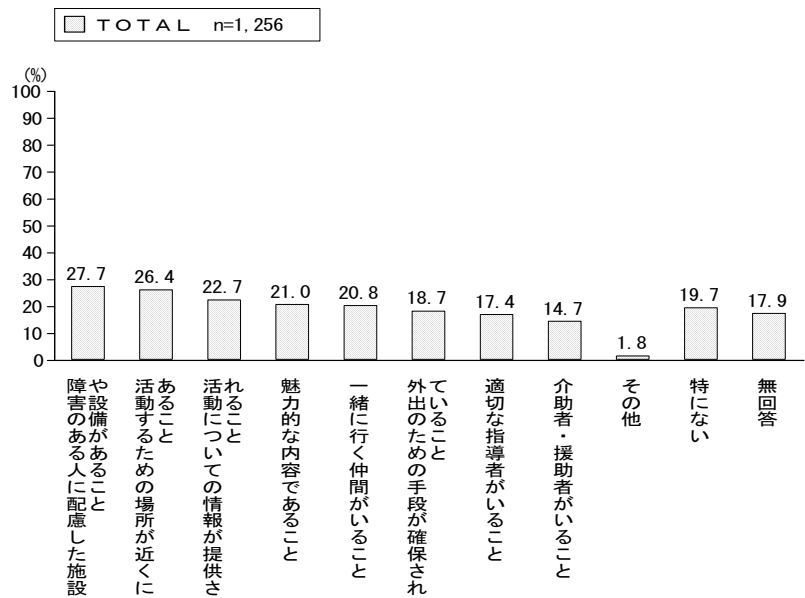
活動状況を見ると、いずれも13年度に比べて活動している人の割合は上昇している。中でも、「スポーツやレクリエーション」は6.6ポイント、「旅行」は8.4ポイント、「買物」は18.0ポイントと上昇幅が大きい。

[活動状況]	スポーツ、レクリエーション	旅行	買物	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動	講座や講演会などへの参加	地域の行事やお祭り
13年度 n=2,434	9.2%	24.8%	36.2%	3.0%	4.6%	16.1%	7.9%	7.2%

(3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問 11 問 10 のような活動をするために、どのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

希望する余暇活動をするために必要な支援としては、「障害のある人に配慮した施設や設備があること」をあげるのが 27.7%と最も多く、次いで「活動するための場所が近くにあること」が 26.4%で続いている。

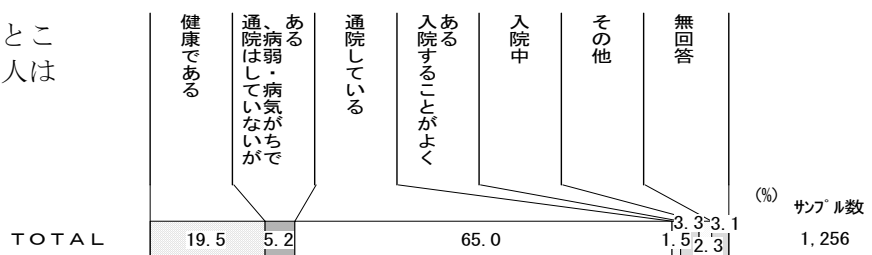


4 健康状態や医療について

(1) 最近の健康状態

問 12 最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

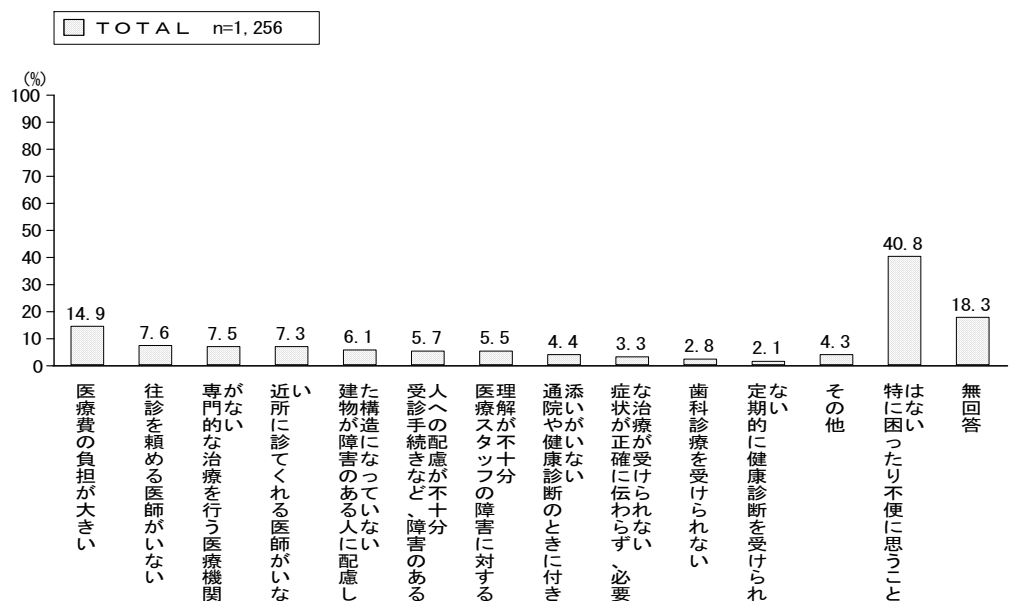
最近の健康状態をたずねたところ、「健康である」と回答した人は約 2 割 (19.5%) である。



(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 13 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(○はいくつでも)

健康管理や医療については、約 4 割の人が「特に困ったり不便に思うことはない」(40.8%) と回答しているが、あげられた項目としては、「医療費の負担が大きい」が 14.9%と最も多くなっている。



## 5 日中の過ごし方

### (1) 日中の過ごし方

問 14 あなたは、主に日中をどのように過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方・居場所は、18～64歳では、44.3%が「働いている」、32.6%が「自宅にすることが多い」と回答している。65歳以上では、「自宅にすることが多い」人が約6割(58.8%)を占めている。

n	幼稚園や 保育園、学 校などに 通っている	病院や施 設などで 看護・介護 を受けて いる	介護保険 のサービ スに通っ ている	福祉のサ ービスに 通っている	働いてい る	求職中で ある	自宅にい ることが多 い	その他	無回答	
TOTAL	1,256	2.0%	8.0%	6.8%	2.4%	14.6%	1.4%	51.6%	3.8%	9.6%
18歳未満	27	70.4%	7.4%	-	7.4%	-	-	7.4%	3.7%	3.7%
18～64歳	273	1.1%	3.3%	2.6%	3.7%	44.3%	5.5%	32.6%	2.2%	4.8%
65歳以上	919	0.1%	9.2%	8.5%	2.0%	6.1%	0.2%	58.8%	4.5%	10.7%
無回答	37	5.4%	10.8%	-	-	16.2%	-	45.9%	-	21.6%

## 6 幼稚園・保育園、学校等について

### (1) 通園・通学先

問 15 通っているのは次のうちどれですか。(○は1つ)

「幼稚園や保育園、学校などに通っている」と回答した25人の通園、通学先は、「小学校、中学校、高校(普通学級)」が7人(28.0%)、「小学校、中学校、高校(特別支援学級)」が6人(24.0%)である。

n	幼稚園、保育園	小学校、中学校、 高校(普通学級)	小学校、中学校、高 校(特別支援学級)	小学校、中学校、高 校(特別支援学校)	大学、専門学校	その他	
TOTAL	25	8.0%	28.0%	16.0%	24.0%	12.0%	12.0%

### (2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること

問 16 幼稚園・学校などに通っていて困っていることはありますか。(○はいくつでも)

幼稚園や学校などに通っていて困っていることとしては、25人中5人(20.0%)が「通うのがたいへん」、4人(16.0%)が「先生の理解や配慮が足りない」ことをあげている。

n	通うのがた いへん	先生の理解 や配慮が足 りない	介助体制が 十分でない	まわりの児 童・生徒たち の理解が得ら れない	友だちがで きない	その他	特に困っ ていること はない	無回答	
TOTAL	25	20.0%	16.0%	4.0%	4.0%	4.0%	24.0%	40.0%	12.0%

### (3) 学校教育に望むこと

問 17 学校教育に望むことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

学校教育に望むこととしては、25人中13人(52.0%)が「能力や障害の状況に合った指導をしてほしい」、11人(44.0%)が「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」と回答している。

n	能力や障害 の状況に合 った指導を してほしい	就学相談や 進路相談な ど、相談体 制を充実さ せてほしい	個別指導を 充実してほ しい	施設、設備、 教材を充実 してほしい	普通学級と の交流の機 会を増やし てほしい	障害の状況 にかかわら ず普通学級 で受け入れ てほしい	その他	特に望むこ とはない	無回答	
TOTAL	25	52.0%	44.0%	32.0%	28.0%	20.0%	16.0%	20.0%	16.0%	4.0%

#### (4) 介助員制度の認知状況

問 18 市では、通常の学級に在籍する障害のある児童に関して、学校生活の安定や保護者による介助負担の軽減を図るため、介助員を配置する制度を実施していますが、そのような制度があることを知っていますか。(○は1つ)

問 19 介助員制度へのご意見等があれば、自由にお書きください。

介助員の制度を「利用している・利用したことがある」人は 25 人中 3 人 (12.0%)、「制度があることは知っているが、利用したことはない」人は 9 人 (36.0%) である。

	n	利用している・利用したことがある	制度があることは知っているが、利用したことはない	知らない・わからない	無回答
TOTAL	25	12.0%	36.0%	44.0%	8.0%

介助員制度についての意見等としては、以下のような記入があった。

- ・ 介助員は指定校にしか行かないのでしょうか。希望すれば学区内の自宅近辺の普通校へも通える介助員制度にしてほしい。(男性・3歳・聴覚)
- ・ 副籍制度でも利用できるようにしてほしい。(女性・8歳・上下肢)

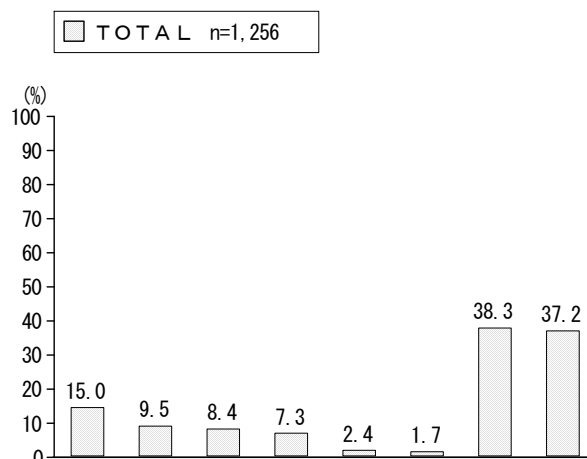
## 7 雇用・就労について

### (1) 就労に関するサービスの認知状況

問 20 就労に関する次のサービスを知っていますか。(○はいくつでも)

就労に関するサービスの中で、最も知られているのは「田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス」(15.0%)。

18～64歳では、「田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス」を知っている人は 32.6%、「ハローワークのインターネット障害者求人閲覧サービス」は 24.5%となっている。



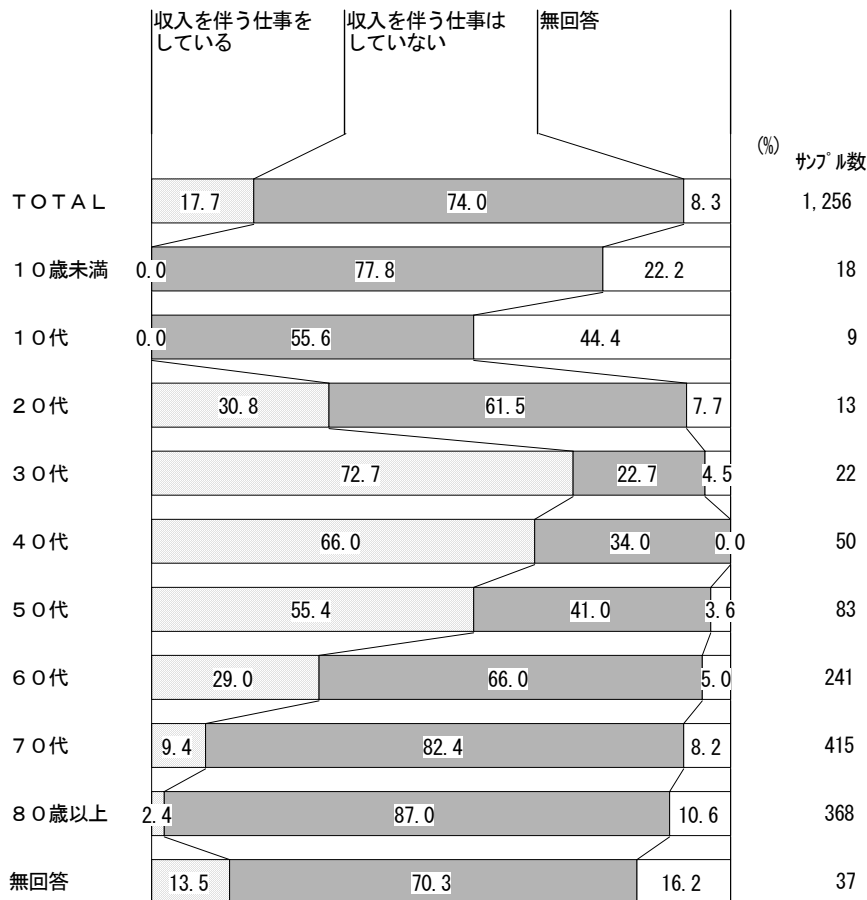
問3 年齢 (3区分)	n	4	1	5	2	6	3	7	8
		田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス	西東京市障害者就労支援センター	ハト障害者求人閲覧サービス	東京障害者職業センターによる就労支援	就労移行支援事業所による就労支援	ジョブコーチ制度	上記の中に、知っているもの	無回答
0 TOTAL	1,256	15.0	9.5	8.4	7.3	2.4	1.7	38.3	37.2
1 18歳未満	27	14.8	18.5	7.4	7.4	3.7	0.0	33.3	29.6
2 18～64歳	273	32.6	17.6	24.5	16.1	4.8	5.9	34.1	15.4
3 65歳以上	919	9.9	7.0	3.7	4.9	1.7	0.4	40.2	43.0
4 無回答	37	10.8	5.4	8.1	2.7	0.0	2.7	27.0	59.5

【身体障害者】

(2) 就労状況

問 21 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(〇は1つ)

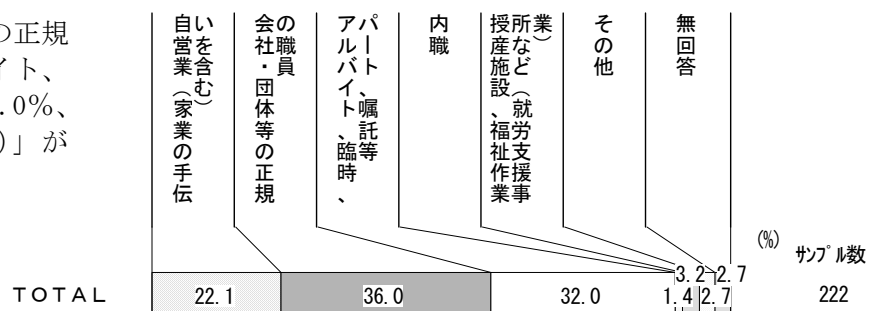
収入を伴う仕事をしている人の割合は、20代30.8%、30代72.7%、40代66.0%、50代55.4%、60代29.0%である。



(3) 就労形態

問 22 仕事の形態は次のうちどれですか。(〇は1つ)

就労形態は、「会社・団体等の正規の職員」が36.0%、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」が32.0%、自営業(家業の手伝いを含む)が22.1%である。



## (4) 給与・賃金額

問 23 あなたご自身の1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金はいくらですか。

全体でみると、1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金は、平均 185,299 円である。

就労形態別にみると、1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金は、「自営業（家業手伝いを含む）」137,482 円。「会社・団体等の正規職員」325,237 円、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」105,609 円、「内職」46,666 円、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」22,542 円となっている。

	n	～10,000円	10,001～ 20,000円	20,001～ 30,000円	30,001～ 40,000円	40,001～ 50,000円	50,001～ 70,000円	70,001～ 90,000円
TOTAL	222	2.7%	3.2%	2.3%	1.8%	8.1%	5.9%	4.5%
自営業(家業の手伝いを含む)	49	4.1%	-	4.1%	-	10.2%	2.0%	6.1%
会社・団体等の正規の職員	80	-	-	0.0	-	-	-	-
アルバイト、臨時、パート、嘱託等	71	-	7.0%	2.8%	4.2%	14.1%	12.7%	9.9%
内職	3	-	-	-	33.3%	66.7%	-	-
授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	7	57.1%	14.3%	-	-	14.3%	14.3%	-
その他	6	-	16.7%	16.7%	-	-	16.7%	-
無回答	6	-	-	-	-	-	16.7%	-

	90,001～ 100,000円	100,001～ 150,000円	150,001～ 180,000円	180,001～ 200,000円	200,001～ 250,000円	250,001円 以上	無回答	平均
TOTAL	7.2%	7.7%	5.9%	8.1%	5.4%	15.8%	21.6%	185,299円
自営業(家業の手伝いを含む)	10.2%	8.2%	2.0%	2.0%	4.1%	6.1%	40.8%	137,482円
会社・団体等の正規の職員	-	10.0%	5.0%	16.3%	8.8%	33.8%	26.3%	325,237円
アルバイト、臨時、パート、嘱託等	14.1%	5.6%	11.3%	4.2%	4.2%	4.2%	5.6%	105,609円
内職	-	-	-	-	-	-	-	46,666円
授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	-	-	-	-	-	-	-	22,542円
その他	16.7%	-	-	-	-	33.3%	-	217,083円
無回答	-	16.7%	-	16.7%	-	-	50.0%	130,000円

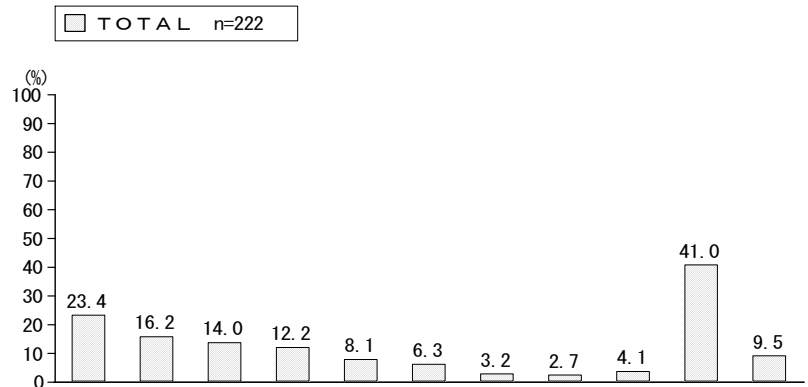
【身体障害者】

(5) 仕事をする上で困っていること

問 24 仕事をする上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

困っていることとしては、「給与・工賃などの収入が少ない」ことをあげる人が 23.4%と最も多い。

就労形態別にみると、会社・団体等の正規の職員の場合は、「通勤が大変」をあげる人が 27.5%と最も多く、次いで「給与・工賃などの収入が少ない」と「勤務時間、日数が多く体力的に不安」がそれぞれ 22.5%で続いている。

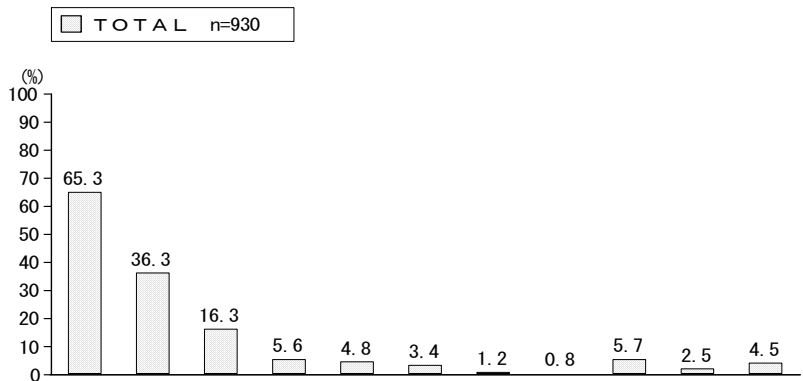


問 22 就労形態	n	1 給与・工賃などの収入が少ない	3 通勤が大変	2 勤務時間、日数が多く体力的に不安	7 障害に対する職場の理解不足	5 職場の人間関係	6 職場の設備が障害に対応していない	8 職場外で相談相手がない	4 業務内容が合わない	9 その他	10 特に困っていることはない	11 無回答
0 TOTAL	222	23.4	16.2	14.0	12.2	8.1	6.3	3.2	2.7	4.1	41.0	9.5
1 自営業 (家業の手伝いを含む)	49	18.4	4.1	8.2	2.0	0.0	4.1	0.0	0.0	6.1	44.9	20.4
2 会社・団体等の正規の職員	80	22.5	27.5	22.5	20.0	13.8	12.5	5.0	5.0	3.8	33.8	2.5
3 アルバイト、臨時、パート、嘱託等	71	26.8	14.1	12.7	11.3	7.0	1.4	2.8	2.8	4.2	45.1	5.6
4 内職	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
5 授産施設、福祉作業所など (就労支援事業)	7	57.1	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3
6 その他	6	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7
7 無回答	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3

(6) 働いていない理由

問 25 働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

18～64 歳の人では、「障害や病気のために働くことができる状態ではないから」を理由としてあげる人が 52.3%と最も多いが、19.5%は「希望に合った求人が見つからないから」、6.3%が「企業面接を受けているが採用されない」ことをあげており、就労の意思があるにもかかわらず、就労に結びついていない人も多くいることがうかがえる。



問 3 年齢 (3区分)	n	7 高年齢だから	1 障害や病気のために働くことができない状態ではないから	8 働く必要がないから	2 働く自信がないから	3 希望に合った求人が見つからないから	6 医師や家族に止められているから	5 企業面接を受けているが採用されない	4 技術が未熟だから	9 その他	10 特に理由はない	11 無回答
0 TOTAL	930	65.3	36.3	16.3	5.6	4.8	3.4	1.2	0.8	5.7	2.5	4.5
1 18歳未満	19	0.0	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.5	0.0	10.5
2 18～64歳	128	15.6	52.3	14.8	10.9	19.5	3.9	6.3	3.9	10.2	4.7	5.5
3 65歳以上	757	75.6	34.7	16.8	4.9	2.5	3.4	0.4	0.3	2.8	2.2	3.7
4 無回答	26	57.7	26.9	15.4	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	7.7	0.0	19.2

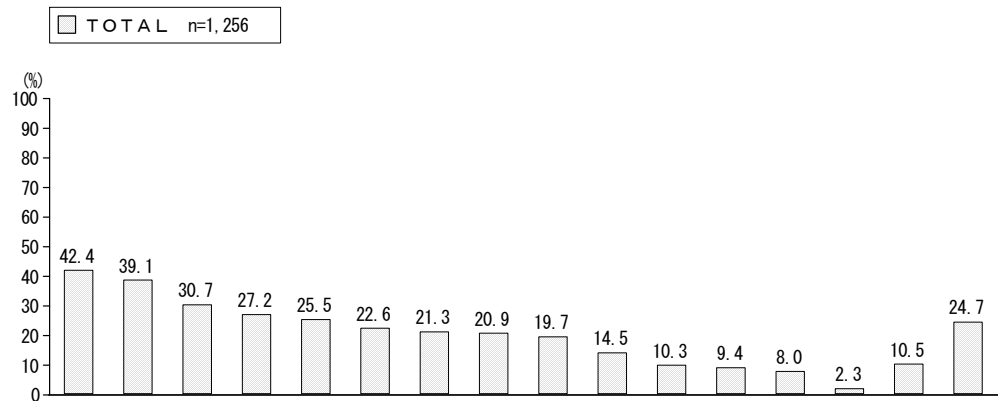


(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 26 障害のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

障害のある人が働くために必要な環境等としては、「健康状態にあわせた働き方ができること」をあげる人が 42.4%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」が 39.1%で続いている。

収入を伴う仕事をしている人では、「就労をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」をあげる人が 3 番目に多く (38.7%) あげられている。



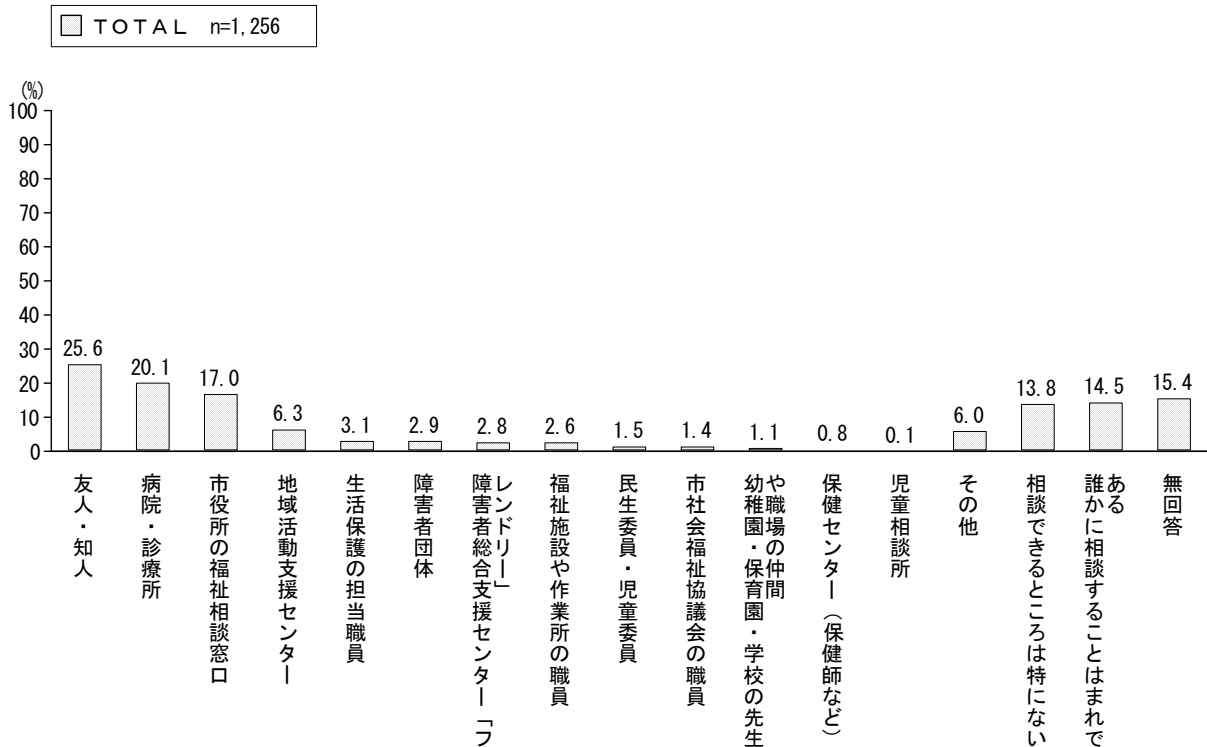
問 21 収入を伴う仕事の有無	n	3	1	4	9	5	10	2	7	6	12	8	11	13	14	15	16
		健康状態にあわせた働き方ができること	自分の家の近くに働く場があること	開発されること、障害のある人に適した仕事があること	十分理解していること、障害者雇用を推進すること	就労をあっせんしたり、相談できる場が整っていること	職場施設や設備が利用できること	自分の家の中で、通勤すること	民間企業がもっと積極的に雇用すること	施設・知識の習得を援助すること	障害のある仲間と一緒に、あそぶことができること	就業することを希望する人への支援を充実させること	介助者と一緒に働けること	ボランティア雇用など雇用を支援する仕組みがあること	その他	わからない	無回答
0 TOTAL	1,256	42.4	39.1	30.7	27.2	25.5	22.6	21.3	20.9	19.7	14.5	10.3	9.4	8.0	2.3	10.5	24.7
1 収入を伴う仕事をしている	222	55.0	48.2	35.6	36.0	38.7	28.4	23.0	32.4	24.8	12.2	16.2	6.8	11.7	2.7	5.0	9.5
2 収入を伴う仕事はしていない	930	42.3	39.4	31.6	26.8	23.4	22.6	22.3	19.4	19.7	15.8	9.2	10.2	7.5	2.2	12.7	23.8
3 無回答	104	17.3	17.3	12.5	12.5	15.4	10.6	8.7	9.6	8.7	7.7	6.7	7.7	4.8	2.9	2.9	65.4

## 8 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとの相談先

問 27 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。  
(〇はいくつでも)

家族や親せき以外の相談先としては、「友人・知人」をあげる人が 25.6%と最も多く、次いで「病院・診療所」(20.1%)、「市役所の福祉相談窓口」(17.0%)と続いている。なお、「相談できるところは特にない」と回答した人が 13.8%みられる。



### (2) 希望する相談先や相談体制

問 28 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また、相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

希望する相談先や相談体制について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

#### ① 相談先

- ・ 病院の先生 (女性・49歳・上下肢)
- ・ 専門的な医療相談経験者と話してみたい。(女性・74歳・聴覚)
- ・ 介護施設 (女性・80歳・上下肢)
- ・ デイサービス (職員がよく学習していて、必ず解決する様責任をもって相談に当たってくれている。)(女性・73歳・上下肢)
- ・ ケアマネジャー (男性・70歳・上下肢)
- ・ 行政、医師 (女性・82歳)
- ・ 市役所の福祉相談窓口 (専門のカウンセラーがいるといい) (男性・52歳・聴覚)
- ・ 市役所や出張所に相談できる窓口があるといいと思います。(女性・84歳・内部)

- ・ 地域支援センターの方（男性・87歳・聴覚）
- ・ 友人と心を開きつきあえる人、自分と年齢に近い方がよい。（女性・65歳・上下肢）
- ・ 成長したら友人に相談したいと思います。（男性・1歳・聴覚）
- ・ 友人、知人のような、いつも連絡できる民生委員（男性・40歳・上下肢）

## ② 相談体制

- ・ まずは近隣の方々。体制的には、民生委員との交流がふだんから行われていることが大切ではないかと思う。（男性・89歳・内部）
- ・ 社会福祉士や心理カウンセラーなど、病気の子どもを持つ親に対してのサポートもほしい。精神や発達障害にはあるようだが、内部障害の場合、そういう支援を聞いたことがない。（女性・5歳・内部）
- ・ ケアマネジャー。個人情報流出にも配慮した体制が整っているとよい。（女性・60歳・上下肢）
- ・ インターネットを利用した相談業務があると良い。市役所まで足を運ぶのや、電話で開庁中に相談するのは物理的な時間的に難しいこともあるため。（女性・34歳・上下肢）
- ・ 介護ヘルパーやケアマネジャーを通じて、医療や法律等のより広い問題に答えられる者がほしい。（男性・85歳・内部）
- ・ 1. フレンドリー 2. 秘密保持（男性・79歳・内部）
- ・ 保谷障害者福祉センターが相談しやすい体制になっていれば良い。（女性・77歳・上下肢）
- ・ 地域の支援センターで。身近に相談できていける体制が欲しいです。（女性・13歳・体幹）
- ・ 公的な支援よりも、同じ障害を持つ人たちで相談しあいたい。（女性・57歳・上下肢）
- ・ 障害の悩みが通じる人は、職人（作る人）以外にはいない（主人が一番わかるけど）。障害者同士は相談できる。近くにそういう施設があると良いと思う。（女性・76歳・上下肢）
- ・ 難聴のため電話は一切だめだから、ウェブサイトなどで相談したい。（男性・69歳・聴覚）
- ・ インターネットのメールで対応してもらおう公的機関があるといいなと思う。（女性・49歳・上下肢）
- ・ 障害の内容別にネットで気軽にいろんな情報を知りたいです。相談はメールで適所（人）に送れるようなページがあればいいと思います。（女性・3歳・上下肢）
- ・ じっくりゆっくり親身に話しを聞いてくれる事。（女性・35歳・上下肢）
- ・ 田無庁舎の障がい福祉課へ相談に行くと保谷に確認という事が多い。どちらでも同じサービスができるよう統一していただきたい。（男性・3歳・聴覚）
- ・ 事務所のような場ではなく、家庭的な雰囲気醸される所の方が、萎縮せず、心が開かれるように思います。（女性・73歳・内部）
- ・ 外出して相談することは身体上むずかしいので出来れば、自宅で。（女性・84歳・視覚）
- ・ 家にきて頂いて状態をみながらお話できること。（女性・81歳・上下肢）
- ・ 一般論的な回答ではなく専門（プロ）のような担当者であること。（女性・79歳・上下肢）
- ・ 専門的な知識／出張相談（男性・81歳・体幹）
- ・ 市役所の窓口等で、相談専門員の方が居らっしゃればもっと良い。（男性・57歳・上下肢）
- ・ 相談しやすい窓口。不安や心配ごとなどたくさんあるけど、他人からしたらたいした事がないと思われると思い、なかなか気軽に相談できる場がなく閉じ込もってしまう。（女性・33歳・上下肢）
- ・ 身近にあって、的確にアドバイスしていただける人材と知識力豊富な事。（女性・72歳・上下肢）
- ・ 悩みは聞いてもらえるのが一番なので、その道の専門家（身近に居ない人の方がいい）の紹介が大切。相談は解決を求めたいので公共の事業として取り扱って欲しい。（女性・79歳・内部）

## 【身体障害者】

- ・ 障害者であることを充分認識して、よく云い分を聞き、適切にアドバイス、指導してくれる近い場所でサポートしてくれる温かなアドバイザーが居るところがあればと願います。(男性・82歳・内部)
- ・ その障害の専門家に相談したい。今専門家はろう学校や病院に点在しているので、集結された窓口が欲しい。(女性・1歳・聴覚)
- ・ 個々の障害を良く理解しているカウンセラーのいる所。心理学や医学の専門家にカウンセリング能力の資格を与えたり、傾聴ボランティアを育成し、多くの所に配備する。(女性・55歳・上下肢)
- ・ 障害・福祉に関する相談は、まずここへというような窓口があればいいのでは。あるのかもしれませんが知りません。そういう情報は、広く何度でも知らせるべきだと思います。(女性・10歳・体幹)
- ・ 総合的な相談のできる窓口があったらと思います。(女性・87歳・内部)
- ・ プライバシーとの兼ね合いあり。信頼性ある機関があれば。(女性・75歳・上下肢)

## ③ その他

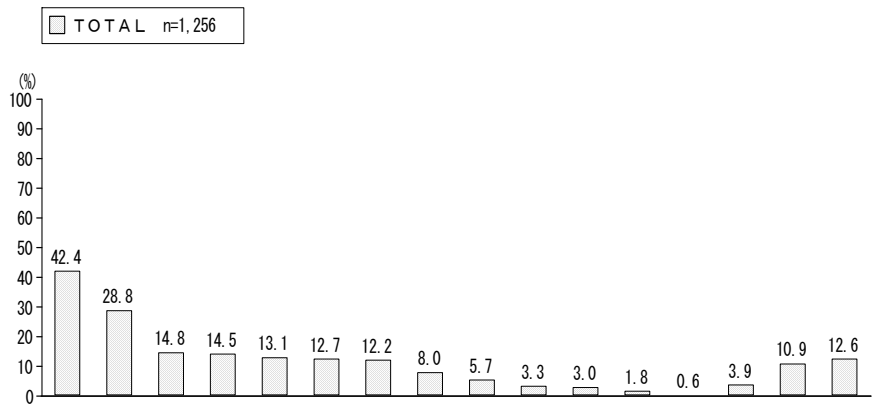
- ・ 福祉制度の矛盾点、問題点に気づくことが多いので現場で起こっている不合理を改善するため、様々なアイデア、意見をすくい上げ統合していく制度必要。(女性・61歳・上下肢)
- ・ 相談するとは、体制が整っていて実行が速かに伴っていないとできない事です。持ち廻りの相談事はしないと思う。結果的には家族が悩む、悲しいことです。(男性・75歳・内部)
- ・ 相談窓口があることの周知 (男性・48歳・視覚)
- ・ ボランティア活動にたずさわったことがあり、その時に上から目線で、接しているプロの方達がことの外、多かった。障害者の為ではなく、自分の生活の為に仕事をしているように感じた。自分が障害を持つ身になって、その時のことを思い出すと心から相談したいと思わない。(女性・体幹)
- ・ 障害者福祉センターの先生方に相談して、その人に合った回答がいつも返って来て安心していたのですが、年齢が来ると通えなくなり、家に居る事が多くなりました。希望者にはセンターに通える様にしてほしかった。(通所中は心のケア・身体のケア状態がとても良かった。)(女性・69歳・上下肢)
- ・ 障害者を特別扱いにしない環境。(男性・44歳・聴覚)
- ・ 障害者の相談のきもちをりかいしてほしいことかな！(男性・57歳・上下肢)
- ・ 家族や親せき以外に相談する気持ちを持つ程、重大な問題に直面した事情になった事がないので解からない。(女性・85歳・上下肢)
- ・ 身内が非常に少なく、私自身、身障者1級で、いろいろな問題をかかえどこに相談していいか、分からず困っている。(男性・85歳・内部)
- ・ 特に相談はない。自分自身の生き方の問題自己解決(現在)(男性・65歳・上下肢)
- ・ 何事も自分で判断し解決していくしかないと思います。(女性・80歳・内部)
- ・ 今のところ家族以外には相談したくない。(女性・69歳・内部)
- ・ 市や保健所・公的機関で相談したいが、相談しても解決できないのであきらめた。(女性・49歳・内部)
- ・ 誰にも相談しません。あまり聞かれないから。(男性・81歳)
- ・ 役所的ふんいきは入りづらい。相談に行っても仕方がない。(男性・83歳・平衡)

(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 29 障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

障害福祉サービスなどの情報の入手先としては、「市の広報紙（広報テープを含む）」をあげる人が42.4%と最も多く、次いで「障害者のしおり（市で作成した冊子）」が28.8%で続いている。

年齢別にみると、「障害者のしおり」をあげる人の割合は、64歳未満では約4割と高い。また、「市のホームページ」も64歳未満では約14%と、65歳以上（6.2%）に比べて高くなっている。



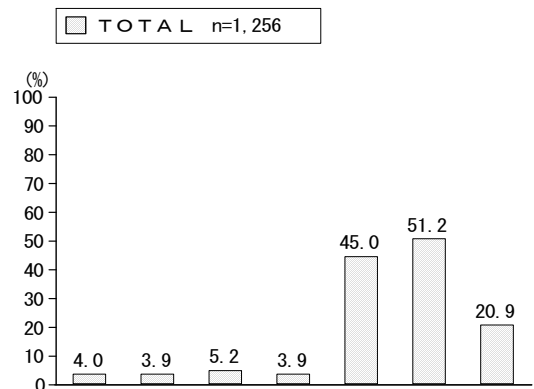
問3 年齢 (3区分)	n	2	1	9	6	12	13	3	4	7	5	8	11	10	14	15	16
		市の広報紙（広報テープを含む）	障害者のしおり（市で作成した冊子）	病院、診療所	テレビ、ラジオ、新聞	家族、親せき	友人、知人	都の広報紙（広報テープを含む）	市のホームページ	障害者団体	都のホームページ	学校、職場、施設	民生委員・児童委員	図書館の障害者向けサービス	その他	わからない	無回答
0 TOTAL	1,256	42.4	28.8	14.8	14.5	13.1	12.7	12.2	8.0	5.7	3.3	3.0	1.8	0.6	3.9	10.9	12.6
1 18歳未満	27	44.4	40.7	29.6	3.7	14.8	29.6	0.0	14.8	11.1	3.7	25.9	0.0	0.0	3.7	0.0	7.4
2 18～64歳	273	43.2	39.2	14.3	10.6	8.1	9.2	12.8	13.6	9.2	6.6	5.1	0.4	1.1	3.3	12.5	5.9
3 65歳以上	919	42.4	25.6	14.7	16.2	14.9	12.8	12.4	6.2	4.7	2.5	1.8	2.2	0.4	4.1	10.1	14.5
4 無回答	37	32.4	24.3	10.8	8.1	5.4	21.6	10.8	5.4	2.7	0.0	0.0	5.4	0.0	2.7	27.0	18.9

(4) フレンドリー内施設の認知状況

問 30 西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

フレンドリー内施設の認知度は、「相談支援センター・えぼっく」4.0%、「就労支援センター・一歩」3.9%、「地域活動支援センター・ハーモニー」5.2%、「生活介護事業所・くろーばー」3.9%となっている。

年齢別にみると、18歳未満では「生活介護事業所・くろーばー」の認知度が33.3%、18～64歳では「就労支援センター・一歩」の認知度が11.4%である。



問3 年齢 (3区分)	n	1	2	3	4	5	6	7
		相談支援センター・えぼっく	就労支援センター・一歩	地域活動支援センター・ハーモニー	生活介護事業所・くろーばー	生活介護事業所・くろーばー以外の施設は知らず	フレンドリー」を知らない	無回答
0 TOTAL	1,256	4.0	3.9	5.2	3.9	45.0	51.2	20.9
1 18歳未満	27	0.0	7.4	7.4	33.3	29.6	44.4	7.4
2 18～64歳	273	8.1	11.4	6.6	7.0	40.7	53.8	11.7
3 65歳以上	919	3.0	1.7	4.9	2.3	46.8	51.3	23.4
4 無回答	37	0.0	0.0	0.0	0.0	43.2	35.1	37.8

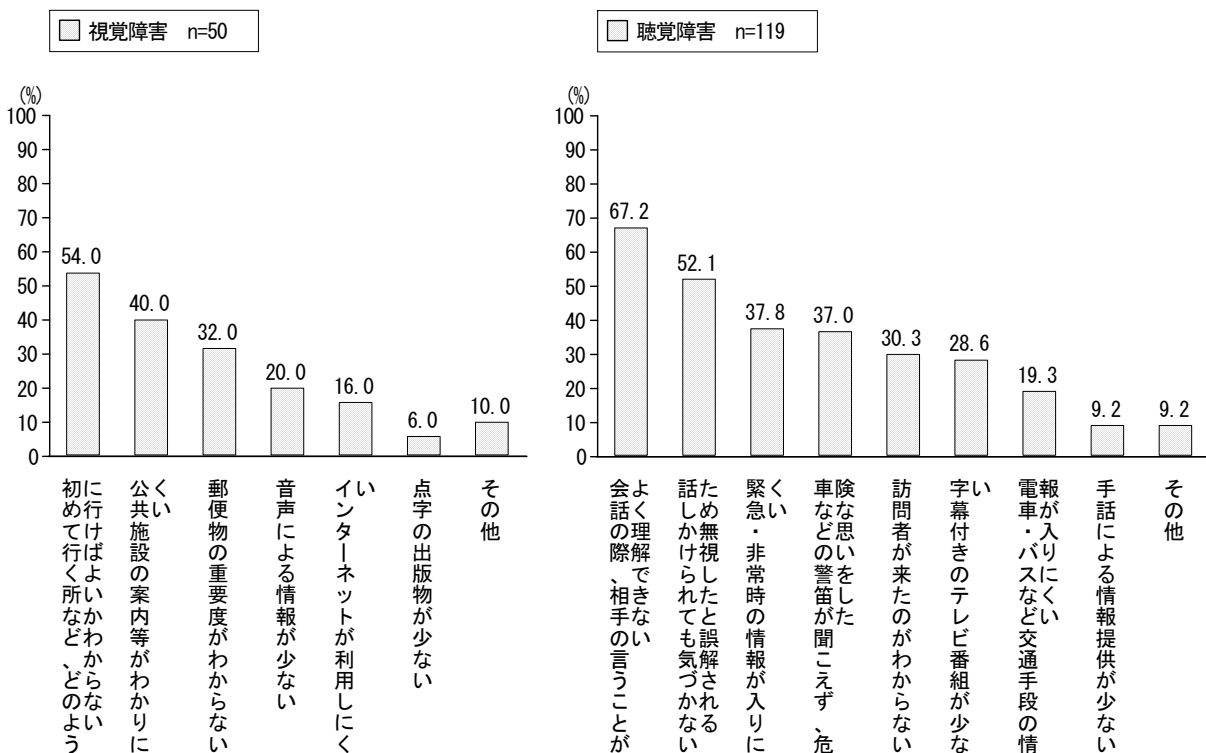
【身体障害者】

(5) コミュニケーションや情報取得する上で困ること

問 31 コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。(○はいくつでも)

視覚障害のある人に対して、コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることをたずねたところ、54.0%の人が「初めて行く所など、どのように行けばよいかわからない」、40.0%が「公共施設の案内等がわかりにくい」ことをあげている。

同様に、聴覚障害のある人では、67.2%の人が「会話の際、相手の言うことがよく理解できない」、52.1%が「話しかけられても気づかないため、無視したと誤解される」ことをあげている。



## 9 福祉サービスについて

### (1) 福祉サービスの認知状況・利用経験

問 32 あなたは、次のような障害者サービスがあることを知っていますか。また、利用したことがありますか。(①～⑨のサービスごとに1つずつお答えください。)

問 33 「利用している・利用したことがある」サービスについて、利用した際の感想などをお聞かせください。(上記の①～⑨の番号と、利用の感想等をお書きください。)

以下の9つのサービスのうち、利用経験率（利用している・利用したことがある）が最も高いサービスは、「補装具の支給・修理」(23.3%)、次いで「日常生活用具の給付」(14.8%)、「ホームヘルプサービス」(14.0%)。

	利用している・ 利用したことがある	サービスがあることは知 っているが利用したことは ない	知らない・わ からない	無回答	(%) サンプル数
ホームヘルプサービス	14.0	37.1	22.5	26.4	1,256
短期入所（ショートステイ）	8.8	38.6	22.1	30.5	1,256
補装具の支給・修理	23.3	24.4	24.0	28.3	1,256
日常生活用具の給付	14.8	24.4	30.6	30.2	1,256
移動支援（ヘルパーの派遣）	10.7	34.6	23.7	31.1	1,256
生活サポート	4.2	27.3	33.9	34.6	1,256
日中一時支援	3.9	25.5	35.7	34.9	1,256
地域活動支援センター	7.0	25.0	34.1	33.9	1,256
手話通訳者・要約筆記者の派遣	1.0	18.4	42.6	38.0	1,256

9つのサービスのうち、いずれかを利用したことがある人の割合を、障害の程度別にみると、重度（1級・2級）の利用経験率は43.6%、中度（3級・4級）は40.6%、軽度（5級・6級）は21.6%となっている。

	利用経験あり	利用経験なし（無回答）	(%) サンプル数
重度（1級・2級）	43.6	56.4	628
中度（3級・4級）	40.6	59.4	480
軽度（5級・6級）	21.6	78.4	111

## 【身体障害者】

サービスを利用した際の感想を自由回答形式で求めたところ、以下のような記入があった。

### ① ホームヘルプサービス

- ・ できることしかしてくれない。(男性・66歳・上下肢)
- ・ 制限が有り、必要と(本人)している事が利用できないことが有るのはどうかと思います。制限をゆるめて欲しい。他のサービス利用は費用がかさむので利用できない。(女性・69歳・上下肢)
- ・ 費用の違い、しくみがよくわからない。(男性・77歳・上下肢)
- ・ 介護保険提供の家事支援・身体介護と理解しています。ヘルパーにも色々な方がいて満足していませんが、助かっています。(女性・72歳・体幹)
- ・ ヘルパーさんによって、よく仕事をしてくれる人と気の回らない人との差がある。(女性・96歳・その他)
- ・ 家の掃除、食事の下ごしらえ、室内がきれいでもらわれるので有り難い。ヘルプしてもらう時間が短い。(男性・84歳・上下肢)
- ・ 家のそうじ。ていねいにきもちよく仕事をしていただいています。(女性・82歳・上下肢)
- ・ 車椅子、ベッドからの移動や着替え等、助かっています。(男性・70歳・上下肢)
- ・ 週に2日1時間ずつだったので、娘が(遠方在住)食材を買って冷凍し、それで食事を作ってくれていましたが、いつも同じメニューでした。(男性・96歳・内部)
- ・ 右大腿骨転子部骨折したときにお風呂に入れていただき、3ヶ月ほどお願いいたしました。とても助かりました。(女性・74歳・内部)
- ・ 受けるにはお金がかかり過ぎる。(男性・48歳・上下肢)
- ・ 自立(気持ち)できる方向性を持って、介助や悩みにも対処してくれる。(女性・88歳・その他)
- ・ 担当者が比較的変わらず来て下さることが有り難いです。(女性・85歳・上下肢)
- ・ 無断で物置や押入れの中を調べたり、頂き物にやたら興味を持つ。(女性・73歳・内部)
- ・ 人選の権利が必要(男性・67歳・音声)
- ・ 介護で受けているが、透析があり、時間的計画がむずかしい。(男性・85歳・内部)
- ・ 年齢に関係なく、障害の程度や家庭状況で支給していただきたい。(男性・4歳・上下肢)
- ・ 非常に満足している。(女性・85歳・上下肢)

### ② 短期入所(ショートステイ)

- ・ 予約してもなかなかできないので、近くでショートステイできると良い。(女性・88歳・その他)
- ・ 呼吸器がついていると、利用できる施設が少ない。(男性・4歳・上下肢)
- ・ 長期入所者の外泊などで空きの時しか利用できないため一週間前にならないと、利用可能かわからないので、予定を前もって立てられないのが不便。(女性・85歳・上下肢)
- ・ 予約が難しい。(男性・89歳・内部)
- ・ 短期入所は人数などの関係で、なかなか受け入れてもらえない。(女性・14歳・体幹)
- ・ 家族のリフレッシュなどもできてよかった。(男性・81歳・内部)
- ・ 家族(介護している者)が休息できるので良いと思う。(男性・71歳・体幹)
- ・ ショートステイは1ヶ月上限7日だが、年間での日数にして欲しい。7日以上になる時は、介助者の病気や都合が理由なので、7日では足りない事が多い。(女性・71歳・内部)
- ・ 希望日に空いていなく、利用するのに不便。(女性・99歳・上下肢)
- ・ 気に入るところが見つかる迄、3ヶ所利用した。(女性・85歳・体幹)



- ・ 言葉や要求を真剣に受け止める職員をそろえていただきたい。(男性・67歳・音声)
- ・ 個室希望 (男性・79歳・上下肢)
- ・ 1回利用しましたが、身体を動かすことがなく飽きてしまった。(男性・81歳・体幹)
- ・ やることもなく嫌だった。もう行きたくない。(男性・84歳・聴覚)
- ・ 快適であった。(女性・76歳・上下肢)
- ・ 希望の日が利用出来なかった。個室だったので、着替え等してもらえなかった。金額が高額だった。(男性・72歳・体幹)
- ・ 練習で1度利用した。大人の中に子ども一人だったので、かわいがられてよかったです。(女性・6歳・体幹)
- ・ 食事がおいしかったです。トイレが車椅子で入れなかった。(男性・47歳・上下肢)
- ・ 3ヶ所に通っているが、一長一短があり、ここが特にいいという事がない。(女性・94歳・上下肢)

### ③ 補装具の支給・修理、日常生活用具の給付

- ・ 手すりを取付けてもらい、安心して歩ける。(女性・76歳・上下肢)
- ・ 常に使用しているので、修理等早くできて助かります。(男性・47歳・上下肢)
- ・ レンタルで利用しているが点検、器具の交換など助かっている。(女性・97歳・内部)
- ・ 義足を使用したおかげで、日常生活は困らない。(女性・63歳・上下肢)
- ・ 要求・仕様に合わせて、よく合った商品を選定してくれる。(男性・57歳・体幹)
- ・ 補装具更新の折、気持ちよく対応して感謝している。(女性・32歳・聴覚)
- ・ 歩行補助器、便利である。(男性・87歳・内部)
- ・ 廊下・トイレ・風呂などに手すりをつけた。家の中でも車椅子での移動の為、部屋と廊下の段差を無くしてもらいました。工事方法と金額について、きちんと説明があった。(女性・88歳・上下肢)
- ・ 丁寧に説明していただき、現在も便利に利用している。(女性・68歳・視覚)
- ・ 補聴器の修理や購入の時、役所から補助金が出るので助かります。(男性・69歳・内部)
- ・ 直腸がんにより摘出手術を受け、ストマの使用及び色々の使用注意点、及び質疑等のサービスを受け、とても助かりました。(男性・83歳・内部)
- ・ ヒザをけがした時、装具の一部支給してもらった。(男性・85歳・内部)
- ・ 拡大鏡を買っていただきました。今は仕事になくってはならないものですが、購入の際、窓口の女性が「購入して後悔する方がよくおられるので、考えて下さい。」とちょっとしづられたのが、後味悪く残っています。(女性・60歳・視覚)
- ・ 支給、修理の補助はとてもうれしいが、私は3級でも最も悪い方なので、作るのに困難を要し、時間も交通費、食事代に相当な金額を要するので悲しい。(女性・76歳・上下肢)
- ・ ストマ(直腸用)の支給で助かっています。(女性・78歳・内部)
- ・ 成長にあわせて、作りかえていただいたり、そのものの値段で買うと高かったりするのですが、所得にあわせて負担額がそんなにいかず作成できるのが安心です。(女性・6歳・体幹)
- ・ 高額器具なので助かる。(女性・49歳・内部)
- ・ 装具靴を市の支給により作って頂いた。1足なので、もう1足欲しい。(女性・73歳・上下肢)
- ・ 補聴器の進化が早く、すぐに良い物が出るので、5年待たずに最新のデジタル補聴器に変えられるようにして欲しい。(男性・52歳・聴覚)
- ・ 補装具を一日中使用しているので、1年間使うとボロボロになってしまいます。体型が変わったり、身長も伸びているので、毎年作りなおしてはいますが、18才からは大変になると聞いたので、個人個

## 【身体障害者】

人に合ったサービスをお願いします。(女性・16歳・体幹)

- ・ 質の差があるので、メーカーを自由に選びたい。作った後のフィッティングが不十分だった。(女性・57歳・上下肢)
- ・ 足の指が曲がっているため依頼したが、痛くて履けなかった。(女性・76歳・上下肢)
- ・ 高度難聴のため、支給される補聴器では役に立たなかった。補助金の請求も面倒臭いので、利用しなくなった。(男性・69歳・聴覚)
- ・ 補装具を病院から紹介で購入し装着したが、かぶれやすい。(男性・71歳・体幹)
- ・ 支給品は精度が低いので、あまり役立ちません。自分で購入したものと合わせて両耳で使っています。片耳ではほとんど役立ちません。(女性・78歳・聴覚)
- ・ 私の負担は小額でとても感謝しています。ただ市役所は業者への支払いが定価になっている。業者は割引販売はしていないのですか。市役所と障害者の負担軽減のため、業者は割引販売してくれることを望みます。(男性・70歳・内部)
- ・ 手をかけた割に使い勝手が悪く、結局お蔵入りすることが多い。市販品に手を加えたりして、作業療法士に作ってもらった方が良い。(女性・61歳・上下肢)
- ・ 義手の負担金がかかり過ぎる。(女性・79歳・上下肢)
- ・ 補装具購入代金は一割負担になっている。以前は市が全額負担。不要・不急の予算(ハード関係)を削って、障害者サービスを充実すべきです。全額市の負担とすべきです。(男性・78歳・内部)
- ・ 市内の(身近な)病院のどこでも利用できる方が良い。壊れてもすぐ直してもらえなくて困ることがあります。大きな病院ですと、外来予約が必要だったり、業者の予定ですぐに対応してくれません。(女性・55歳・上下肢)
- ・ 市役所の担当の方があまり良く分かっていなかったのか、感じが悪く申請に行くのすら嫌になった。なので、最近は修理など申請していない。(がまんして使っている。)(女性・14歳・体幹)
- ・ 何をするのも判定を受けなければならない、もっと簡素化できれば嬉しい。(男性・34歳・上下肢)
- ・ 手続きが面倒くさかった。国立まで行くのも大変であった。(男性・66歳・上下肢)
- ・ 手続きが大変だった。(女性・77歳・視覚)
- ・ 経済的には大変助かりますが、手続きが大変で障害者本人が手続きするのは無理のように思います。(女性・72歳・上下肢)
- ・ 以前は支給券が届くのに時間がかかると聞いた事がありましたが、最近はとても早く対応して頂けて助かっています。(女性・10歳・体幹)
- ・ 業者、市役所と何回か行ったりしなくてはいけないので、結構面倒くさい。(女性・5歳・上下肢)
- ・ ドクターの意見書の書き直しをお願いされたことがあります。何か決まりがあるのなら教えていただきたい。忙しい中であっちに行ったり、こっちに行ったり大変なので。(女性・8歳・上下肢)
- ・ 非常に分かりづらかったです。ネットで申請させてほしいです。(男性・38歳・体幹)
- ・ 子どもの補装具はすぐに買い替えが必要になります。その時、購入の期間に達していないということで、なかなか進めていただけないのが大変です。(女性・6歳・聴覚)
- ・ 1度に申請書をもたえず、先生の診断書ももらいに、何度も遠方の病院に行くことになりました。(男性・3歳・聴覚)
- ・ トイレの手すり付→ポータブル使用しています。(男性・70歳・上下肢)
- ・ 障害となってから市より危険な場所に手すり、つかまるところなどを取付けてもらい、安心して生活できるようになり感謝している。(男性・84歳・上下肢)
- ・ ベッドのリース。行動に制限があるので、立ち振るまいが楽である。(女性・77歳・上下肢)
- ・ オムツ。市役所からの給付は大変助かっている。(女性・上下肢)

- ・ ベッドのレンタル。自分に合った物が選べるのが良いと思う。(女性・93歳・内部)
- ・ CDリーダーは便利。体重計は家族がいる場合、補助されないのは淋しい。(女性・64歳・視覚)
- ・ 酸素療法を始めたときに電磁調理器を給付してもらいました。出費の多かったときなので、助かりました。(女性・83歳・内部)
- ・ 車椅子は当日貸し出してくれると良いと思います。(女性・55歳・上下肢)
- ・ パソコン等技術の進歩に合わせて、対象を検討して欲しい。(男性・48歳・視覚)
- ・ 直腸障害でストマの給付を受けていますが、値上げされていても給付金は現状のままなので、給付金の上限の検討をしてもらいたい。(女性・47歳・上下肢)
- ・ 歩行時痛みが強く、杖なしでは歩けないのですが、介護保険利用での購入対象外なのはどうしてでしょうか。(女性・69歳・上下肢)
- ・ 成長や症状の変化で、用具も変更が必要なことあるのですが、生活する上で必需品なので給付されると助かります。(女性・6歳・体幹)
- ・ 変化に応じて対応できると良い。(男性・81歳・内部)
- ・ 満足している。支払いが半年に1回なので、高額になる。(男性・72歳・体幹)
- ・ 多くの種類があり十分。(女性・57歳・上下肢)
- ・ 補助給付額はストマ直材費だけなので、その他処理費用(例：消臭剤、腫れ防止薬、切断器具、ガーゼ、湿布類等)がかさみ、生活費が圧迫されています。非保品用具費+10%位を補助して頂ければ幸いです。(男性・82歳・内部)
- ・ 一度申し込んだら、他の業者が変わるのが大変。病院側は色々業者を変えた方が良いと言うが、やりにくい。(女性・52歳・内部)
- ・ 給付券を6ヶ月単位で頂いている。双方向伝達が不十分だ。(男性・63歳・内部)
- ・ 手続きが遅い。(女性・上下肢)
- ・ 手つづきの書類がふくざつでめんどろすぎる。(男性・70歳・聴覚)
- ・ 自己負担額(一割)がゼロになる事をお願いします。(男性・63歳・内部)

#### ④ 移動支援(ヘルパーの派遣)

- ・ ヘルパーさんが整形外科に連れて行って下さり、助かりました。(男性・81歳・体幹)
- ・ 病院の往復を車イスで押してもらった。いろんな話をして歩いた。それが楽しかった。(女性・63歳・上下肢)
- ・ お買物する時、荷物をもってもらえる。(女性・83歳・上下肢)
- ・ 日常生活には欠かせない。(女性・76歳・上下肢)
- ・ 話をしたりできるので楽しい。(男性・61歳・視覚)
- ・ とても親切でヘルパーさんも感じ良い。(女性・78歳・内部)
- ・ 学校の無い日、土日は主人がいないので利用していてとてもありがたいです。(男性・9歳・体幹)
- ・ ケアマネジャーから説明を受け、利用している。家族の負担が軽くなる。(女性・89歳・内部)
- ・ 必要なときに対応していただいただけ良かった。(男性・81歳・内部)
- ・ 手際よくやってくれた。(男性・66歳・上下肢)
- ・ 施設入所者にも必要な場合、サービス支給できるようにしてほしい。(男性・67歳・音声)
- ・ もっと時間を増やして欲しい。(男性・48歳・上下肢)
- ・ 年齢に関係なく、障害の程度や家庭状況で支給していただきたい。(男性・4歳・上下肢)

## 【身体障害者】

- ・ 現状支援については満足認定手続きはもっと簡素化すべき。特に延長手続き。(支援状況が高齢、病気による場合、簡単に元の状況には戻らない。)(男性・81歳・内部)

### ⑤ 生活サポート

- ・ オムツ・床屋を利用しています。1割負担以上になりませんように。(男性・70歳・上下肢)
- ・ 料理を練習している。(女性・57歳・上下肢)
- ・ 自分が自立(気持ち)できる方向性を持って、介助や悩みにも対処してくれる。(女性・88歳・その他)
- ・ 給食週3。助かります。(男性・87歳・上下肢)
- ・ サポートの種類が限られている。(男性・65歳・上下肢)

### ⑥ 日中一時支援

- ・ 要介護者なこともあり、家族だけでは限界がありますので、デイサービス等大変助かっております。(男性・94歳・聴覚)
- ・ 気分転換ができて良い。(女性・97歳・内部)
- ・ デイサービスで新しい仲間ができて楽しいです。(女性・76歳・上下肢)

### ⑦ 地域活動支援センター

- ・ 情報が少ない。(男性・48歳・上下肢)
- ・ リハビリと活動。もう少し行ける日が増えるといい。(女性・57歳・上下肢)
- ・ 時々心配事や障害者についての相談に行っている。(女性・上下肢)
- ・ 介護の相談にのってもらっている。(女性・97歳・内部)
- ・ 障害者手続きをやってくれた。(男性・51歳・上下肢)
- ・ 楽しい。(女性・86歳・上下肢)
- ・ 入院中から退院後も何度も訪ねていただきました。(女性・78歳・上下肢)
- ・ ハーモニーで入浴した。職員の対応が良かった。(男性・66歳・体幹)
- ・ 担当者が親切でよくやってもらっているが、人数が少なく、気軽に手続の依頼がしづらい。(男性・74歳・上下肢)
- ・ とても親切で、一人一人にやさしくしてくださり、とても喜んでいきます。1週間に1回(火曜日)しか行っていないので、2回ぐらい行けたらいいなと思います。(女性・84歳)

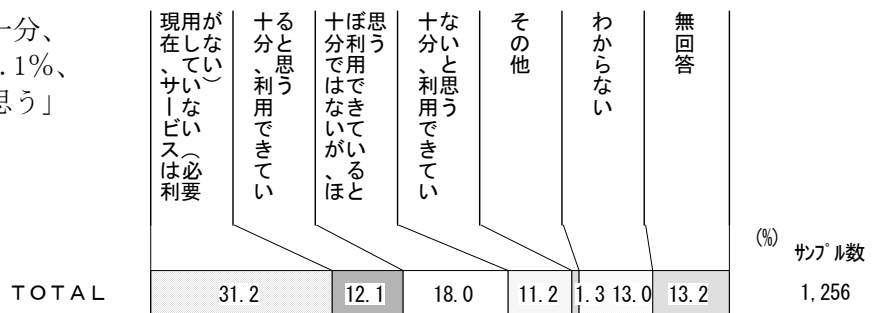
### ⑧ 手話通訳者・要約筆記者の派遣

- ・ 手話読み取り、表現が下手。もっと理解すべき。一歩下がって協力すべき。手話講習会はやる意味がない、ちっとも通訳が育たない。(女性・50歳・聴覚)
- ・ 派遣の費用が依然として高い(自己負担の場合)と感じる。(男性・25歳・聴覚)
- ・ もっと手話通訳者がほしい。(女性・65歳・聴覚)
- ・ 病院で医者との大事な話が難しいので、手話通訳にお話を聞きながら手話をやって頂けたので、本当に助かりました。(女性・72歳・聴覚)
- ・ 応対に問題あり。改善が必要。本人の意向を考えない。勝手に決め付ける。(女性・62歳・聴覚)

(2) 必要なサービスの満足度

問 34 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」人は12.1%、「十分、利用できていないと思う」人は11.2%である。

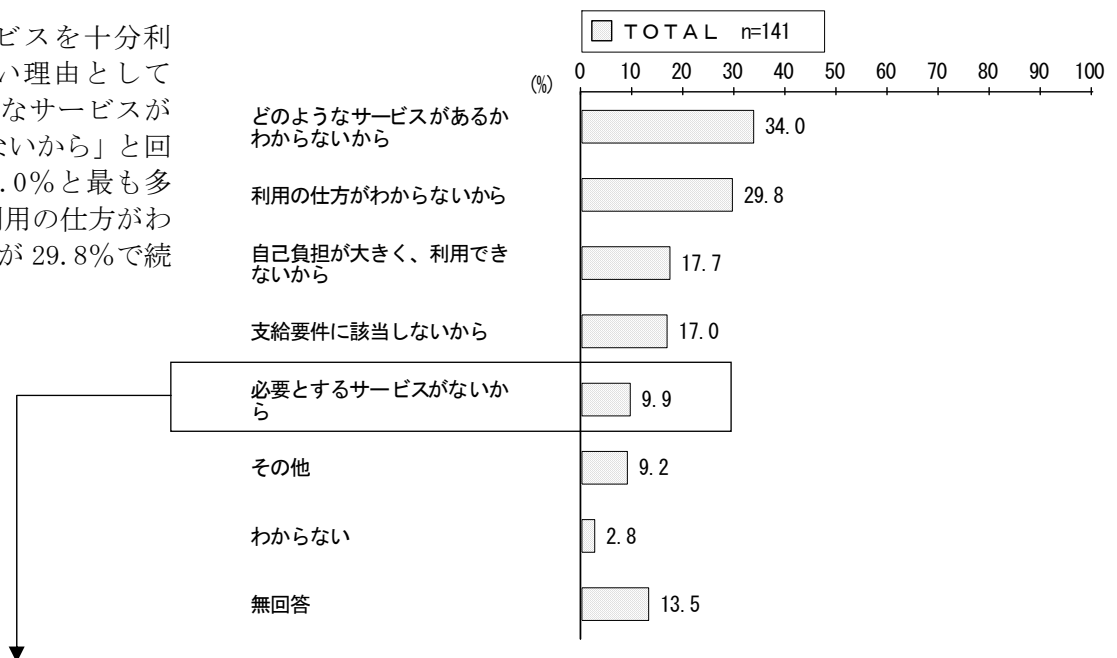


(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 35 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

問 36 必要とするサービスとはどのようなものですか。

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」と回答した人が34.0%と最も多く、次いで「利用の仕方がわからないから」が29.8%で続いている。



「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 窓ふき。ほかのことは時間をかければできるが、窓ふきは足をふんばることができないから (女性・76歳・上下肢)
- ・ 補聴器使用に対するサービスはあるが、人工内耳に対してのサービス (電池代や体外装置の購入などの助成) がないので、(他の自治体では、あるところもある) 検討してほしい。(女性・49歳・聴覚)
- ・ 都営の交通機関の他にも、この近郊で、同じようなサービスが欲しい。この地域では都営交通はあまり使用しないので。(女性・61歳・上下肢)
- ・ 市役所のリハビリサービスの年齢をもっと広げる (男性・66歳・上下肢)
- ・ 入所していると、必要なリハビリが受けられない。(女性・85歳・体幹機能)
- ・ 病院では、せっかくしたリハをどんどんはぶかれる。残念でならない。(男性・71歳・体幹)

【身体障害者】

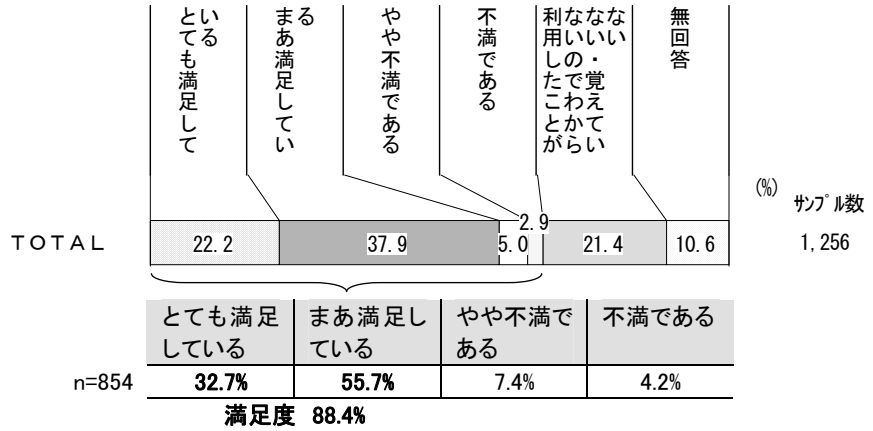
(4) 障害福祉課窓口の満足度

問 37 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きします。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 38 問 37 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

障害福祉課の窓口利用の満足度は、「とても満足している」が 22.2%、「まあ満足している」が 37.9%である。

「利用したことないのでわからない・覚えていない」及び「無回答」を除いて、満足している人の割合を計算すると、窓口利用者のうち 88.4%が満足していることがわかる。



満足あるいは不満と回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

① とても満足している・まあ満足している

- ・ いつもこちらの要望にきちんとした対応してくれています。(女性・63歳・上下肢)
- ・ ていねいな対応をしていただき感謝しています。特に電話では、ゆっくり話して下さり、とても聞こえ易く助かります。(女性・69歳・聴覚)
- ・ とても丁寧に説明して下さい、手続きがスムーズにできた。(男性・55歳・上下肢)
- ・ 市役所に行った時、窓口で対応してくれた職員の方が丁寧に説明され、わかりやすかった (男性・73歳・内部)
- ・ 障害者の気持ちを良く理解して対応がやさしい。(男性・87歳・上下肢)
- ・ とてもゆっくりで一つごとに相談と言って待つ事に、ベテランらしい方と交替して下さい、わかりやすく、スムーズ感謝。(仕事を的確に覚えるのは大変でしょうか) (女性・73歳・上下肢)
- ・ 初めて手続をする前の情報では時間がかかると聞いていましたが、実際は、早い処理に感謝している。(男性・84歳・聴覚)
- ・ 初めてのことが多くとまどったが、とても親切に対応してくれました。(女性・53歳・内部)
- ・ 管轄以外の質問にも、必要範囲でこたえてくれる。(男性・55歳・音声)
- ・ 障害者旅行について相談したら、いろいろなところにあたってくれ、親切に対応してくれた。(男性・85歳・内部)
- ・ 親切に教えてくれ、現実にそったサービスを得られている。(男性・80歳・上下肢)
- ・ 相談しに行った時私の知らないことも教えてくれました。(男性・80歳・内部)
- ・ 納得するまで話を聞いてくれる (男性・84歳・上下肢)
- ・ 簡単な説明をしていて、難しい言葉をつかわないからわかりやすい。(女性・40歳・聴覚)
- ・ 電話の対応が良く、詳しく情報を伝えてくれる。(男性・64歳・内部)
- ・ 保谷庁舎では何か問い合せると詳しく説明してくれる。仕事が早くスムーズであり、非常に助かっています。(男性・64歳・上下肢)

- ・ 申請書類に間違いがあると、間違い部分をよく説明、訂正してくれる。(男性・67歳・内部)
- ・ 文書を読んでも自分が内容を読取れないことをとても丁寧に教えて頂いた。(女性・69歳・内部)
- ・ 利用者チェックが行き届いて窓口に行く手前から声掛けし、待っていても気にしていただいていることがわかり対応も良いです。(田無)。(女性・67歳・内部)
- ・ 窓口2つあるが対応している職員はひとりのことがある。そのときは、奥のデスクの職員がすぐ気付いて対応してくれる。(男性・63歳・内部)
- ・ 足が不自由だが、カウンターに行くと、必ず担当者が出てきてくれるので、他の部署よりずっと親切だと思った。(女性・62歳・上下肢)
- ・ 体が不自由なため庁舎には良く行っているがどの係の人も親切にしてくれる(男性・77歳・上下肢)
- ・ こちらからたずねたことには丁寧に対応していただけるため。窓口にいる際は、気付いたらすぐ対応していただけるのでありがたい。(女性・3歳・内部)
- ・ 市で提供しているサービス内容を把握していて相談しやすいことが多い。(女性・1歳・聴覚)
- ・ 手帳申請時に保谷庁舎で指定医療機関の名前等を教えてもらい、交付時に田無庁舎で受けられるサービスの説明をていねいに受けました。(男性・49歳・上下肢)
- ・ 保谷庁舎の窓口で担当してくださった女性の方の対応がとても良かったです。相談時の「それは大変ですね」や「それはお困りですよ」の一言でとてもうれしかったです。(女性・10歳・体幹)

## ② やや不満である・不満である

- ・ 「福祉サービスを利用させてやっている」というように感じるから、こちらに寄り添って考えていただけていると思えない。何のための規制かわからない規制がある。(男性・24歳・内部)
- ・ 聞いたことしか、答えてくれないと感じます。(男性・73歳・体幹)
- ・ 事務的な感じがします。障害福祉課の方は実際障害児者の学校・職場などの様子やそれぞれの障害の内容でどこが大変なのかを目で見ているのかと思う時があります。(女性・8歳・上下肢)
- ・ 障害者手帳と小児慢性と子育て支援と別の部署で情報の共有がされなくて、学校(就学相談)は子育て支援課にしるといわれて、投げやりだった。(女性・5歳・内部)
- ・ 介護施設の申込等について聞きに行ったら詳しい説明等を全くしてくれずパンフレット1枚を渡しただけでこれを見て問合せ等をして下さいと言われた。(男性・84歳・視覚)
- ・ 障害者手帳を申請に行った際、4級なんて受けても何も恩恵がないと云われました。職員の方々の人格を疑います。(女性・80歳・体幹機)
- ・ 人間対人間として、上から目線で云わないでほしい。(女性・74歳・上下肢)
- ・ たまに相手の口話でわからない時もある。筆談でもよいかからいただきたい。(女性・58歳・聴覚)
- ・ 保谷庁舎の福祉課の人達が手話について理解されてないと思います。(女性・50歳・聴覚)
- ・ 高齢者や自分の様な聞こえにくい者に対する説明が不十分(女性・87歳・聴覚)
- ・ 対応が早口、小声、めんどくさそうにする。(男性・44歳・聴覚)
- ・ 障害福祉課に来たばかりで制度がわからない職員や、こちらの要求を受け止めていただけない職員が窓口にいることがある。(男性・67歳・音声)
- ・ 担当者の異動で、また1から説明となり時間がかかった。(女性・13歳・体幹)
- ・ 田無庁舎に行くとうからない事柄などその都度保谷庁舎の方に電話で相談しているので、手続きに時間がかかり、不便だと思うことがある。(女性・13歳・その他)
- ・ 前もって電話を入れてあるのに時間がかかることがある。(男性・26歳・体幹)
- ・ 電話での対応がすごく不親切でした。(女性・80歳・内部)
- ・ 土・日にスタッフを置いていない。障がい児を抱えているのに不便。人に預けるか留守番を頼まな

【身体障害者】

いと家を空けられないので。(女性・上下肢)

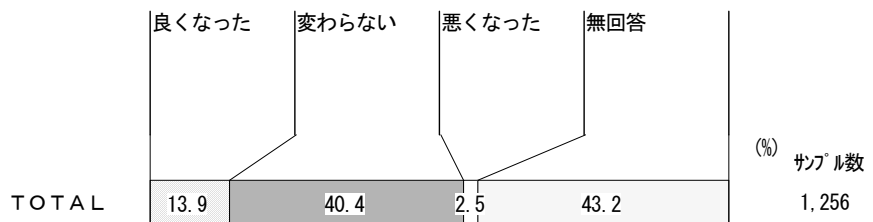
- ・ 仕事をしていると平日、窓口に行けない。(女性・52歳・内部)
- ・ 応対してくれる方にもよるが、感じが悪い時もある。必要なサービスを申請するのにこちらが恐縮する。(女性・14歳・体幹)
- ・ 窓口が2つあるなら、サービス内容も統一していただきたい(男性・3歳・聴覚)
- ・ 「身体障害者手帖のしおり」の最近の版のものが配布されない。(男性・82歳・内部)
- ・ 色々な手続についての説明がわかりづらい。(女性・79歳・上下肢)
- ・ 税務所や病院等の関連機関との手続の連携がなく、知識も不十分。(男性・33歳・上下肢)
- ・ 説明が難しかったり、あちこちの窓口へ行かされてとてもつかれます。(女性・69歳・上下肢)
- ・ 通りいっぺんの対応である。機械的・事務的で「相談」のイメージとは程遠い。そもそも窓口が、プライバシーに配慮された場所ではない。(男性・48歳・上下肢)
- ・ 提出した書類が処理されずに、机の中に入れっぱなしにされた経験がある。(女性・60歳・聴覚)

(5) 5年前との比較

問 39 約5年前(平成20年)と比べて、障害者のサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)

問 40 問 39 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。(自由記入)

5年前と比べて、障害者のサービスが「良くなった」と感じている人は13.9%、「悪くなった」と感じている人は2.5%である。



5年前に比べて障害者のサービスが良くなった、あるいは変わらない・悪くなったと回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

① 良くなった

- ・ 社会が成熟してきた。(男性・65歳・上下肢)
- ・ 先天的・後天的障害者を分別し、福祉行政の理解が向上した。(男性・87歳・上下肢)
- ・ 障害に対する社会の理解が進んだため。(男性・65歳・内部)
- ・ 障害者に対する偏見がなくなり、親切丁寧になったように思える。(男性・70歳・内部)
- ・ 障害者の立場になって物事を考えているから、良くなったと思います。(男性・66歳)
- ・ 制度の多種多様。(男性・70歳・内部)
- ・ 幅広いよく配慮されたサービスになっている。(男性・78歳・内部)
- ・ 様々な情報がオープンにされるようになったため。(男性・37歳・内部)
- ・ 色々な面でわかりやすくなった。(女性・77歳・上下肢)
- ・ フレンドリーができたから。(女性・47歳・上下肢)
- ・ まだ、5年たってないのでわからないが昔から比べたら(10年以上前)良くなるはなっているが、障害によってのみ(1部の障害)よくなった。(女性・52歳・内部)
- ・ 昔を良く知らないが、障害者手帳をもらってから感じたことはありがたいサービスが多いという印象。(女性・49歳・上下肢)



- ・ 補装具の支給・修理が可能になったこと。(女性・77歳・上下肢)
- ・ 相談窓口が増えた。(男性・31歳・平衡)

## ② 変わらない

- ・ 良くなったとは思えないから。(男性・70歳・聴覚)
- ・ 特に目立って変わったとは思わない。(男性・86歳・内部)
- ・ 特にサービス自体の、レベルがあがらなかったため。(男性・62歳・内部)
- ・ 特によくなったという感じはしない。隣の武蔵野市は福祉が良いと聞く。高次脳機能の3障害の施設があるようだ。西東京でも充実をはかってほしい。(女性・40歳)
- ・ 支給額が全然かわらないので。(女性・70歳・内部)
- ・ 中途障害者は変わらない。(男性・45歳・上下肢)
- ・ 自分が利用しているサービスの変化が感じられない。(女性・22歳・内部)
- ・ 特に便利になったとも不便になったとも感じないから。(女性・34歳・上下肢)
- ・ 利用できるサービスの条件に合っていないから。(女性・74歳・上下肢)
- ・ サービスの変化があったのかわからないため、変わらないと思っている。(女性・40歳・聴覚)
- ・ 所得の制限で利用したいサービスが利用できてないから。(女性・8歳・上下肢)
- ・ サービスは増えても老人がふえてとりあいになるようだ。(男性・85歳・内部)
- ・ 10年前と比べると良くなったと思うが、5年の単位では変化はわからない。(男性・44歳・上下肢)

## ③ 悪くなった

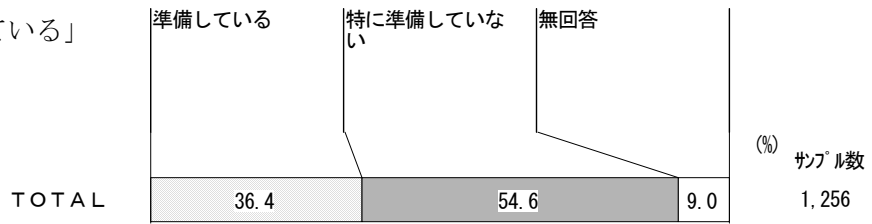
- ・ 時間が少なくなった。(女性・73歳・上下肢)
- ・ 食事など家事に関するサービスが失くなったこと。(女性・76歳・上下肢)
- ・ オムツの無料配布がなくなり1割負担になったこと。(女性・72歳・体幹)
- ・ 負担金などが増えた。(女性・14歳・体幹)
- ・ 経済的支援が厳しくなったと思う。(女性・82歳・上下肢)
- ・ 介護保険制度が優先されるようになったため、障害者の自立を目指す制度が全く使えなくなってしまった。(女性・61歳・上下肢)
- ・ 現在、「ゆずりは作業所」に通っているが入所した6年位前はお金がかからなかったが収入もないのに現在は障害年金だけなのに有料である。(男性・59歳・上下肢)
- ・ 書類ばかりが多くなりサービス向上に予算が使われていないようである。(男性・67歳・音声)
- ・ 総じて縮小傾向にあるように感じられる。(男性・48歳・上下肢)

10 災害対策について

(1) 災害への備え

問 41 災害に備えて何か準備をしていますか。(〇は1つ)

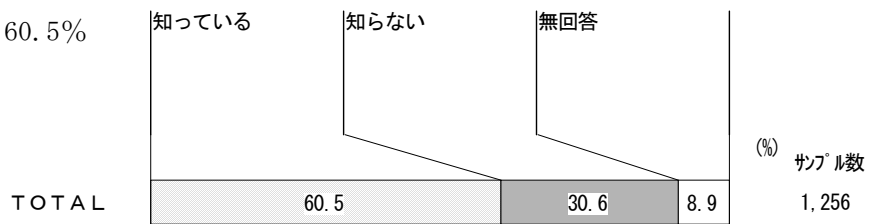
災害に備えて何か「準備している」人は、36.4%である。



(2) 避難所の認知状況

問 42 避難所を知っていますか。(〇は1つ)

避難所を「知っている」人は60.5%である。

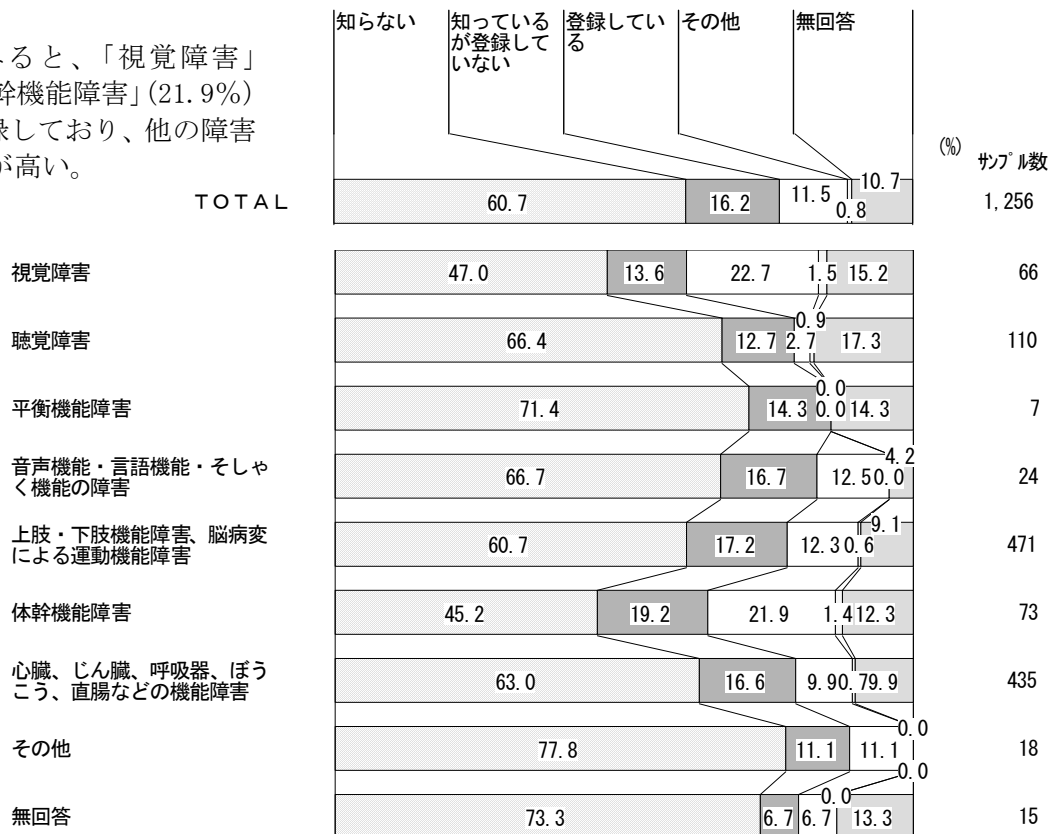


(3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 43 災害時要援護者登録を知っていますか。(〇は1つ)

災害時要援護者登録については、約6割が「知らない」(60.7%)と回答している。

障害種別にみると、「視覚障害」(22.7%)と「体幹機能障害」(21.9%)は、約2割が登録しており、他の障害に比べて登録率が高い。



(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 44 地震や台風などの災害が起こった際の不安は何ですか。(〇はいくつでも)

地震や台風などの災害が起こった際の不安としては、「避難する際の不安」(45.6%)と「避難先での不安」(45.3%)をあげる人がそれぞれ4割を超えて多くなっている。

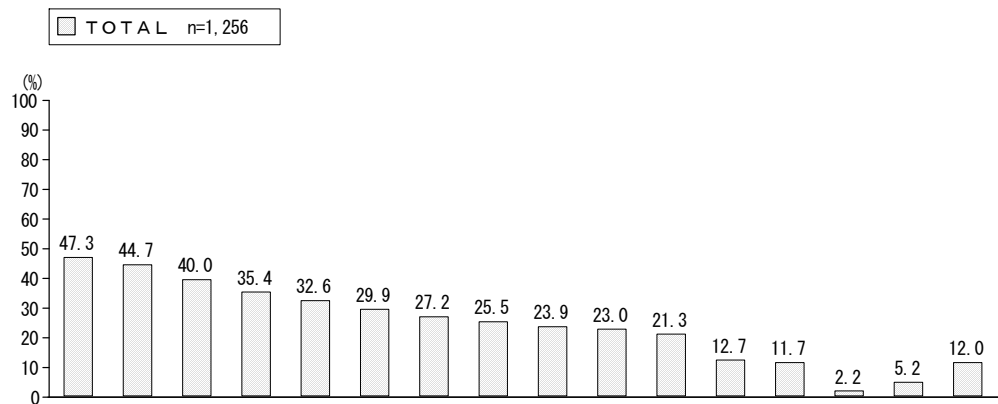
障害種別にみると、視覚障害と聴覚障害では「災害の状況が伝わってこない場合の不安」(視覚障害42.4%、聴覚障害44.5%)が、他の障害に比べて高くなっている。また、視覚障害と体幹機能障害は、「避難先での不安」と「避難する際の不安」をあげる人がそれぞれ5割を超えており、不安を持つ人が多い状況がうかがえる。

	n	避難する際の不安	避難先での不安	災害の状況が伝わってこない場合の不安	その他	特くない	わからない	無回答
TOTAL	1,256	45.6%	45.3	36.3%	6.9%	10.0%	7.3%	11.1%
視覚障害	66	54.5%	51.5%	42.4%	9.1%	4.5%	4.5%	16.7%
聴覚障害	110	33.6%	40.0%	44.5%	7.3%	9.1%	10.0%	16.4%
平衡機能障害	7	42.9%	28.6%	28.6%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	24	41.7%	41.7%	37.5%	16.7%	16.7%	4.2%	—
上肢・下肢機能障害、脳病変による運動機能障害	471	53.3%	49.9%	34.8%	5.9%	8.5%	7.0%	10.0%
体幹機能障害	73	58.9%	53.4%	31.5%	5.5%	12.3%	4.1%	2.7%
心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸などの機能障害	435	36.8%	41.4%	34.3%	7.6%	11.7%	8.5%	11.7%
その他	18	55.6%	38.9%	50.0%	11.1%	16.7%	—	—
無回答	15	40.0%	40.0%	53.3%	6.7%	—	—	13.3%

(5) 必要な災害対策

問 45 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

必要な災害対策としては、「治療や服薬を継続できるための医療を確保する」ことをあげる人が47.3%と最も多い。



問 2 性別	n	12	1	6	11	5	3	4	9	13	7	8	2	10	14	15	16
0 TOTAL	1,256	47.3	44.7	40.0	35.4	32.6	29.9	27.2	25.5	23.9	23.0	21.3	12.7	11.7	2.2	5.2	12.0
1 視覚障害	66	30.3	33.3	31.8	25.8	28.8	21.2	22.7	22.7	15.2	18.2	51.5	10.6	13.6	1.5	1.5	22.7
2 聴覚障害	110	35.5	33.6	26.4	24.5	30.0	27.3	28.2	14.5	18.2	10.9	50.9	16.4	25.5	0.9	10.0	14.5
3 平衡機能障害	7	42.9	42.9	14.3	42.9	42.9	28.6	28.6	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3
4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	24	41.7	50.0	29.2	45.8	37.5	37.5	20.8	20.8	16.7	20.8	29.2	16.7	8.3	4.2	8.3	8.3
5 上肢・下肢機能障害、脳病変による運動機能障害	471	48.6	48.2	48.6	41.6	35.0	32.5	28.2	31.0	24.8	18.5	17.2	14.0	12.7	1.5	4.5	11.9
6 体幹機能障害	73	53.4	43.8	54.8	46.6	31.5	26.0	23.3	39.7	35.6	21.9	13.7	12.3	6.8	4.1	5.5	4.1
7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸などの機能障害	435	51.3	45.5	35.4	30.3	30.3	29.9	27.6	20.0	24.1	32.6	15.2	10.8	8.0	3.2	4.8	11.5
8 その他	18	44.4	61.1	16.7	38.9	50.0	27.8	33.3	22.2	16.7	22.2	11.1	11.1	5.6	0.0	11.1	0.0
9 無回答	15	33.3	26.7	33.3	26.7	26.7	26.7	26.7	40.0	20.0	20.0	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	20.0

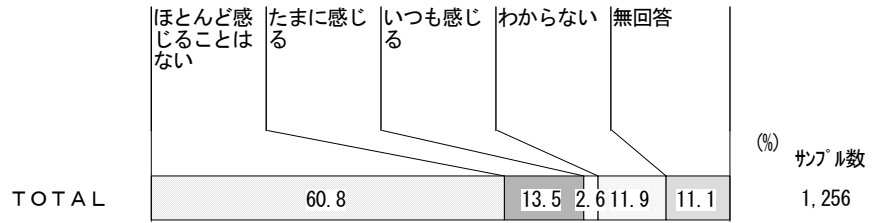
## 11 差別や人権侵害について

### (1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 46 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 47 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害、虐待については、約6割の人は「ほとんど感じることはない」(60.8%)が、2.6%は「いつも感じる」、13.5%は「たまに感じる」と回答している。



#### 【参考】平成13年度調査結果との比較

「ほとんど感じることはない」は13年度に比べて4.2ポイント増加、「いつも感じる+たまに感じる」は7.7ポイント減少。

	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
13年度 n=2,434	56.6%	19.4%	4.4%	10.4%	9.2%

差別や人権侵害、虐待の内容としては、具体的に以下のような記入があった。

#### ① 言葉や視線

- ・ 町中を歩いているとき。(女性・69歳・視覚)
- ・ 今は主人がいつも一諸なので感じないけれど、一人で家にいるときとか一人で外出したとき。(女性・79歳・聴覚)
- ・ 歩いている時に、じろじろ見られる。差別的な言葉を言われる。(女性・33歳・上下肢)
- ・ 障害のある子どもをじろじろ見られることはしょっちゅうです。買い物していると車イスはじゃまあつかいされたり、エレベーターに乗れなかったりします。(男性・9歳・体幹)
- ・ じーっと見られたり、こそこそこっちを見ながら話して目が合うとそらす。(女性・5歳・上下肢)
- ・ カニューラを鼻につけて外出したとき、外国の都市にくらべて日本人は障害者をいやにジロジロ見る人たちだなあと思う。(男性・67歳・上下肢)
- ・ 言葉による差別(男性・60歳・聴覚)
- ・ 学校で「がいしゃ！」と言われることがある。(男性・15歳・視覚)
- ・ お気の毒にとか、かわいそうにとかを耳にするとき(男性・71歳・音声)
- ・ 「ああはなりたくない」という目で見られることがある。(女性・57歳・上下肢)
- ・ 中年女性(50才後半～60才代位)のグループにエレベーターを降りたとたん大声で「あの人が可哀想にね。あれじゃ結婚もできないんじゃない」と言われた。このような言葉の暴力やマナーの悪さにびっくりします。(女性・55歳・上下肢)
- ・ びっこと言われる。(女性・71歳・上下肢)
- ・ つんぼと笑われる。(女性・97歳・内部)
- ・ 声が出づらい。首に手術のあとがあり見られている気がする。(男性・62歳・音声)

## ② 就労・職場

- ・ 障害者採用というだけで、賃金の差異を考えていただきたい。(男性・34歳・上下肢)
- ・ フルタイムの正社員として雇ってもらえない。(男性・50歳・内部)
- ・ 職場での待遇 (男性・48歳・上下肢)
- ・ 障害があることで給料があがらない。グレードの最低ラインに下げられた。(男性・52歳・聴覚)
- ・ 聴覚障害なのに「聞こえるように努力しろ」などと言われる。給与がどんどん下がってくる。(男性・48歳・聴覚)
- ・ 障害を受けることになった病気が原因で、職場を辞めさせられた。(女性・49歳・内部)
- ・ 職場での配慮が無い。(男性・57歳・上下肢)

## ③ 交通機関

- ・ タクシーに乗った時に障害者手帳をいただいているという、返事をしない運転手さんがいる。(女性・65歳・上下肢)
- ・ バスを利用するとき、障害者手帳を出して料金を支払うと、運転手さんにいやな顔された。通院時もタクシー券を使おうとしたところもんくを言われることがある。(女性・内部)
- ・ 交通機関で席をゆずってくれたことがない。ぶつかられる、口に出して文句を言われる。(男性・45歳・上下肢)
- ・ 電車などの事故のときに、情報が音声だけで聴覚障害者はなおざりにされていると感じる。(男性・44歳・聴覚)

## ④ 障害に対する理解不足や誤解

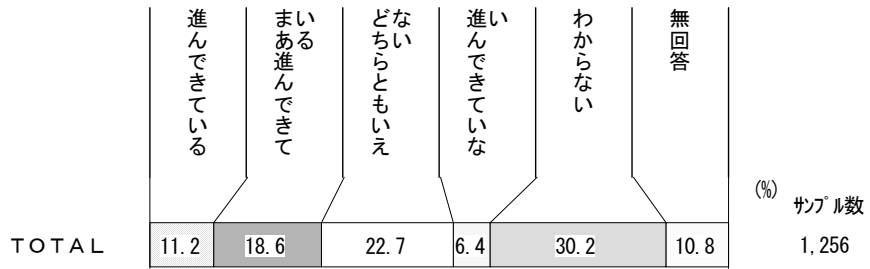
- ・ 内部障害は他人わからず、健康体に見えるため、バスやトイレの使用のときに白い眼で見られる。(男性・62歳・内部)
- ・ 内臓疾患による障害のため、外見では障害があるように見えず、優先席を利用していると「若いのに座っているの？」という目で見られるのですごく気を使ってしまう。(女性・34歳・内部)
- ・ 聴覚障害なので、コミュニケーションに手間がかかるが、知的的に劣っているような対応をする人がたまにいる。(女性・49歳・聴覚)
- ・ ただ聴こえないってことが理解してもらえない。誤解が多い。(女性・50歳・聴覚)
- ・ 聴覚障害者に対して、不幸と言われている人がいます。「不幸」×ではなく、「不便」○であること。(男性・70歳・聴覚)
- ・ 言葉が通じなくても、本人は聞いて理解することはあります。一人の人間として同じように扱ってほしい。(男性・70歳・上下肢)
- ・ できるかできないか未だ判らないのに、初めからできないと決めつけないでほしい。(女性・72歳・体幹)
- ・ こちらの意志を確認しないで、勝手に親切にされるとき。(女性・63歳・上下肢)
- ・ 自分がそそうした時、急にお腹をこわした時、人前でガスが出た時などです。(女性・70歳・内部)
- ・ よく聴こえないとき、相手にされなくなる。いやな顔をされる。(男性・75歳・聴覚)
- ・ しゃべれないのを知っていて無視をされて、なかなか頼んだことをしてくれないと感じたことがある。(女性・62歳・音声)
- ・ ハード面を整備すれば他人の手をかりずに自立できるのに、国・都・市など行政の整備不足で他人にお願いをしなければならない。(男性)

【身体障害者】

(2) 市民理解の進捗

問 48 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

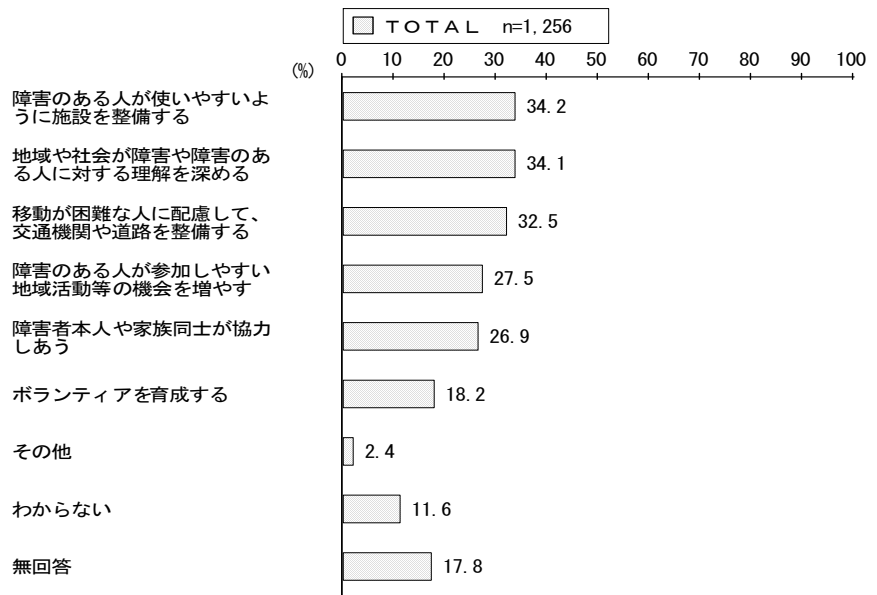
障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と考えている人は11.2%、「まあ進んできている」(18.6%)をあわせると、約3割の人は市民の理解が進んできていると考えていることがわかる。



(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 49 障害のある方々が地域や社会に積極的に参加するために、特に大切なことは何だと思えますか。(○はいくつでも)

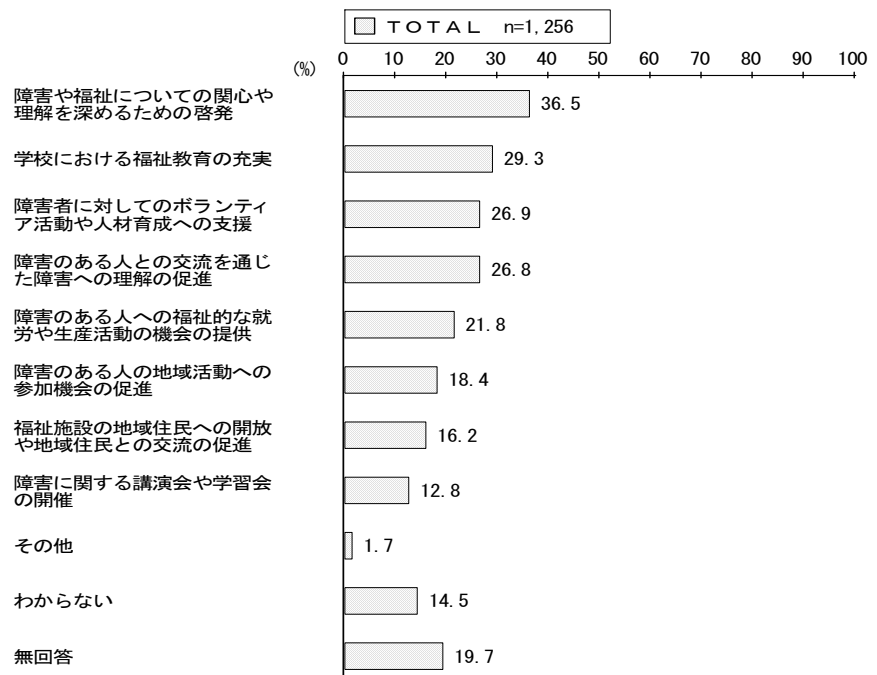
障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこととしては、「障害のある人が使いやすいように施設を整備する」(34.2%)、「地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深める」(34.1%)、「移動が困難な人に配慮して、交通機関や道路を整備する」(32.5%)がそれぞれ3割以上あげられている。



(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 50 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、何が重要だと思いますか。(○はいくつでも)

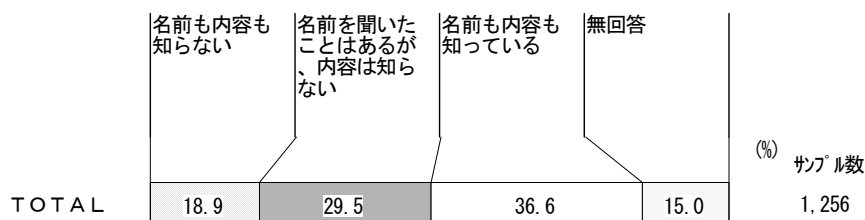
障害や障害のある市民への理解を深めるためには、「障害や福祉についての関心や理解を深めるための啓発」が必要だと考えている人が36.5%と最も多く、次いで「学校における福祉教育の充実」が29.3%で続いている。



## (5) 成年後見制度の認知状況

問 51 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は36.6%、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」人は29.5%であり、約2割は「名前も内容も知らない」(18.9%)状況である。

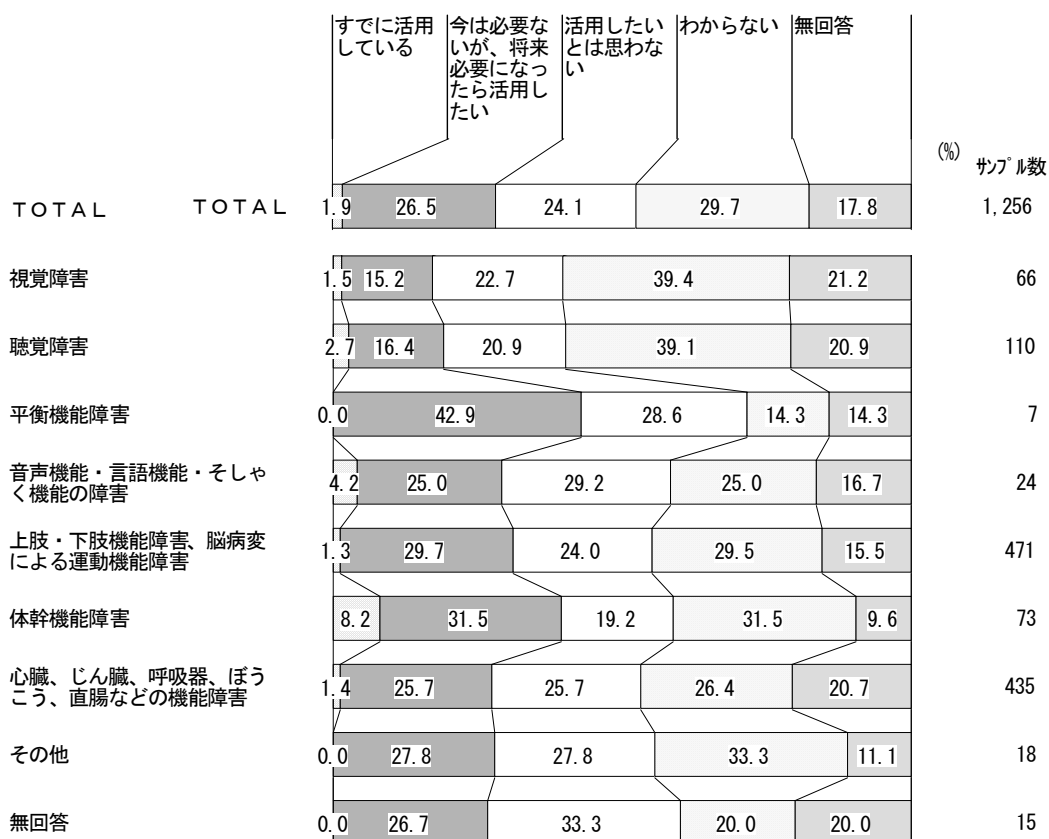


## (6) 成年後見制度の利用意向

問 52 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度を「すでに活用している」人は1.9%、「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と考えている人は26.5%で、約3割の人には利用意向がある。

障害種別にみると、体幹機能障害では、「すでに活用している」が8.2%、「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」が31.5%となっており、約4割の人に利用意向がある。



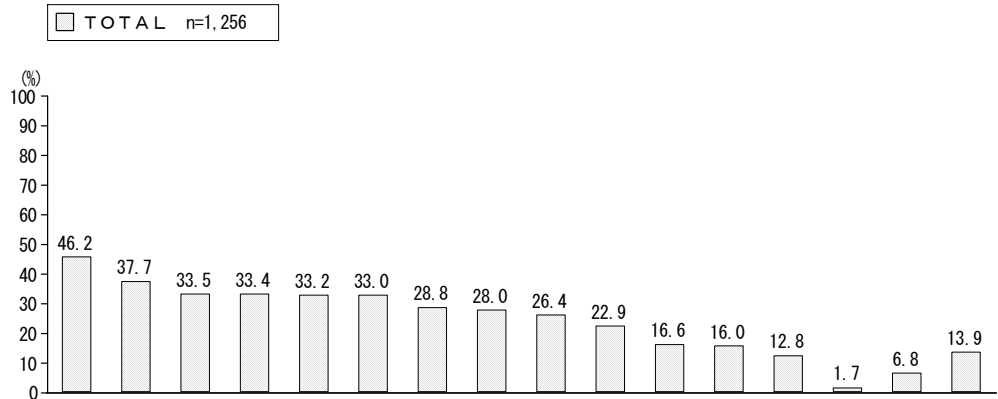
12 市への要望等

(1) 充実させていくべき障害者施策

問 53 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後、市が充実させていくべき障害者施策としては、「福祉のまちづくりを推進すること」があげる人が46.2%と最も多く、次いで「予防とともに早期に発見し、早い段階で適切な対応に努めること」が37.7%で続いている。

年齢別にみると、18歳未満では、「障害のある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進める」が74.1%と特に多く、次いで「利用できる施設を増やすこと」が55.6%で続いている。18～64歳では「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」をあげる人が52.7%と最も多い。



問3 年齢 (3区分)	n	7	1	3	4	5	11	6	8	12	2	10	9	13	14	15	16
		「福祉のまちづくり」を推進すること	予防段階とともに早期に発見し、早い段階で適切な対応に努めること	障害のある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること	障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	在宅生活支援サービスを充実させること	障害者サービスや福祉情報提供を充実させること	利用できる施設を増やすこと	居を確保整備すること、障害のある人が住みやすい住居を確保すること	相談体制を充実させること	障害に対する理解を深めること、障害者に対する偏見を減らすこと	ボランティア活動を充実させること	文化、スポーツ活動などに参加できるような支援すること	成年後見制度が利用しやすく、成年後見制度が利用しやすくなるように支援すること	その他	特になし	無回答
0 TOTAL	1,256	46.2	37.7	33.5	33.4	33.2	33.0	28.8	28.0	26.4	22.9	16.6	16.0	12.8	1.7	6.8	13.9
1 18歳未満	27	40.7	48.1	74.1	48.1	48.1	51.9	55.6	44.4	51.9	44.4	29.6	33.3	14.8	11.1	0.0	7.4
2 18～64歳	273	44.3	36.6	41.4	52.7	27.1	41.8	31.5	35.5	31.1	30.0	16.8	18.7	15.4	3.3	4.4	5.9
3 65歳以上	919	47.1	38.1	30.0	27.7	35.1	29.9	27.9	25.7	25.0	20.5	16.4	14.9	12.0	1.0	7.4	16.0
4 無回答	37	40.5	29.7	32.4	18.9	18.9	29.7	13.5	18.9	8.1	13.5	10.8	10.8	13.5	0.0	16.2	27.0

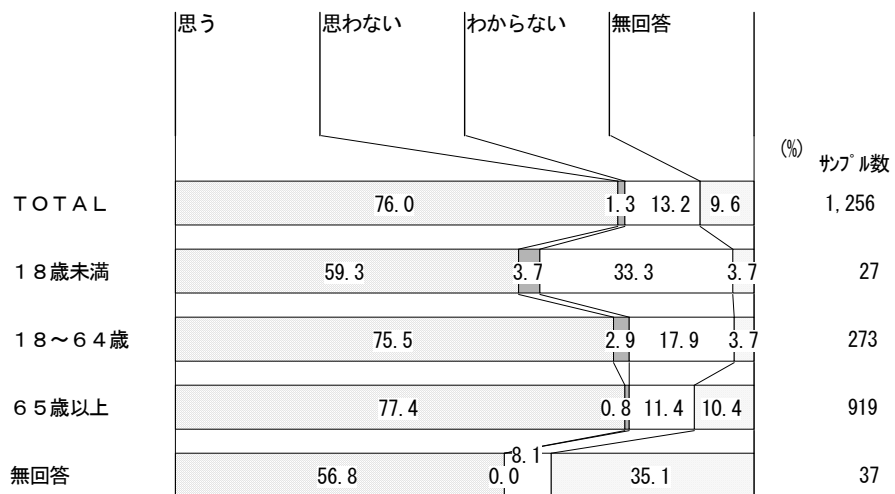


## (2) 居住継続意向

問 54 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

76.0%の人は、今後も西東京市に住み続けたいと「思う」と回答している。

年齢別にみると、18歳未満では、すみ続けたいと「思う」人の割合が約6割(59.3%)と18歳以上に比べて低くなっている。



## 【参考】平成13年度調査結果との比較

「住み続けたいと思う」は13年度に比べて0.1ポイント減少。

	住み続けたいと思う	住み続けたいと思わない	わからない	無回答
13年度 n=2,434	76.1%	2.8%	15.9%	5.2%

## (3) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

## ① 外出時の環境整備など福祉のまちづくりに関すること

- ・ ひばりヶ丘などは車いすだと車道を歩く。何十年も変わらず、25年経っているのに、ひばりヶ丘からタクシーはのれない。段差があるので車いすだと乗れない。(男性・63歳・上下肢)
- ・ 車道から歩道への段差を少なくして欲しい。(男性・81歳・体幹)
- ・ 歩道の利用が本当につらいです。車いすをおしていると、100mごとに通れない場所にあたってしまいます。狭いため、人とすれちがうことができません。幅はどうしようもなくても、歩道のかたむきはどうにかならないのでしょうか。(女性・57歳・上下肢)
- ・ 府中道が狭く、事実上、車いすでは危険で通行できないため、歩道整備を進めて欲しいです。(男性・38歳・体幹)
- ・ 公共施設はもちろん、スーパー、駐車場のある商店等、多数の人が利用する所では必ず、障害者用の駐車場を設置すること。健常者の使用を防ぐための措置をすること。(男性・81歳・体幹)
- ・ 一般レジャー、飲食店等に手すりの取り付けを早く義務づけする。(男性・69歳・上下肢)
- ・ 個人商店(時に飲食店)は立ち寄りたくても、段差や階段などで入れない店が西東京市には多く感じます。市の助成などで個人店をバリアフリー化できれば、障害者も地元の店に通えるようになり、市民間の交流も可能になるかと思います。(男性・38歳・体幹)

## 【身体障害者】

- ・ かえで通りをよく歩いたりしますが、昼間は高齢者が多いように思います。足が悪く杖をつきながら歩いている人の脇をすごいスピードで自転車が行き来しているのが毎日の光景です。歩道を広げて、自転車のレーンを設けてくれると歩行者もゆっくり歩けるのですが。(女性・62歳・上下肢)
- ・ 障害者向けの割引やサービスを提供しているにも関わらず、表に明記せず、わかりにくくしている施設やサービスショップがけっこうたくさんある(美術館や映画館とか)。目につきやすいところへ掲示するようもっと指導が入るとよいと思う。(女性・49歳・上下肢)
- ・ お年寄りやハンディキャッパーが商店街で気楽に買い物ができるようなインフラ整備をお願いします。外出したくなるような安全で楽しい街づくりこそ、自室から町へと人を誘導し、医療費を軽減し、地域を活性化するのではないのでしょうか。(女性・61歳・上下肢)

### ② 移動・交通機関に関すること

- ・ 交通の問題は最も考えてほしいです。はなバスは車いすの人が乗れるバスじゃないですよ。もう少し工夫が必要ではないでしょうか。障害者+高齢者専用バスとか。(女性・57歳・上下肢)
- ・ 7月からはなバスが150円に値上りするとのこと。障害者手帳所持者の半額制度を切に希望いたします。(高齢者も含めて)(女性・80歳・上下肢)
- ・ 「はなバス」も利用しますが、もう少し台数を増やして欲しい。せめて、1時間に4本位だと、自転車を使わずに駅まで乗れるのですが。(女性・62歳・上下肢)
- ・ 身障害者手帳の4級には駐車禁止の場所への駐車許可が与えられていない。4級でも通院などで車は必要で、4級でも許可できるようにしてもらいたい。(男性・82歳・内部)
- ・ バスに乗る時、障害者手帳を見せたのに半額にならない時が2回程ありました。運転手さんもうっかりしたのですが、後でパスモの履歴を確認すると半額になっていなかったのが、手帳を見せるのに勇気も要るので、半額にする配慮を忘れないでほしい。(女性・47歳・上下肢)

### ③ 情報提供に関すること

- ・ 娘が障害をもって生まれた時、何の情報もなく、本当に大変な日々でした。母子手帳をもらうときなどに「もし障害をもってしまったら」といったような簡単な冊子とかを事前にいただけたら、いいと思います。また、ネットで見られるようになったらいいです。(女性・3歳・上下肢)
- ・ 施設と活動内容等を、よくわかるように連絡してもらいたい。(男性・77歳・音声)
- ・ 障害者のしおりをいただきましたが、もっと身近な場所で普通の方たちと趣味等を交流できる場所がわかれば良いと思います。特に難聴者は人前に出ると話し方も消極的になりやすいし、外出もおっくうになります。高齢になるとますます人との対話も少なくなり、日中家族が居なくなると淋しく感じます。一週間に一度でも良いから交流できたら良いと思います。(女性・82歳・聴覚)
- ・ 福祉課に手話ができない人が多くて何と言っているのか、ちょっとめんどくさいや足りないです。手話をずっと続けてほしいと思います。(女性・50歳・聴覚)

### ④ 手続きに関すること

- ・ 支援、介護申込んでから、認定までの時間がかかりすぎる気が致します。(女性・73歳・上下肢)
- ・ サービスを受ける手続きや申請が非常に大変です。家族や代理人に依頼しても平日17時までには役所に行くのもむずかしいです。ネットやTELで手続き、申請ができるよう、またもっとサービスが受けやすくなるよう努力して下さい。(女性・74歳・上下肢)
- ・ 申し込みする時いつもTel番号しか書いてない。必ずFax番号を書いてほしい。メールも対応してほしい。Fax・メール返答はすみやかに返事応答すべきだ。いつまでも待たせているとイライラする。Telならすぐ応答できるからうらやましい。そういうことわかってほしい。見えない障害者は、理解してもらえないので、とても苦痛です。(女性・50歳・聴覚)
- ・ 難病等、医療費等助成などの申請に必要な医師に依頼する文書料など無料にできないのでしょうか。又、更新期間をもう少し長くしてほしい。(女性・82歳・視覚)

## ⑤ 相談に関すること

- ・ 障害者が援助を必要とした時先ず、どこに相談したらよいか知らせること。(女性・74歳・聴覚)
- ・ 役所において、まだ障害者・家族にとって相談しづらい体制になっている。(女性・65歳・上下肢)
- ・ 主人が土・日仕事などで、休日は外に連れ出すのが私1人では困難で、家の中で過ごしています。家の事情なので仕方ないのですが、どうにかならないかなと考えています。悩みがあっても市の窓口だと相談できる雰囲気ではないように思います。(男性・9歳・体幹)
- ・ 自分自身、介護保険受給者ですが、先天性障害者でもあるので障害福祉課は、障害者としての対応もしてほしい。今のところ、65才以上ということで、障害福祉課からは相談にいつでも門前払いの状況です。(男性・65歳・上下肢)

## ⑥ 各種サービスに関すること

- ・ 現在は人の手を借りずに生活ができています。将来にはある程度不安を感じている。今後の行政を考えると極力当該者の自立支援をサポートすることと思う。但し重度の方は別。(男性・65歳・上下肢)
- ・ 高齢者になってからの聴覚障害者は、ある程度年齢的なものがあるので、障害手帳を発行するだけでなく年齢的な福祉サービスを行ったほうが良いと思う。(女性・87歳・聴覚)
- ・ ヘルパーを派遣してもらっていますが、時間、サービス内容に大きな制約があり不便です。ちょっとした手助けが必要なとき、近所にすぐ来て助けてくれる人が欲しいので、緊急人員派遣制度を行政で作成支援していただきたい。(女性・72歳・体幹)
- ・ 何度も死を覚悟し、その都度、何とか普通の生活を送りたいと制度を利用して参りました。藁をも掴む時は心も折れ、ちょっとした言葉で傷ついたりします。本人も家族も模索し努力し、それから制度にたどり着くと思います。心ある対応・制度運用の努力もお願いしたい。(男性・36歳・体幹)
- ・ 日常生活用具の給付ですが、目覚し時計の補助金があるとよいと思います。毎日、親がいても一人で起きるので、寝坊にならないように振動のある目覚し時計を置きたい。(女性・40歳・聴覚)
- ・ 舌咽喉がんにより自分の声を失いました。その後手術により“シャント法”にて発声できるようがらんばっております。シャント発声法で日常的に使い交換しなければならない人工鼻を日常生活用具として認めていただきたいと思います。(男性・69歳・音声)
- ・ 訪問介護に白衣を着て来られると、病人を近所に意識させる。何かいい方法はないものか。(男性・76歳・聴覚)
- ・ 私は障害のある子どもの介護に24時間をつぎ込んでいますが、どうしても何日か子どもを預けたい時、1ヶ月に7日までしか預けられません(ショートステイ)。7日以上続けて使いたい時は理由を伝えて延長していただかなくてはなりません。(男性・24歳・内部)
- ・ 情報を共有するためにインターネット料金の無料、講習など、本人から発信できるように。(男性・65歳・上下肢)
- ・ 私(父親)は勤めていて、昼間家に居ない。母親は病院にいる子ども(障害児)のところに行きたいが、小さい子どもが3人いるから外出できない。子どもを預かってくれる保育園があればいい。(男性・5歳・上下肢)
- ・ 生活用具の支援をもっと行って欲しい(家族と同居で支援されない物が多いが、調理器具等支援してもらえる事により本人が出きる事が増え、又生活がしやすくなる)(男性・37歳・視覚)
- ・ ケアマネジャーの教育をしっかりとしてほしい。とても頼りないケアマネジャーがいます。(女性・74歳・上下肢)
- ・ 大病による入院、手術の後、通院しながら在宅治療、投薬で頑張っているが、ケアマネジャーは気軽に緩和ケア、ターミナルケアの情報を伝えてくれる。仕事上、馴れたやりとりでも、少し患者、家族の心理を勉強してほしい。(男性・76歳・聴覚)

## 【身体障害者】

### ⑦ 各種施設等の整備に関すること

- ・ 市の施設を年齢に関係なく利用できるようにしてもらいたい。(女性・63歳・上下肢)
- ・ 肢体不自由のグループホームをもっとつくって下さい。(男性・67歳・音声)
- ・ 若年からの事故・病気による障害者に対する施設が全くといっていい程にありません。50歳台位mでの人が利用する施設(特に入所)を作ってほしいです。(男性・43歳・体幹)
- ・ 家族のいない1人暮らしはオーシャンハウスみたいな所が多くできてみんなが入れたらいい。(女性・75歳・上下肢)

### ⑧ 教育に関すること

- ・ 市の特別支援学校を設立してほしい。または、自宅近くの普通校に支援学級または介助員を配置してほしい。わざわざ遠方の学校へ通学するのは差別を受けている気分になる。(男性・3歳・聴覚障害)
- ・ 小中学校内に設置される「難聴学級」の数が全体的に少なく、もし難聴学級のある学校に通わせたいとなった時の通学負担を懸念しています。(女性・1歳・聴覚障害)
- ・ 特別支援学校では順序だった勉強はしません。親が教える、もしくは塾に通わなくては、基礎学習(読む・書く・計算 etc)を学べないのが現状です。これで就労を目指すのはかなり難しいのではないかと思います。障害児教育にも力を入れて頂けたらと思います。(女性・8歳・上下肢)
- ・ 社会の中で障害者が健常者と変わらず、普通に学ぶ事ができ、普通に生活していけるようになってほしいです。今は学校も別々で理解しあうこともできません。一時的、短期間の交流はありますがそれでは不十分です。(女性・10歳・体幹)
- ・ 私は娘を育ててきて市や健常者側にお願い理解を求めるだけではなく、障害のある娘やその親も、歩みよるための努力が必要だと思っています。建物の設備、先生が少ないなどの理由で幼稚園や普通学級ではなく療育センターや特別支援学校へ進められますが、最初から一緒だったら、改めて理解を求めなくてもいいのかなあと思ったりします。(女性・8歳・上下肢)

### ⑨ 雇用・就労に関すること

- ・ 自立にむけての職業訓練の場を作ってもらいたい。(女性・63歳・上下肢)
- ・ 西東京市にもA型B型の就労支援を早くできるように願っています。(男性・54歳・上下肢)
- ・ 健常者さえも就職難の時代に仕事をさがせ、仕事をせよ、となると自発的に動けなくなる。障害を持った者は十人十色だその人にあった生き方を認め、押しつけはやめてほしい。(女性・56歳・音声)
- ・ 就労支援を行って欲しい。(男性・37歳・視覚)
- ・ 障害者の雇用促進は大事だが、働いてからの就労状況が本人に合っているか、また給与も適正であるかが大事で、この点についても深く議論を進めてほしい。(男性・48歳・聴覚)
- ・ 重度の人たちを考えると働く場所が本当に少ない。福祉作業所は入っても収入はほとんど無いと同じだし、送迎などのサービスは劣っている様に思う。(女性・79歳・内部)
- ・ 現在、高次脳機能障害をもっている主人は「ゆずりは作業所」に通っています。「一步」にも登録してありますが、就職は年齢的にも難しいのか、ここ数年は何も情報もありません。収入面、60才以降もきちんと通える場所があるのか、将来的に不安です。障害のある高齢者の通所できる場所や収入面も安心できるサービスを期待しています。(男性・59歳・上下肢)

### ⑩ 社会参加、余暇活動等に関すること

- ・ 自分の趣味をいかせる場がほしい。もっているものを(免状)人に教えたい。(女性・72歳・内部)
- ・ 障害のある子どもが市内にどの位いるのかわかりませんが、利用できる水泳教室、イベント、おまつりなど行っていただきたいと思います。(男性・9歳・体幹)
- ・ 介護人付きでかまわないので、肢体不自由(者)(児)も使えるようにプールを造ってもらいたい。時間を決めてでもよいので、利用できるようにしてほしい。(女性・6歳・体幹)

## ⑪ 経済的な援助に関すること

- ・ 手当等に所得制限を設ける意味がわからない。いつまで働けるかわからない不安のため、働ける今120%頑張っているのに。就労意欲がうすれる。まるで所得が増えたら、障害が治るとでも思っているのかのようだ。(男性)
- ・ 喉頭全摘後、声の機能を取り戻す為、プロボックスをつけたが、気管口の手入れ等にかかる負担が大きく(1ヶ月2~3万円)市が補助していただけると助かる。(男性・62歳・音声)

## ⑫ 理解や権利擁護、差別・人権侵害等に関すること

- ・ ペースメーカーの患者は外見上健常者と同じで、全く区別がつかない。従って心臓の直近で電気器具を使われ、あわてて避けることがある。シルバーシート域内、及び境界周辺では、マナーモードに拘らず、一切電源を切ることを全国的に徹底するよう、西東京市より、運輸局に申入れていただければ有難い。(男性・91歳・内部)
- ・ 日本は福祉がとても貧しいと思います。それに健康な人は、「知る・理解し、協力する」が足りません。健康だと思っている人が、いつ障害者になるかわかりません。他人事(ひとごと)でなく自分に置き換えて考える必要がありますね。(女性・79歳)
- ・ TVで成年後見人制度を利用したら選挙権(投票所での投票)ができなくなることを知りました。付きそい人がいれば投票できるので改めてほしいと思います。不正が心配であれば、選挙管理人が居るのだから注意するか見守れば良いと思う。(男性・49歳・上下肢)
- ・ 一番大切なのは教育です。小さい時からいろいろな障害を持った人と共に過ごすインテグレーションはお金も人手もかかりますが、見慣れているとそれが普通になって、当たり前になることが障害のある人にとって住み良い社会だと思います。幼稚園から障害者の施設等に遊びに行ったり、迎え入れたりと交流を定期的を持つことで見慣れることで、いろいろな人がいることを自然に理解されることだと思います。小学校、中学校、高等学校のプログラムに当たり前にならなければ、福祉の問題は難しいもので無くなると思います。それは中途障害になっても希望の持てる社会でもある様に思います。(女性・83歳・聴覚)
- ・ 教育の中で(中学生時)くらいのときにデイサービスとか、施設を多人数で見学とかではなく、高齢者、障害者等現場と一緒に過ごす場を持てたら良いと思います。(女性・73歳・上下肢)
- ・ ひと月に2回位役所の駐車場を使わせてもらっていますが、身体障害者手帳を警備員に提示しても、素直にハンコを押して下さらない時もあります。(男性・69歳・内部)

## ⑬ 障害者施策の推進、計画策定等に関すること

- ・ 介護保険制度が発足して、ようやく福祉の谷間から抜け出られると思ったのも束の間、介護保険制度が優先され、障害者自立支援法が使えないという現状に矛盾を覚えるようになりました。厚労省へは特定疾病の選定について再考をお願いしたいと思います。年齢によっては障害者総合支援法を使えるように、柔軟に制度を運用していただきたい。(女性・61歳・上下肢)
- ・ このようなアンケートは意義あることと思います。問題はここで示された課題をどう解決するかだと思います。(男性・65歳・上下肢)
- ・ このアンケート結果がどのように計画に反映されたのかの明確なフィードバックをしてほしい。良い計画ができることを楽しみにしています。(男性・33歳・上下肢)
- ・ この調査が今後の市政にどのように反映されるかが問題であって、調査そのものの効果は、結果を今後の市政にどう役立てるかであろうと思います。「調査結果と市政の改善」といった報告が「市政」の広報関連の紙上に掲示されることを期待しております。(男性・85歳・内部)
- ・ 障害の内容、程度によって要望も変わってくると思います。私の場合は毎日が無事である事が基本で、活動とか就労などは程遠い事ですので、自分自身にはあてはまらないと思いつつ、記入しました。(女性・67歳・上下肢)
- ・ 市だけではなく、国ごとのレベルでも障害者に対するサポートをもっと進めていくべきである。(法律の整理・施行で障害者を援助してほしい)(男性・48歳・聴覚)

## 【身体障害者】

- ・ 社会の障害者福祉に対する認識は深まっていると思いますが、障害者の社会貢献の可能性について、幅広く検討を継続して行くことが必要である。(男性・78歳・内部)
- ・ 健常者VS障害者といった関係で見るのではなく、現在の健常者が将来の障害者になる人々といった観点で障害者問題を考えていくことを進めていってください。そういった切り口での議論があまり展開されていないように思います。(男性・61歳・体幹)

### ⑭ その他

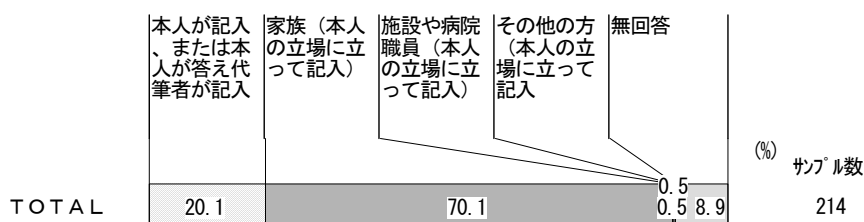
- ・ 障害者であれ、老人であれ、生涯明るく、健康で、元気のある西東京市でありたいものです。また、福祉都市として自信と誇りをもてる街でありたいものです。(男性・82歳・内部)
- ・ 同じ様な障害を持つ人々がどんな事を感じ、考え、行動しているのかをもっと知りたいです。どうしても前向きになれない部分を、前を向いて歩いていく為に必要な志みみたいなものを同じ障害を持つ人から教えて欲しいです。自分の人生をより幸福なものにする為に、何か良いキッカケがあると良いなと感じます。(女性・44歳・上下肢)
- ・ 障害者自身の心の持ち方だと思います。「助けて下さい」と云える自分になるよう、努力したいと思います。(女性・80歳・上下肢)
- ・ 1人暮らしの生活は常に外部と接触が大切だと思う。家の中にとじこもりはさけること。そのためには友人を作って、交流が大切と思う。又地域の人々とできるだけ多く接触して、自分の存在を知ってもらうことが必要であり、事がおきた時に助けを求められる関係も作っておくことだと思う。(女性・76歳・上下肢)
- ・ “障害者”であるとして過剰な支援にならないほうがいいのではないかな。勿論程度に応じてのことであるが、障害者には自立という目標が必要であり、何もかも頼っていくという姿勢は如何なものかと思う。当然必要な支援、施設は充実させて欲しいのですが。(男性・72歳・上下肢)
- ・ 身障者に対する体制の成度は整っていますが、個人、個人の心のケアが必要な人は沢山います。そこまで手がとどかないのでしょうか。(男性・65歳・体幹)
- ・ 障がい児ママは子どもが受けられる支援や助成などに、日々の忙しさや精神状態の不安定さで全く気が回らない。どこかでフォローして欲しい。(男性・3歳・聴覚障害)
- ・ 1才の頃から市の発達検診を半年ごと受けていましたが「異状なし」と言われ続け、結局3才になる頃、障害があることがわかりました。それまでわからなかったのが残念です。(男性・9歳・体幹)
- ・ ひいらぎでせっかくできた友だちとは、就学と同時に別れすることになり、貴重なコミュニティーを分断される。地域に根ざして理解を得るには、個々では心細く埋もれてしまう。ひいらぎと障がい福祉課、保健師、子育て支援課は連携していただきたい。(男性・3歳・聴覚障害)

## 1 基本的な属性等

### (1) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

「家族(本人の立場に立って記入)が約7割(70.1%)。

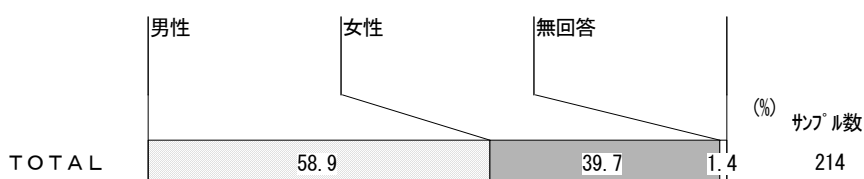


### (2) 性別・年齢

問2 あなたの性別をこたえてください。(○は1つ)

問3 年齢(4月1日現在)を書いてください。

性別は、男性が58.9%、女性が39.7%。



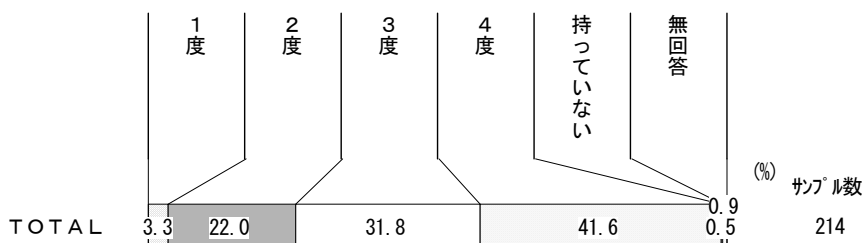
年齢は、10代が24.8%、20代が18.7%で、平均年齢は29.6歳。

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	平均
n=214	11.2%	24.8%	18.7%	14.0%	15.9%	4.2%	4.2%	4.2%	2.8%	29.6歳

### (3) 愛の手帳に書かれている障害の程度

問4 「愛の手帳(療育手帳)」に書かれている障害の程度をこたえてください。(○は1つ)

愛の手帳(療育手帳)に書かれている障害の程度は、「1度」3.3%、「2度」22.0%、「3度」31.8%、「4度」41.6%の構成。



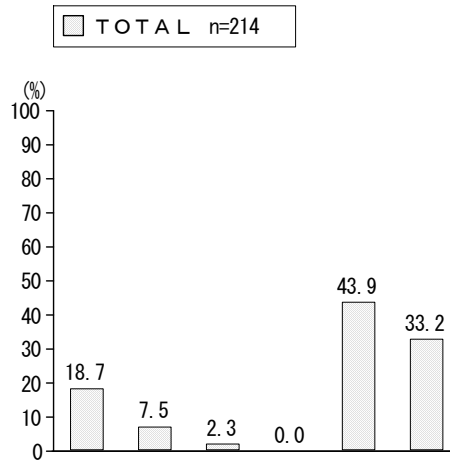
【知的障害者】

(4) 他の障害の状況

問5 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

知的障害以外の障害との重複状況をみると、「身体障害者手帳を持っている」人が18.7%、「発達障害と診断されたことがある」人が43.9%いる。

愛の手帳に記載された障害程度別にみると、「2度(重度)」の人では、21.3%が「身体障害者手帳を持っている」、57.4%が「発達障害と診断されたことがある」と回答している。



問4 療育手帳に記載された障害程度		n	1	2	3	4	5	6
			身体障害者手帳を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	難病医療費等助成対象疾病を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害と診断されたことがある	無回答・いずれもあてはまら
0	TOTAL	214	18.7	7.5	2.3	0.0	43.9	33.2
1	1度	7	85.7	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0
2	2度	47	21.3	8.5	2.1	0.0	57.4	19.1
3	3度	68	19.1	7.4	1.5	0.0	32.4	41.2
4	4度	89	11.2	7.9	2.2	0.0	47.2	37.1
5	持っていない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
6	無回答	2	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0



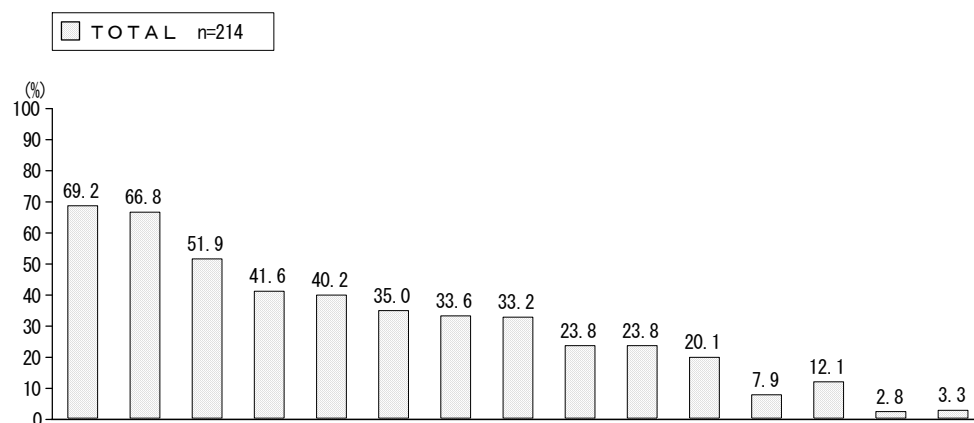
## 2 介助・援助の状況

### (1) 介助・援助を受けている場面

問6 どのようなときに手助けをしてもらっていますか。(〇はいくつでも)

実際に手助けを受けている場面としては、「暮らしに必要な事務手続き」をあげる人が69.2%と最も多く、次いで「生活費などのお金の管理」が66.8%で続いている。

障害の程度別みると、「外出するとき」に手助けを受けている人の割合は、「1度」では100%、「2度」では85.1%、「3度」では58.8%、「4度」では24.7%となっている。



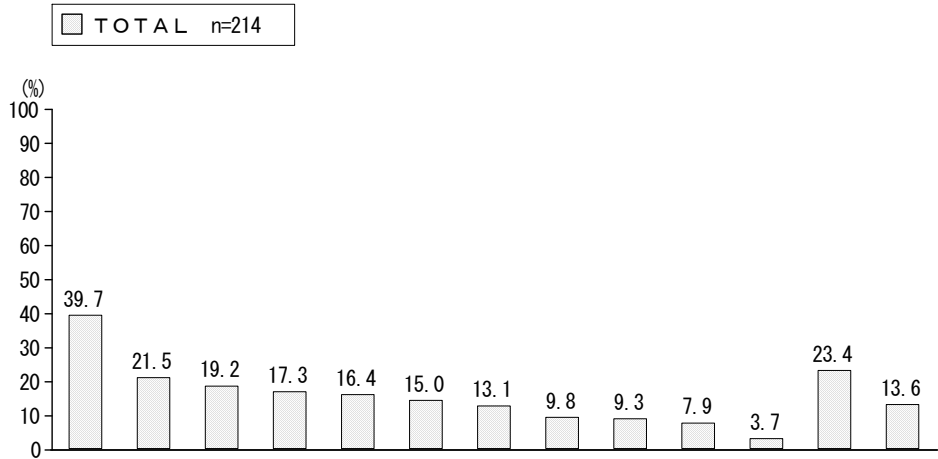
問4 療育手帳に記載された障害程度	n	12	11	8	3	13	10	9	4	2	6	5	7	1	14	15
		暮らしに必要な事務手続き	生活費などお金の管理	外出するとき	家事(調理、掃除、洗濯)をするとき	相手の話を伝えたいときや自分の話を聞きたいとき	服薬するとき	送り迎えのとき、学校や職場、作業所などへの送迎のとき	お風呂に入ったとき、身体を洗うとき	食事をするとき	トイレのとき	着替えをするとき	家の中の移動をするとき	介助・援助を受けていない	その他	無回答
0 TOTAL	214	69.2	66.8	51.9	41.6	40.2	35.0	33.6	33.2	23.8	23.8	20.1	7.9	12.1	2.8	3.3
1 1度	7	100.0	71.4	100.0	71.4	57.1	71.4	85.7	100.0	85.7	100.0	85.7	71.4	0.0	28.6	0.0
2 2度	47	78.7	83.0	85.1	53.2	57.4	59.6	68.1	61.7	51.1	46.8	36.2	12.8	4.3	4.3	2.1
3 3度	68	82.4	82.4	58.8	51.5	47.1	36.8	32.4	30.9	19.1	22.1	17.6	2.9	1.5	1.5	4.4
4 4度	89	52.8	46.1	25.8	24.7	24.7	18.0	12.4	14.6	7.9	6.7	7.9	4.5	24.7	1.1	3.4
5 持っていない	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

### 3 外出や社会参加について

#### (1) 外出の際に困っていること

問7 出かけるときに困っていることがありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることとしては、「他人との会話が難しい」ことをあげる人が 39.7%と最も多く、次いで「他人の視線が気になる」(21.5%)、「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」(19.2%)と続いている。



問3 年齢 (3区分)	n	2	3	9	4	1	5	6	7	8	10	11	12	13
		他人との会話が難しい	他人の視線が気になる	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい	足りぬ人の手助け・配慮が	付き添ってくれる人がいない	歩道が狭く、道路に段差が多	道物が多く、歩きにくい	建物などに階段が多く、歩きにくい	車を駐車するところがない	看板などに工夫が足りない	その他	特に困っていることはない	無回答
0 TOTAL	214	39.7	21.5	19.2	17.3	16.4	15.0	13.1	9.8	9.3	7.9	3.7	23.4	13.6
1 18歳未満	63	38.1	23.8	15.9	17.5	22.2	23.8	15.9	9.5	11.1	11.1	3.2	22.2	17.5
2 18～64歳	134	43.3	20.9	20.1	17.9	14.9	11.2	10.4	9.7	8.2	6.7	3.7	24.6	11.2
3 65歳以上	11	18.2	18.2	18.2	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	0.0	9.1	9.1	27.3	18.2
4 無回答	6	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7

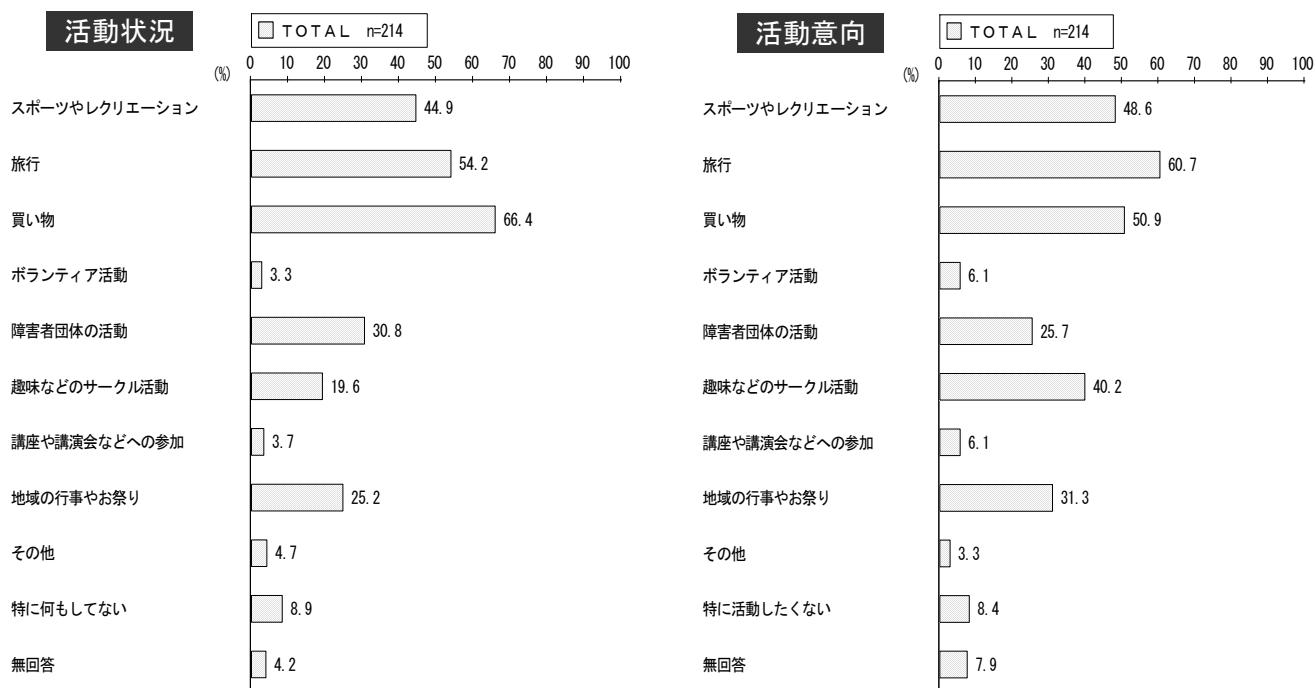
## (2) 余暇活動の状況・意向

問8 この1年くらいの中に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

問9 これからどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

最も活動意向が高いのは「旅行」で、60.7%の人が活動したいと回答している。

活動状況と活動意向を比較してみると、実際の活動状況に比べて特に活動意向が高いのは、「趣味などのサークル」(実際 19.6%→意向 40.2%)である。



## 【参考】平成13年度調査結果との比較

活動状況を見ると、いずれも13年度に比べて活動している人の割合は上昇している。中でも、「スポーツやレクリエーション」は13.0ポイント、「旅行」は20.0ポイント、「買い物」は18.1ポイントと上昇幅が大きい。

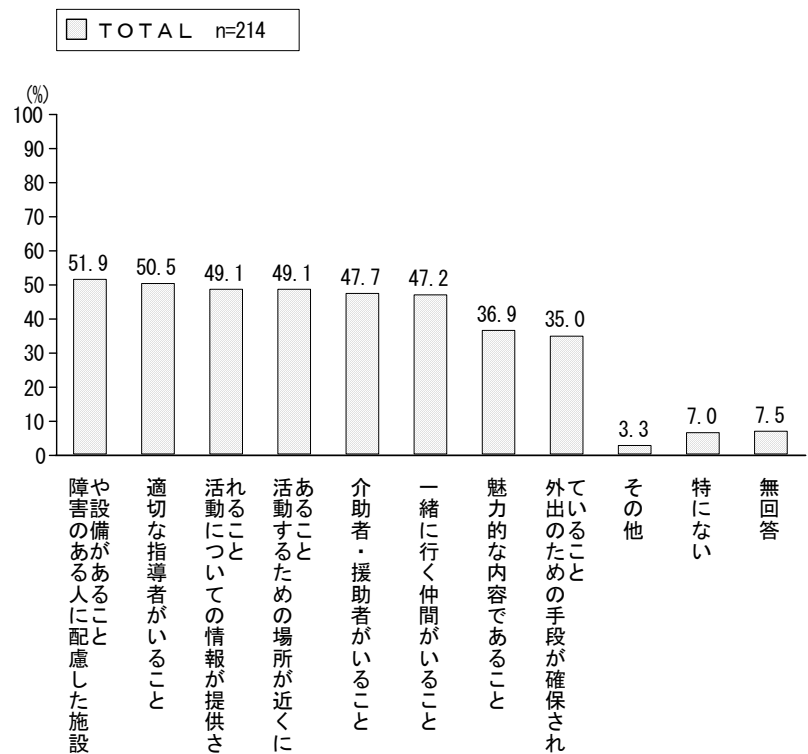
[活動状況]	スポーツ、レクリエーション	旅行	買い物	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動	講座や講演会などへの参加	地域の行事やお祭り
13年度 n=354	31.9%	34.2%	48.3%	2.0%	25.1%	14.1%	1.1%	22.3%

## 【知的障害者】

### (3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問10 問9のような活動をするためには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

希望する余暇活動をするために必要な支援としては、「障害のある人に配慮した施設や設備があること」をあげる人が51.9%と最も多く、次いで「適切な指導者がいること」(50.5%)、「活動についての情報が提供されること」(49.1%)、「活動するための場所が近くにあること」(49.1%)と続いている。

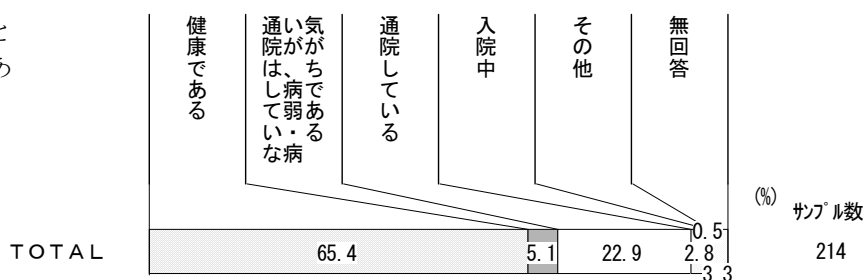


## 4 健康状態や医療について

### (1) 最近の健康状態

問 11 最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

最近の健康状態をたずねたところ、65.4%の人は「健康である」と回答している。



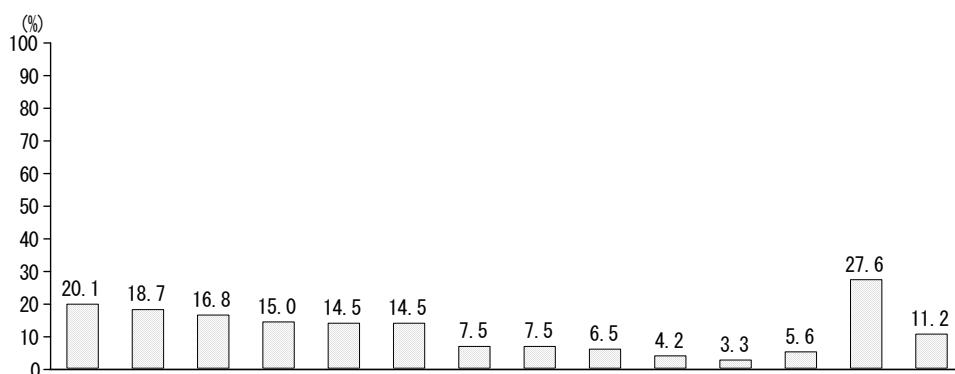
### (2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 12 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(○はいくつでも)

健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、「医療スタッフの障害に対する理解が不十分」なことをあげる人が 20.1%と最も多く、次いで「障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」(18.7%)、「近所に診てくれる医師がいない」(16.8%)と続いている。

愛の手帳に記載された障害の程度別にみると、「医療スタッフの障害に対する理解が不十分」と回答した人の割合は、最重度・重度(1度・2度)では15%程度だが、中度・軽度(3度・4度)では2割を超えており、程度が軽いほうがより「医療スタッフの障害に対する理解が不十分」と感じていることがわかる。

□ TOTAL n=214



問4 療育手帳に記載された障害程度	n	困ったり不便に思うこと													
		11	7	1	8	2	10	3	9	5	4	6	12	13	14
0 TOTAL	214	20.1	18.7	16.8	15.0	14.5	14.5	7.5	7.5	6.5	4.2	3.3	5.6	27.6	11.2
1 1度	7	14.3	28.6	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3
2 2度	47	14.9	25.5	25.5	17.0	21.3	10.6	12.8	10.6	8.5	8.5	4.3	4.3	23.4	6.4
3 3度	68	23.5	16.2	13.2	11.8	14.7	17.6	5.9	8.8	7.4	2.9	2.9	5.9	25.0	8.8
4 4度	89	20.2	15.7	12.4	15.7	11.2	15.7	6.7	4.5	4.5	2.2	2.2	5.6	32.6	15.7
5 持っていない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
6 無回答	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 5 日中の過ごし方

### (1) 日中の過ごし方

問 13 あなたは、平日の昼間、だいたいどこで(何をして)過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方・居場所は、18～64歳では、41.8%が「福祉施設で過ごしている、福祉のサービスに通っている」、38.8%が「働いている」と回答している。

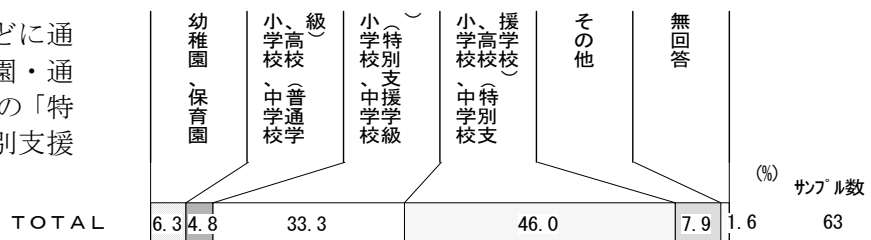
	n	幼稚園や保育園、学校などに通っている	福祉施設で過ごしている、福祉のサービスに通っている	働いている	病院で過ごしている	自宅にすることが多い	その他	無回答
TOTAL	214	29.4%	30.4%	26.2%	2.8%	7.0%	1.4%	2.8%
18歳未満	63	95.2%	1.6%	-	1.6%	1.6%	-	-
18～64歳	134	1.5%	41.8%	38.8%	3.0%	9.0%	1.5%	4.5%
65歳以上	11	-	45.5%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	-
無回答	6	16.7%	50.0%	33.3%	-	-	-	-

## 6 幼稚園・保育園、学校等について

### (1) 通園・通学先

問 14 通っているのは次のうちどれですか。(○は1つ)

「幼稚園や保育園、学校などに通っている」と回答した人の通園・通学先は、小学校・中学校・高校の「特別支援学校」が46.0%、「特別支援学級」が33.3%となっている。

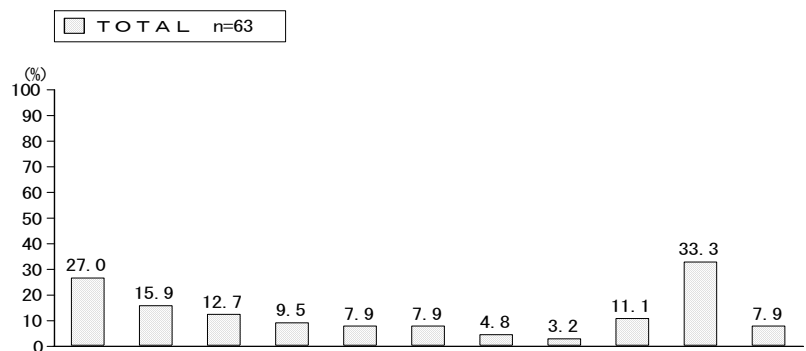


### (2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること

問 15 幼稚園や学校などに通っていて困っていることはありますか。(○はいくつでも)

幼稚園や学校などに通っていて困っていることとしては、「通うのがたいへん」と最も多い。

通園・通学先別にみると、「特別支援学級」に通っている人では、21人中9人(42.9%)が「通うのがたいへん」と回答している。



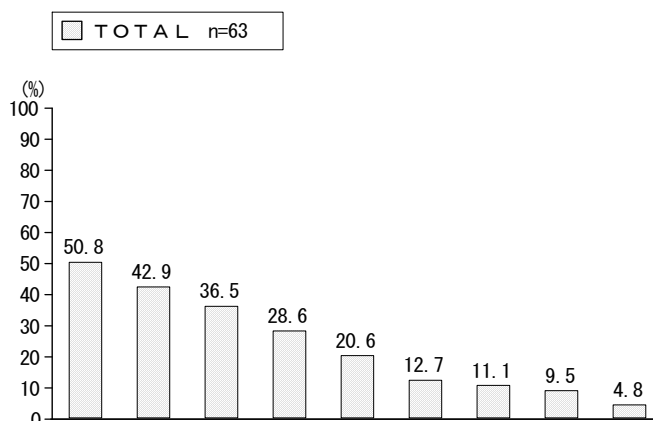
問 14 通園・通学先 幼稚園や保育園、学校について	n	問 15 幼稚園や学校などに通っていて困っていること (%)										
		1 通うのがたいへん	2 介助体制が十分でない	3 友だちができない	4 先生の理解や配慮が足りない	5 トイレなどの施設が整っていない	6 まわりの児童・生徒たちの理解が得られない	7 普通学級に入れてもらえない	8 医療的なケア (吸入・導尿等) が受けられない	9 その他	10 特に困っていることはない	11 無回答
0 TOTAL	63	27.0	15.9	12.7	9.5	7.9	7.9	4.8	3.2	11.1	33.3	7.9
1 幼稚園・保育園	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
2 小学校・中学校・高校 (普通学級)	3	33.3	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
3 小学校・中学校 (特別支援学級)	21	42.9	19.0	9.5	0.0	9.5	14.3	4.8	4.8	14.3	23.8	4.8
4 小学校・中学校・高校 (特別支援学校)	29	24.1	17.2	13.8	10.3	6.9	6.9	0.0	3.4	10.3	37.9	6.9
6 その他	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0
7 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(3) 学校教育に望むこと

問 16 学校などに望むことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

学校教育に望むこととしては、「能力や障害の状況に合った指導をしてほしい」が 50.8%と最も多く、次いで「就学相談や進路相談など、相談体制の充実させてほしい」が 42.9%で続いている。

通園・通学先別にみると、「特別支援学級」に通っている人では、21人中5人(23.8%)は「障害の状況にかかわらず普通学級で受け入れてほしい」と回答している。



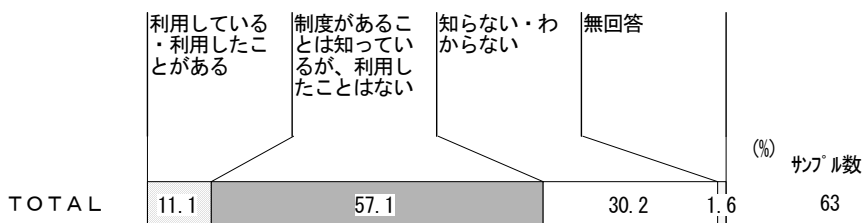
問 14 通園、通学している幼稚園や保育園、学校について	n	2	1	4	5	3	6	7	8	9
		能力や障害の状況に合った指導をしてほしい	就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい	個別指導を充実してほしい	普通学級との交流の機会を増やしてほしい	施設、設備、教材を充実してほしい	学級で受け入れられてほしい	その他	特に望むことはない	無回答
0 TOTAL	63	50.8	42.9	36.5	28.6	20.6	12.7	11.1	9.5	4.8
1 幼稚園 保育園	4	75.0	0.0	25.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
2 小学校 中学校 高校 (普通学級)	3	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
3 小学校 中学校 (特別支援学級)	21	52.4	61.9	42.9	33.3	28.6	23.8	23.8	0.0	0.0
4 小学校 中学校 高校 (特別支援学校)	29	55.2	37.9	41.4	27.6	17.2	3.4	6.9	10.3	6.9
6 その他	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
7 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(4) 介助員制度の認知状況

問 17 市では、通常の学級にいる障害のある児童に関して、学校生活の安定や保護者による介助負担の軽減を図るため、介助員を配置する制度を実施していますが、そのような制度があることを知っていますか。(○は1つ)

問 18 介助員制度へのご意見などがあれば、自由にお書きください。

介助員の制度を「利用している・利用したことがある」人は 11.1%、「制度はあることは知っているが、利用したことはない」人は 57.1%で、約 7 割の人には認知されている。



介助員制度についての意見等としては、以下のような記入があった。

- ・ 中学校特別支援学級に介助員を配置して欲しい。(男性・13歳)
- ・ 介助員制度を普段の授業、校外の行事で利用した生徒をあまり見たことがない。人数が多くなって先生の手が足りるのか不安。(男性・14歳)
- ・ お願いしても実際来てもらえない。(男性・15歳)
- ・ なかなか個人個人の理解が難しいようで合っていない (男性・16歳)
- ・ 普通の子でも、手のかかる人が居て、介助の方が、いつも大変そうだった。(女性・16歳)
- ・ 介助員がどのような方かよくわかりませんが、障害児の指導(対応)に慣れている方にやっていただけると良いと思います。(女性・35歳)

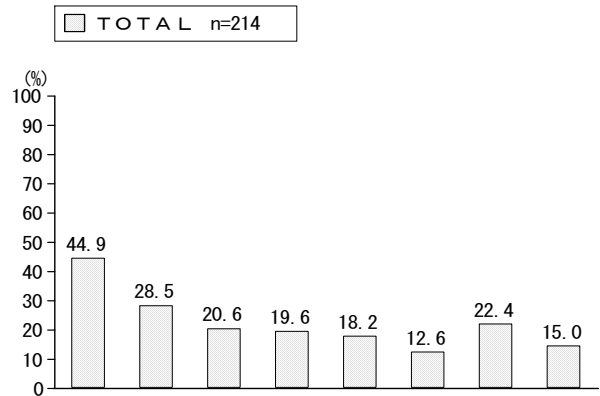
7 雇用・就労について

(1) 就労に関するサービスの認知状況

問 19 働くことに関する次のサービスを知っていますか。(○はいくつでも)

就労に関するサービスの中で、最も知られているのは「西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援」(44.9%)。

年齢別にみると、18～64歳では「西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援」を知っている人は56.0%、「就労移行支援事業所による就労支援」を知っている人は33.6%となっている。

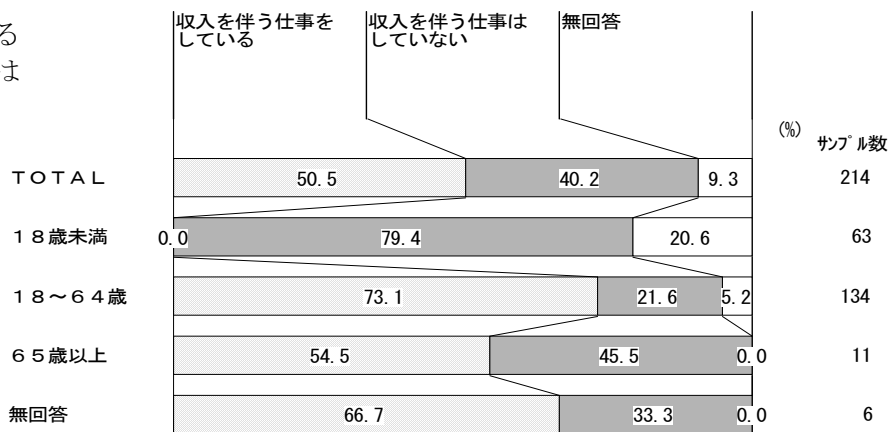


問3 年齢 (3区分)	n	1	6	4	2	3	5	7	8
		西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援	就労移行支援事業所による就労支援	田所による求人閲覧サービス出張	東京障害者職業センターによる就労支援	ジョブコーチ制度	ハト障害者求人閲覧サービス	上記の中に、知っているもの	無回答
0 TOTAL	214	44.9	28.5	20.6	19.6	18.2	12.6	22.4	15.0
1 18歳未満	63	20.6	17.5	11.1	22.2	15.9	7.9	33.3	20.6
2 18～64歳	134	56.0	33.6	26.9	18.7	20.9	14.9	17.2	13.4
3 65歳以上	11	36.4	18.2	9.1	27.3	0.0	9.1	36.4	9.1
4 無回答	6	66.7	50.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0

(2) 就労状況

問 20 現在、あなたはお金をもらう仕事をしていますか。(○は1つ)

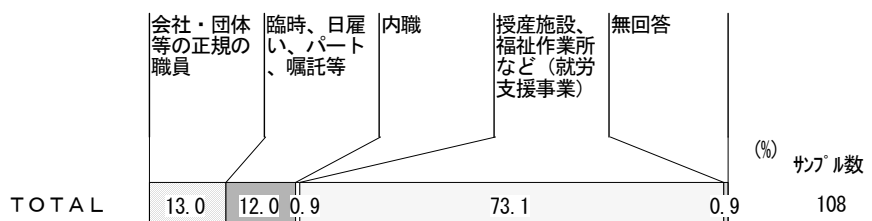
収入を伴う仕事をしている人の割合は、18～64歳では73.1%である。



(3) 就労形態

問 21 どのようなお仕事をしていますか。(○は1つ)

就労形態は、「授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)」が73.1%を占める。





(4) 給与・賃金額

問 22 あなたご自身の1ヶ月あたりの平均的なお給料はいくらですか。

全体でみると、1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金は、平均 40,420 円である。

就労形態別にみると、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」では、1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金は 13,749 円となっている。なお、「会社・団体等の正規の職員」は 14 人の平均が 121,923 円、「臨時、日雇い、パート、嘱託等」は 13 人の平均が 118,500 円となっている。

【全体】

TOTAL	~30,000 円	30,001~40,000 円	40,001~50,000 円	50,001~80,000 円	80,001~90,000 円	90,001~100,000 円
108	57.4%	4.6%	1.9%	1.9%	2.8%	5.6%
	100,001~110,000 円	110,001~120,000 円	120,001~160,000 円	200,000 円以上	無回答	平均
	3.7%	1.9%	2.8%	2.8%	14.8%	40,420 円

【会社・団体等の正規の職員】【臨時、日雇い、パート、嘱託等】

	50,001~80,000 円	80,001~90,000 円	90,001~100,000 円	100,001~110,000 円	110,001~120,000 円	120,001~160,000 円	200,000 円以上	無回答	平均	
会社・団体等の正規の職員	14	7.1%	21.4%	14.3%	21.4%	7.1%	7.1%	14.3%	7.1%	121,923 円
臨時、日雇い、パート、嘱託等	13	7.7%	-	30.8%	7.7%	7.7%	15.4%	7.7%	23.1%	118,500 円

【授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)】

	~1,000 円	1,001~3,000 円	3,001~5,000 円	5,001~7,000 円	7,001~10,000 円	10,001~15,000 円	15,001~30,000 円	30,001~100,000 円	無回答	平均	
授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	79	6.3%	7.6%	8.9%	7.6%	19.0%	13.9%	15.2%	8.9%	12.7%	13,749 円

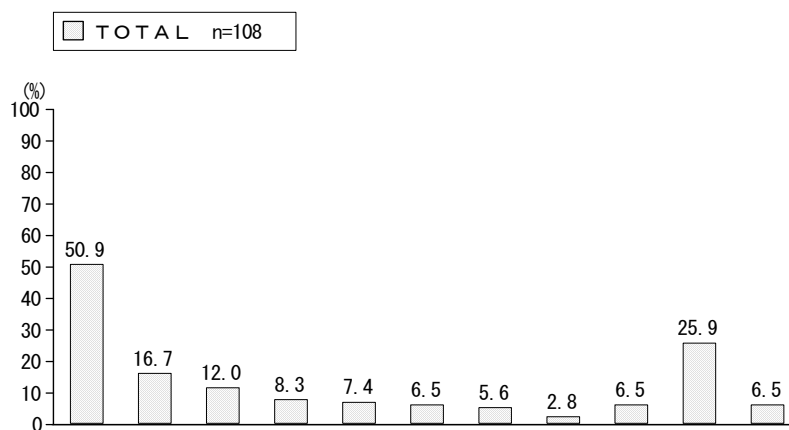
※ 「授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)」では、10 万円以下の回答のみ

(5) 仕事をする上で困っていること

問 23 仕事をする上で困っていることはなんですか。(○はいくつでも)

困っていることとしては、「給与・工賃などの収入が少ない」ことをあげる人が 50.9%と最も多い。

就労形態別にみると、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」の場合は、約 6 割が「給与・工賃などの収入が少ない」（59.5%）ことをあげている。



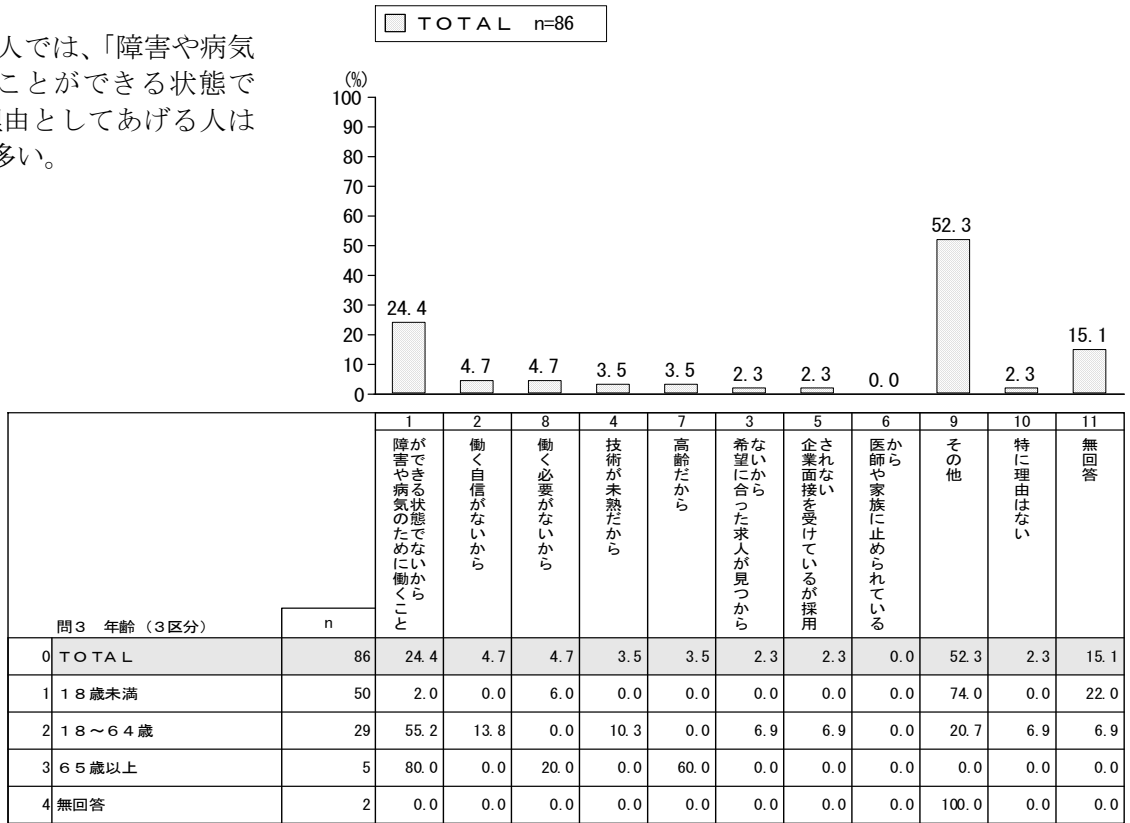
問 21 仕事形態	n	困っていること										
		1 給与・工賃などの収入が少ない	3 通勤が大変	5 職場の人間関係	8 職場外で相談相手がいない	2 勤務時間、日数が多く体力的に不安	7 障害に対する職場の理解不足	6 職場の設備が障害に対応していません	4 業務内容が合わない	9 その他	10 特に困っていることはない	11 無回答
0 TOTAL	108	50.9	16.7	12.0	8.3	7.4	6.5	5.6	2.8	6.5	25.9	6.5
2 会社・団体等の正規の職員	14	14.3	21.4	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0
3 臨時、日雇い、パート、嘱託等	13	30.8	0.0	30.8	7.7	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	53.8	0.0
4 内職	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	79	59.5	19.0	10.1	10.1	5.1	6.3	7.6	3.8	8.9	16.5	8.9
7 無回答	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【知的障害者】

(6) 働いていない理由

問 24 働いていない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

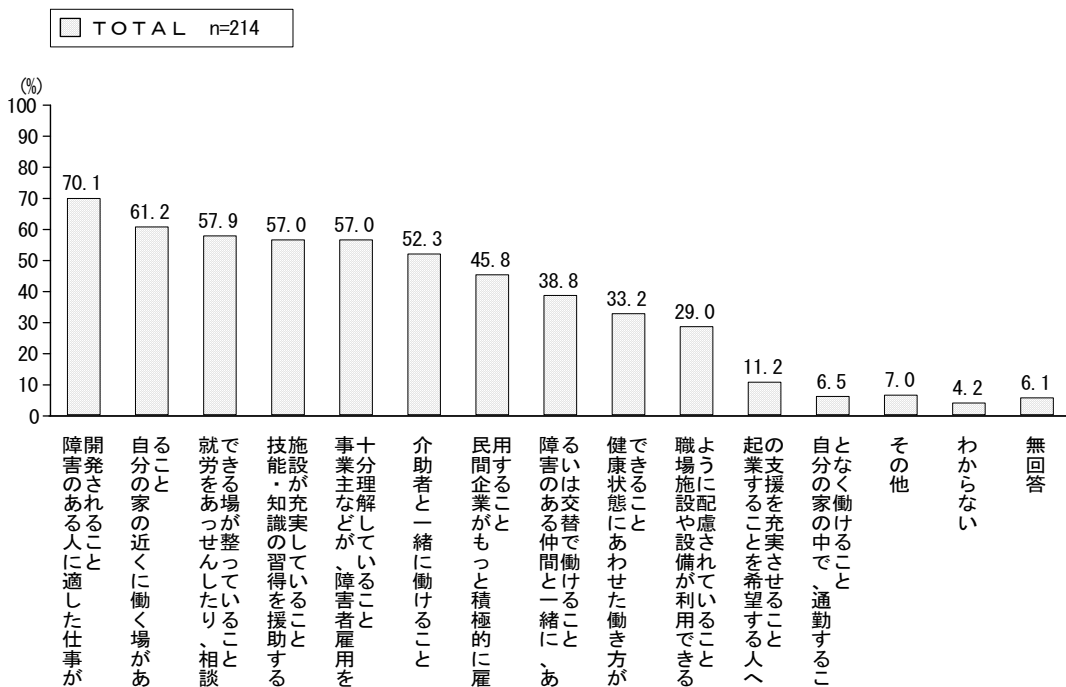
18～64歳の人では、「障害や病気のために働くことができる状態ではないから」を理由としてあげる人は55.2%と最も多い。



(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 25 障害のある人が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

障害のある人が働くために必要な環境等としては、「障害のある人に適した仕事が開発されること」をあげる人が70.1%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」(61.2%)、「就労をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」(57.9%)と続いている。

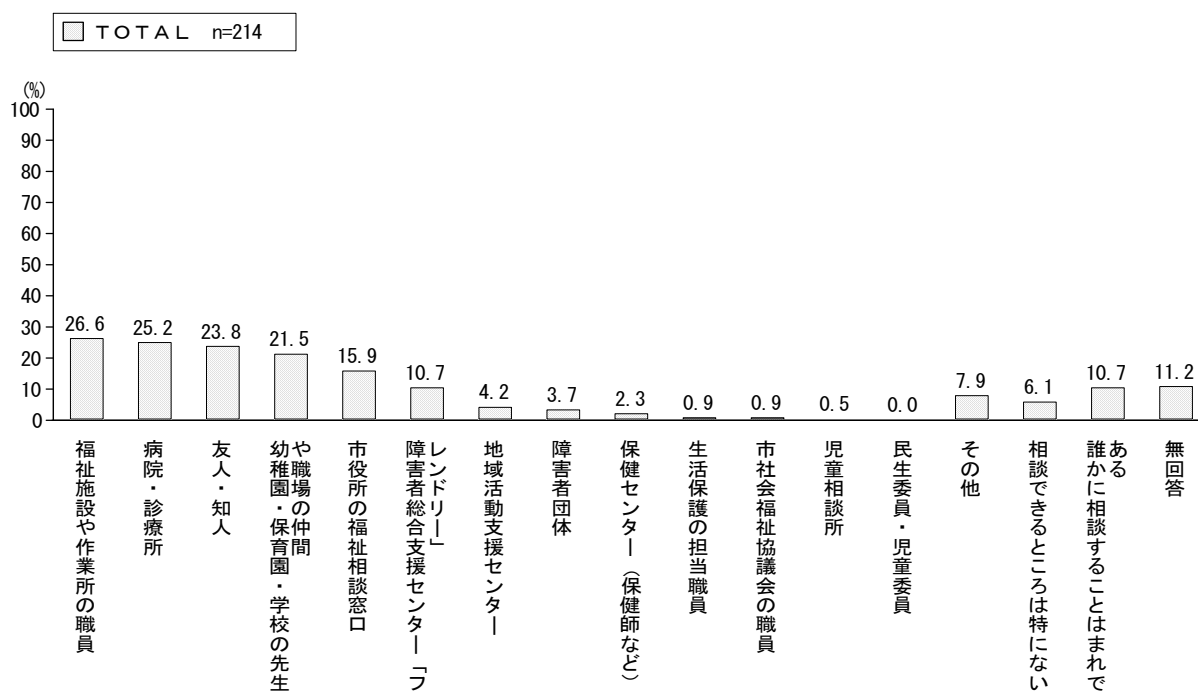


## 8 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとの相談先

問 26 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。(〇はいくつでも)

家族や親せき以外の相談先としては、「福祉施設や作業所の職員」をあげる人が 26.6%と最も多く、次いで「病院・診療所」(25.2%)、「友人・知人」(23.8%)、「幼稚園・保育園・学校の先生や職場の仲間」(21.5%)と続いている。



### (2) 希望する相談先や相談体制

問 27 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

希望する相談先や相談体制について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

#### ① 相談先

- ・ 市役所の福祉課に担当の方が決まっていると相談しやすい(女性・48歳)
- ・ 市の福祉相談窓口が一番必要かと思います。ただ相談の際、もう少し身近に感じられたらと思います。(女性・25歳)
- ・ 市役所の相談窓口、フレンドリー、作業所の職員。(男性・38歳)
- ・ 「友だち」と本人は言っていますが、困った時には、市役所の福祉課へ相談しに行くよう話しています。(男性・18歳)
- ・ 民生委員・児童委員や児童相談所に、病院との連携によるサポート。(女性・9歳)
- ・ 学校に通っているなので、学校側と、話し合いをして相談にのってもらえると良い。(男性・13歳)
- ・ 身近に接する可能性のある職員への教育に力を入れてほしい。その際には障害をもつ人の本当に望む対応を調べてから行ってほしい(思いこみでやらないで)(女性・2歳)
- ・ 本人の精神的な不安定なときなど、気軽に親が相談できる所があると安心します。(女性)

## 【知的障害者】

- ・ 小さな困りごとにも対応、応えてくれる場所・人であること（男性・11歳）
- ・ 障がい者のつたないながらも懸命な表現を汲み取って、真意を探ってくれる専門性の高い相談員が色々な窓口にいることが必要（女性・8歳）
- ・ 地域活動支援センター、就労支援センター一歩（女性・40歳）
- ・ 専門的知識を持って公平に相談にのってくれる公的機関の人、かつ継続して様子をみてくれる人。
- ・ 上手に話ができないので、じっくり話を聞きだしてくれる力のある人材を望む。（女性・58歳）
- ・ 就労先に1人、相談に乗って下さる方がいるとよいと思います。ほとんど職場では、まだ障害者に対して理解のある所が少なく、本人はストレスを感じて、辞める形になりました。（女性・30歳）
- ・ ケアマネジャー（男性・69歳）

## ② 相談体制

- ・ 知的障害者は、自分が困っているかどうかさえ、表現できません。常にサポートできる人が観察し、解決に向けた糸口を探してあげなくてははいけません。窓口があればOKではない。（男性・7歳）
- ・ 働くこと（就労支援）、暮らしていくこと（生活支援）、生きること（医療サポート）が整っていて、連携がとれるようなネットワークになっていること。（女性・18歳）
- ・ 話を真剣にきいてくれいろいろいっしょに行ってくれること。（女性・48歳）
- ・ 通所施設や市の窓口で相談しやすい体制（男性・45歳）
- ・ 市の保育関係者。土、日も含めた対応ができる。（共働きの方のため）（男性・3歳）
- ・ 支援センターの方々や学校や施設の方々などが共に色々な情報を公開し交流し合い、もっと深い情報を持ち合えることが、障害者本人や、家族が1つ1つ情報を得なければならない負担を軽減することになると思います。（女性・10歳）
- ・ （本人が希望すれば）連携を取ってもらえることを希望します。同じ市の施設や市役所内でのたらい回しにならないように。（女性・10歳）
- ・ 作業所に通所しているので作業所内で専門的なことも含めて、きめ細かく相談できる体制が整うとよいと思う。（男性・36歳）
- ・ 生まれて間もないころは、保健師さんに話を聞いてもらったこともあったが、行く度に、産休や引越し等担当者が変わってしまうので、相談者としてたよりにならなかった。（男性・2歳）
- ・ プライバシーは、絶対に守ってもらえること、相談は福祉課にしたいです。（男性・39歳）
- ・ 地域の相談窓口。相談の焦点（問題）を一緒に解決へ誘導してくれる担当者。（女性・22歳）
- ・ 家族以外にも、その人の生活、様子、悩みが理解してくれる人が身近にいるか。身近にいて、その人を守ってくれる体制が必要です（男性・78歳）
- ・ 相談員が対応してくれるコールセンター（男性・16歳）
- ・ 障害が軽度なため、通院もしていないため、なかなか気軽に相談できる場所が少なく、（現在は「一歩」のみ）もっと気軽に話をできる場所がほしい（男性・19歳）
- ・ 市役所などに相談できればいいが、家族の苦境を理解しようとする気が乏しく、法令や制度をたてに「ここまでしかできません」という対応を何度も受けた。（男性・8歳）

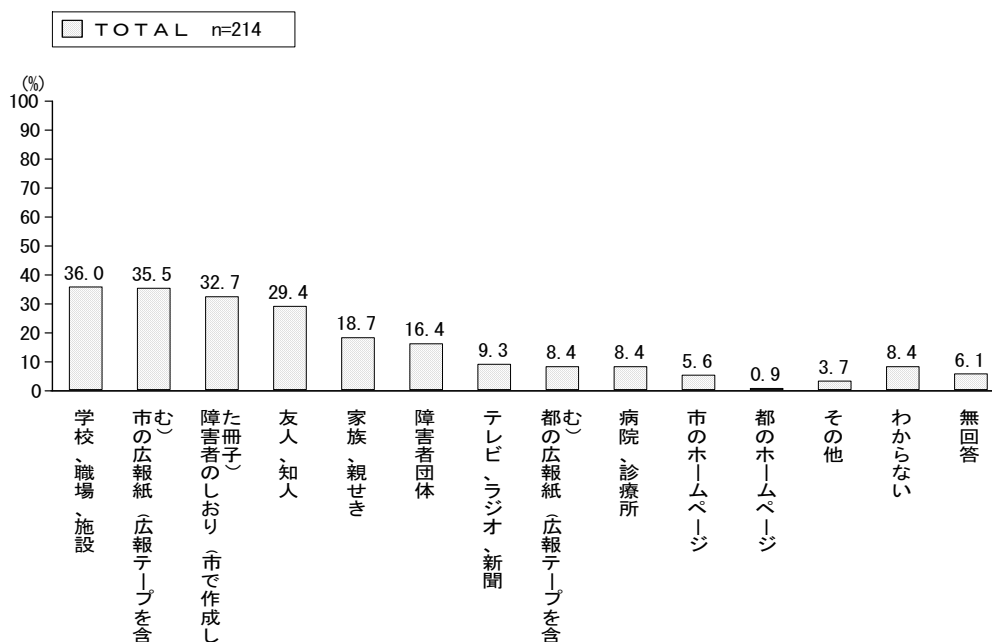
## ③ その他

- ・ 国の制度が整わない限り、障害者への理解はない。少数として切り捨てられるようなことばかり見せかけの体制はいらない（男性・21歳）
- ・ どこに相談したらいいかわからない。児童相談所に行ったら「うちの管轄でない」と言われ、フレンドリーに行けば一覧表をくれただけ。相談したところで助けてくれる訳でなく、最終的には親がやらなければならない。今の状況では相談する意味がない。誰もどこも助けてはくれない。（男性・8歳）

(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 28 障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

障害福祉サービスなどの情報の入手先としては、「学校、職場、施設」をあげる人が 36.0%、「市の広報紙」35.5%、「障害者のしおり（市で作成した冊子）」32.7%、「友人、知人」29.4%となっている。

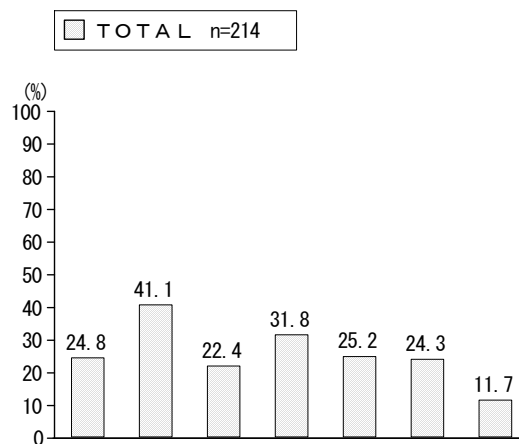


(4) フレンドリー内施設の認知状況

問 29 西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

フレンドリー内施設の認知度は、「相談支援センター・えぼっく」24.8%、「就労支援センター・一歩」41.1%、「地域活動支援センター・ハーモニー」22.4%、「生活介護事業所・くろーばー」31.8%となっている。

年齢別にみると、18～64歳では「就労支援センター・一歩」の認知度が52.2%と特に高い。



問3 年齢（3区分）	n	1	2	3	4	5	6	7
		相談支援センター・えぼっく	就労支援センター・一歩	地域活動支援センター・ハーモニー	生活介護事業所・くろーばー	1～4の施設はいずれも知らない	障害者総合支援センター「フレンドリー」を知らない	無回答
0 TOTAL	214	24.8	41.1	22.4	31.8	25.2	24.3	11.7
1 18歳未満	63	22.2	19.0	17.5	28.6	39.7	25.4	6.3
2 18～64歳	134	25.4	52.2	24.6	35.1	17.2	21.6	14.9
3 65歳以上	11	18.2	9.1	18.2	9.1	54.5	54.5	9.1
4 無回答	6	50.0	83.3	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0

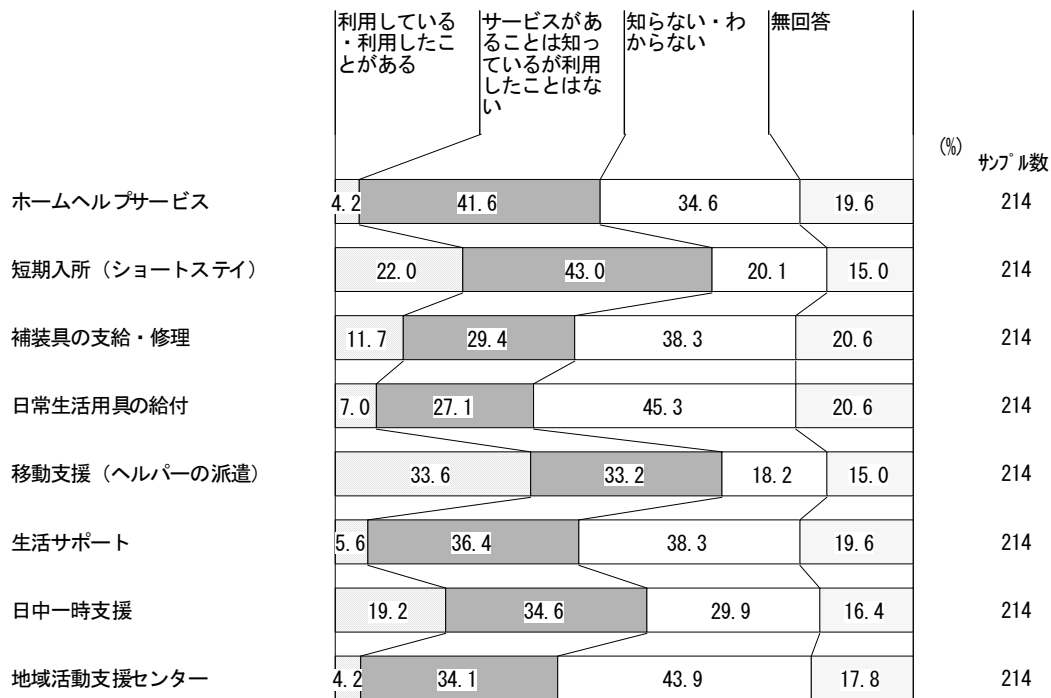
**9 福祉サービスについて**

(1) 福祉サービスの認知状況・利用経験

問 30 あなたは、次のような障害者サービスがあることを知っていますか。また、利用したことがありますか。(①～⑧のサービスごとに1つずつお答えください。)

問 31 「利用している・利用したことがある」サービスについて、利用した際の感想などをお聞かせください。(上記の①～⑧の番号と、利用の感想などをお書きください。)

以下の8つのサービスのうち、利用経験率(利用している・利用したことがある)が最も高いサービスは、「移動支援(ヘルパーの派遣)」(33.6%)、次いで「短期入所(ショートステイ)」(22.0%)、「日中一時支援」(19.2%)。



サービスを利用した際の感想を自由回答形式で求めたところ、以下のような記入があった。

① ホームヘルプサービス

- ・ ヘルパーの方とおしゃべりを楽しみながら、仲間と一緒に外出できて嬉しい。(男性・24歳)
- ・ かなり以前なので忘れましたが、とても助かった記憶があります。(女性・27歳)
- ・ 皆さん良くやってくれています。(女性・48歳)
- ・ 安心できる。(男性・69歳)
- ・ 自分が地域で生活し、活動していくのに大変助かっている。ヘルパーさんに恵まれ充実した生活ができているが、支給時間が個々に応じて支給されるともっと活動できる。(男性・26歳)
- ・ 非常に助かっている。家族で全て介護するのは本当に大変なので。(男性・9歳)

② 短期入所(ショートステイ)

- ・ 短期入所後、入所中の様子を詳しくご連絡いただき、不安に感じることもなく、大いに楽しませて頂いています。(男性・17歳)
- ・ 一日だけ利用しました。皆で食事を作ったりして楽しかったようです。(男性・20歳)
- ・ 親から離れる練習をしているので、助かります。(女性・33歳)

- ・ 施設職員の不足があるのか。施設によって本人が帰宅時の様子が全く違う。親としては本人が慣れている施設にお願いしてしまう。(いろいろな施設を利用させたいのですが)。(男性・39歳)
- ・ 短期入所する際、家まで迎えに来てくれて、帰りに送り届けて下さるのでとても助かっています。本人もショートステイの時はとても喜んでます。(男性・42歳)
- ・ 上手く利用できていない。時間が短く、移動支援とセットにして使いたい。(男性・18歳)
- ・ ショートステイは何回か利用させていただきました。大変助かりました。ただ、なかなか混んでいて、取れない時もあります。もっと人数枠を広げていただくと、助かると思う。(女性・25歳)
- ・ 市内にショートステイができる病院が無いため、小平で利用しているが不便。(女性・9歳)
- ・ 利用できる日数はわりと支給されていますが、受け入れ側が満員なために、なかなか利用できない状態にあります。(男性・11歳)
- ・ 重い人と一緒だったので、うるさかった。(女性・48歳)
- ・ 将来のこと(グループホームに入る等)を考えて利用したが、へんなこだわりが現れてびっくりした。しかし本人にとっては、良い経験になったと思う。(男性・21歳)
- ・ 予約がなかなかとれない。利用したい日に利用できない。(男性・12歳)
- ・ 保護者の宿泊を伴う外出時に利用、安心して用を済ますことができた。(男性・38歳)
- ・ 良いショートステイ先が少ない。良い所は早々に予約が埋まっていて利用したい時に利用できない。絶対的に質・量ともに不足している。(男性・8歳)
- ・ 緊急時に対応していただき、良かった。(男性・45歳)
- ・ ショートステイ枠が少なく、いざという時に中々入れず、遠方をお願いした。(女性・71歳)
- ・ 母親の病気の時に利用。延長する時の手続きに困りました。(女性・27歳)
- ・ 思うように設定できない。近くにできる場所があるとよい。(男性・26歳)
- ・ 介護者が助かっていますがお断りされることも多い。日数が多い月はその都度、申請を行わなければならないので面倒です。(男性・9歳)

### ③ 補装具の支給・修理

- ・ 難聴になってしまったので、補聴器を5年に一回新しい物にして頂いています。前は電池もタダだったので助かりましたが、今は自払いです。(男性・41歳)
- ・ 最初の手続きは大変でしたが、サービスを受けられてとても助かっています。これからもお世話になりたいので、サービス廃止などにならないよう祈っています。(女性・16歳)
- ・ 必要な物なので、本当に助かります。(男性・19歳)
- ・ 靴底がすぐすり減ってしまうので、修理していただけるのがありがたいです。(女性・33歳)
- ・ 費用が助かっている。(女性・22歳)
- ・ 以前は判定が出るのに1ヶ月近くかかっていたが最近は早くなり良かった。ただ車いすなど1台しか支給がない物は、修理範囲をもっと広げてほしい。(女性・30歳)
- ・ 支給してもらえると回数が増えると良い。(男性・45歳)
- ・ 給付の決定を早くしてくれると助かります。生活に必要なものなので。(男性・9歳)

### ④ 日常生活用具の給付

- ・ 給付に対しては大変助かっている。有難いと思っています。申請から、給付まで大変時間がかかったことが少し残念でした。(女性・10歳)
- ・ おむつの支給券を頂いていますが、無料で配送してくれる業者の斡旋をして欲しい。(女性・35歳)

## 【知的障害者】

- ・ 費用が助かっている。(女性・22歳)
- ・ 家庭内での見守りに使用していますが、他に使い方があるのかよくわかりません。(男性・11歳)
- ・ リフトは、室内の移動にかかせない。助かっている。(男性・26歳)

### ⑤ 移動支援（ヘルパーの派遣）

- ・ 休日など余暇活動に、支援してくれる場に使い始めたところです。(女性・18歳)
- ・ ありがたい制度ですが時間数が少なく、利用しづらい。(女性・7歳)
- ・ いつも楽しく外出している。(女性・23歳)
- ・ ヘルパーさんと行く、色々な場所が楽しいようです。楽しみにしています。(男性・36歳)
- ・ 親が仕事をしていると、時間数が足りません。もっと増やして欲しい。(男性・11歳)
- ・ 一度外出先でケガをしたがヘルパーが気づかず、本人が後で痛いと言って発覚したことがある。(男性・12歳)
- ・ 余暇が充実してとても楽しかったが、1ヶ月の時間数がとても少ないので、なかなか出掛けられず残念である。(男性・18歳)
- ・ ありがたいが、支援者のレベルの違いを感じる。いつも利用できず、予約が必要なため、使いづらいと感じます。単なる登下校オンリーに使えない等の点もあります。(男性・18歳)
- ・ 男性のヘルパーの不足。(男性・16歳)
- ・ 利用者は男性なのに女性の介助が付く。(トイレは自分でできるが) (男性・19歳)
- ・ こちらの要望にすぐに対応して下さり、子どもとも話を合わせてくれる方を派遣してくれたので、安心して預けられました。又、子どももとても楽しく帰宅しました。(男性・13歳)
- ・ 親が仕事をしている為、習い事のお迎えをたのみました。体力的にもきつかったので、安心してまかせられる事ができ精神的にも助かりました。何度か利用した事があります。(女性・12歳)
- ・ 定期的に利用しています。とても助かっていますが、予約が取りにくいのが難点。(男性・8歳)
- ・ 親以外の人との関わりをもたせることができる。親の負担軽減。(男性・15歳)
- ・ サービス自体は助かっているが、とにかく時間が少なすぎる。(男性・8歳)
- ・ サービスの付与時間を必要に応じて増やしてほしい。(女性・17歳)
- ・ こちらの希望を受け入れて下さり、また先方からも楽しめるアイデアをいただき、とても楽しく利用させて頂いています。(男性・17歳)
- ・ こげら・ウーノで利用。色々なタイプのスケジュールで楽しく参加している。(女性・18歳)
- ・ ヘルパーさんによって安心できる方、そうでない方がいてすごく不安です。命を預かるという自覚を持っている方が少ないように思います。(男性・39歳)
- ・ 短時間でも通所・通学なども月単位で対応するなどして欲しい。(男性・18歳)
- ・ 土日祝の余暇に使用したいが、ヘルパーさんが足りず、断られるケースが多い。(男性・11歳)
- ・ 余暇活動に必要なものです。(男性・27歳)
- ・ 親の仕事の時に利用したが、とても助かった。(男性・21歳)
- ・ 頻繁ではないが、時折ヘルパーさんと一緒に行動してもらって助かっている。(女性・26歳)
- ・ 料金が予想以上にかかる。(交通費や諸経費など) (男性・12歳)
- ・ 「移動のみ」で使えず困っている人たちがいる。(女性・8歳)
- ・ 三人の障害児を抱えているにも関わらず、40時間/月のサービスしか受けられない。事実上学校の送り迎えはまかなうことができず、配偶者は働けない状態が長年にわたり続いている。(男性・8歳)



- ・ 自分が地域で生活し活動していくのに大変助かっている。ヘルパーさんに恵まれ充実した生活ができていますが、支給時間に個々に応じて支給されるともっと活動できる。(男性・26歳)

⑥ 生活サポート

- ・ こちらの事を良くわかって下さり、とても良くして頂いています。相談に乗っていただくこともあり、ありがたい存在です。(男性・13歳)
- ・ お料理を作ったり、家で過ごす時も助けてもらえてとてもありがたいが、これもとても時間数が少なく、利用回数も限られてしまう。(男性・18歳)
- ・ 自分が地域で生活し活動していくのに大変助かっている。ヘルパーさんに恵まれ充実した生活ができていますが、支給時間に個々に応じて支給されるともっと活動できる。(男性・26歳)

⑦ 日中一時支援

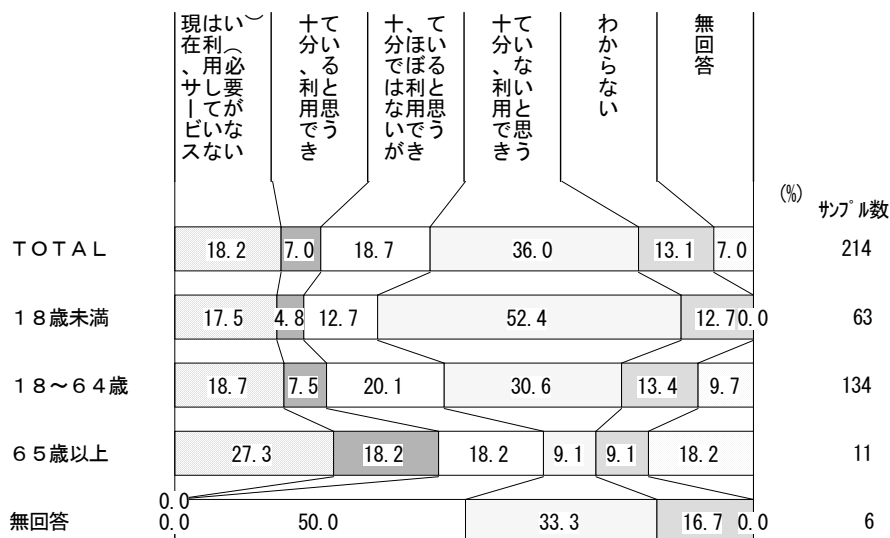
- ・ サービス費用自体は負担なく安い、「施設利用費」が高額。4時間程預けて4,000円くらいかかり、以来頼んでいません。(男性・11歳)
- ・ 値段が高くなるので、今は全く利用していない。(男性・16歳)
- ・ 楽しい。(女性・22歳)
- ・ 小学生時にお願いした事がありましたが、いずれも子どもがとても楽しそうに過ごせ、また新しいお友だちができたりと充実していました。(男性・13歳)
- ・ 月曜日にどうしても仕事に行かないとダメな時をお願いしました。まだ留守番をさせるのに自信がない時で大変に助かりました。(女性・12歳)
- ・ 助かっている。(男性・8歳)
- ・ 場所代がかかるので、気軽には利用できない。(女性・8歳)
- ・ 数年前に1度利用したことがあるが、ショートステイと同じで利用が難しい。固定した利用者が決まっている様で、新規の者はかなりきびしいと感じる。(女性・30歳)
- ・ 中途半端なシステム。(女性・27歳)
- ・ 日中に対応していただき、家族も安心できた。(男性・45歳)
- ・ 日中一時支援が市内にできることを望みます。遠くてなかなか利用できない。(男性・9歳)

(2) 必要なサービスの満足度

問 32 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

36.0%の人が、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答している。

年齢別にみると、特に18歳未満で、「十分、利用できていないと思う」人の割合が高い(52.4%)。



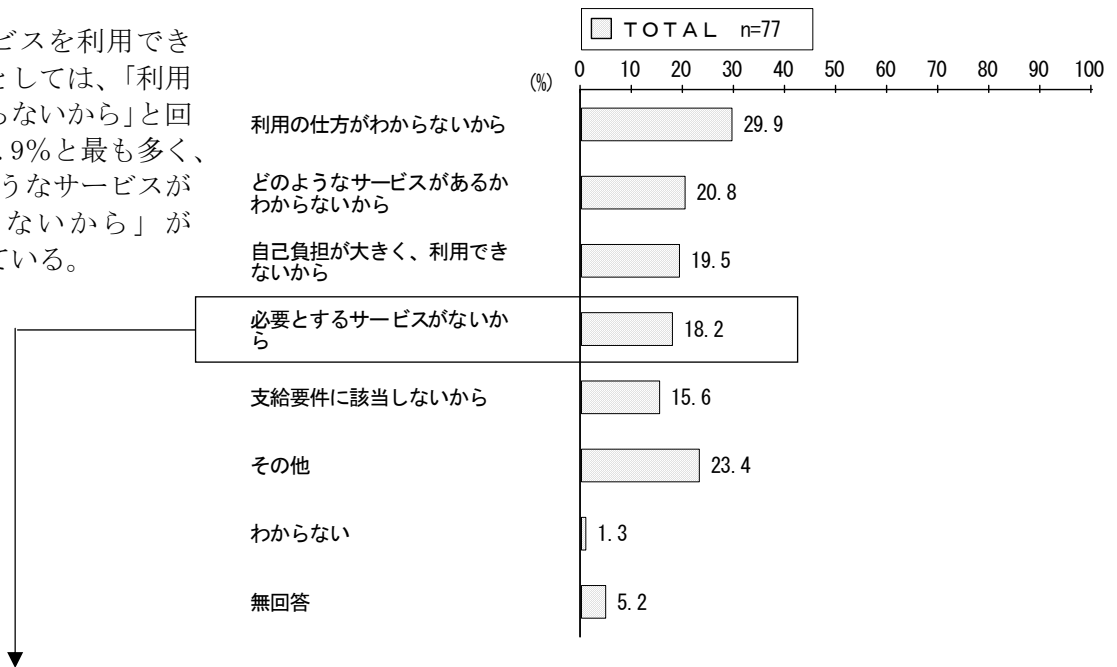
【知的障害者】

(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 33 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

問 34 必要とするサービスとはどのようなものですか。

必要なサービスを利用できていない理由としては、「利用の仕方がわからないから」と回答した人が 29.9%と最も多く、次いで「どのようなサービスがあるかわからないから」が 20.8%で続いている。



「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 移動支援は、車の送迎も含んだり、登下校も含めるものとすべき。(男性・3歳)
- ・ 障がいのある子どもを朝、駅で所定の電車に乗せ、学校まで見送る。放課後は学校から学童まで送る。短時間の移動見守りサービス。(男性・9歳)
- ・ 本人を介助している人へのケア (女性・16歳)
- ・ 習い事などの送り迎えなどにもヘルパーさん利用できるとよいと思います。(男性・8歳)
- ・ 作業所の送迎、体調気分の乱れ不安がある時、親がいないと一人では通えず。(女性・58歳)
- ・ 学校に放課後児童サービス事業者が迎えに来てくれるのが必要です。(男性・7歳)
- ・ ショートステイに関して、遠くの施設ではなく地域のグループホームやケアホームの中にあればよい。ショートステイしながら昼間はいつもの作業所などに通えるように。(男性・36歳)
- ・ 日中にあずけられる所がほしい。(男性・18歳)
- ・ スポーツや、趣味を楽しむ活動。あるかと思うが実際はすでに定員オーバーしており、新しい人を受け入れてくれない。(男性・18歳)
- ・ 障害者に合った、習い事(書道、卓球他)が少なく、気楽に行ける所がない(女性・30歳)
- ・ 放課後等デイサービスが近所がないので支給分利用できない(女性・8歳)
- ・ 障害者をしっかり介助できる介助員がいながら、集団で学べる環境のある場でのサービス。(女性・10歳)
- ・ 現在移動支援は、1対1のみの対応となっていますが、1対多のサービスがほしいです。息子の場合、友人数人と遊びたい(行動したい)と思っているのですが、金銭面の管理が全くできないので、たった一人で良いのですが、大人のヘルプが必要なのです。(男性・20歳)

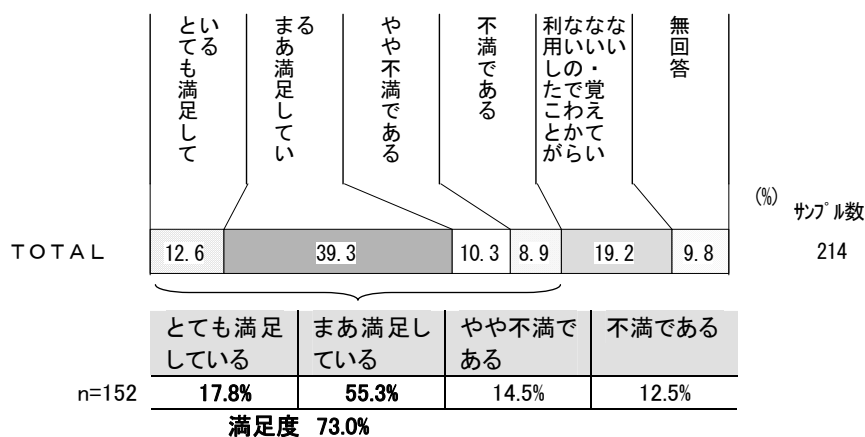
## (4) 障害福祉課窓口の満足度

問 35 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きします。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 36 問 35 のようにこたえたのは、どのような理由からですか。

障害福祉課の窓口利用の満足度は、「とても満足している」が 12.6%、「まあ満足している」が 39.3%である。

「利用したことないのわからない・覚えていない」及び「無回答」を除いて、満足している人の割合を計算すると、窓口利用者のうち 73.0%が満足していることがわかる。



満足あるいは不満と回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

## ① とても満足している・まあ満足している

- ・すでに利用している制度、その他の手続きなどはスムーズ。(男性・36歳)
- ・子どもの状況だけでなく、親がかかえる問題点なども良く聞いてくれて、前向きに検討していただいている。(男性・11歳)
- ・役所の方々は大変親切に相談に対応して下さいます。(男性・40歳)
- ・女性の職員さんの言葉遣いがとても丁寧に教えてくれたからです。(女性・43歳)
- ・親身になって考えてくれることが多い。(女性・27歳)
- ・詳細に教えてくれるので(不明点があっても)(女性・22歳)
- ・行くとすぐに対応してくれ、親切である。(男性・12歳)
- ・緊急時に対応していただき、とても安心できた。(男性・45歳)
- ・窓口にて対応してくれる人は皆さん親切で丁寧に話をしてくれます(女性・78歳)
- ・持参すべき書類を忘れたときも、相談、対応してもらえるため。(女性・46歳)
- ・子どもの様子を細かく尋ねてくれて、理解し把握しようという気持ちが伝わってきて、有り難かった。(男性・14歳)
- ・親切に相談に乗ってくれる。(男性・24歳)
- ・親切に調べて教えてくれた。(男性・69歳)
- ・大体の方は親切に対応して下さいますが、時々否定的な、まるで自分が助成しているかのような態度の方がいます。(男性・19歳)
- ・窓口が開放的でなく気軽に立ち寄れない感じがする。自分の家庭のことを知っている職員が不在の場合にいちいち説明をするのがめんどろ。(男性・11歳)
- ・職員さんの対応は優しく丁寧です。ただ交代したばかりで知識量が少なかったり、もっと勉強して欲しいです。(男性・7歳)
- ・混んでいるわけではないのに、待つ時がある(時々)(女性・18歳)
- ・事務的な手続き(時間を要さない)と相談(時間を要する)の窓口を分けて欲しい。(男性・17歳)

## 【知的障害者】

### ② やや不満である・不満である

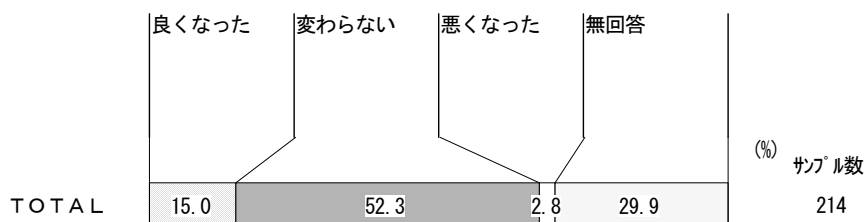
- ・ 人によって対応、説明のしかたが悪い。こちらにわかるように言ってくればいいのに、市役所の方しかわからないような言葉、用語というか、こちらが「それはどういう意味ですか？何ですか？」と聞き返すことが多い。(男性・7歳)
- ・ 専門用語での応対。(男性・37歳)
- ・ 応対は丁寧にしていたが、こちらから質問しないと、受けられるサービスを教えてもらえない。(男性・8歳)
- ・ こちらから質問しないと受けられるサービスを案内してもらえない。親の質問に対して答えがはっきりせず、時間が長々とかかり、いつも待ち時間が長い。(女性・3歳)
- ・ もっと情報をもらいたい。(男性・22歳)
- ・ 書類提出くらいのはきは、充分対応ができていますと思いますが、少し込み入った相談の時には、もっと落ちついた静かな場所で対応していただける環境がほしいです。(女性・25歳)
- ・ プライベートなこと、個人情報などが、他の人に聞こえる。(女性・10歳)
- ・ 相談に行っても満足する解答が得られない。事務的。(女性・30歳)
- ・ 保谷庁舎まで行くのに時間がかかり、交通機関も使用しづらい。(田無庁舎ですべてできるといいと思う。)(男性・42歳)
- ・ 保谷庁舎でのみ受付という手続きやサービス、相談が多いので、不便です。(女性・16歳)
- ・ 田無庁舎で質問しても、「わかりません」と言われることが多く、「保谷庁舎の方が詳しいので」とのことで、結局、保谷庁舎へ行かなくてはならないことが多々あった。両方の庁舎に課を設置しているのに、不便さを感じます。(女性・7歳)
- ・ 福祉を受けたくて窓口へ行っているのに事務的なことばかり、事業所とのパイプラインになって利用しやすくしてほしい。(女性・9歳)
- ・ なげやり、やる気なし、自分の仕事のことだけしか言わない。他の課のことを何も知らない、早く帰れと言わんばかり、障害者をバカにした態度、何もかも面倒そう。(男性・4歳)
- ・ 「他の課(保育課社福協など)の管轄ですからわかりません」と全く知ろうとしていない。利用者の求める情報は多くの課にまたがっている。不勉強。興味なさそう。(女性・2歳)
- ・ 親身になって対応していない(高飛者)。西東京市はこれでやっていっていますの一辺倒、改善の予知がない(男性・8歳)
- ・ 本人・家族は必要だと思っても、該当しないとされてしまう。必要な時以外は行きたくないと思わせるところです。(女性)
- ・ トータルで相談できる人がいない。「私は〇〇の担当なのでそれ以外はわかりませんご自分で調べて下さい」といわれたのにはあきれた。
- ・ 子どもがダウン症として生まれ、相談に行ったが発達センターが利用できる(ある)ことも教えてもらえず、その後も知るチャンスがなかったために、訓練を受けることができなかった。(男性・2歳)
- ・ 人によって言っていることが違い困る。横柄な態度の人もある。(男性・16歳)
- ・ 移動支援のサービス提供時間を増やしていただくようくり返しお願いしていたが、要綱の変更がない限り無理とはねつけられている。一度でもよいので、三人の障害児をかかえて1ヶ月間毎日送り迎えを1人でやってみていただきたい。(男性・8歳)

## (5) 5年前との比較

問 37 約5年前(平成 20 年)とくらべて、障害者のサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)

問 38 問 37 のようにこたえたのは、どのような理由からですか。

5年前に比べて、障害者のサービスが「良くなった」と感じている人は 15.0%、「悪くなった」と感じている人は 2.8%である。



5年前に比べて障害者のサービスが良くなった、あるいは変わらない・悪くなったと回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

## ① 良くなった

- ・ 5年前は就学前だったので、受けられるサービスが少なかった。(男性・11歳)
- ・ 良くなったと思いたいが、コロコロと制度が変わるのでついていけない。(男性・18歳)
- ・ 意外と自然に利用できるようになってきたところ。(女性・27歳)
- ・ 以前は担当が違ってたらい回しにされることもあり、ガッカリした覚えがあります。(男性・13歳)
- ・ 学校の特別支援級の対応がよくなった。(男性・8歳)
- ・ 通所施設に関しては、運営を民間に委託して、大変良くなった。利用者の声が届く様になった。(女性・30歳)
- ・ 利用できるサービス、対応などは良くなっていると思う。(男性・45歳)
- ・ サービスの選択肢が若干増えたと思います。(男性・8歳)
- ・ 支援してくれる人が親切だから。(男性・69歳)

## ② 変わらない

- ・ いろいろあっても本人が利用できないので (男性・19歳)
- ・ 支援センター等に深くかかわっているといろいろなサービスがあることがわかるが、少しでもかかわらなくなるとまったく情報が得られない。障害者かわからないグレーゾーンの子どもたちはあまりサービスを受けていない印象がある。(男性・11歳)
- ・ 実感として感じるものが現在のところありません。(男性・17歳)
- ・ 自分の生活状況が変わらないので。(男性・15歳)
- ・ いつも同じ事業所を利用して変化を感じないので。(男性・21歳)
- ・ 少しずつ変化していて…ズーと以前よりは良くなったと思いますが、5年前だと…特に変わってないと感じます。(男性・24歳)
- ・ もっと障害者に対して、手続きしやすく、わかりやすいといいと思う。(男性・42歳)
- ・ 特に良くなったと思える部分がないと思うので。(女性・25歳)
- ・ 高齢者向けのサービスばかりで、子ども用のサービスが少なすぎる。選択肢がほとんどない。(女性・9歳)
- ・ 充分でないことが多い。(男性・18歳)
- ・ 6年前転入したので良くわかりませんが、変わらないと感じております。(男性・18歳)
- ・ 障害者のグループホームやレクリエーション施設があまり増えない。(女性・30歳)

【知的障害者】

- ・ 障害者が安心して生活できるようにはなっていないと思うからです。(男性・36歳)

③ 悪くなった

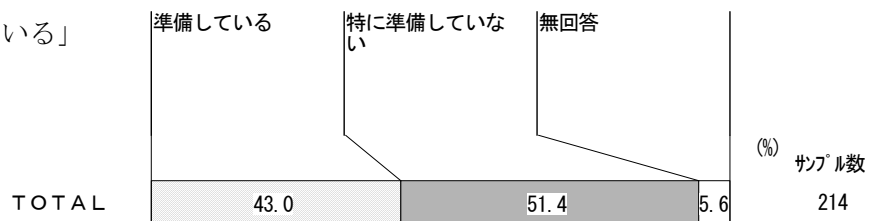
- ・ 障害児が増えているのに、特別支援学級の小・中・高が増えない。(男性・8歳)
- ・ 障害者自立支援法のもと、サービスに対する自己負担額が増したときいています。それって福祉とは言えないです。(男性・7歳)
- ・ しょうがいのおもいひとばかりが、しえんのたいしょうばかりで、かるいひとでも、大変なひとはいっているのにわかってもらえない。(女性・48歳)
- ・ 選挙に出馬する時は必ず福祉について頑張りますとっているのに、当選後は全くといっていいほど福祉の改善するわけではなく、逆に財政難になると福祉手当から減らして行く。ひどいと思う。財政難というのであれば議員の人達の給料を減らしてからにしてほしい。(男性・23歳)

10 災害対策について

(1) 災害への備え

問 39 地震や台風にそなえてなにか準備をしていますか。(○は1つ)

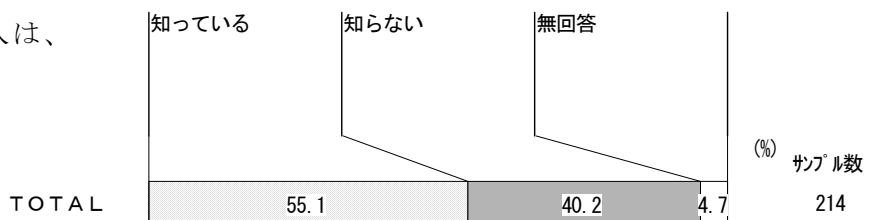
災害に備えて何か「準備している」人は、43.0%である。



(2) 避難所の認知状況

問 40 地震や台風のとときにどこにいけばよいか知っていますか。(○は1つ)

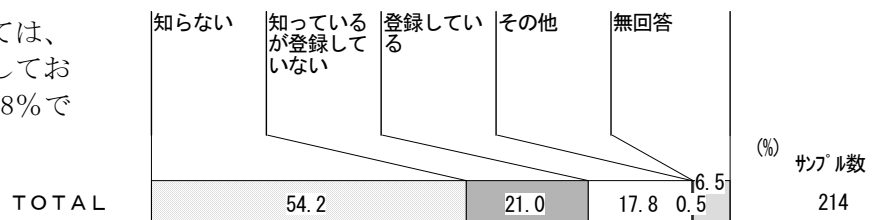
避難所を「知っている」人は、55.1%である。



(3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 41 災害時要援護者登録を知っていますか。(○は1つ)

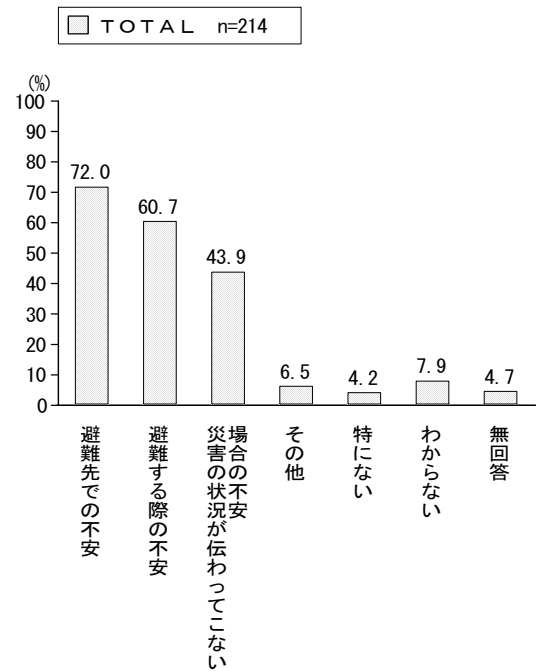
災害時要援護者登録については、54.2%が「知らない」と回答しており、「登録している」人は 17.8%である。



## (4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 42 地震や台風などの災害が起こったときの不安はなんですか。(〇はいくつでも)

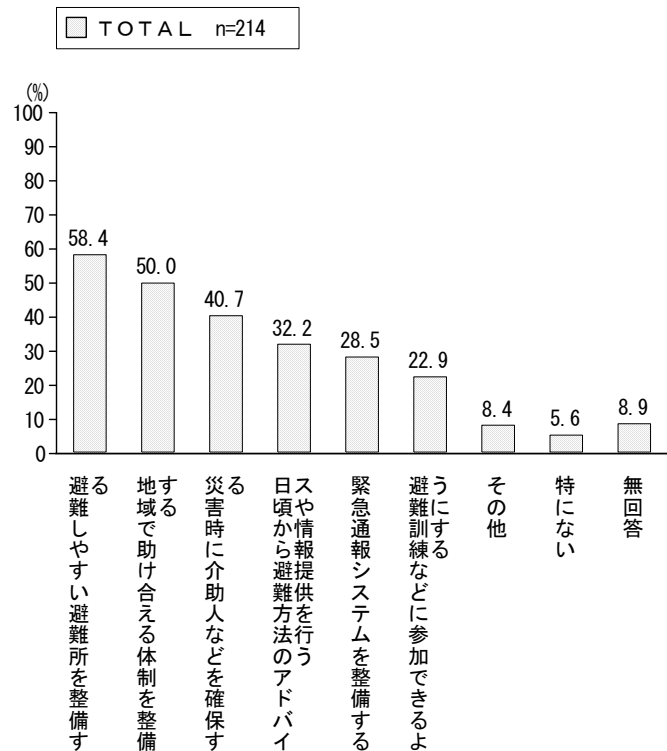
地震や台風などの災害が起こった際の不安としては、「避難先での不安」をあげる人が 72.0%と最も多く、次いで「避難する際の不安」が 60.7%で続いている。



## (5) 必要な災害対策

問 43 災害にそなえて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

必要な災害対策としては、「避難しやすい避難所を整備する」ことをあげる人が 58.4%と最も多く、次いで「地域で助け合える体制を整備する」(50.0%)、「災害時に介助人などを確保する」(40.7%)と続いている。



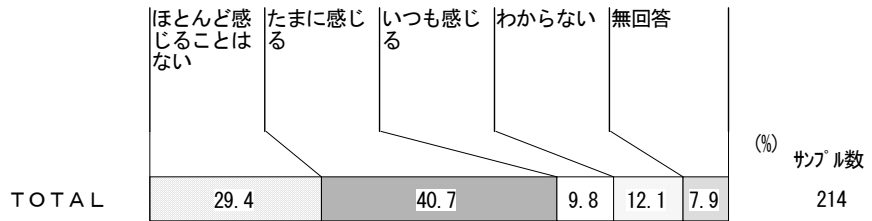
## 11 差別や人権侵害について

### (1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 44 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 45 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害、虐待については、40.7%の人が「たまに感じる」、9.8%が「いつも感じる」と回答しており、あわせると約半数の人は、何らかの差別や人権侵害等を感じている状況がうかがえる。



#### 【参考】平成 13 年度調査結果との比較

「ほとんど感じることはない」は 13 年度に比べて 1.7 ポイント増加、「いつも感じる+たまに感じる」は 3.6 ポイント増加。

	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
13 年度 n=354	27.7%	33.9%	13.0%	21.2%	4.2%

差別や人権侵害、虐待の内容としては、具体的に以下のような記入があった。

#### ① 言葉や視線

- ・ ジロジロと見る。(女性・35 歳)
- ・ 大人が顔をじっと見ている時があるのがいい感じしません。(女性・18 歳)
- ・ 外見では障害があるように見えないので、外出先で「キャー」となったりしたときの周囲の目が冷たい。(男性・4 歳)
- ・ 視線や、自然とまわりから人がいなくなることがある。(男性・18 歳)
- ・ 学生に指を差され「おかしい」と笑われたことが多い。声を出したりすると視線が気になる。電車で席を立たれたこともありました。とても悲しいです。(男性・26 歳)
- ・ とにかく外出した時に、ジロジロ見られる事は腹立たしい。子どもだけでなく、大人でさえ、失礼な人がいる。(女性・29 歳)
- ・ 外出時など、障害を理解してもらえないとき、周りの視線など。(男性・45 歳)
- ・ 特別支援学校の副校長に、友人がバスに乗せる時に首からさげる名札を「おじいちゃんおばあちゃんがお向えに行く時につけた方がいいですか」ときいたら、「あなたね！こういう子どもたちを誘拐すると思っているの？」と言われたそうです。(男性・7 歳)

#### ② 学校

- ・ 保育園（無認可）の門前払い。(男性・3 歳)
- ・ 特別支援級に通っているというだけでいじめられたことがあります。(男性・8 歳)
- ・ 難しく勉強がわからないときに教えてもらえず、スルーされてしまう。(男性・15 歳)
- ・ 普通級に入れない、幼稚園にも保育園（私立）にも入れない。市の一時保育も西原に限定されてしまった。なるべく隔離して育てようとしている。(女性・2 歳)
- ・ 認証保育所で、「座っていなければいけないときに座ってられないとダメ」「歩けないと散歩コー



スが変わるのでダメ」「障害があることでこのようなことを言われるのは現実です」など、子どもも見ずに言われたとき。(男性・2歳)

- ・ 同じ小学校に通っていても支援級と普通級に分けられているので子ども同士の差別や仲間はずれ等がある。対等な関係ではない。(女性・10歳)
- ・ 時々一人になったときに、昔「小学校、中学校」でいじめにあった事を思い出してしまうことがある。(女性・40歳)

### ③ 就労・職場

- ・ 出勤時、帰宅時、子どもたちに、イヤミをささやかれる。(男性・18歳)
- ・ 工賃を急にへらされたりする。(男性・21歳)

### ④ 交通機関

- ・ 交通機関等利用時の手帳提示時の対応。(女性・22歳)
- ・ 電車やバスに乗った時、公共の場 (男性・12歳)

### ⑤ 障害に対する理解不足や誤解

- ・ 差別や人権侵害程ではないが、障害に対する知識や理解が全くないと感じることがあります。成人になっても子ども達だけで行動させるところが難しいと思うことが多いです。(男性・20歳)
- ・ 目に見えて障害がわかりにくく、もたもたしていたりルールを知らずに無視してしまった場合にすぐく文句を言われたり「親のしつけが悪い！」と非難されてしまう。(男性・11歳)
- ・ 知的障害＝全員犯罪者のイメージ、「障害を持っている＝不幸」等マイナスの先入観があり隠してしまう。本当は知ってもらい、理解してもらい差別でなく、区別をしてほしい。(男性・12歳)
- ・ 障害者(児)に対して最近では理解されるようになりましたが、現実的には、なかなか厳しいものがあります。(男性・27歳)
- ・ 以前の就労先には、障害者に対しての理解のある人が一人もいなくて、理由もわからず辞めさせられた。(女性・30歳)
- ・ ケアホームを建てようとするとき、近隣の理解を得る必要があるということ。障害者も自由に場所を選んで住めるはずだと思います。もちろん、大声をあげたり、迷惑をかけることが多いので、その点を改善するというのは必須条件です。(女性・27歳)
- ・ 仕方がないとは思いますが、変わった行動をしていればおかしい人として見られるので、理解されていないのだろうと感じる。(女性・8歳)

### ⑥ その他

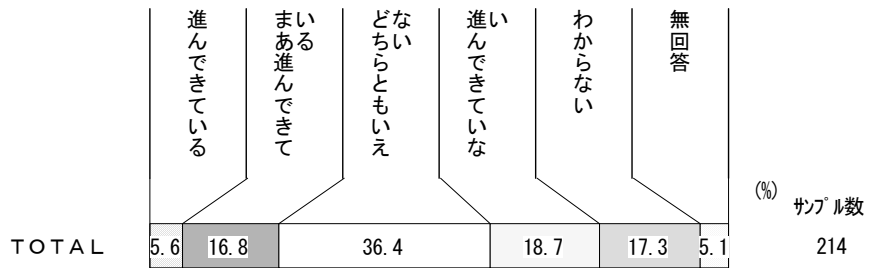
- ・ 親の負担を求める西東京市の介助員制度利用の際 (女性・9歳)
- ・ グループホームやケアハウスをつくらうとするといまだに周囲に反対する人がいる。(男性・36歳)
- ・ 健常者優先。(男性・37歳)
- ・ 「みなさんどうぞ」といわれるイベントなどでも「ただし、集団への指示で動けること」という条件をいわれる。それができない障害なので、表向き差別していないというのが結果的には線引きされていると思う。
- ・ どこの学校に行っているのかと聞かれたとき、相手の顔が暗い感じになる (男性・15歳)
- ・ 就職が一番苦勞すると思います。雇用率を上げて、結局手帳をあわてて取得したような極軽度の人が就職してしまうという現実、改善が必要です。(男性・7歳)
- ・ 本人が状況を説明できないので、何もしていなくても悪い事をしたように思われる。(男性・21歳)
- ・ 転居が難しい。(男性・4歳)

【知的障害者】

(2) 市民理解の進捗

問 46 障害に対する市民の理解はすすんできていると思いますか。(○は1つ)

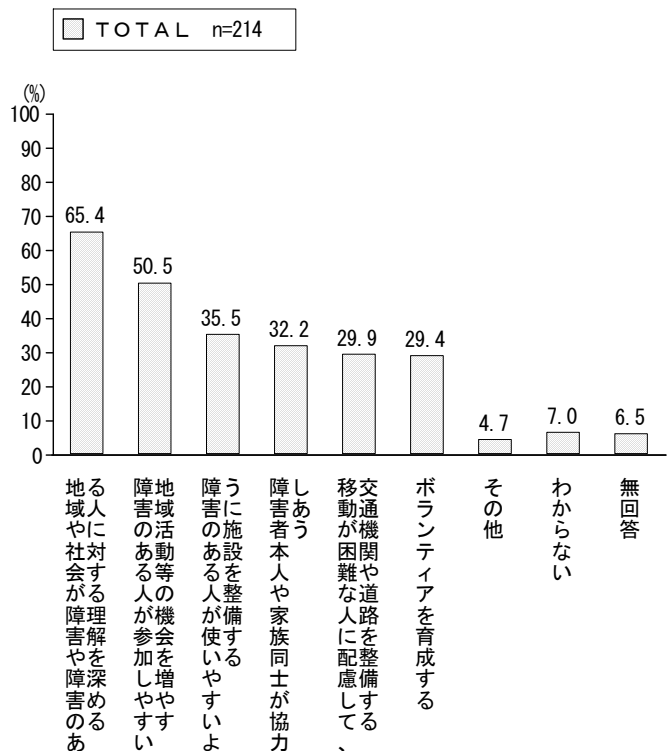
障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と考えている人は 5.6%、「まあ進んできている」(16.8%)をあわせると、約2割の人は市民の理解が進んできていると考えていることがわかる。



(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 47 障害のある人たちが地域や社会に積極的に参加するために、とくに大切なことはなんでしょうか。(○はいくつでも)

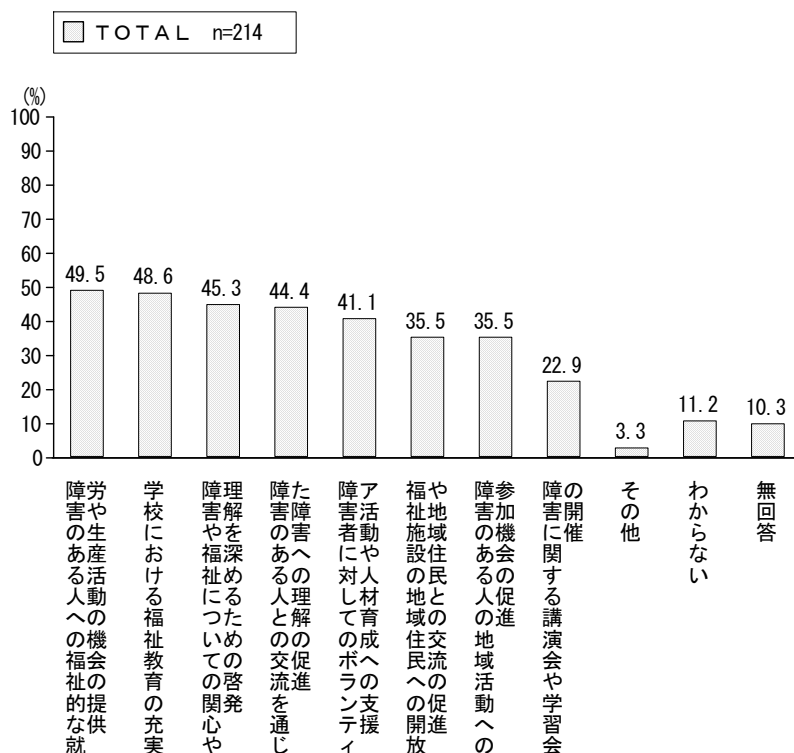
障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこととしては、「地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深める」ことをあげるのが 65.4%と最も多く、次いで「障害のある人が参加しやすい地域活動等の機会を増やす」が 50.5%で続いている。



(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 48 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、なにが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

障害や障害のある市民への理解を深めるためには、「障害のある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」をあげる人が 49.5%、「学校における福祉教育の充実」が 48.6%などとなっている。

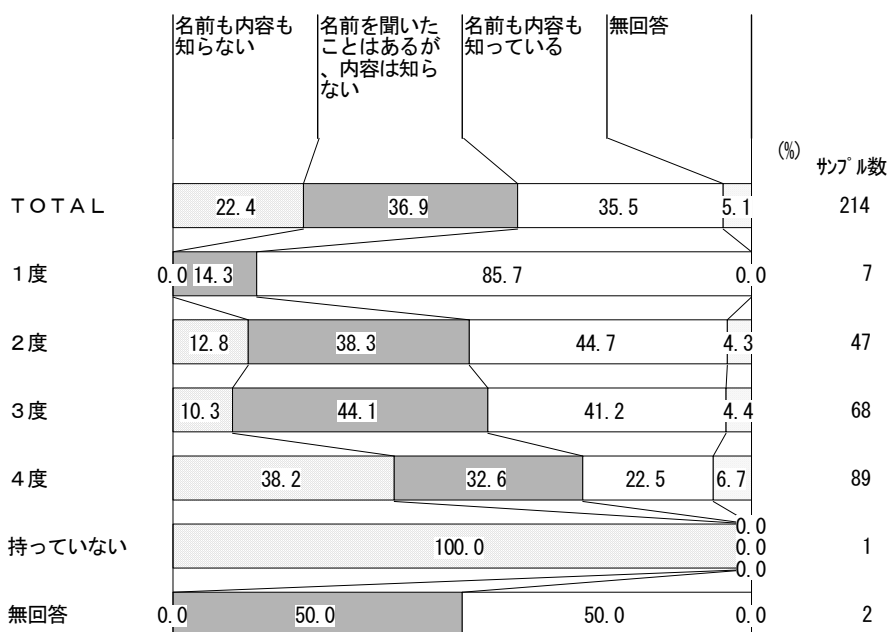


(5) 成年後見制度の認知状況

問 49 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などで、判断する能力が十分でない人の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(〇は1つ)

成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は 35.5%である。

障害の程度別にみると、1度（最重度）の7人のうち6人が「名前も内容も知っている」（85.7%）と回答しているが、4度（軽度）では「名前も内容も知っている」人は 22.5%である。



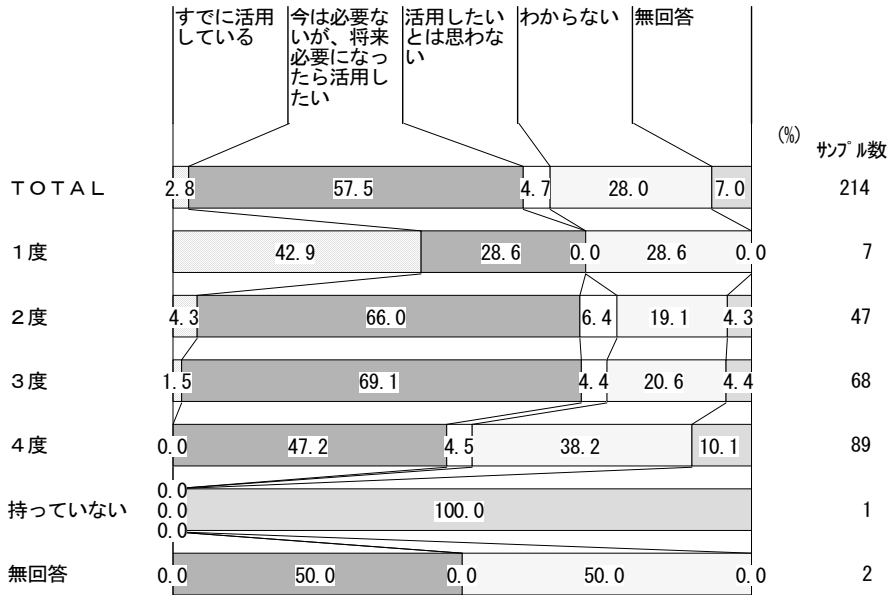
【知的障害者】

(6) 成年後見制度の利用意向

問 50 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度を「すでに活用している」人は2.8%、「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と考えている人は57.5%で、約6割の人には利用意向がある。

障害の程度別にみると、1度(最重度)では7人中3人が「既に活用している」。1度(最重度)、2度(重度)、3度(中度)では、いずれも約7割に利用意向があり、4度(軽度)のみ利用意向が47.2%と低くなっている。

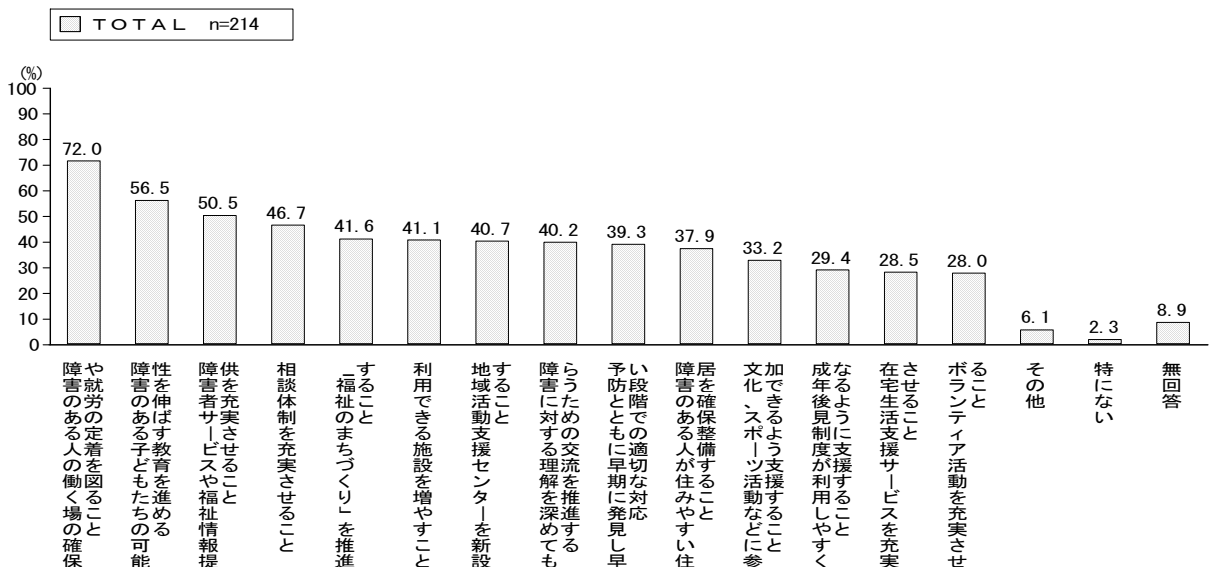


12 市への要望等

(1) 充実させていくべき障害者施策

問 51 今後、障害者施策をすすめていくにあたって、市はとくにどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後、市が充実させていくべき障害者施策としては、「就労のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」をあげる人が72.0%と最も多く、次いで「障害のある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進める」ことが56.5%で続いている。

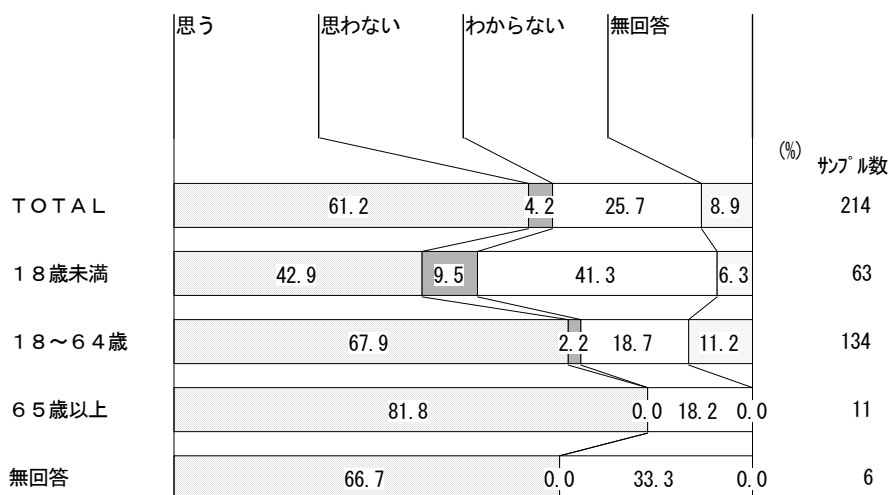


## (2) 居住継続意向

問 52 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

61.2%の人は、今後も西東京市に住み続けたいと「思う」と回答している。

年齢別にみると、18歳未満では、すみ続けたいと「思う」は42.9%で、約1割の人は「思わない」(9.5%)と回答している。



## 【参考】平成13年度調査結果との比較

「住み続けたいと思う」は13年度に比べて4.1ポイント減少。

	住み続けたいと思う	住み続けたいと思わない	わからない	無回答
13年度 n=354	65.3%	3.4%	24.9%	6.5%

## (3) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

## ① 情報提供に関すること

- ・ 障害福祉課の方で説明がこちらは何もわからないということが多いです。子どものことで心配だし、色々聞いておきたいと思ってもしっかりと聞けません。(男性・7歳)
- ・ 障がい者福祉関連のまとめた冊子があると良い。(障がい別に、制度(都・市)支援制度。施設(市・NPO作業所)相談窓口、団体、ボランティア、サークル活動等一つにまとめたもの。(女性・38歳)
- ・ ひいらぎに通っているが、愛の手帳の取得について教えてくれたのは、職員でなく通所仲間であった。手帳取得によってうけられるサービスなども取得するまで知らなかった。早い時期から保健師などを通してそういう情報を教えてもらえるとよい。(男性・3歳)
- ・ 障害者サービスの情報をもっと積極的に教えて下さい。「冊子を読んで」の対応ではなく、使える可能性のあるサービスを口頭でも教えて欲しいです。結局本当に使えるサービスは障害者(児)仲間から全て教えてもらったという状況です。(男性・8歳)
- ・ 学校を卒業してしまうと、福祉に関する情報がなかなか入ってこないもので、定期的に勉強会や面談などがあるとよい。本人が出ることが難しい場合は保護者が参加できるとよいと思う。(男性・20歳)

## 【知的障害者】

### ② 手続きに関すること

- ・ 年度や新たに利用する事業所などが増える度に、子どもについての事細かな資料を作成しなくてはならず、保護者にとっては何度も同じようなことを書かなければならないので大変苦痛です。更に、同様な内容でも提出先ごとに少しずつ質問のされ方が違うので回答の仕方も毎回変えなければなりません。子どもの為にと膨大な時間を費やすこととなります。
- ・ 個人情報保護の問題はあるかと思いますが、書類提出する際、ほぼ間違いなく関係各所への情報提供の旨を承諾するようにと確認されるので、始めから統一の書式で情報共有していただく方が手間がないと思います。都内、少なくとも市内の学校・デイサービス・各福祉事業所等への障害児・者の状態に関する提出書類の書式の統一を強く希望します。(女性・8歳)
- ・ 日常生活用具では、毎回、医師の意見書が必要とのこと、金銭的にも負担です。(男性・9歳)
- ・ 臨機応変な対応が難しい当事者にとっては、様々な場面で支援の仕方が統一されていないと、混乱します。就学前や就学後などで、引き継ぎのための書類は必ず用意されていると思いますが、活用されていないと感じます。何のために書いているのか分かりません。(女性・8歳)
- ・ 子育て支援一受給者証等は田無、作業所一福祉全般は保谷に分かれており手続きが大変で、保護者は日常、子ども達の世話で疲れている上に、1か所で用事を済ませることができない。このような負担を保護者に強いているのは極めてまずいし不満が大きい。利用者の目線に立ったサービスとは思えません。1ヶ所で済ませられるような改善をお願いします。(男性・18歳)

### ③ 相談に関すること

- ・ 市役所の障害担当の人は、もう少し親身になって相談に乗ってほしいです。結論を出してほしいです。事務的対応です。少し不満です。(女性・30歳)
- ・ 市の担当者は、御用聞きになるくらいで障害者家庭の困っていることを拾いあげていかないとダメ。完全に待ちの姿勢の仕事しかしていない。(男性・8歳)
- ・ 障害のある息子と共に他区から転入して来ましたが西東京市の職員の皆さんがいつも親切に対応して下さいるので、ほっとして、暖かさを感じ感謝しております。(男性・40歳)
- ・ 社会に出た時に、もっと相談できる場所などを充実させて下さい。(男性・19歳)
- ・ 少なくとも、私が訪問した際の市の窓口の方は、障害者に理解のある公務員だとはとても思えなかった。自閉症児を連れていけば、さわいだけ行方不明になる可能性も高いのに、何一つ子どもの対応をせずに親と相談をしよう、などという準備不足を見せつけられてきた。(男性・8歳)
- ・ 一番必要なことは本人が必要とする相談の窓口の一本化。支援の対策をわかりやすくしていただきたい。市の福祉課の方から発信(本人に郵送)していただくと助かります。(女性・34歳)
- ・ ダウン症の子の母親です。成長の過程でその時その時の困難や悩みが生じますが、ほとんどの場合、家族内でどうしようか、こうしようかと試行錯誤で歩いております。もしかしたら新しい道や、よい知恵があるのかもしれませんが、どんな機関、団体、組織、人脈につながったらよいのか、そのコーディネートのようなことは本人と家族にはできません。行政は生きていく上での生活基盤を保障するところかと思われませんが、「よりよく生きる」上でのアドバイザーとしての役割も担ってもらえるとハンディキャップをもつ人とその家族はどれだけ救われるかわかりません。(男性・10歳)
- ・ サービスの希望はあっても、現状の制度で利用できるのか、又個別で利用しやすい事業所はどこなのかなど相談コーディネートしてほしい。事業所の内容を一覧にしたり、必要な項目をえらんでいくとえらべるとかもっとわかりやすく、利用しやすくしてほしい。(男性・18歳)

### ④ 各種サービスに関すること

- ・ 日中一時支援(短期入所含む)、移動支援を利用していますが、受けられる時間に差があり、個々に対応できていないように思います。息子の場合、多動傾向にあり外出希望が多くなります。移動支援の時間が16時間しかない為、1ヶ月の自己負担がかなりあります。一方日中一時は使い切れない程時間があります。各々のニーズに反映して頂けたら、家族の負担が減るのではないかと。(男性・11歳)

- ・ 高齢者には紙オムツの支給制度があるが、障害者にも是非導入していただきたい。(女性・25歳)
- ・ 「一歩さん」が就労に特化して、頑張ってもらいたいです。生活支援はまた別でできるように。そこを中心に「暮らしていくこと、生きていくこと」をサポートしてほしい。(女性・18歳)
- ・ 移動支援(ヘルパーの派遣)について制約が多い。サポートを受ける側が必要とする支援(ニーズ)を満たしていない。学校の送迎の目的の利用はダメ。習い事の送迎もダメ。下校してから遊びに行くときの利用はOK。一番必要とする時はどんな時か。親が病気、下の子の世話、急用など助けてもらいたい時利用できない。障害児の親は日頃精一杯子どもに関わり時間を費やしている。本当に助けてもらいたい時、利用できないくやしさがある。もっとニーズを聞き取ってほしい。(女性・10歳)
- ・ 18才以下の福祉サービスの時間数が少なすぎます。移動支援、生活サポート、もっと増やしてもらわないと、親が働き続けることができません。(男性・13歳)
- ・ 他市・他区に比べ、サービス支給時間がかなり少ないと思います。(移動支援など)(男性・11歳)
- ・ 他市・他区にはある放課後事業(児童デイ etc)も市内には増えなかったり、親がべったり子についてないと利用も難しい。現実困っていること、要望に少しでも検討し、支援してほしい。
- ・ 障害児・者もただ制度やサービスにぶらさがっていきたくて、と思っているわけではありません。成人していきなり自立といわれても難しいので、子どもの頃から自立していくための準備のために支援をおねがいしたいですし、就労もできるだけできるように場の確保や相談先の確保をお手伝いいただければと思います。
- ・ 移動支援の時間を40時間/月に限定している理由が不明、障害児の親は「働くな」という政策的誘導を行っていると思えない。(男性・8歳)
- ・ 石神井特支に通っていますが、練馬区と西東京市のサービスの時間の差に驚き、あきれいています。それに移動支援が16時間なのに特定の人だけ倍の時間支給されていることに対して納得いきません。(男性・8歳)
- ・ 障害者の高齢化のサービスの充実をお願いします。(男性・33歳)
- ・ 福祉サービスのあり方、特に児童は、近隣の区・市と足並みをそろえるようにしてほしい。学区(学校)が同じでも受けられるサービスが違うのは変な感じがして納得できない部分です。(男性・11歳)
- ・ (母親の立場から)フルタイムで働いているため、子どもは入学後、学童にも通っています。バス停からは自分で学童まで連れて行かなくてははいけません。仕事があるので、人に頼まないといけません。毎日のことなのでファミサポにお願いするとかなり費用がかかります。また信頼できる方にめぐりあえるか不安です。子どもに障害があるからこそ、将来が不安で仕事をしているのに、続けていくのが難しいと感じています。学童の預かり時間も短いです。そのあたりの福祉サービスが充実することを願っています。(女性・35歳)
- ・ 他市などでは、子どもの通学の付き添いを移動支援を使って利用できたり、さらに利用時間数が西東京市よりもはるかに多く、サービスの差を感じます。放課後児童デイサービスも、事業所が沢山あるところと1、2ヶ所しかない西東京市との違いが、大きすぎるように感じます。また近い将来、大人になった時に働ける作業所や、グループホーム、入所施設などが無い事にも不安があります。障害のある子の親・家族も一緒に活動参加し、障害のある人達も安心して暮らせる市になって欲しいと思います。(女性・7歳)
- ・ 福祉に関する事業所は西東京市でも少しずつ増えています。それに携わる人々の専門性が乏しいような気がしています。ボランティアではない専門性のある人々がしっかり柱となって事業を支え、ボランティアの幅、人数を増やしてほしいものだと思います。(女性・21歳)

##### ⑤ 各種施設等の整備に関すること

- ・ 西東京市は、隣接する市に比べ福祉作業所の数が少ないので増やして欲しい。現存する作業所の近辺に住んでいる方や遠方でも一人で通所できる人はいいいのですが、送迎を要する方々にとっては現在の数では負担が大きいと思う。(男性・18歳)

## 【知的障害者】

- ・ さざんかクラブの成年向けのようなのがあると助かる。活動に積極的に参加しなくても家とはちがうのんびりできる場所が欲しい。(男性・19歳)
- ・ 児童デイや日中一時の施設をもっとたくさん使ってほしい。(男性・21歳)
- ・ 通勤寮等の施設が、近くにできればと思っています。わざわざ新しい施設を作るのではなく、公営住宅の空屋、廃校となった学校をリフォームする等といったようにして、障害のある人々が安心して暮らせ、仕事をがんばり、生活を楽しくできればと思います。(女性・63歳)
- ・ 親が病気、冠婚葬祭などで家にいられないとき、気軽に安心して障害児(者)を宿泊させられる施設を早急に作ってほしいです。そこで何ヶ月(3ヶ月位)の宿泊自立訓練などができるようにしてほしいです。市が運営するのが難しいようなら、NPO法人に補助を出すなどして宿泊ができる施設を早く作ってほしいです。(男性・22歳)

## ⑥ 住まい(グループホーム等)に関すること

- ・ 一番望んでいるのは、障害者(児)がどこでくらしに行けるのかという場だと思います。安心してくらしにいける施設の建設を是非望みたいと思います。施設からグループホーム・ケアホームへという流れの中で、大変な事とは思いますが、西東京市としては是非家賃の補助・助成をお願いしたいと思います。(女性・25歳)
- ・ 作業所とグループホームが連携し、就労と住居、衣食住が一連の流れで安心して障害者が生きていけるような生活環境を作って欲しい。作業所と同様グループホームの建設にも目を向けて、設立しようとしている人達・団体に市が協力、援助して欲しい。(男性・17歳)
- ・ 障害者の親亡き後、安心してくらせるケアホーム・グループホームを作ってください。特に市内にはケアホームがほとんどなく、他の地域に移り住ませるしかないのが現状です。(男性・22歳)
- ・ 近い将来入所を希望していますがなかなか施設がありません。高額な入所金を支払わなければ、入所できない現状です。是非、西東京市に入所施設を要望します(ケアハウス)。(男性・27歳)

## ⑦ 乳幼児期の対応、療育に関すること

- ・ 幼児の療育が満員で何度も断られました。1年以上待って入っても「こんな子は言葉はしゃべれない」等、現場の先生に言われ、大変悲しい思いをしました。(男性・4歳)
- ・ 西東京は他市に比べ乳幼児の障害者福祉は充実していると感じるので、さらに利用利便をよくすればよい。(男性・3歳)
- ・ 早期の療育でカバーしない限り、自閉症児が社会に出ていくのは難しい。逆に早期対応により、劇的に状況が改善する例も多いが、このための多額の費用を親に負わせることなく、公的に支援してほしい。(男性・8歳)
- ・ 私が働きたくて、保育園の見学を始めた時、園長先生から「うちの保育士はお子さんのことを理解できないと思います。辛いでしょうけど、これが現実です」と言われた。他の園でも、皆が座っているときに座ってられないとダメ、歩けないと散歩コースがかわってしまう、園の負担が増えると言われた。私は1つ下のクラスで見ただけないかと相談したが、ダウン症というだけで断われた。市の窓口で相談したら「フルタイムで働いていなければ公立はムリです。」と言われたので、公立もムリ、認証は障害があってもムリなら、障害児をもつ親はどうしたらいいのかと聞いたら、個々の事情は聞いてもらえないと言われた。一時保育を利用しようと言われ登録したが、今年度から障害児は西原保育園しか利用できないと言われた。西原は家から遠いので、通うのがとても大変だった。西原は比較的取りやすいと言われたが、予約は月に3回しか当たらないこともあった。月に3日では一時保育を利用しながら働くなんてムリ。未就学児も預けやすい環境を作ってほしい。(男性・2歳)

## ⑧ 教育に関すること

- ・ 特別支援級の在籍人数が多すぎます。増設を希望します。可能性を最大限に伸ばすためには、少数団で取り組めるような体制でないと、教育できないと思います。(女性・18歳)



- ・ 発達障害の生徒は年々増えているのに、学校の教室が足りていない。専門の教師を増やす、教室の増設など環境を整えてほしい。子どもが田無特別支援学校へ通っているが一つの教室を2クラスで使用、作業室をクラスの教室に使うなどして、いい環境ではないと思う。(男性・15歳)
- ・ 発達障害があり、ボーダーライン周辺にいる子ども達の教育の場の選択肢がなさすぎると思います。支援級でも普通級でもない“どっちつかず”の状況では、支援級を選ばざるを得ないことが多いです。もっと普通級に加配職員を入れるなどの対応をお願いします。(男性・8歳)
- ・ 特別支援学級がある学校をもっと増やしてほしいです。中学校になるとレベルが高いのですが、支援学校ではもの足りない程度の子どもにとって行き先がない状態です。健常児とほぼ変わらない子ども用の学級と支援学校との中間の学級があるといいのにと心より感じています。(男性・11歳)
- ・ 障害者はこちら、健常者はそちらと分けるのではなく、できうる限り一緒に勉強させて欲しい。子ども時代に一緒に育つことによって、自然と障害に対する理解はうまれると思います。(男性・11歳)
- ・ 普通学校にいる時によく先生から「私1人でクラスの生徒みんなを見ないといけないので手をかけられませんので、支援学級なり支援学校へ行っただ方が良いと思います」と言われていました。クラス的人数が少なかったり、1クラスに2人の先生がいれば普通学級でもどうにかやっていけるのに、という人がけっこういます。(男性・11歳)
- ・ 副籍制度は下に小さい兄弟がいたりすると更になのですが、慣れない場所へ連れて行くという、親の精神面での負担や経験者の声では、ただ教室内に居ただけなどと受ける側にも余裕がなくあまり利用したいとは思えない。他、兄弟の学校行事に連れて行きにくいなど…。(男性・9歳)

### ⑨ 放課後の活動等に関すること

- ・ 障害児の放課後の過ごす場所が不十分に思う。高校卒業後となるとさらに心配です。行き場所もなく、親が毎日散歩に連れ出したりするようなのかも…など。(男性・9歳)
- ・ 学童保育について、各学童で障害児3人(定員)となっている様だが、3人といっても重い子から軽度の子もいるので、必ずしも同じ状況とは言えない。明らかに全体の定員は空きがあるのに障害児は定員(3人)を満たしているので入れないというのはおかしい。本当に身辺自立もできていない状況の子であれば介助者(職員)も増やす必要があるが、手のかからない子もいる。もっと柔軟な対応をしていただきたい。(女性・10歳)

### ⑩ 雇用・就労に関すること

- ・ 今働いている作業所も定員がいっぱいで、今後、西東京市の作業所では受け入れられなくなり、他市に働きに出ることになると、地域での活動ができなくなると思います。作業所を新しく作る、企業(市内)に障害者雇用の人数を増やすなど、就労しやすい環境を充実して下さい。(女性・18歳)
- ・ 自閉症の専門機関の武蔵野東学園が近いため、西東京市にも自閉症の人がたくさん住んでいます。武蔵野市は自閉症に合う福祉施設が多いですが、西東京市は少ないと思います。こういった作業所をもっと増やしてほしいです。(男性・18歳)
- ・ 市の方でも働く場所を企業とタイアップして増やしてほしいと思います。(男性・18歳)
- ・ 民間企業だけでなく、市でも受け入れるべきです。市内の特別支援学校の生徒が清掃実習で毎週田無庁舎に行っています。まじめにコツコツと頑張る人がたくさんいます。市の中での業務でできることがあると思います。(女性・18歳)
- ・ 西東京市は障害を持った子が働く所がないと先輩母から聞きました。子どもを持つ親として将来が不安でしょうがありません。(男性・14歳)
- ・ 仕事をする作業所なども、西東京市は少ないと思う。(男性・15歳)
- ・ 発達がゆっくりでマイペースであるだけで、日常生活に問題はないが、就労できる場は将来あるのか、という不安がいつもつきまとう。作業所でも飲食店でも、もっとたくさん働ける場があると社会と関わって生活していけると思う。(男性・12歳)
- ・ 障害者の働く場所とそれを支える人材を増やしてほしいと思います。(女性・21歳)

## 【知的障害者】

- ・ 義務教育の間、他市で過ごし、また保谷に戻ってきたら、いろいろな面で（放課後対策・五日制・公民間事業（くるみ学級）など）活発に行われており、うれしく思ったものです。今後、卒業生がどんどん増えるなか、就労の問題は欠かせない大きな課題だと思います。（男性・32歳）
- ・ 一般の方々に理解していただくのは大変だと思います。障害の程度により接し方、お仕事の内容の変化など、たずさわる方々のくふうが必要だと思います。障害者におしつけるのではなく障害をうまく利用できるよう、そんな所をうまくひきだしていただけたらと思います。（男性・40歳）
- ・ 私の勤務先では、障害者雇用を促進するだけでなく、障害者が自分で業務を考え、業務をマニュアル化し、後輩の障害者を教育するということで、今まで外注していた業務を障害者の方々が行うことで年間数千万円のコストカットを実現しました。可能性を伸ばしてあげることで実際に経済効果が出た一例です。民間と自治体でスタンスもできる事も異なるとは思いますが、短期的ではなく長期的、継続的に、住民（障害者含む）と自治体双方にとって良い結果となる施策、制度が導入、実施されることを期待しております。（女性・2歳）
- ・ 卒後の就労場所は、増やして欲しいです。（男性・13歳）

### ⑪ 防災・防犯等、緊急時の対策に関すること

- ・ 先日、ヘルパーさんと出かけ先で、行方不明になりました。2時間後に見つかりましたが、緊急時の窓口があると安心です。警察との連携システムとか、“障害者行方不明”をネットで検索したら、多勢の障害者が今も見つかっていない場合があります。反省して迷子札みたいな物を持たせるようにしましたが、これも変な人に悪用されるのが恐いし、悩んでいるところです。事故も心配ですが、何より一番心配なのはなくなる事です。この事に関して、いい方法はないか、親、行政、力を合わせて考えていけたらと思います。（女性・27歳）
- ・ 災害が起きた時の避難場所の確保をお願いします。（男性・27歳）

### ⑫ 権利擁護、差別・人権侵害等に関すること

- ・ 杉並区では障害者は無料で成年後見制度が利用可能。西東京市でもお願いしたい。（男性・8歳）
- ・ 市長選は身近なものですから息子を連れて参加していました。見るからに障害者の親子連れとわかり選管のオジサンがやってきて「教えたり相談なんかしないように」と。このような経験は初めてでした。「教えたりしていませんけど」と申しましたが…複雑な思いがいたしました。「面倒な者は来ないように」と言われたような。投票はやっぱり難しいかな、本人「書く人いるよ」と言うのですが、独特の雰囲気の中で勇気をもって神経を使いながら投票所に行きましたが、今後は考えないと思います。（男性・32歳）

### ⑬ 市民や地域の理解等に関すること

- ・ 軽度の知的障害に対する理解が、まだまだありません。重度の方はたしかに、いろんな負担があり、たいへんなので支援やサービスが受けることができ、情報も得やすいと思います。軽度の子はいろいろ自分でできますが、その分、一般の事を（普通）求められます。トラブルも増えます。家族もトラブルを回避できるよう指導していますが、周りの理解が不足していると思います。もっと軽度の障害者を理解してもらうための行動をとっています。（男性・19歳）
- ・ 特別支援学級には昨年度から通っています。中学、高校、社会人へ成長していく中で、様々な支援を受けないと、この子は生きていけないんだろうな、と漠然と感じています。健常者も思いやりを持って障害者へ接してくれるような地域作りができるといいです。（男性・10歳）
- ・ 好んで障害者になる人はいません。障害について理解を深めることで地域で生活していくことも可能になるのかなと思います。認知症サポーター育成のように、障害について小さい頃から関わったり、教わったり知ったりすることで対応できるように思います。自分の子どもが不審者扱いされないよう、地域との交流を大事にしています。小さい時から地域になじむ大切さはあります。（男性・13歳）

## ⑭ 医療に関すること

- ・ 歯医者で「痛かったら手を挙げて下さい」と言われても、本人は「痛かったら手を挙げる」という行動につながらないので、我慢して治療を受けている。(男性・12歳)
- ・ 今後障害者はもっと増えます。医療的ケアのできる機関も増やしていくべきです。学校時代、気管内吸引が必要で、親の負担も重く、大変でした。(男性・13歳)
- ・ 知的障害者が安心して通院できる、専門歯科医院や療育センターのような所がないので、遠い所へ時間をかけて通っています。医療が充実していればとても安心して住めると思います。(女性)

## ⑮ 親亡き後の不安

- ・ 我が子の場合、人と接することが嫌いで、自ら支援を求めることがあまりないので親亡き後に、社会から孤立してしまうのではないかと不安に思っている。自ら支援を求めない障害者にも目が届くようなサービスを期待している。(男性・20歳)
- ・ 個人の希望ですが、この地でずっと暮らしたいと言っています。地域で暮らし続けるための具体的な施策、施設の整備など必要と思います。知的障害を持った人が自立して(親から離れて)暮らしていくのは、まだまだだと思います。故にいまだに親なき後のことが日常的に頭から消えることはありません。(男性・36歳)

## ⑯ 家族等への支援に関すること

- ・ 下に更に兄弟がいると人手も足りなく、父親が仕事となると、行事に行くことさえ困難となり、健常児にもかわいそうな思いをさせている。障害児の兄弟の心のケアにも、目を向けていただきたい。親とは違う悩みを相談したり、分かち合える場がもっとあればと思います。(男性・9歳)
- ・ 母親も働ける環境をつくってもらいたいです。長期の休み(学校)の時は預け先がないので、社宅で生活することが可能なのに、ショートステイ等に行かねばならず、在宅生活が充実しているとは言えない状況です。日中一時等(医ケアができる。)が市内にあれば、在宅生活の環境が向上すると思います。(男性・9歳)

## ⑰ 障害者施策の推進、計画策定等に関すること

- ・ 障害者が住みやすい自治体を目指すということは様々な課題もあると思いますが、自治体にとっても大きなメリットがあると思います。住みやすい自治体であることは転入者の増加にもつながり、また障害者の勤労支援が充実すれば経済的にも大きな利点となると思います。「何ができない」ではなく「何ができるか」そして「何をできるようにするか」という視点で施策を進め、是非ポジティブな支援を導入していただきたいと思います。(女性・2歳)
- ・ 日本はまだまだ障害者施策は遅れている、という強い自覚をもってサービス改善をめざしてほしい。障害児をかかえた家庭が、どれほどの苦難と家庭崩壊の危機に直面しているかを、身をもって感じて欲しい。(男性・8歳)
- ・ 一生を西東京市で、暮すための施策を推進して欲しい。(男性・36歳)
- ・ 財政問題は大きいですが、常にその面だけを優先させるのは、考えなおしてほしい。特に従来の障害者施設など、市の貴重な財産ですが売却のみを考えず、不足がちな障害者施設や福祉施設への再生を計画していただきたい。(男性・36歳)
- ・ 知的障害者への理解を市としてもっと深く進めて下さい。働く場所のこと、少なくとも年金・福祉手当だけでは生活はとても大変です。福祉作業所も人数が多くなるばかりなのに、全く広くならず運動する所もない等、本当の意味での理解はされていないと思います。(男性・47歳)

## ⑱ その他

- ・ 皆さんの声を生かし、協力し合える優しい街づくりを期待しています。障害は病気より事故によるものの方が多いです。明日は我が身が…と「自分だったら」で考えていただきたいと思います。(女性・9歳)

## 【知的障害者】

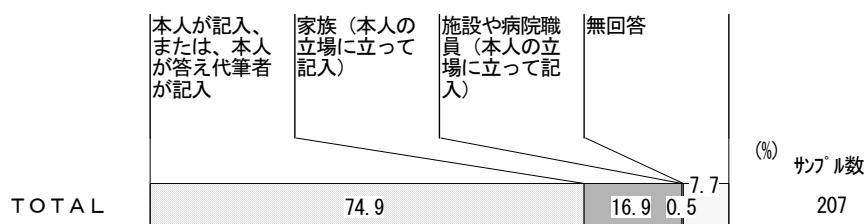
- ・ 愛の手帳所持者対象のアンケートでしたが、その中にはひとりで動けない、意思も伝えられないといった重度重複の人もたくさんいます。もちろん働くこともできないし、地域活動への参加も難しいのが現実です。そういった人たち（家族も含めて）の将来への不安や要望なども、聞いていただけたらと思いました。（女性・30歳）
- ・ ちょうさしょはいろんなしつもんが多くあって、いみのわかんないもあつたけど書きました。これからもしょうがいしゃのなやみも聞いて下さい。（女性・60歳）
- ・ 個人的な意見を言えることは、なかなかないので、このアンケートは送ってきていただいて、良かったです。ありがとうございます。いろいろな意見を参考にさせていただいて、障害者にやさしい西東京市を目指して、ご尽力して下さることを願います。（男性・15歳）
- ・ 本アンケートが“本当に”活用されることを強く望みます。ただ傾向を集計するだけでなく、使える支援を提供して欲しいです。（男性・8歳）
- ・ 市の公共施設の合築や整備の問題が進んでいるようですが、市民の意見、特に自ら発信することが弱い障害者の思いや意見を丁寧に聞いていただきたい。（男性・36歳）
- ・ 障害の子どもの場合は子育て支援と連携をしてほしいです。障害福祉課での対応をしていますが、子育て支援でもできることはあるのではないかと思います。（男性・9歳）
- ・ 西東京市は、市内に小・中学部の特別支援学校がないため、障害児の保護者の意見を集約する場がありません。この年齢集団の親は、共働きをしている、又は母親が働きたくても障害児の世話をしてくれる人がいないため、できない（特に中学生）等、障害児の在存が親の就労に影響を与えていることが大きいです。ですので、練馬区のような、学校に、放課後児童デイサービスの車が迎えに来てくれ、帰りは自宅、もしくは自宅近くのバス停に送ってくれる福祉サービスの必要性を強く感じていながらも、私たちが現実に困っている事を訴え、要請していくことができませんでした。そこで、親の意見を集約する場を作ろうと、勉強会を結成することにしました。障害児本人だけでなく、きょうだい、親も安心して生活できるようにするための情報収集を行い、困っている事を解決していくために、行政に意見を伝えていきたいと思っています。そして、一方的にサービス向上を要請するだけでなく、親どうしの支えあいとして、「ペアレント・メンター」としての役割をボランティア協力できたら良いと思っています。行政主導のペアレント・メンター養成講座を開催していただき、勉強したうえで、同じ障害を持つ子の親の相談相手になれたらと思います。（男性・7歳）
- ・ 西武線の電車を利用する時、愛の手帳を提示して切符を買うのに時間がかかり過ぎ、乗り遅れてしまうのでJRのように券売機で買うシステムに統一して欲しいです。（女性・8歳）

## 1 基本的な属性等

### (1) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

「本人が記入、または、本人が答え代筆者が記入」が74.9%。

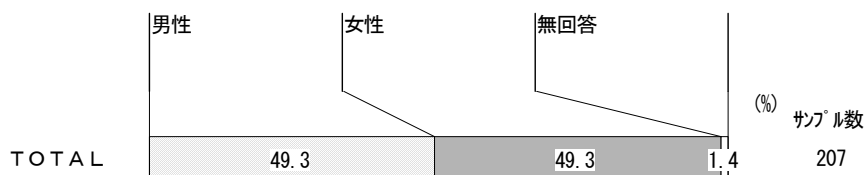


### (2) 性別・年齢

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

問3 年齢(4月1日現在)を記入してください。

性別は、男性が49.3%、女性が49.3%。



年齢は、40代が29.0%、50代が22.2%で、平均年齢は46.5歳。

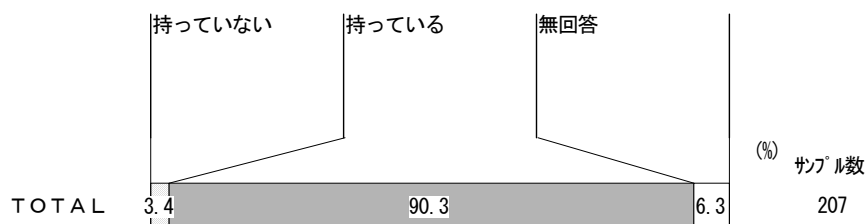
年齢	(%)	平均
10歳未満	0.5%	46.5歳
10代	1.9%	
20代	7.2%	
30代	17.9%	
40代	29.0%	
50代	22.2%	
60代	11.6%	
70代以上	4.3%	
無回答	5.3%	
<b>n=207</b>		

### (3) 精神障害者保健福祉手帳の有無、及び書かれている障害の程度

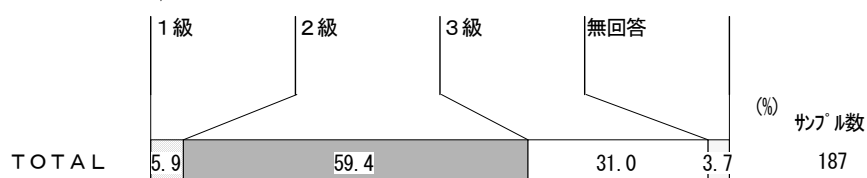
問4 あなたは「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちですか。(○は1つ)

お持ちの場合には、手帳に書かれている障害の程度にも○をつけてください。(○は1つ)

精神障害者保健福祉手帳を「持っている」人は90.3%。



手帳に書かれている障害の程度は、1級が5.9%、2級が59.4%、3級が31.0%。

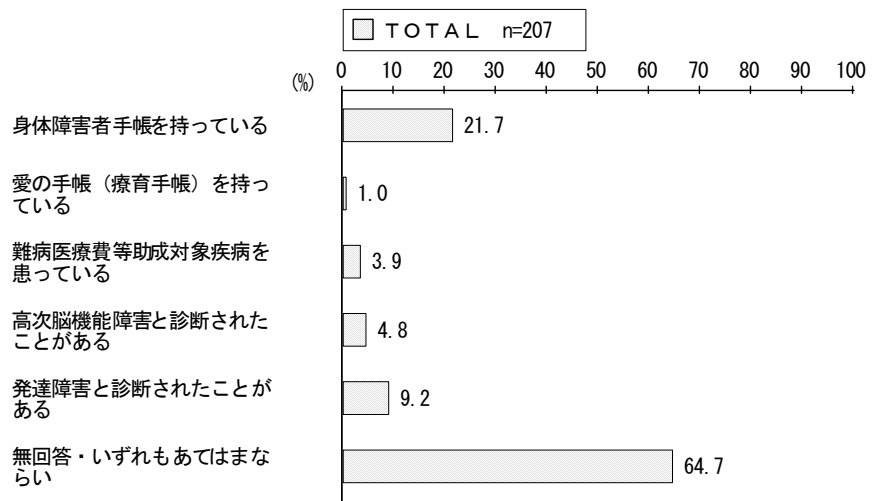


【精神障害者】

(4) 他の障害の状況

問5 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

精神障害以外の障害との重複状況をみると、「身体障害者手帳を持っている」人が21.7%、「発達障害と診断されたことがある」人が9.2%いる。

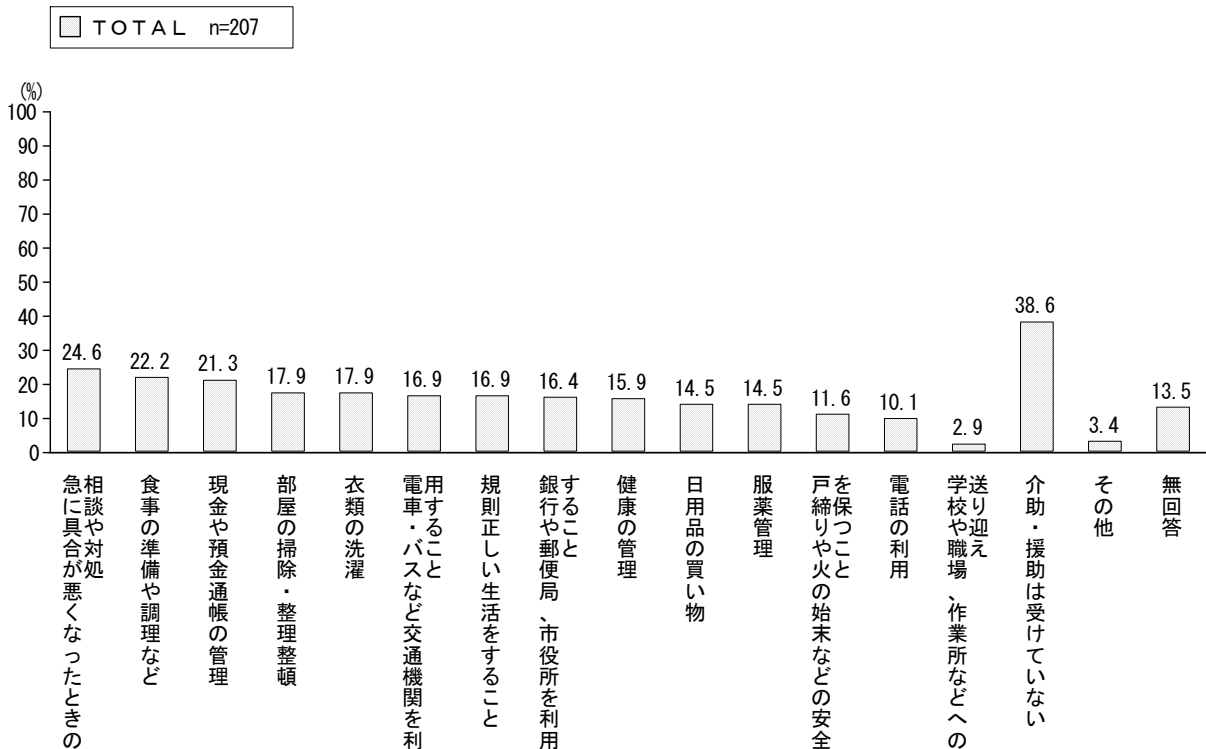


2 介助・援助の状況

(1) 介助・援助を受けている場面

問6 どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

実際に介助・援助を受けている場面としては、「急に具合が悪くなったときの相談や対処」が24.6%、「食事の準備や調理など」が22.2%、「現金や預金通帳の管理」が21.3%などとなっている。



(2) 介助・援助がほしいと思う場面

問7 介助・援助が欲しいと思うことはありますか。

介助・援助がほしいと思うことについて、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

## ① 日常生活の援助

- ・ 体調が悪く動けないとき、子どもの学校のこと（登校や準備）や、食事のことや他の家族がいないので病院に行きたいときにいけない（女性・38歳）
- ・ 部屋の掃除や整理整頓（女性・47歳）
- ・ 家の片付け・そうじのとき、手伝ってくれると良いと思う。（女性・54歳）
- ・ 疲れたときに家事を代行してくれるヘルパーさんが欲しい。（娘もいるので、育児は頑張るが家事を頼みたい。）（女性・28歳）
- ・ そうじ、食事など作る気力がないとき、援助がほしいです。市内に病気が悪くなったとき、カウンセリング機関があれば安心です（女性・38歳）
- ・ 自己で判断できませんが、片付けを手つだってほしいと毎日考えます。ケースワーカー等は「自分でやって下さい」しか言いません。病院への付き付添いもしてもらえなくなりました。（男性・36歳）
- ・ 入浴介助（女性・67歳）
- ・ 骨がよわいため、重い作業ができません。かぜをひいたときなどに、ヘルパーさんがほしいと思うことがある。（女性・48歳）
- ・ 介助、援助は欲しいと思います。親は毎日の介助、援助で疲れきっています。（男性・44歳）
- ・ 親が体調の悪い時、忙しい時、休息したい時に移動支援、日中一時支援を。（男性・13歳）

## ② 外出時の援助

- ・ 気分がよくないとき、送ってほしい（男性・55歳）
- ・ 車でしか行けない所に行くとき。（男性・50歳）

## ③ 手続き関連の援助

- ・ 学校で予定変更や、ものごとの詳しい説明が、もっとあると助かるそうです。“わからなくなって困る”といます。（女性・13歳）
- ・ 理解できないことへのアドバイス、金銭管理・書類の管理・アドバイスなど。交通機関を利用する練習。（女性・27歳）
- ・ 病院へ入院する時、ヘルパー利用ができると安心。コミュニケーションがとれなくて困っています。（女性・42歳）

## ④ 相談など

- ・ 相談して欲しい時に、保健師さんに、アドバイスをもらいたい。（男性・41歳）
- ・ 本当につらい時、気持ちをきいてくれ、実行に移してくれること（すぐに）。（女性・54歳）
- ・ 話し相手（女性・41歳）

## ⑤ その他

- ・ 発達障害で、勤めたこともないので、年金もなく長年全くの無収入です。親がいなくなったとき、金銭の管理もできず、後見制度の援助も受けられず、とても心配しています。（女性・40歳）
- ・ たくさんあるが全て有料なので利用できない（女性・48歳）
- ・ 仕事がなく、収入が障害年金だけで、父（84才）が老人介護施設に入り、費用をねん出することが非常に難しく、日常のことは全て母に（78才）頼んでおり1月半ばから3月の半ば（13日）に病院から退院したものの、非常に生活が苦しいので、父の介護費用の援助がもっと欲しい。（男性・52歳）
- ・ 60才前なので介助・援助を受けたくても介護保険は援助利用できず、困っている。（女性・57歳）
- ・ 電車がこわい。夜道がこわい。人に見られるのが嫌だ。外に出るのが嫌だ。（女性・29歳）

## 【精神障害者】

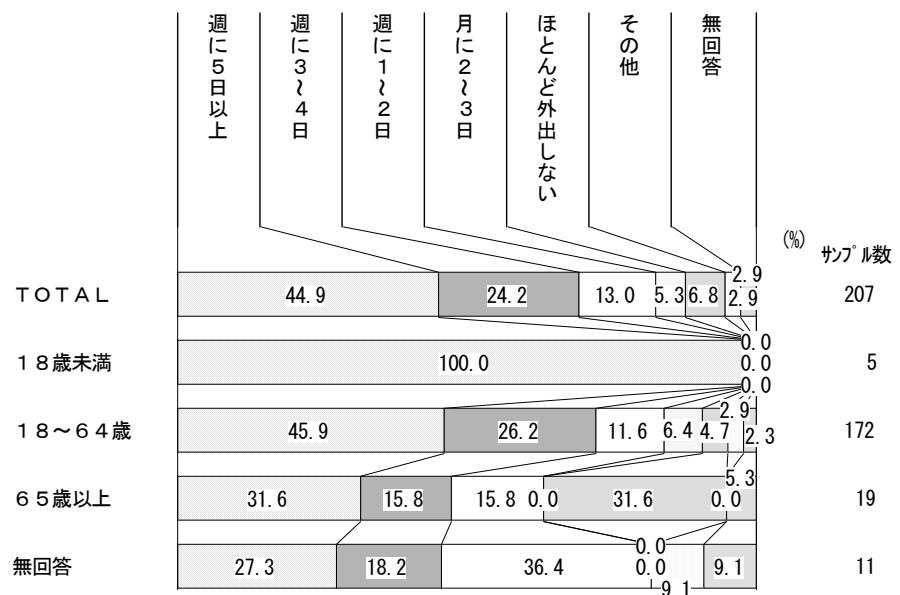
- ・ 地震などの災害があったときに、助けていただきたい。(女性・57歳)
- ・ 7年前に脳梗塞をして、ひだり手が最近、手も思うように動かず、精神的に不安定で、文章を書いたり、まとめたりすることができない。(女性・53歳)
- ・ 体がしんどくて不安定でずっと辛く、ずっとベッドに横になっての生活ですので、なかなか外に出られないし、調子の良い日に、身の周り、生活の全てをこなすので、非常に疲れます。(女性・31歳)

## 3 外出や社会参加について

### (1) 外出頻度

問8 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、通院、買い物、日常の散歩等すべて含めてお答えください。(○は1つ)

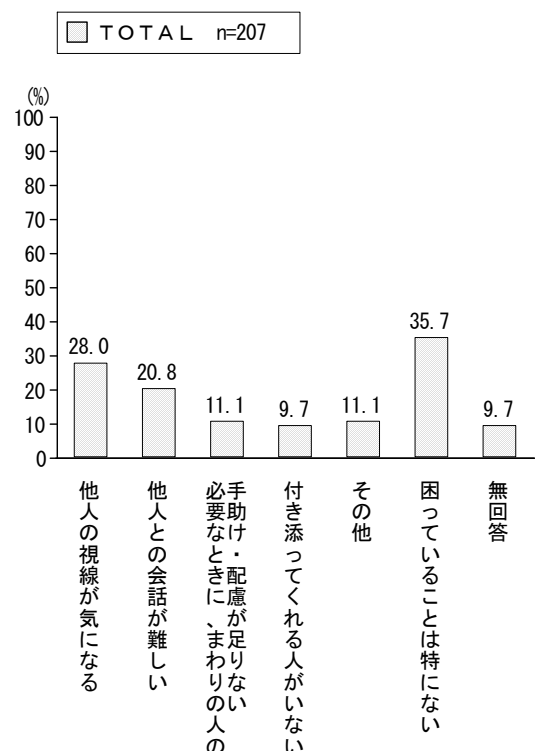
外出の頻度は、「週に5日以上」が44.9%、「週に3～4日」が24.2%と、約7割の人が週に3日以上外出しているが、「ほとんど外出しない」という人も6.8%みられる。



### (2) 外出の際に困っていること

問9 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることとしては、「他人の視線が気になる」ことをあげる人が28.0%と最も多く、次いで「他人との会話が難しい」が20.8%で続いている。





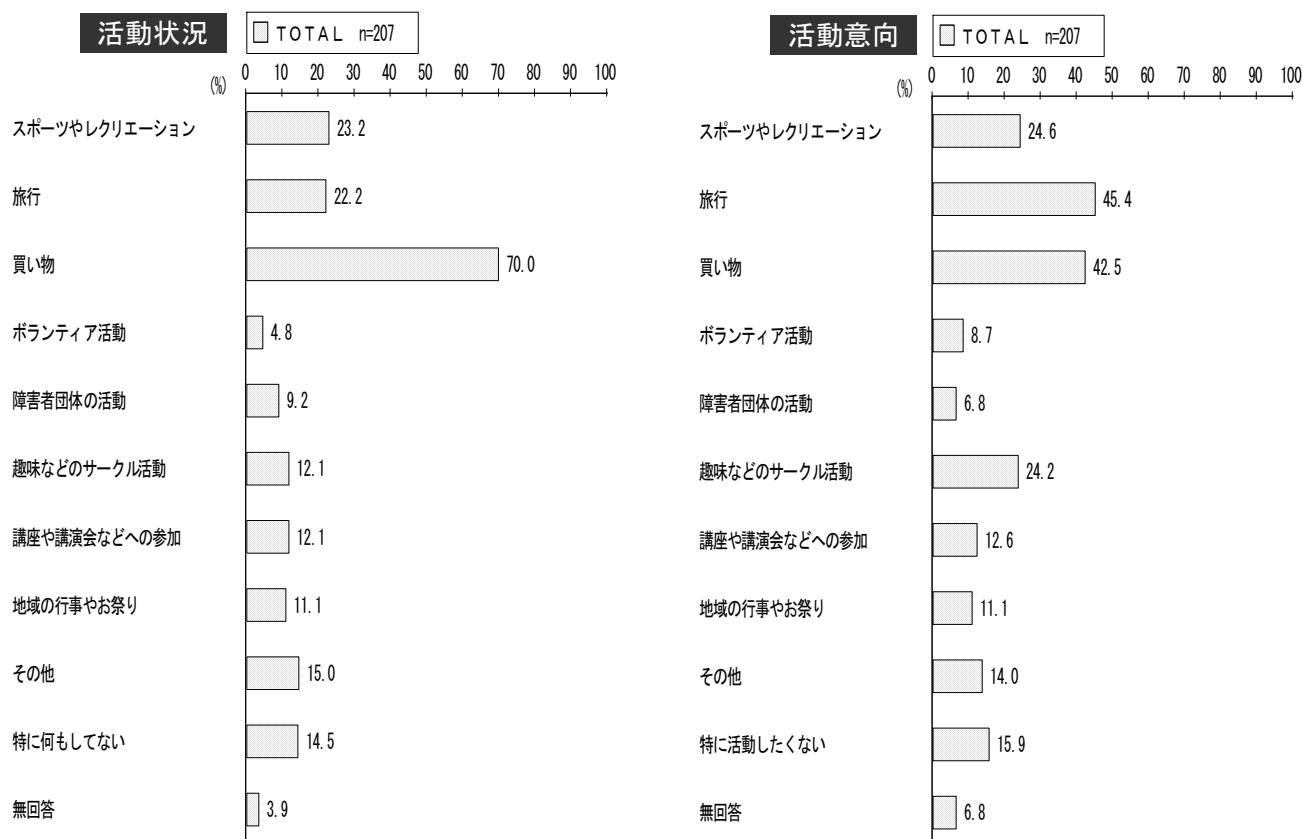
## (3) 余暇活動の状況・意向

問 10 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

問 11 これからどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

最も活動意向が高いのは「旅行」で、45.4%の人が活動したいと回答している。

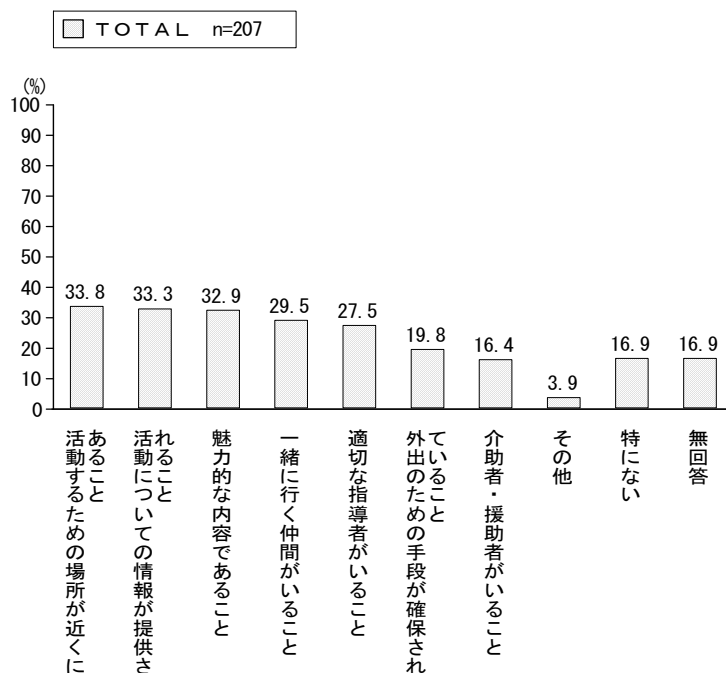
活動状況と活動意向を比較してみると、実際の活動状況に比べて特に活動意向が高いのは、「旅行」(実際 22.2%→意向 45.4%)と「趣味などのサークル活動」(実際 12.1%→意向 24.2%)である。



## (4) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問 12 問 11 のような活動をするために、どのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

希望する余暇活動をするために必要な支援としては、「活動するための場所が近くにあること」(33.8%)、「活動についての情報が提供されること」(33.3%)、「魅力的な内容であること」(32.9%)が3割以上の人にあげられている。

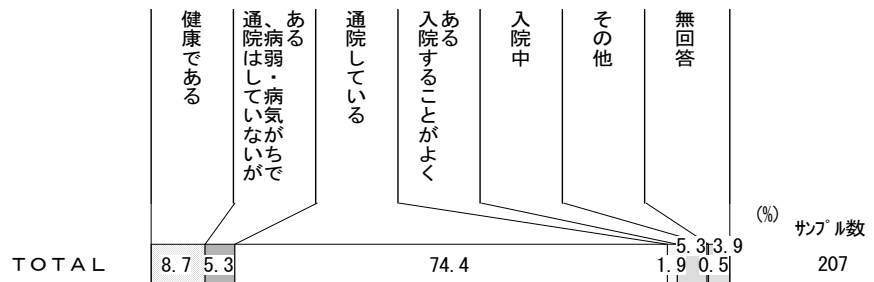


## 4 健康状態や医療について

### (1) 最近の健康状態

問 13 最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

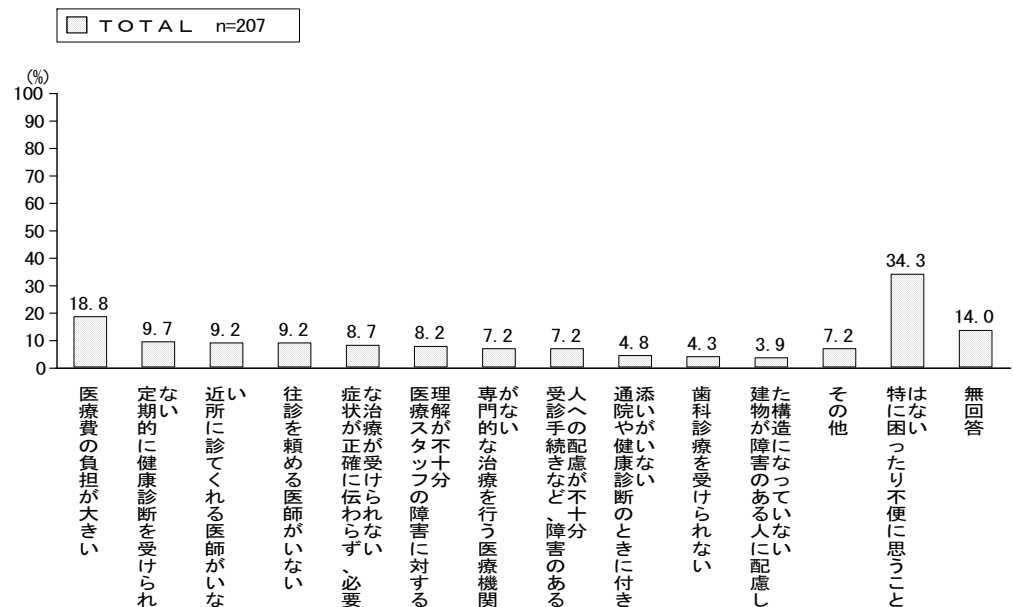
最近の健康状態をたずねたところ、74.4%の人が「通院している」と回答している。



### (2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 14 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(○はいくつでも)

健康管理や医療については、34.3%の人が「特に困ったり不便に思うことはない」と回答しているが、あげられた項目としては、「医療費の負担が大きい」が18.8%と最も多くなっている。



### (3) 入所・入院期間

問 15 入所・入院期間はどのくらいですか。(○は1つ)

病院・施設などに入院・入所して看護・介護を受けている人は15.0%。入所・入院期間は、「半年未満」3.9%、「半年以上1年未満」1.4%、「1年以上3年未満」4.3%、「3年以上」5.3%である。

n	半年未満	半年以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上	入院・入所していない
TOTAL 207	3.9%	1.4%	4.3%	5.3%	85.0%

### (4) 退所・退院の見通し

問 16 退所・退院の見通しはありますか。また、退所・退院の希望はありますが。(○は1つ)

病院・施設などに入院・入所して看護・介護を受けている人に、退所・退院の見通しをたずねたところ、16.1%の人が「退所・退院の見通しがある」、25.8%が「現在、見通しはないが、いつかは退所・退院したい」と回答しており、「退所・退院したいとは思わない」という人はいなかった。

n	退所・退院の見通しがある	現在、見通しはないが、いつかは退所・退院したい	退所・退院したいとは思わない	その他	わからない	無回答
TOTAL 31	16.1%	25.8%	—	9.7%	22.6%	25.8%

(5) 退院後の生活を考えたときの不安

問 17 退院後の生活を考えたときにどのような不安がありますか。(○はいくつでも)

「退所・退院の見通しがある」または「現在、見通しはないが、いつかは退所・退院したい」と回答した 13 人に、退院後の生活を考えたときの不安をたずねたところ、7 人 (53.8%) が「病気のこと」、6 人 (46.2%) が「生活費のこと」、5 人 (38.5%) が「掃除や片付け、洗濯のこと」をあげている。

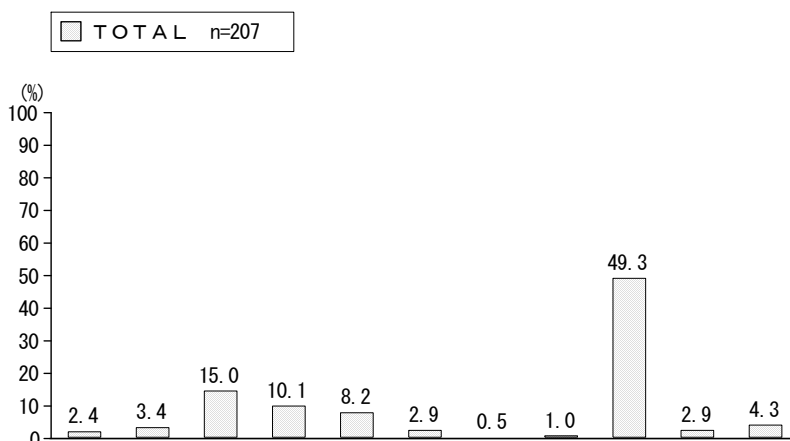
	n	病気のこと	生活費のこと	掃除や片付け、洗濯のこと	仕事や職場の人間関係	住まいのこと	毎日の食事のこと	家族や親せきのこと	現金や貯金通帳の管理のこと	隣近所との関係	通院や外出のこと	自由時間(余暇)の過ごし方	日用品などの買い物のこと	服薬や健康管理のこと	相談相手のこと	無回答
TOTAL	13	53.8%	46.2%	38.5%	30.8%	30.8%	30.8%	23.1%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%

5 日中の過ごし方

(1) 日中の過ごし方

問 18 あなたは、主に日中をどのように過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方・居場所は、20代・30代の約4割、50代以上の5割以上が、「特に何もしていない(自宅にすることが多い)」と回答している。



問3 年齢(10歳刻み)	n	1 11										
		1 幼稚園や保育園、学校などに通っている	2 病院や施設などで看護・介護を受けている	3 働いている	4 デイケアに通っている	5 作業所に通っている	6 プハウスなどに通っている	7 当事者の会、家族会、断酒会などに通っている	8 ボランティア活動に参加している	9 特に何もしていない(自宅にすることが多い)	10 その他	11 無回答
0 TOTAL	207	2.4	3.4	15.0	10.1	8.2	2.9	0.5	1.0	49.3	2.9	4.3
1 10歳未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 10代	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 20代	15	6.7	6.7	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	6.7
4 30代	37	0.0	0.0	16.2	8.1	18.9	0.0	2.7	0.0	43.2	5.4	5.4
5 40代	60	0.0	1.7	13.3	11.7	8.3	3.3	0.0	1.7	50.0	6.7	3.3
6 50代	46	0.0	2.2	21.7	8.7	6.5	4.3	0.0	2.2	52.2	0.0	2.2
7 60代	24	0.0	8.3	4.2	20.8	4.2	8.3	0.0	0.0	54.2	0.0	0.0
8 70歳以上	9	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
9 無回答	11	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	63.6	0.0	27.3

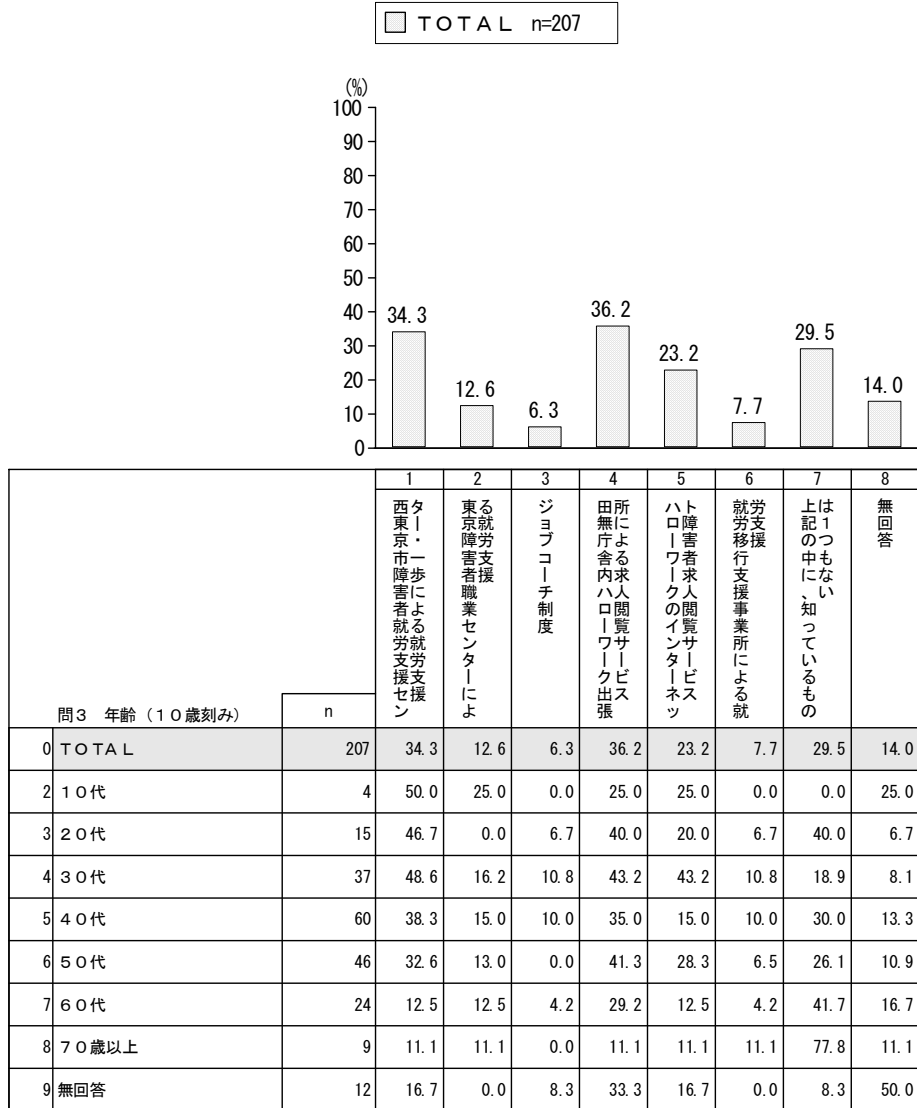
## 6 雇用・就労について

### (1) 就労に関するサービスの認知状況

問 19 就労に関する次のサービスを知っていますか。(〇はいくつでも)

就労に関するサービスの中で、最も知られているのは「田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス」(36.2%)。

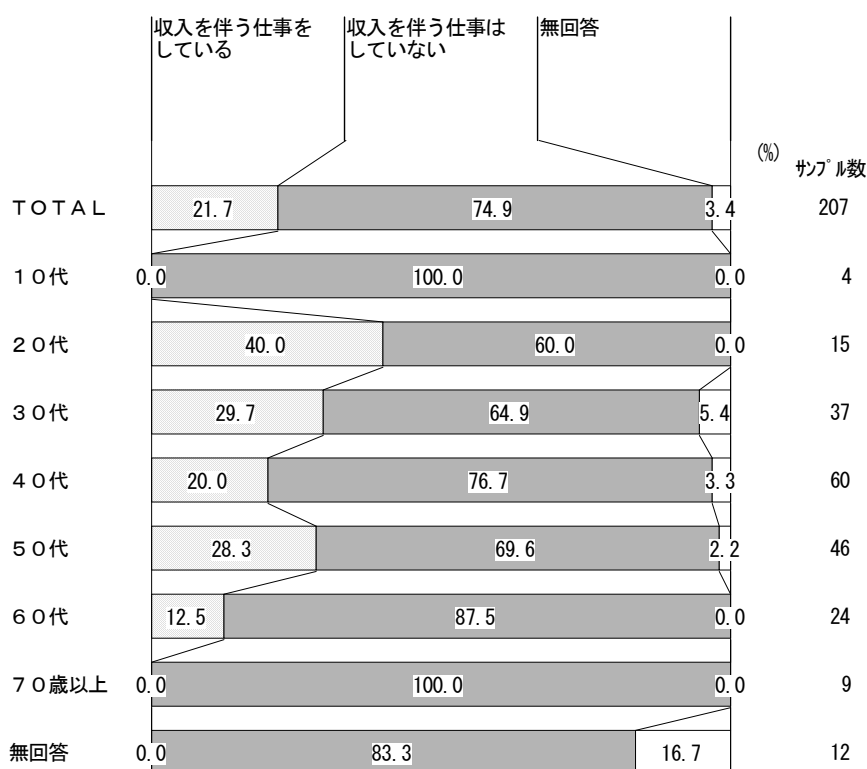
年齢別にみると、20～40代では「西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援」が最も知られており、特に30代では約半数の人が知っている。



(2) 就労状況

問 20 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

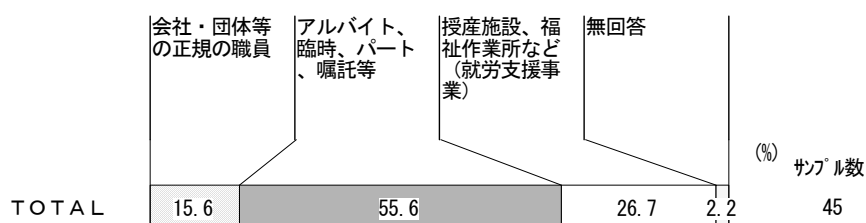
収入を伴う仕事をしている人の割合は、30代では約3割(29.7%)、40代では2割(20.0%)である。



(3) 就労形態

問 21 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

就労形態は、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」が55.6%を占め、「授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)」が26.7%となっている。



【精神障害者】

(4) 給与・賃金額

問 22 あなたご自身の1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金はいくらですか。

全体でみると、1ヶ月あたりの平均的な給与・賃金は、平均 76,713 円である。

就労形態別にみると、1ヶ月あたりの平均的な給与・賃金は、「会社・団体等の正規職員」では 190,000 円、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」では 72,521 円、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」では 14,025 円となっている。

【全体】

TOTAL	~10,000円	10,001~30,000円	30,001~70,000円	70,001~100,000円	100,001~150,000円	150,001~170,000円	170,001~200,000円	200,001~350,000円	無回答	平均
45	15.6%	22.2%	13.3%	17.8%	4.4%	4.4%	8.9%	4.4%	8.9%	76,713円

【会社・団体等の正規の職員】【アルバイト、臨時、日雇い】

TOTAL	~10,000円	10,001~30,000円	30,001~70,000円	70,001~100,000円	100,001~150,000円	150,001~170,000円	170,001~200,000円	200,001~350,000円	無回答	平均	
会社・団体等の正規の職員	7	-	-	14.3%	-	14.3%	-	42.9%	28.6%	-	190,000円
アルバイト、臨時、パート、嘱託等	25	8.0%	16.0%	20.0%	32.0%	4.0%	8.0%	4.0%	-	8.0%	72,521円

【授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)】

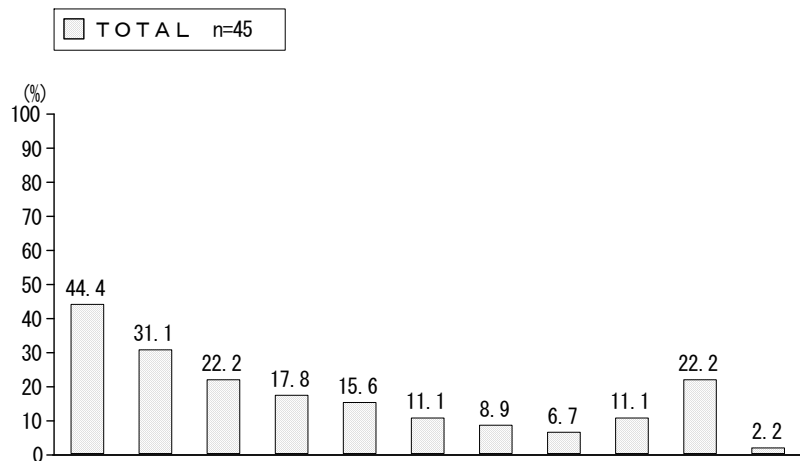
	~5,000円	5,001~10,000円	10,001~15,000円	15,001~30,000円	無回答	平均	
授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	12	25.0%	8.3%	25.0%	25.0%	16.7%	14,025円

(5) 仕事をする上で困っていること

問 23 仕事をする上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

困っていることとしては、「給与・工賃などの収入が少ない」ことをあげる人が 44.4%と最も多い。

就労形態別にみると、「授産施設、福祉作業所など（就労支援事業）」で働いている人では、12人中11人(91.7%)が「給与・工賃などの収入が少ない」ことをあげている。

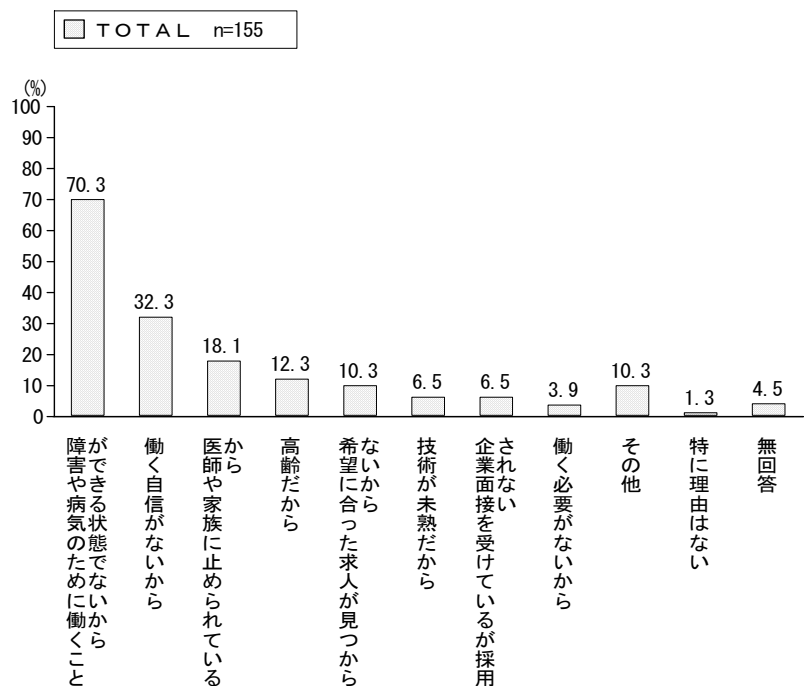


問 21 仕事形態	n	1 給与・工賃などの収入が少ない	5 職場の人間関係	3 通勤が大変	2 勤務に不安、日数が多く体力的	7 障害に対する職場の理解不足	4 業務内容が合わない	8 職場外で相談相手がいない	6 職場の設備が障害に対応して	9 その他	10 特に困っていることはない	11 無回答
0 TOTAL	45	44.4	31.1	22.2	17.8	15.6	11.1	8.9	6.7	11.1	22.2	2.2
2 会社・団体等の正規の職員	7	14.3	42.9	57.1	57.1	28.6	14.3	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0
3 アルバイト、臨時、パート、嘱託等	25	32.0	36.0	20.0	8.0	16.0	12.0	8.0	8.0	8.0	28.0	4.0
5 授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)	12	91.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0
7 無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(6) 働いていない理由

問 24 働いていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

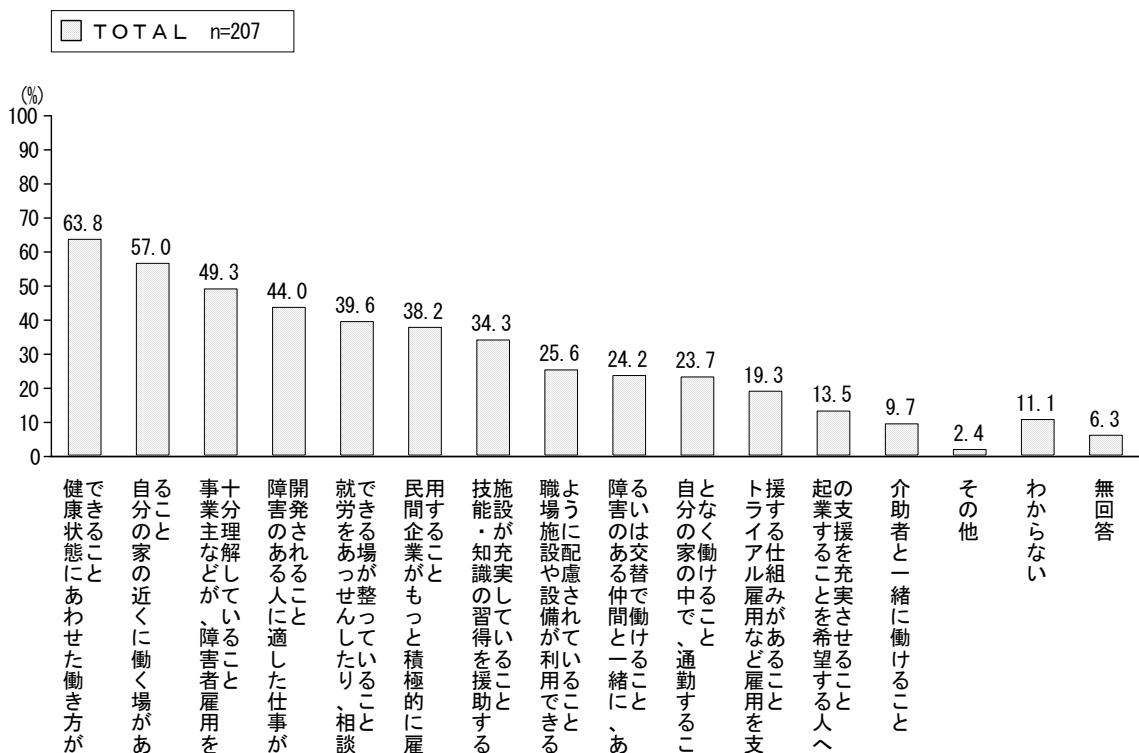
働いていない理由としては、約7割の人が「障害や病気のために働くことができる状態でないから」をあげているが、「働く自信がないから」という人も約3割(32.3%)みられる。



(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 25 障害のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

障害のある人が働くために必要な環境等としては、「健康状態にあわせた働き方ができること」をあげる人が63.8%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」(57.0%)、「事業主などが、障害者雇用を十分理解していること」(49.3%)と続いている。



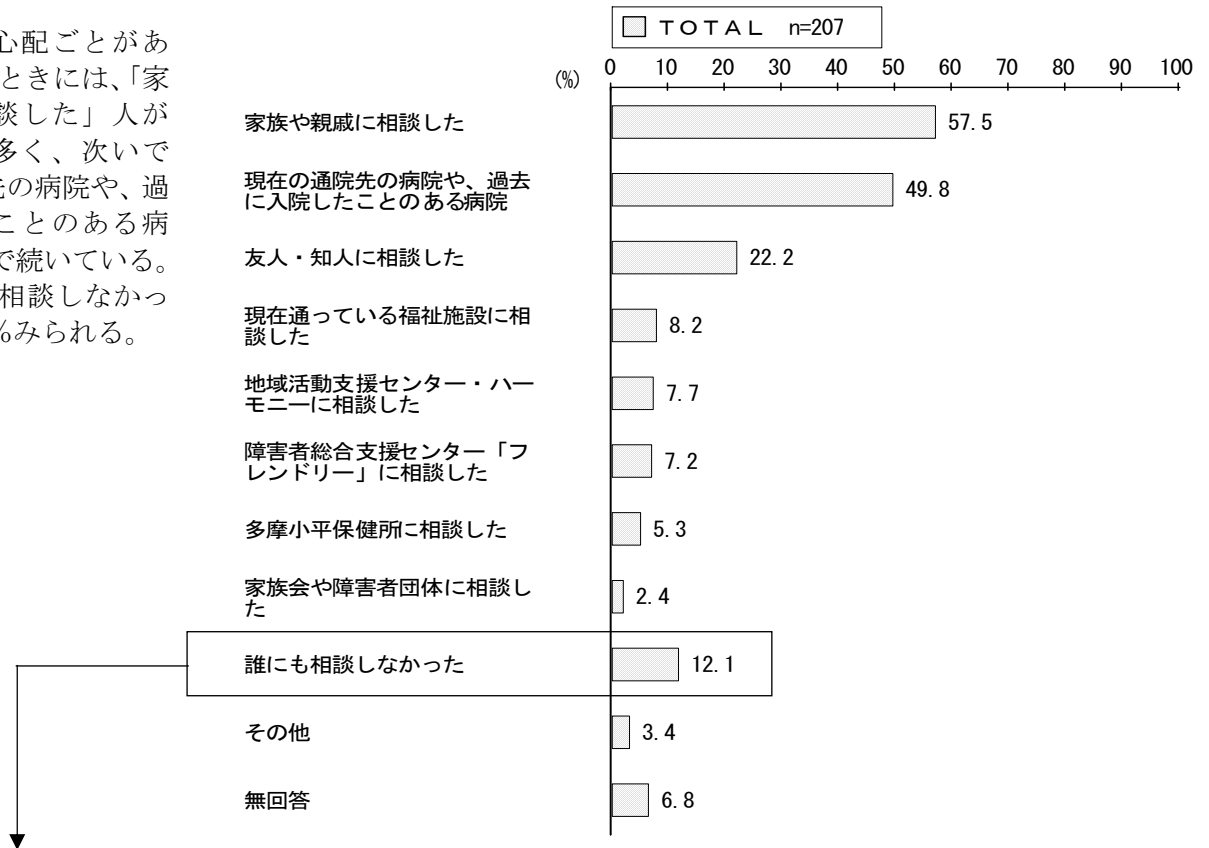
## 7 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先

問 26 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、夜間や休日に急に具合が悪くなったときなど、困ったときに誰かに相談しましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

問 27 差し支えなければ、相談しなかった理由をお書きください。

悩みごとや心配ごとがあるとき、困ったときには、「家族や親戚に相談した」人が57.5%と最も多く、次いで「現在の通院先の病院や、過去に入院したことのある病院」が49.8%で続いている。なお、「誰にも相談しなかった」人が12.1%みられる。



「誰にも相談しなかった」理由を尋ねたところ、以下のような記入があった。

- ・ 相談しても、治らない病気が原因なので、どうもならないので。(女性・40歳)
- ・ 悩みや心配ごとというのは、答がすでにわかっているから(男性・53歳)
- ・ どうせ理解してもらえないから。(男性・50歳)
- ・ 誰かに相談しても自分の苦しみをわかってもらえないから(男性・40歳)
- ・ 相談しても良い結果を期待できなかったから。(女性・71歳)
- ・ 相手がいなかった。
- ・ 深夜から明け方にかけて、精神不安におそわれるが、その時間帯どこへ電話をかけても出てくれないから。(女性)
- ・ 相談する人が浮かばなかった。(女性・57歳)
- ・ 近くに相談する人がいない。(男性・50歳)
- ・ 相談しても話を聞いてくれないのであきらめている。(男性・45歳)
- ・ 相談しても無駄だから(女性・61歳)
- ・ 悩み事はあるが、人に相談できる事ではないから(男性・56歳)
- ・ なんとかかなると思った。寝ていればよくなると思った。(男性・50歳)
- ・ 電話代がかかるから、迷惑を掛けるから。(女性・31歳)



## (2) 希望する相談先や相談体制

問 28 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また、相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

希望する相談先や相談体制について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

### ① 相談先

- ・ 病院、ハーモニー、フレンドリー、作業所、一歩、臨床心理士に相談したい。(男性・38歳)
- ・ えぽっく。カウンセラーみたいな方、発達障害を理解している方がいると良い(女性・27歳)
- ・ 支援センター、保健所、かかりつけの主治医のクリニック。(男性・41歳)
- ・ 保谷障害者福祉センターの先生(男性・47歳)
- ・ 体調に関わることなら医師に、社会的なことであれば市役所に相談したいです。(女性・34歳)
- ・ 通院している病院の先生、カウンセリングを受けたい。(女性・37歳)
- ・ 医療機関(男性・61歳)
- ・ メロディーの看護師さん(女性・47歳)
- ・ 訪問看護師さんやケアマネジャーに相談している(女性・72歳)
- ・ 病院の主治医、ケースワーカー(女性・35歳)
- ・ 訪問介護ナース・デイ職員(女性・57歳)
- ・ 病気について十分理解した人がいる機関や施設(男性・48歳)
- ・ 精神神経医、精神の学びを受けているソーシャルワーカーに出会える事と思います。(女性・62歳)
- ・ 社会資源を良く知っている相談員(PSW)に相談してアドバイスがほしい(男性・32歳)
- ・ 民生委員(男性・65歳)
- ・ じっくりと話をきいてくれる医者・カウンセラー(男性・55歳)
- ・ 友だちやデイケアの職員さんに(女性・41歳)
- ・ 作業所のスタッフ等。(男性・57歳)
- ・ カウンセラー、自立支援対象など出費が少なく。(男性・43歳)
- ・ 先生。作業所のスタッフ。(女性・41歳)
- ・ 公的相談室(男性・63歳)
- ・ 信用できる職員または、支援センターがいいと思う。(男性・33歳)
- ・ 生活保護のケースワーカー、一歩のケースワーカー(男性・51歳)
- ・ 役所のケースワーカーがケアマネジャーになってほしい。(男性・34歳)

### ② 相談体制

- ・ 今かかっている病院へ。電話でカウンセリングしてくれるような。(男性・48歳)
- ・ 弁護士・気軽に相談できる環境(男性・50歳)
- ・ 以前のように生活福祉課の方が定期的に訪問して話をきいてほしい。(女性・38歳)
- ・ 公共の施設、24時間体制(専門家)(女性・57歳)
- ・ ハーモニー以外に市役所で精神医療に詳しい方がいるといいです。(女性・38歳)
- ・ 友人やカウンセラー、友だちがいたり、カウンセリングの場があるとよい(男性・25歳)

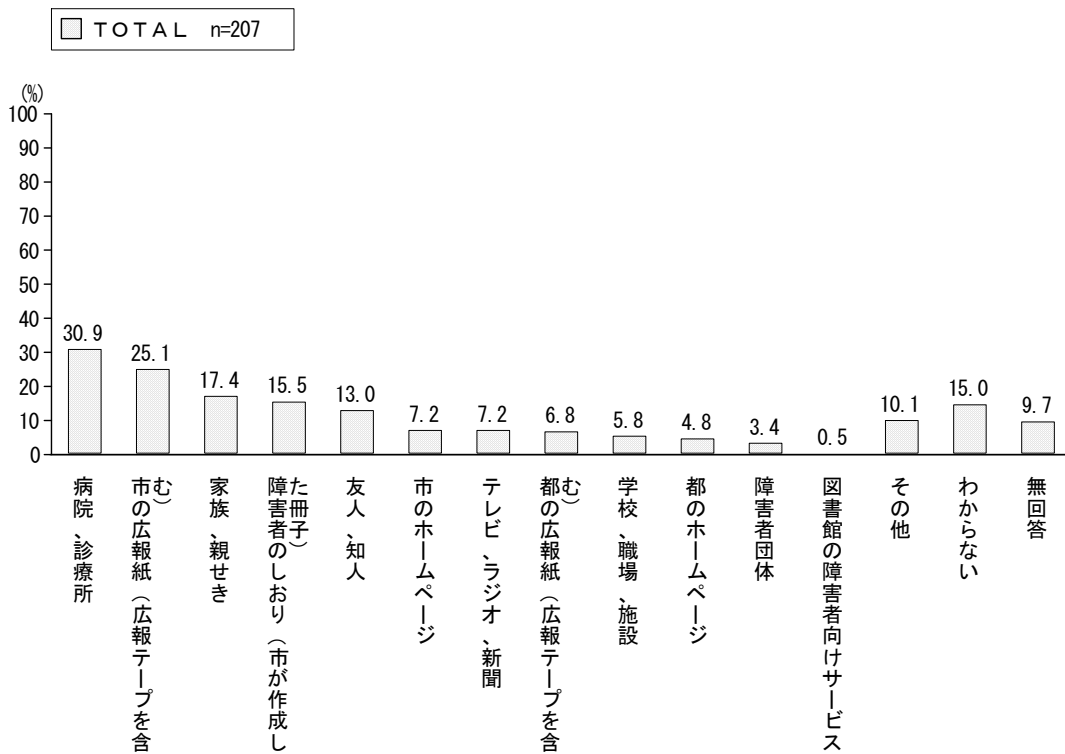
## 【精神障害者】

- ・ 友人・知人・同僚・上司。気を使わなくて済むような体制が整っているとよい。(男性・27歳)
- ・ 主治医、病院の医療相談室。秘密厳守であること。(女性・35歳)
- ・ 弁護士、健常者より優先で、相談させてくれるシステム(女性・44歳)
- ・ 医者に話を聞いてもらえる、電話／メールの仕組み(女性・41歳)
- ・ 病院の先生、学校の前の担任の先生(女性・10歳)
- ・ 病院の主事医、ソーシャルワーカーで24時間体制の公の相談窓口があればよい(女性・41歳)
- ・ 24時間、体調が悪くなった時に相談、来院できる(病院)体制が整っているとよい。(男性・52歳)
- ・ 無料のカウンセリングができる所(女性・45歳)
- ・ 話を否定せずに聞く。(男性・56歳)
- ・ 電話等で相談できたら良いと思います。(男性・40歳)
- ・ ハーモニー、フレンドリー、小平保健所に夜間(9時～5時)に電話相談したいと毎晩思っているが、それができないので、早急にできる体制をつくっていただきたい。(女性)
- ・ 病気を理解してくれること(女性・54歳)
- ・ 当事者会があれば良いと思います。(男性・65歳)
- ・ 同じ病気を患ったが現在回復し元気な人へ、アドバイスを求めたい。(先輩患者によるアドバイス会など)(女性・28歳)
- ・ 同じ悩みを持っている人たちのHP等があればいいな。(女性・48歳)
- ・ 過去に重い障害など克服した人からのアドバイス。カウンセリングなどもあまりお金がかからないやり方でやってほしいです。(女性・29歳)
- ・ 自分の病状や生活をわかってきているケアマネがいてくれれば良いと思う。(女性・57歳)
- ・ うつの気持ち等の相談に乗ってくれる人が専門のアドバイスをしてくれる。保健師さんがいてくれると安心する(女性・48歳)
- ・ 市役所の窓口で一元化して相談できるようにしてほしい(男性・50歳)
- ・ 気軽に集まれる場所、近隣とのつながり(男性・43歳)
- ・ 秘密を守ってくれる事。相談してもお金がかからない事。(収入がないから)(女性・34歳)
- ・ 個人が特定されず、人と対面しなくても電話による相談ができるとよい。(女性・42歳)
- ・ 精神医療に詳しい人々が作った団体などが、個別に話を聞いてくれるとうれしい。(男性・35歳)
- ・ インターネットの窓口、携帯からのコール。(女性・48歳)
- ・ 24時間体制の電話相談の充実(女性・49歳)
- ・ 携帯のメールでかんたんに相談したい(女性・34歳)
- ・ 秘密の保持。(男性・25歳)
- ・ 必要なときに気軽に出入りできる施設がほしい。そこにアドバイスしてくれる支援者や仲間がいるといい。(男性・36歳)
- ・ 近くに相談する所があると良いと思う(男性・56歳)
- ・ 仕事帰りに毎日でも立ち寄って話せる方がいて下さると助かります。身近に気軽にどのようなことでも話を聞いてもらえる公的な場が希望です。(女性・55歳)
- ・ 相談したい場所があれば良い(特に近くに)(女性・52歳)
- ・ お金がかからない所。親身になって聞いてくれる人。(女性・31歳)

(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 29 障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

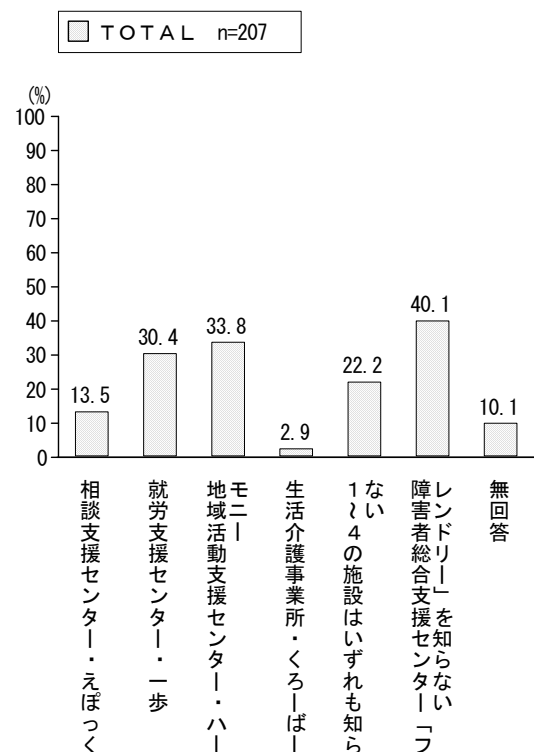
障害福祉サービスなどの情報の入手先としては、「病院、診療所」をあげる人が 30.9%と最も多く、次いで「市の広報紙」(25.1%)、「家族、親せき」(17.4%)と続いている。



(4) フレンドリー内施設の認知状況

問 30 あなたは、西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

フレンドリー内施設の認知度は、「相談支援センター・えぼっく」13.5%、「就労支援センター・一歩」30.4%、「地域活動支援センター・ハーモニー」33.8%となっている。



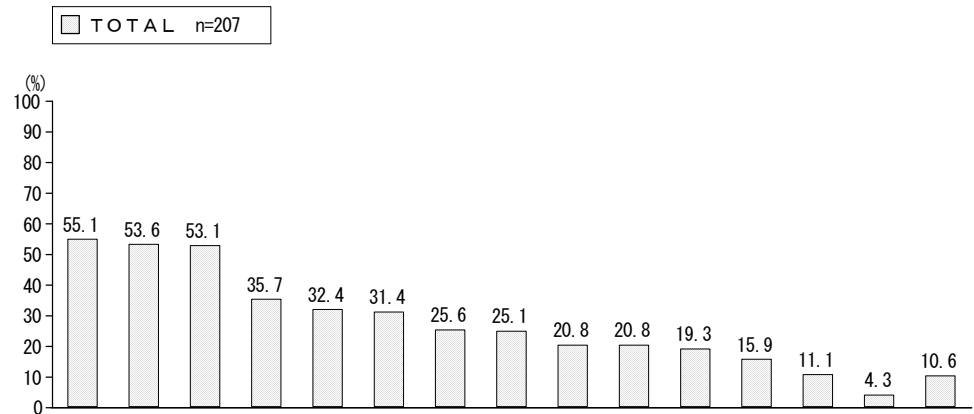
8 福祉サービスについて

(1) 地域で生活していく上で必要なサービス

問 31 あなたが、地域で生活していく上で必要だと思うものはなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

地域で生活して上で必要なものとしては、「いつでも診察してくれる、かかりつけの病院・診療所」(55.1%)、「相談にのってくれる病院、診療所の職員」(53.6%)、「相談にのってくれる市町村の精神保健福祉専門の職員」(53.1%)の3項目がそれぞれ50%を超え高くなっている。

年齢別にみると、20代・30代では、5割以上の人々が「就職についての相談ができる場所」(20代53.3%、30代51.4%)をあげている。



問3 年齢 (10歳刻み)	n	サービス項目														
		3	2	1	5	13	4	7	12	8	9	6	10	11	14	15
0 TOTAL	207	55.1	53.6	53.1	35.7	32.4	31.4	25.6	25.1	20.8	20.8	19.3	15.9	11.1	4.3	10.6
2 10代	4	100.0	75.0	75.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	25.0	50.0	75.0	50.0	50.0	0.0	0.0
3 20代	15	46.7	53.3	53.3	46.7	53.3	20.0	33.3	40.0	20.0	20.0	40.0	6.7	20.0	6.7	6.7
4 30代	37	67.6	59.5	62.2	37.8	51.4	40.5	32.4	29.7	18.9	27.0	21.6	18.9	16.2	2.7	5.4
5 40代	60	58.3	60.0	51.7	46.7	31.7	43.3	26.7	30.0	21.7	21.7	21.7	15.0	8.3	3.3	8.3
6 50代	46	37.0	50.0	56.5	34.8	30.4	21.7	23.9	21.7	21.7	17.4	8.7	21.7	6.5	4.3	13.0
7 60代	24	50.0	45.8	45.8	12.5	12.5	16.7	20.8	16.7	20.8	16.7	12.5	8.3	12.5	4.2	20.8
8 70歳以上	9	66.7	33.3	44.4	33.3	0.0	33.3	11.1	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	0.0	22.2	11.1
9 無回答	12	66.7	41.7	33.3	8.3	16.7	33.3	8.3	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	8.3	0.0	16.7

## (2) 福祉サービスの認知状況・利用経験

問 32 あなたは、次のような障害者サービスがあることを知っていますか。また、利用したことがありますか。(①～⑤のサービスごとに1つずつお答えください。)

問 33 「利用している・利用したことがある」サービスについて、利用した際の感想などをお聞かせください。(上記の①～⑤の番号と、利用の感想等をお書きください。)

以下の5つのサービスのうち、利用経験率(利用している・利用したことがある)が最も高いサービスは、「地域活動支援センター」(14.0%)、次いで「ホームヘルプサービス」(6.3%)。

	利用している・ 利用したことがある	サービスがあることは知 っているが利用したことは ない	知らない・わ からない	無回答	(%)	サンプル数
ホームヘルプサービス	6.3	26.6	52.7	14.5		207
短期入所(ショートステイ)	3.9	24.2	55.6	16.4		207
生活サポート	2.4	16.4	63.3	17.9		207
日中一時支援	1.9	13.5	66.7	17.9		207
地域活動支援センター	14.0	17.9	52.7	15.5		207

地域で生活していく上で「家事を援助してくれるホームヘルプサービス」が必要と回答した人のうち、約6割は「知らない・わからない」(60.5%)と回答しており、サービスのニーズはあるが、実際にどのようにサービスを利用できるかわからない人が多くいることがうかがえる。「ショートステイ」についても同様で、「入院ではなく休息できる施設(ショートステイ)」が必要と回答した人のうち66.2%は「知らない・わからない」と回答している。

問 31 で、地域で生活していく上で「家事を援助してくれるホームヘルプサービス」が必要と回答

	利用している・ 利用したことがある	サービスがあることは知っ ているが利用したことはない	知らない・ わからない	無回答
n=43	14.0%	20.9%	60.5%	4.7%

問 31 で、地域で生活していく上で「入院ではなく休息できる施設(ショートステイ)」が必要と回答

	利用している・ 利用したことがある	サービスがあることは知っ ているが利用したことはない	知らない・ わからない	無回答
n=74	4.1%	18.9%	66.2%	10.8%

サービスを利用した際の感想を自由回答形式で求めたところ、以下のような記入があった。

## ① ホームヘルプサービス

- ・ もっと来て欲しかった。(女性・48歳)
- ・ 掃除や食事の仕方を教えてもらい助かった。(男性・65歳)
- ・ サービスをして下さる人の質、レベルに差が大きいことがあります。(女性・60歳)
- ・ 伝えたことをやってくれてよかった。(男性・47歳)
- ・ 食事のお弁当、頼みました。おいしかった。(女性・67歳)

## ② 短期入所(ショートステイ)

- ・ 利用中は目的(生活リズム改善)を果たせていたのですが、利用後に効果を持続できなかつたので、利用法をまちがえたなあと思っています。(女性・34歳)

【精神障害者】

- ・ 職員さんや入居者の人たちとコミュニケーション少なかった。(女性・41歳)
- ・ 親のレスパイトになって助かる。(男性・13歳)
- ・ 月に1回ぐらい利用をさせてもらっている。大変良いと思っている。(女性・76歳)

③ 生活サポート

- ・ 障害者あつかいせずに、とても良く世話をして下さいました。(女性・50歳)
- ・ 1割負担はかなり助けになっています。(女性・48歳)

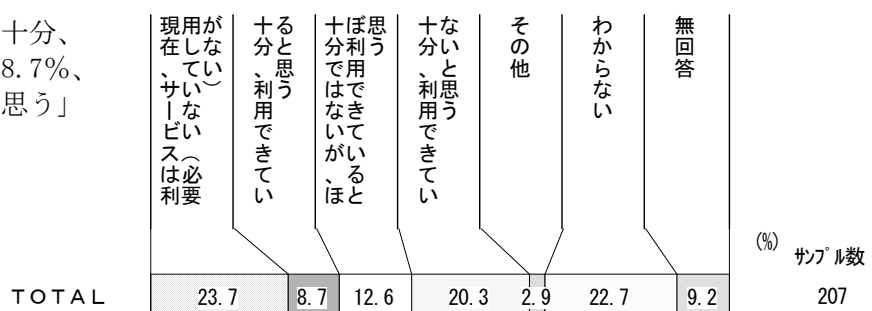
④ 地域活動支援センター

- ・ 何日か講習を受けたが役に立つことはなかった。仕事も自分で探しました。何のための支援なのか分かりません。担当してくれた方に連絡が取れなくなりました。(女性・28歳)
- ・ 職員が一部偽善的。病気に対する理解、男性利用者に対する差別的言動がとても不快だった。(男性・38歳)
- ・ 支援センター「ハーモニー」を利用して友だちができたこと(良いこと)。(男性・41歳)
- ・ 職員の態度が良い人と悪い人がいた。(男性・25歳)
- ・ 丁寧に話を聞いていただきました。その後、自宅に電話もいただき嬉しく思いましたが、本人がなかなか行動を起こすまでに至らず、前進に向けての一步が進まない状態です。(男性・37歳)
- ・ インターネットができるのでよかった。とても親切でよかった。(男性・50歳)
- ・ いろいろ親切な対応をしてくれている。(男性・27歳)
- ・ スタッフの人としか話ができない。たいくつ。(男性・13歳)
- ・ いろいろな人と話ができて、少し病気を気にしないでいられる所がいい。(男性・44歳)
- ・ 利用したくても他の神経痛などでいけないから相談をしたくてもできない。(女性・48歳)
- ・ ハーモニー支援センターはとても親切で何でも相談にのってくれる。(女性・43歳)
- ・ 自分と他の人たちとの障害の度合いや人間性に差がありすぎる。(男性・30歳)
- ・ やることがなくボーとしている。(男性・34歳)
- ・ サービスの内容は初利用時に説明されるが、あとは説明の機会はないし、気軽に説明を求められるふんいきもない。自発的にアピールできる人でないと使えない。(男性・41歳)
- ・ 障害者雇用企業や作業所がのった冊子があり、役に立ちました。作業所の見学に一緒に行っていたでいて、とても助かったです。(女性・38歳)
- ・ 職員が精神病について無知で満足できなかった。(女性・47歳)

(3) 必要なサービスの満足度

問 34 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」人は8.7%、「十分、利用できていないと思う」人は20.3%である。

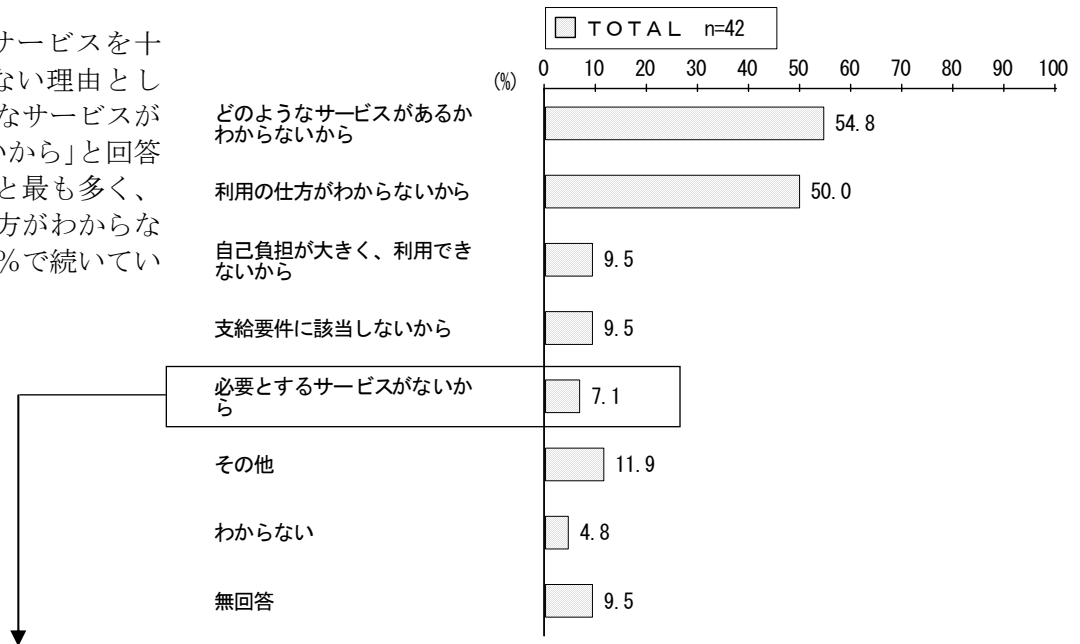


(4) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 35 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

問 36 必要とするサービスとはどのようなものですか。

必要だと思うサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」と回答した人が 54.8%と最も多く、次いで「利用の仕方がわからないから」が 50.0%で続いている。



「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 移動支援で、習い事などの送迎にも区別なくヘルパーさんを使わせてくれること。(男性・13歳)
- ・ 買い物の手助け(女性・27歳)
- ・ 入院時にヘルパー利用したい。(現在4時間)(女性・42歳)
- ・ 部屋の掃除、料理、庭の手入れ、精神面のカウンセリングを低料金で。(女性・57歳)
- ・ 休日、夜間の電話相談機関(いずれも夜9時から明け方5時まで)(女性)
- ・ 食事、休憩のできるような場所(男性・50歳)

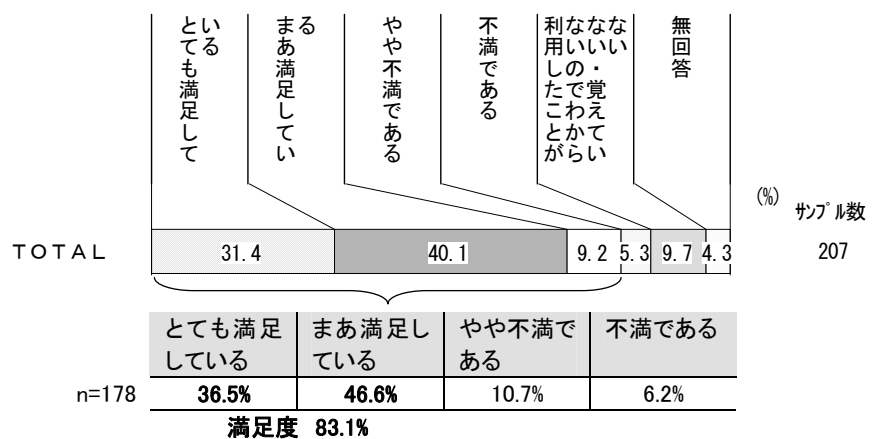
(5) 障害福祉課窓口の満足度

問 37 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きます。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 38 問 37 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

障害福祉課の窓口利用の満足度は、「とても満足している」が 31.4%、「まあ満足している」が 40.1%である。

「利用したことないのだからわからない・覚えていない」及び「無回答」を除いて、満足している人の割合を計算すると、窓口利用者のうち 83.1%が満足していることがわかる。



## 【精神障害者】

満足あるいは不満と回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

### ① とても満足している・まあ満足している

- ・ 対応が丁寧でした。(男性・56歳)
- ・ 詳しく親切に説明してくれる。(男性・40歳)
- ・ 手続について、とてもいいねいで、かつほがらかに対応をして下さるからです。(女性・34歳)
- ・ 相談に対して、めんどうがらず、親切にいいねいに教えてくれた。(男性・67歳)
- ・ おだやかに質問を聞いてくれるから(女性・33歳)
- ・ とても親切でわかりやすく説明してくれた。(女性・57歳)
- ・ 職員の方の対応は親切な様に思える。(女性・55歳)
- ・ 市役所の職員さんは冷たい人が多いイメージでしたが、わからないことはとても親切に対応してくれました(男性・29歳)
- ・ 親身になって相談にのってくれるため。(男性・48歳)
- ・ 窓口に来てくれる人がとてもよくしてくれる。(男性・50歳)
- ・ 相談ごとに対して、職員のかたが親切に対応して下さるから(男性)
- ・ 手続きなどで不明点があっても、とてもわかりやすく対応して下さったから。(女性・34歳)
- ・ いつも対応が親切で早い対応と、わかりやすく説明、指導していただいている。(男性・52歳)
- ・ 障害者自立支援医療費受給申請書の書き方を親切、ていねいに教えて下さった。(女性)
- ・ 知識もある方ばかり、優しく、不満に思ったことはないです。(女性・60歳)
- ・ 物腰がやわらかで落ちついている。(女性・41歳)
- ・ 差別しないから(男性・51歳)
- ・ いつも、それほど混雑していないのでゆっくりできる。(男性・50歳)
- ・ 田無庁舎ですぐ対応してくれる(男性・40歳)
- ・ 事務手続きを一緒にやってくれる。(男性・47歳)
- ・ 自立支援医療、手帳の申請時に、適切に対応して下さった。(女性・28歳)
- ・ 自分に必要だと考えられる情報等を伝えていこうとする努力。(男性・30歳)
- ・ 以前よりも対応が良くなった。(男性・39歳)
- ・ 諸々の相談などに乗ってくれるので良いと思っています。(女性・76歳)

### ② やや不満である・不満である

- ・ 職員によって、知識の差が大きいから。(男性・43歳)
- ・ 介護認定の基準を教えてくれない。(女性・72歳)
- ・ 精神保健福祉手帳をとった段階で、愛の手帳がなくてもサービスを受けられるようになったことを伝えてくれなかったから。(男性・13歳)
- ・ 障害についての知識がほとんど無かった。(女性・10歳)
- ・ 断る課という印象です。幸福になる課と思っていますので、前向に相談に行ける課になると幸いです。(女性・42歳)
- ・ 田無庁舎で手帳の申請について聞いたが「くわしいことはわからない」ということで保谷庁舎に相談に行った。保谷・田無両庁舎の窓口が同じレベルとは思えない。(男性・32歳)



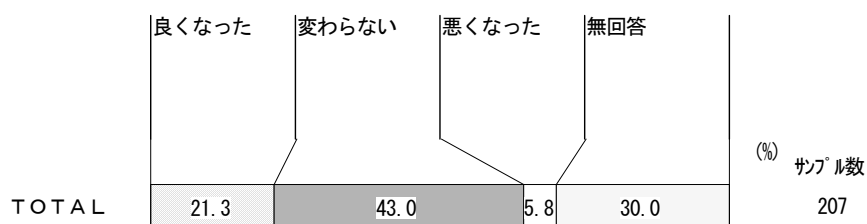
- ・ 訪問してもついたらたての中に入れて、出てこない、気がつかない。人事異動でくわしい人が全くいなくなった。(男性・55歳)
- ・ 話を聞くだけ。職員はカウンターの中より外に出て、家庭の様子は見る事が大事。(男性・71歳)
- ・ 私の担当者は誰ですか?と聞いたら、担当する者はいないと言われた。サービスの事等、何も教えてくれなかった。態度が事務的で冷たかった。(女性・57歳)
- ・ 思いやりがない。ゆっくり話してほしい。サービスを教えてほしい。(女性・44歳)
- ・ 障害者手帳の更新などで、新手帳を受け取るためには保谷庁舎へ行くか、田無庁舎で300円分の切手を提出しないといけないのはとても困ります。(男性・41歳)
- ・ 保谷庁舎でしかできないことがあったりして不便を感じる。(女性・35歳)
- ・ 待つ時間が長い時がある(男性・42歳)
- ・ 質問にはていねいに答えてくれるが、必要な情報をくれることがない。(女性・48歳)
- ・ 手続きや申請以外のことについては、相談しても納得のいく答えがかえってこない。(女性・30歳)

### (6) 5年前との比較

問 39 約5年前(平成20年)と比べて、障害者のサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)

問 40 問 39 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

5年前と比べて、障害者のサービスが「良くなった」と感じている人は21.3%、「悪くなった」と感じている人は5.8%である。



5年前に比べて障害者のサービスが良くなった、あるいは変わらない・悪くなったと回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

#### ① 良くなった

- ・ 手続きが、前より簡単になった。(女性・28歳)
- ・ 障害者手帳が作りやすく、わかりやすくなった。(男性・48歳)
- ・ 民がやる事が早くなった。(女性・51歳)
- ・ 今年になって障害者雇用法で%がアップしたり、職業訓練後、就労するまで支援する体制が少しずつであるが整いつつあると思う。(女性・60歳)
- ・ フレンドリーができたから(男性・29歳)
- ・ 訪問看護に来てもらえるようになって、気持ちが落ち着くようになった(女性・47歳)
- ・ 障害者に良く気を使っている。(男性・57歳)
- ・ サービスの種類が増えた(男性・47歳)
- ・ 訪問サービスがスタートしたこと。(女性・49歳)
- ・ バリエーションが増えました。(男性・43歳)
- ・ 愛の手帳がなくても、支援を受けられるようになったこと。(男性・13歳)
- ・ 障害者自立支援受給者証ができたこと。国がそれを認めたこと。(男性・59歳)
- ・ 精神患者を人間としてあつかうようにはなったと思う(女性・48歳)
- ・ 自立支援の医療費支援があるので。(女性・57歳)

## 【精神障害者】

- ・ 利用できるものが増えた。制限がゆるやかになったと思います。(女性・60歳)
- ・ 精神病に関しての差別視が薄くなったこと。サービス自体を受けても、人目をさげなくてよくなったこと。(女性・48歳)
- ・ カウセリングが、保険がきくようになったり、生保の人は無料になったり。(女性・41歳)
- ・ 行政の理解は格段にすすんだ。しかしかかる費用や、生きづらさ、学校などや地域現場での理解の低さは、やるせないほど進んでいません。(女性・13歳)

### ② 変わらない

- ・ 現在1年毎の更新だがもっと期間を長くしてほしい。(障害が現在の医療技術では良くなる見込がない者だけでも)(女性・63歳)
- ・ 特に良くなったと思う点も、悪くなったと思う点もないから。(男性・38歳)
- ・ 障害者に対して、まだ偏見の意見が、多いから。(男性・41歳)
- ・ まわりの市や区は、診断書の発行料無料など、経済的負担がへっているのに、保谷はかわらない。(男性・55歳)
- ・ 何も変らない。議員を通さないと課長、係長がうごかないから、窓口では各個人でやりなさいという方針だから。相談員が親身になって話をきこうとしない。また、上司に相談して返事すると言いながら何年たっても返事がない。(男性・71歳)
- ・ メリットのあるサービスがはっきり言ってない(女性)
- ・ 自分で動かないと結局サービスを受けるまでに至らないこと。(男性・30歳)
- ・ 「フレンドリー」という器はできたが、職員の未熟さが目立つ。ふみこんだ相談をしても、勉強不足。「ハーモニー」では、通院している病院の私的感想を言われ、不安になった。(女性・30歳)
- ・ 最初から満足できるレベルだった(男性)

### ③ 悪くなった

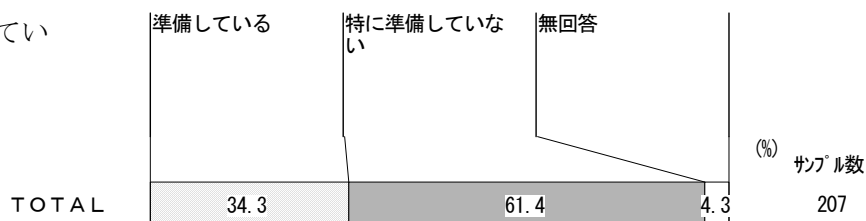
- ・ 障害を悪用する人が増え、本当にサービスを受けたい人に健常者が偏見を抱くようになった。(男性・37歳)
- ・ ホームヘルプサービスがなくなったから(男性・65歳)
- ・ 障害福祉課の方は何もしてくれない。(女性・38歳)
- ・ 障害者認定を提出しているのに、まだ、等級がこなく不満。(女性・54歳)
- ・ 自立支援に変わってから、放置されているように感じる。以前は担当の方がいて、作業所等を一緒に探してくれたが、今は病院の相談室に聞いて、作業所に一緒に行ってもらった。(女性・57歳)
- ・ 自立支援法で医療費が高くなった。(女性・43歳)
- ・ 政治の都合にふりまわされている。(女性・41歳)

## 9 災害対策について

## (1) 災害への備え

問 41 災害に備えて何か準備をしていますか。(〇は1つ)

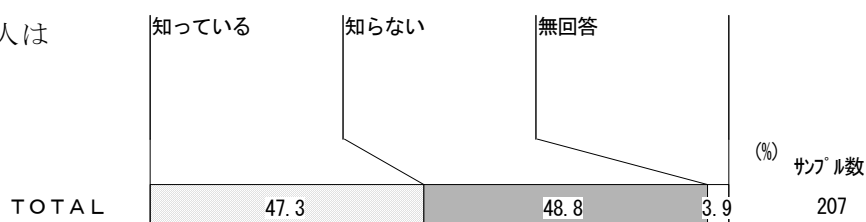
災害に備えて何か「準備している」人は、34.3%である。



## (2) 避難所の認知状況

問 42 避難所を知っていますか。(〇は1つ)

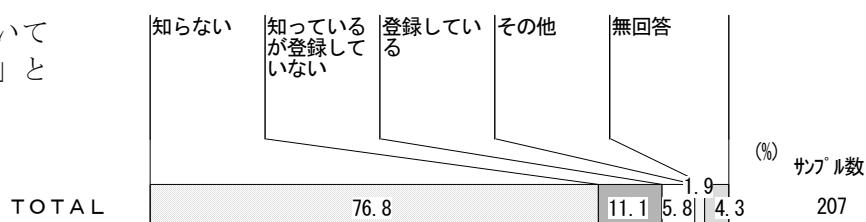
避難所を「知っている」人は47.3%である。



## (3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 43 災害時要援護者登録を知っていますか。(〇は1つ)

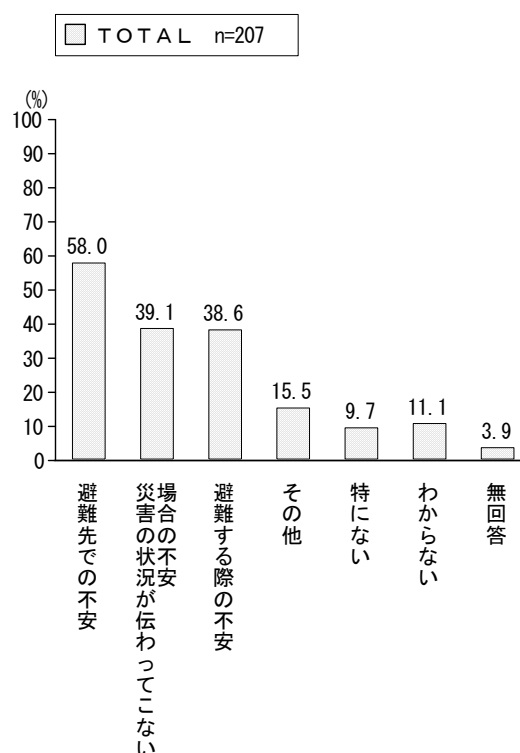
災害時要援護者登録については、76.8%の人が「知らない」と回答している。



## (4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 44 地震や台風などの災害が起こった際の不安は何ですか。(〇はいくつでも)

地震や台風などの災害が起こった際の不安としては、「避難先での不安」をあげる人は58.0%と最も多い。

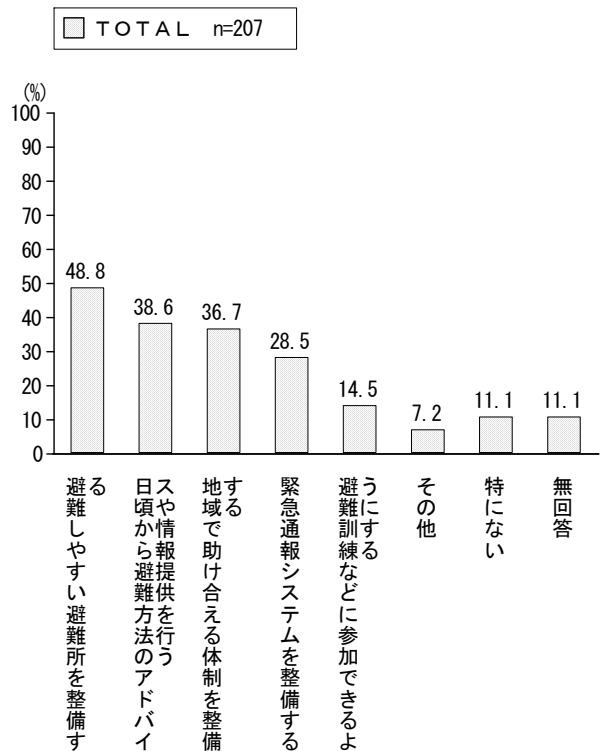


【精神障害者】

(5) 必要な災害対策

問 45 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

必要な災害対策としては、「避難しやすい避難所を整備する」ことをあげる人が48.8%と最も多く、次いで「日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う」(38.6%)、「地域で助け合える体制を整備する」(36.7%)と続いている。



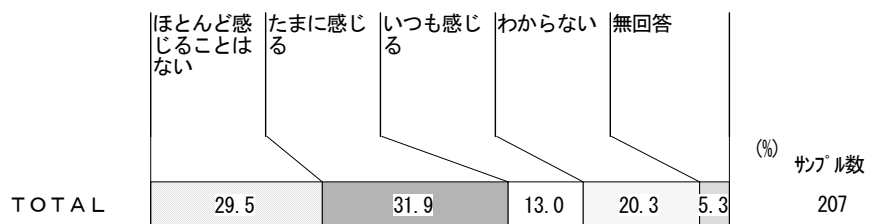
10 差別や人権侵害について

(1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 46 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 47 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害、虐待については、約3割の人は「ほとんど感じることはない」(29.5%)が、13.0%は「いつも感じる」、31.9%は「たまに感じる」と回答している。



【参考】平成13年度調査結果との比較

「ほとんど感じることはない」は13年度に比べて9.2ポイント増加、「いつも感じる+たまに感じる」は13.1ポイント減少。

	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
13年度 n=69	20.3%	34.8%	23.2%	14.5%	7.2%

差別や人権侵害、虐待の内容としては、具体的に以下のような記入があった。

① 言葉・視線

- ・ バスとかが半額になるから障害者っていいよねって、言われたりするとき。(女性・48歳)
- ・ 外出時に症状が出た時は、嘲笑する方がいる。(男性・27歳)

- ・ 娘を見る視線。例えば電車、バスに乗った時、私が座らず娘を座らせるので。(女性・45歳)
- ・ 散歩中ににらまれたり、買い物の道でバカにされたりするような気がした。(男性・25歳)
- ・ 思春期の娘に、「精神病の人は子ども産んじゃいけない」と言われるとき。(女性・47歳)
- ・ ニュースで精神障害者に対する記事が出たときのコメントで、「精神障害者は母親になるべきではない」など、かたよった見方が大勢を占めていること。(女性・28歳)
- ・ 学校や公共交通機関の中での冷たい視線、ひそひそ陰口など。(男性・13歳)
- ・ 家族が病気の人のことをばかにしている。職員も根底では障害者を下に見ている。(男性・59歳)
- ・ 外出時常に好奇の視線にさらされる。(女性・38歳)
- ・ 公共の場での冷たい「普通の」人間の嫌な視線。(女性・41歳)
- ・ 精神疾患に対する冷たい視線を感じます。(女性・60歳)
- ・ 障害を持ちながらの生活は不安で、利用できる制度について、いろいろ尋ねたときの発言とバカにした態度を取られた。(男性・41歳)
- ・ 学校生活・家庭・人と同じにできないとき。しかられたり、ののしられたり、イジメられたり、暴力をふるわれたり。(女性・27歳)

## ② 就労・職場

- ・ お仕事をする上で、病気のことをかくさないと、就労できないから。(男性・41歳)
- ・ うつ病だと面接で伝えたところ、「うちの会社はそういう人はちょっと」という感じでことわられたことがあります。腕の傷でバイトを首になったことがあります。(リストカットの跡)(女性・29歳)
- ・ 職場で働いているとき。(男性・49歳)
- ・ 企業へ面接に行ったとき。(男性・40歳)

## ③ 交通機関

- ・ バスに乗る際に、提示する障害手帳で、イヤな顔される。(男性・43歳)
- ・ 民間バスに乗る時に手帳を見せること。(女性・41歳)
- ・ 以前ダウン症の弟とバスに乗ろうとして乗車拒否されたこともあり、(他のお客様が気にするので、と言われてしまった) そういうことがあることをとても残念に思います。(女性・10歳)

## ④ 障害に対する理解不足や誤解

- ・ 自分は精神病で働けないと訴えても、その苦労を理解してもらえないとき。精神病に関心を持ってもらえないとき。(男性・38歳)
- ・ 障害のある方に(わかりやすい方に)対して、「甘やかし」をすることで、ルールを認知させてあげない。「優しい虐待」をしているのでは、ということが時々見受けられます。(女性・34歳)
- ・ 人に知られたくないことも、他人にもれるといやなことがある(女性・43歳)
- ・ バス等に乗っている時、他の乗客から話しかけられたりするが、本人は応答できない。そのことについて何度か「しつけ」「どういう子なの」と言われた。(女性・10歳)
- ・ 症状を誤解されている(女性・32歳)

## ⑤ その他

- ・ 普通の病院に行っても、まともに診察してもらえない(女性・48歳)
- ・ 手帳の種類によってなぜサービスが異なるのか。駐車場の割引・バスの割引など、身体と精神でなぜ差別するのか。(男性・55歳)

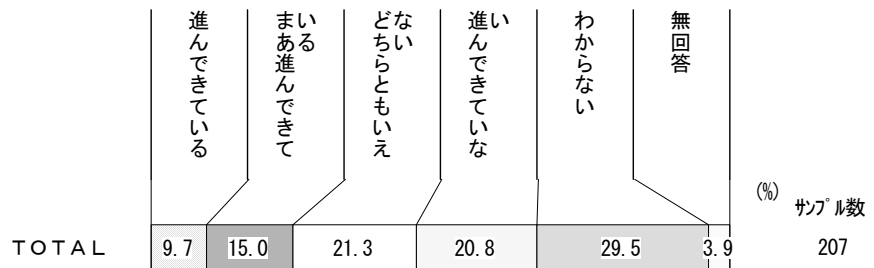
## 【精神障害者】

- ・ 公的機関（労災申請時）に病気を理由に却下されたことがある。（労基署、労基局、中央労働審査会）決定時に重要な時に、こういう差別があると絶望的になる。（男性・65歳）
- ・ 上から目線で、バカにされたような態度。どうせ生保だろみたいな。そんな感じ。（女性・48歳）
- ・ 身体障害に比べ精神への支援が大変少ないこと。（女性・41歳）
- ・ 病気をかくしているが、知られてしまうと差別を受けるだろうと思う。（女性・54歳）
- ・ ボランティアをしたいと市のボランティアセンターに相談に行った際、職員より「精神障害の人は長続きしない、時間を守らない、突然休む、などで紹介先よりクレームがくるので、登録、紹介はできない」と、勇気をもって行った本人につきつけられた。家族としてもショックの言葉でしたが、本人はもっと傷つきました。（女性・30歳）
- ・ 友人らの話の中で（男性・16歳）
- ・ 自分が障害者だとわかった瞬間、態度が変わる。引く。かかわりを持たなくなる。（女性・31歳）

### （2）市民理解の進捗

問 48 あなたは障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。（○は1つ）

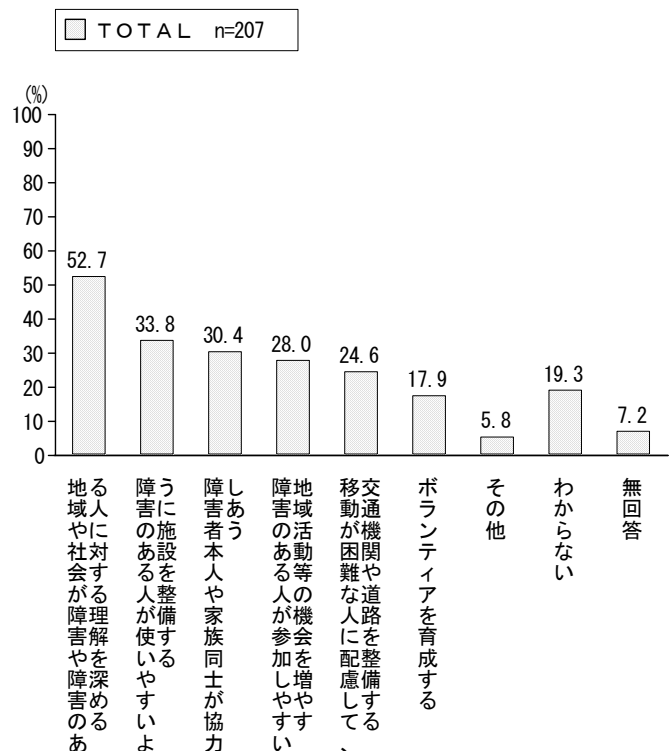
障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と考えている人は9.7%、「まあ進んできている」（15.0%）をあわせると、24.7%の人は市民の理解が進んでいると考えていることがわかるが、「進んできていない」と考えている人も約2割（20.8%）みられる。



### （3）障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 49 障害のある方々が地域や社会に積極的に参加するために、特に大切なことは何だと思えますか。（○はいくつでも）

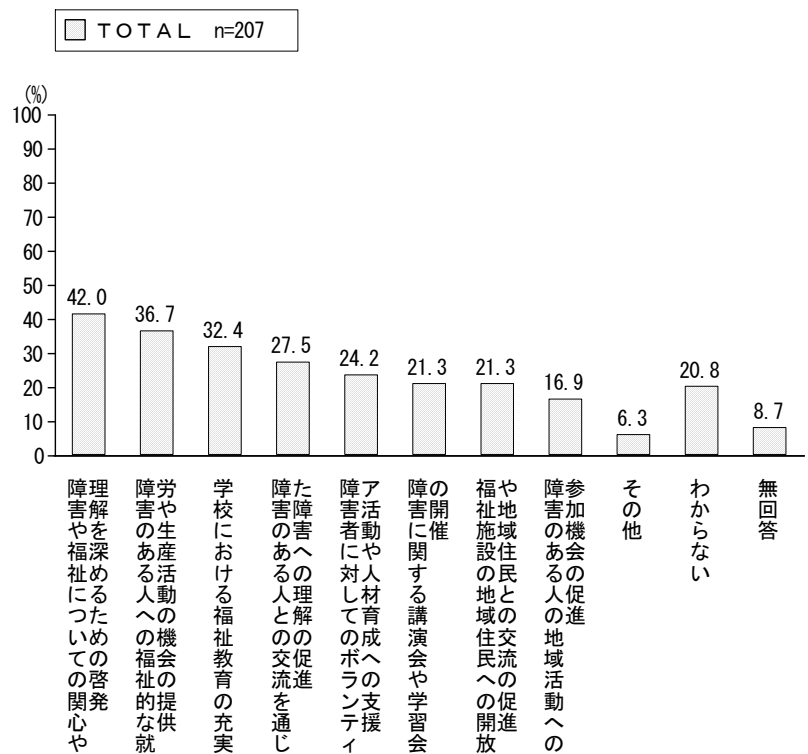
障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこととしては、「地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深める」ことをあげる人が52.7%と最も多く、次いで「障害のある人が使いやすいように施設を整備する」（33.8%）、「障害者本人や家族同士が協力しあう」（30.4%）と続いている。



(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 50 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、何が重要だと思いますか。(○はいくつでも)

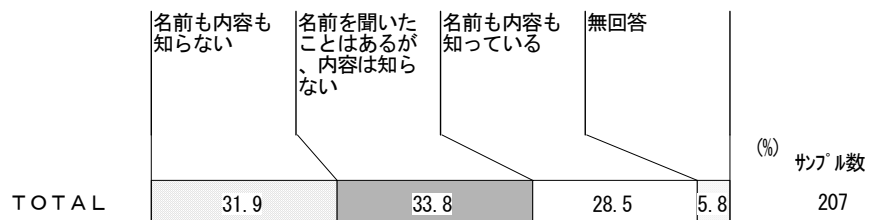
障害や障害のある市民への理解を深めるためには、「障害や福祉についての関心や理解を深めるための啓発」が必要だと考えている人が42.0%と最も多く、次いで「障害のある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」が36.7%で続いている。



(5) 成年後見制度の認知状況

問 51 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

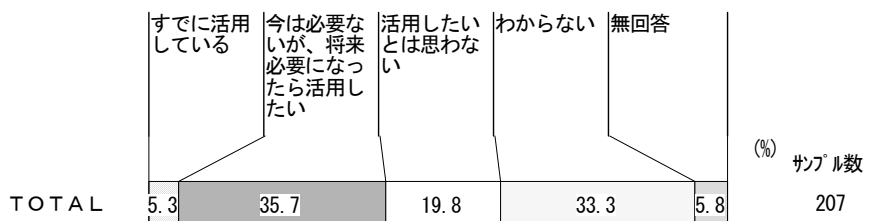
成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は28.5%で、31.9%は「名前も内容も知らない」と回答している。



(6) 成年後見制度の利用意向

問 52 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度を「すでに活用している」人は5.3%、「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と考えている人は35.7%で、約4割の人には利用意向がある。



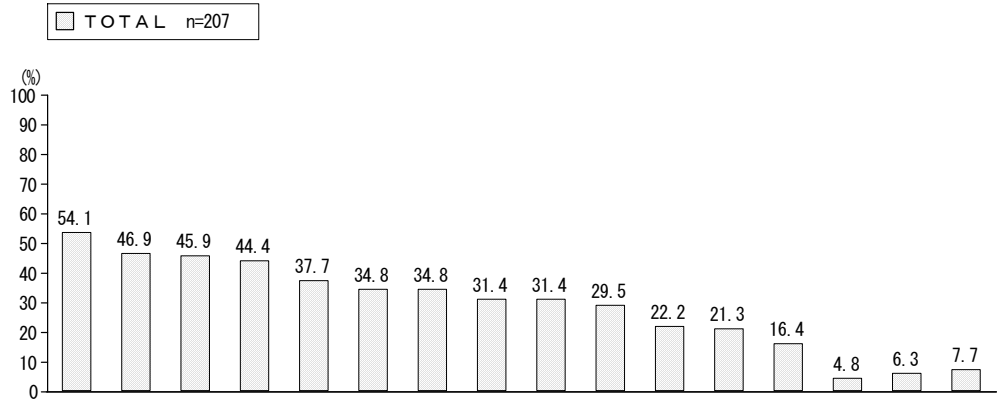
11 市への要望等

(1) 充実させていくべき障害者施策

問 53 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後、市が充実させていくべき障害者施策としては、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」をあげる人が54.1%と最も多く、次いで「障害者サービスや福祉に関する情報提供を充実させること」(46.9%)、「相談体制を充実させること」(45.9%)と続いている。

年齢別にみると、30代では「利用できる施設を増やすこと」をあげる人が48.6%と最も多い。



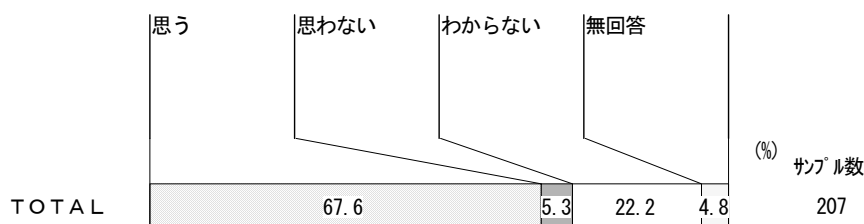
問3 年齢(10歳刻み)	n	施策															
		4	11	12	7	1	2	8	3	6	5	13	9	10	14	15	16
0 TOTAL	207	54.1	46.9	45.9	44.4	37.7	34.8	34.8	31.4	31.4	29.5	22.2	21.3	16.4	4.8	6.3	7.7
2 10代	4	100.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	100.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
3 20代	15	53.3	60.0	40.0	26.7	26.7	53.3	40.0	33.3	26.7	33.3	13.3	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0
4 30代	37	62.2	54.1	56.8	43.2	45.9	40.5	37.8	21.6	48.6	24.3	18.9	29.7	18.9	5.4	10.8	0.0
5 40代	60	63.3	46.7	53.3	46.7	41.7	40.0	36.7	36.7	26.7	35.0	30.0	25.0	20.0	3.3	3.3	8.3
6 50代	46	47.8	47.8	45.7	47.8	34.8	28.3	26.1	23.9	28.3	23.9	10.9	10.9	10.9	2.2	4.3	6.5
7 60代	24	45.8	50.0	29.2	58.3	29.2	29.2	41.7	45.8	33.3	33.3	25.0	25.0	20.8	0.0	8.3	12.5
8 70歳以上	9	33.3	22.2	44.4	44.4	44.4	33.3	33.3	22.2	44.4	55.6	33.3	22.2	33.3	22.2	0.0	33.3
9 無回答	12	25.0	16.7	16.7	25.0	25.0	8.3	16.7	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	16.7	16.7



## (2) 居住継続意向

問 54 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

67.6%の人は、今後も西東京市に住み続けたいと「思う」と回答している。



## 【参考】平成13年度調査結果との比較

「住み続けたいと思う」は13年度に比べて5.3ポイント増加。

	住み続けたいと思う	住み続けたいと思わない	わからない	無回答
13年度 n=69	62.3%	10.1%	26.1%	1.4%

## (3) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介しよう心がけた。

## ① 情報提供に関すること

- ・ 都や市の精神障害者向けのサービスの内容をほとんど知らないのので、医療費の自立支援や障害者手帳の交付の際に、説明やパンフレットの配布などしていただけるといいと思います。(女性・60歳)
- ・ 近隣の市に比べて、障害者に対する情報が少ないと思います。また手続きや申請更新の書類が年間に何件もあって、手続きしなければ生活できない状態になります。「あなたのこの一年の手続きはこのスケジュールで」という冊子や、ハガキでもいただけたらうれしい。(女性・38歳)
- ・ ホームヘルプサービス、ショートステイ、生活サポートなどがあることを知らなかった。西東京市の精神障害者が使えるサービスをまとめたチラシのようなものをいただけたらよかったと思う。障害をもつ母として、子育ての支援にもなるという視点を西東京市にもってほしい。(男性・27歳)

## ② 手続きや相談に関すること

- ・ 手続きした書類など早く届けてほしい。(女性・71歳)
- ・ 家族のない障害者は何とも心細い生活をしていると思うと、公的なサービスはとても大事だと思います。一人一人がどんな介助が必要なのかは違いますから、やはりじっくりお話を聞いてくれる方が、信頼関係を築けた上で、その人の希望を細やかに叶えていただけたらと思います。(女性・54歳)
- ・ 低料金の公共施設でカウンセリング精神相談をしてくれる所が欲しい。(男性・47歳)
- ・ メンタル的な支援がほしいです。(男性・56歳)

## ③ 各種サービスに関すること

- ・ 法人の障害者についての割引制度等を見ると、精神障害が入っていない事が多々。身体障害の支援団体に比べ精神側のロビー活動等、権利のアピールが弱かったのだろう。しかし、そういった区別が、さらなる区別や忘却をうながす事につながると思う。(女性・32歳)

## 【精神障害者】

- ・ 金銭管理・書類の管理をしてくれたり、一緒にやってくれたり、手助け・アドバイスなどを受けられるものがあると良いと思います。(男性・34歳)
- ・ 日常生活で、自分で選んだり、決めたり、管理する行為や過程において、側面的に援助があることを願っています。よりよい援助があれば、人間らしく良く生きたと思えますし、幸せな気持ちも持つ事もでき、前向きな思考を持つ事ができ力もわいてきます。(男性・25歳)
- ・ 広報に部屋の掃除のサービスもやっているとあったので頼もうとしたら、一人暮らしの人だけだと言われた。家族のいる人は家族に手伝ってもらおうように言われた。赤ん坊がまだ小さくて、週末に家族が休みでも疲れていて頼めなかった。(男性・50歳)
- ・ 移動支援の利用について、親にとっては通学の送り迎え、習い事・児童デイサービス、放課後デイサービスの送り迎えなどこそ、負担で支援が必要な部分です。なぜ定期的な利用が不可なのか理由がわかりません。余暇活動に限定する必要があるのでしょうか。利用する側のニーズをくみ上げてほしいです。(女性・41歳)
- ・ 成人してから発達障害が見つかった人たちは療育を受けておらず、何かそのかわりになる基礎常識やコミュニケーションなどを学べるところが欲しい。(男性・34歳)
- ・ フレンドリーの出張所を2~3ヶ所駅前や交通至便の場所に開設していただきたい。障害者に対する相談や、障害者が大勢集まって憩える小規模のもので結構です。(女性・47歳)
- ・ グループホームに申し込みたいが、西東京市では週3回のデイケアか、作業所に通えるのが条件となっていて、役所の福祉課の推薦がもらえず申し込みもできない(女性・45歳)

### ④ サービス従事者・サービスの質に関すること

- ・ 精神障害者は非常に孤独を抱えて支援施設を利用する。その孤独を受け止める人格を、利用者は職員に期待する。孤独がわからない人間には、障害者の支援に向いていないと思う。(男性・47歳)
- ・ 地域包括支援センターを利用したことがあります(目的はリハビリ)、歌をうたうくらいで何の役にも立たず2回で行くのを止めた。職員の質の悪いのが、特に気になった。(男性・65歳)

### ⑤ 雇用・就労に関すること

- ・ 三鷹ハローワークに問い合わせたところ、精神障害者枠に対する求人は、ほとんど皆無に近い状態だと言われた。(女性・38歳)
- ・ 福祉作業所の賃金では生活が成り立たない。服薬しながら懸命に働いている人も多いと思う。具合が悪くなる度に休んでいては、クビになるのは目に見えている。それ程労働の対価として受け取る賃金の意味は厳しいものだと思う。その為には働く時間帯、働く場所への通勤時間等々、自分で十分に考え、決めていくことが大事だと思う。(女性・38歳)
- ・ 官公庁が率先して、民間企業の扉を、開いて欲しいと思う。(女性・38歳)
- ・ 将来的には就労を希望しているので、就労の場の拡充、相談体制の充実など希望します。また情報を入手しやすくしてほしいです。(女性・60歳)
- ・ 最低賃金ほど稼げない人は、最低賃金より少し低い時給から始め、上達してくれば徐々に賃金をあげていくようにして、一般のお店でアルバイトできるようにしてほしい。(男性・34歳)。
- ・ 障害者枠で仕事を探してもみつからないし、数が少ないし、仕事が見つからず働けないと、役立たずだと傷付き落ちこむ。何か人の役に立ちたい。働く自尊心みたいなのがわく。仕事が見つからないと自尊心みたいなものがズタズタ自信もなくなる(男性・34歳)

### ⑥ 経済的な援助に関すること

- ・ 精神病のため収入に困っています。生活保護を受けたいが、両親の持ち家があるため受けられません。現金収入になる具体的なサポートがほしいです。(男性・56歳)
- ・ 都内のバスだけでなく、電車賃も半額にしてほしい。活動する場を広げるため(男性・43歳)
- ・ カウンセリング料の補助がほしいです。働けなくて金銭面にとっても苦勞している人がいると思う。

その原因が精神的なものでカウンセリングにより温和されるかもしれないのにカウンセリング料が払えずカウンセリングが受けられず、働けなくて病院からでる薬や診察料だけで金銭面があっばくされる悪循環がある。(男性・34歳)

### ⑦ 医療・リハビリに関すること

- ・ 精神病院や医療法人が主導する福祉サービスはやめて欲しい。入院施設は必要悪であり早急に地域精神医療に代替させるべく施策を進めて欲しい。(女性・28歳)
- ・ 東大病院みたいな作業療法があったらいいなと思っています。(女性・55歳)
- ・ 精神障害者が一般病院に入院した時に主治医とかかりつけ医の間で情報(処方薬、症状等)のやりとりを医療機関同士でやっていただければ、正確なことが伝わって役に立つと思われます。まだ一般病院では、精神障害者は受け入れられていない様に感じられる時があります。(女性・49歳)
- ・ 息子は約17年間双極性感情障害で、入退院を繰り返し、最近「そう」と「うつ」のサイクルが速くなって、約4年間退院できずにいます。息子は常に退院を希望しており、病状が悪い時にあの手この手を使って、やりとげようとします。担当医から長く置いておけないと言われたこともあり、背景には国の退院促進の方針があるからだと思うと不安がつります。(男性・44歳)

### ⑧ 家族亡き後等の不安に関すること

- ・ 親が死んだ後どうしたらいいかわからない。(男性・35歳)
- ・ 本人(妻)は知的障害者で長期入院、私(夫)は後期高齢の独居者です。私自身もう死も間近なため1人娘は結婚して遠方の他県に居り、私の死後妻はどうなるのか非常に不安です。(女性・51歳)
- ・ 現在、娘(29才)は家事手伝いで無職です。国民年金は親が支払っていますが、いつまでも払い続けられません。五体は満足であるから、通院先の心療内科の先生は、障害者年金はむずかしいと言われました。将来が心配です。(女性・62歳)
- ・ 息子29才は、中学2年から不登校となりました。引きこもりの生活は現在まで続いており、自閉症と知能が低いとの診断を入院の際テストを受け言われました。精神科の受診は、本人が納得しての受診で20才をすぎてからでしたので、何の手当もなく親が扶養しております。親はいまだに就労しており生活はできますが、親の死後を考えると不安になります。(男性・63歳)

### ⑨ 理解や権利擁護、差別・人権侵害等に関すること

- ・ 新聞では凶悪な事件が掲載されると、通院入院歴があった等と書かれている。あれは一種の人権侵害に当たるのではないかと思います。確かに犯行当時、心身喪失で罪が軽減となると、被害者家族は納得いかないというのも理解できるが、やはりそういう風評が主流だと思う。(女性・38歳)
- ・ ケータイ電話の割引があることを知り、手続きにいくとあきらかに店員さんの態度が変わりショックでした。市民の方が、特別な目で見なくなるのには相当な時間が必要だと思います。(女性・49歳)
- ・ 統合失調症に対する理解が進んでいない。(女性)
- ・ 発達障害についての啓発をすすめて下さい。怖がられたり、いじめられたり、いじめたり、親から放置されたり、なかったことにされたり、思うように育たないからとひどい仕打ちをうける。そのような子、人が1人でも減りますように。(男性・32歳)
- ・ 一般の方との接する機会が少ないと思う。市民との関わりが乏しすぎる気がする。体験・講座などで一緒に参加してほしい。障害者の考え方・工夫・目線・悩みなど、一般の人にも知ってもらいたい。(男性・34歳)
- ・ 健常者も障害者も義務教育のように、サービス活動に参加させれば良いと思う。交流とか教育、推進等と言っている時は、まだ障害者、健常者と区別されていると思う。障害者が世間で完全に溶けこむことはまだ難しいと思う。(女性・48歳)
- ・ いろいろな施設で障害者も地域住民も気軽に参加し学び知識を深められる講座・体験・スクール・勉強会があれば障害知識が広まると思う。企業の人も気軽に参加できると障害者雇用に役立つかも。

## 【精神障害者】

手話・点字・介護講座まづばづえ・車いす・白杖・ちょうかくしょうがいを街の中で体験してみるとか「発達障害」には色々な種類があること、100人居れば100とおりみんな違うことなどを多くの人に知ってもらいたい。(男性・34歳)

- ・ なりたくて病気になったわけじゃないのに社会から白い目で見られたり、とても悲しいです。とても辛いです。人によっては甘えだ、がんばりがたりない、だらけているだけ、やれることはあるだろ、死にものぐるいでやってみろなど言われたりもします。どうしたらみとめてもらえるのでしょうか。病気は治りません。前向きに生きるために自分は社会になにができるのでしょうか。理解してもらうにはどう活動したらいいのでしょうか。ひとりでも多くの人が理解してくれたら私たちは救われる。理解してもらえる努力、それは何なのでしょうか。(女性・29歳)
- ・ 近所にどんな障害を持っている人が居て、どんな事に困っているのかを理解し、近所の住民や知らない人でも簡単に手助けできる優しい地域の輪があるとよい。一緒に買い物に行ったりなど、気軽に、ヘルパーさんやボランティアなどじゃなく近所で気軽に。(男性・34歳)

## ⑩ その他

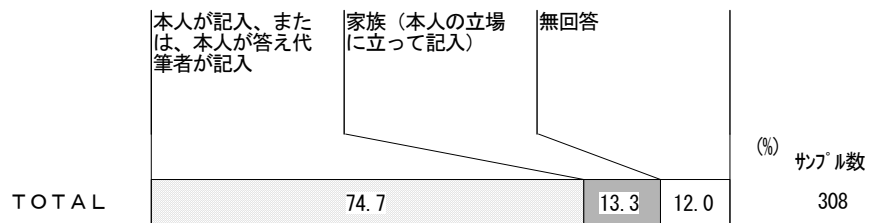
- ・ 西東京市は以前にくらべて、障害者に対する理解や取り組みが非常に進んだと思い、役所の方々等、優しく話もしやすくなり、とてもありがたいと思います。(女性・31歳)
- ・ 高次障害について。2級手帳を取得しましたが、大変な苦勞を致しました。通常の知識では取得不可能です。市の担当者の説明も知識も役立たず、かかり付け医の助言とケアマネの折衝で東村山の病院でやっと認可されました。(女性・48歳)
- ・ 人と交流できる場があると良いのですが、そのような場があっても、結局、孤立してしまいます。デイケアに通っている頃は、仲良くなると自分の方から拒絶反応が起こり、楽しくない、面白くない、お金を払っているのに見返りが無いという思いになり、通わなくなりました。(女性・52歳)

# 1 基本的な属性等

## (1) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

「本人が記入、または、本人が答え代筆者が記入」が74.7%。

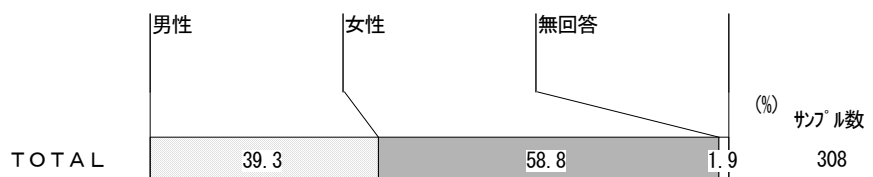


## (2) 性別・年齢

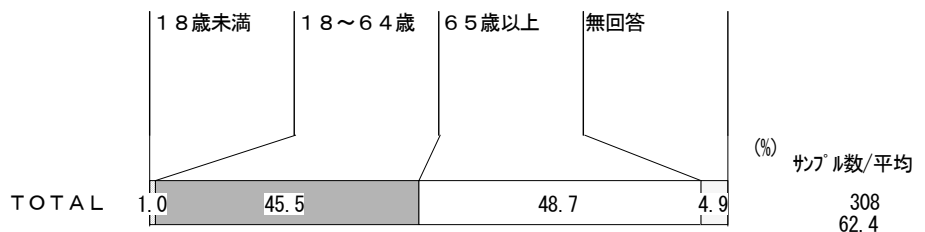
問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

問3 年齢(4月1日現在)を記入してください。

性別が、男性が39.3%、女性が58.8%。



年齢は、50代・60代がそれぞれ17.9%、70歳以上が39.0%で、平均年齢は62.4歳。



n=308	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	平均
	1.0%	1.6%	8.1%	9.7%	17.9%	17.9%	39.0%	4.9%	62.4歳

## (3) 難病患者福祉手当を受けている疾病の種類

問4 難病患者福祉手当(市制度)を受けている疾病は何ですか。

具体的な疾病の記入があったのは244人(79.2%)で、最も多いのは「潰瘍性大腸炎」の44人(14.3%)。

潰瘍性大腸炎	パーキンソン病関連疾患	全身性エリテマトーデス	重症筋無力症	特発性血小板減少性紫斑病	後縦靭帯骨化症
44	35	19	9	8	8
原発性胆汁性肝硬変	皮膚筋炎・多発性筋炎	自己免疫性肝炎	脊髄小脳変性症	強皮症	ネフローゼ症候群
8	8	8	7	6	6
サルコイドーシス	クローン病	多系統萎縮症	特発性大腿骨頭壊死症	網膜色素変性症	多発性硬化症
5	5	5	5	5	4
モヤモヤ病(小脳萎縮症)	シェーグレン症候群	再生不良性貧血	繊維性筋痛症(繊維性筋炎)	天疱瘡	悪性関節リウマチ
4	4	3	3	3	3
筋萎縮性側索硬化症	アミロイドーシス(限性アミロイド)	特発性拡張型心筋症	混合性結合組織病	肥大型心筋症	間脳下垂体機能障害
2	2	2	2	2	2
神経線維腫症(I型、II型)	びまん性汎細気管支炎	アレルギー性肉芽腫性血管炎	ベーチェット病	スモン(重症)	ピュルガー病【バージャー病】
2	2	2	1	1	1
膿疱性乾癬	原発性免疫不全症候群	肺動脈性肺高血圧症	リンパ管腫症(LAM)	黄色靭帯骨化症	人工透析を必要とする腎不全
1	1	1	1	1	1
成人スティル病	脊髄空洞症	その他			
1	1	4			

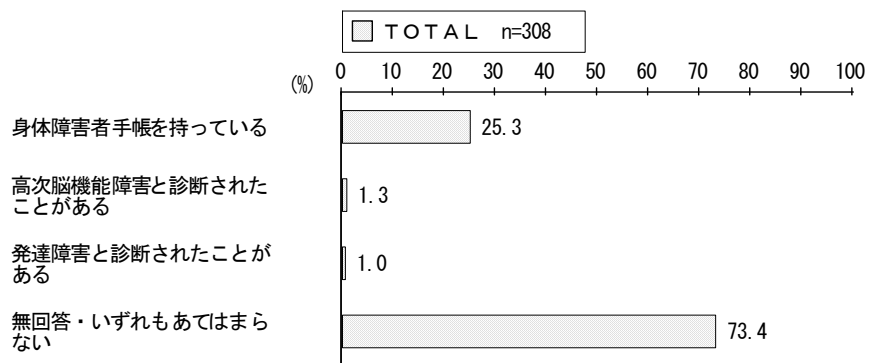
※ 複数回答はそれぞれの疾病にカウント

【難病患者】

(4) 他の障害の状況

問5 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

難病以外の障害との重複状況をみると、4人に1人は「身体障害者手帳を持っている」(25.3%)。

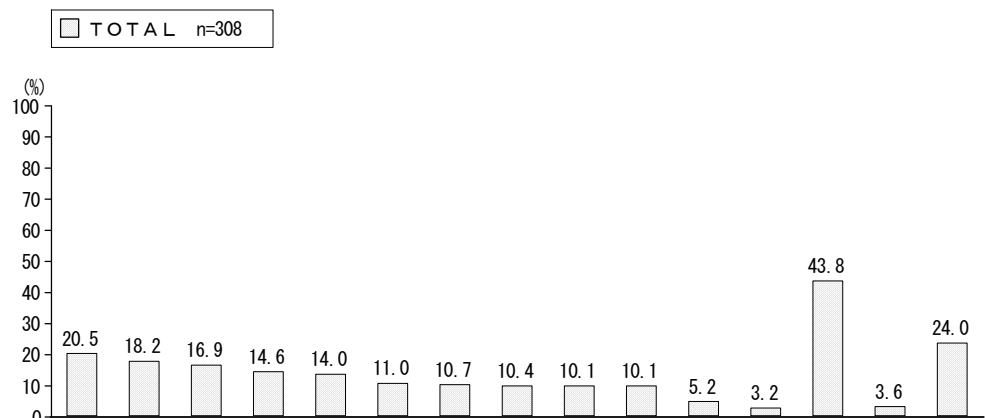


2 介助・援助の状況

(1) 介助・援助を受けている場面

問6 あなたは、どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

実際に介助・援助を受けている場面としては、「外出するとき」をあげる人が20.5%と最も多い。年齢別にみると、18～64歳では、約6割が「介助・援助を受けていない」(60.7%)が、65歳以上では「介助・援助を受けていない」人は約3割(29.3%)となっている。

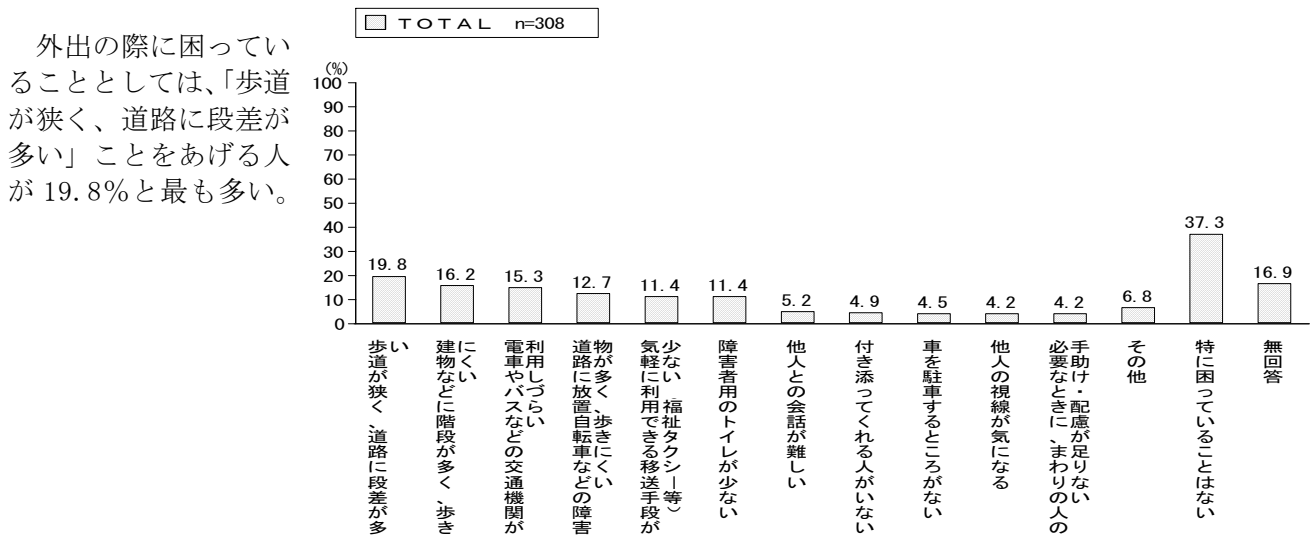


問3 年齢 (3区分)	n	割合 (%)														
		8 外出するとき	4 お風呂に入ったり、身体を洗うとき	3 家事(調理、掃除、洗濯)をするとき	12 暮らしに必要な事務手続き	5 着替えをするとき	6 トイレの使用やオムツ交換するとき	2 食事をするとき	7 家の中の移動をするとき	10 服薬するとき	11 生活費などお金の管理	13 相手の話を伝えたいときや自相手の話を知りたいとき	9 送り迎えのとき、学校や職場、作業所などへの	1 介助・援助は受けていない	14 その他	15 無回答
0 TOTAL	308	20.5	18.2	16.9	14.6	14.0	11.0	10.7	10.4	10.1	10.1	5.2	3.2	43.8	3.6	24.0
1 18歳未満	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
2 18～64歳	140	7.9	7.1	7.1	5.0	6.4	2.9	5.7	2.9	4.3	3.6	0.7	1.4	60.7	2.9	25.0
3 65歳以上	150	34.0	30.7	27.3	24.7	22.7	20.0	16.0	18.7	16.7	17.3	10.0	5.3	29.3	4.7	20.7
4 無回答	15	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	46.7

### 3 外出や社会参加について

#### (1) 外出の際に困っていること

問7 外出の際に困っていることはありますか。(〇はいくつでも)



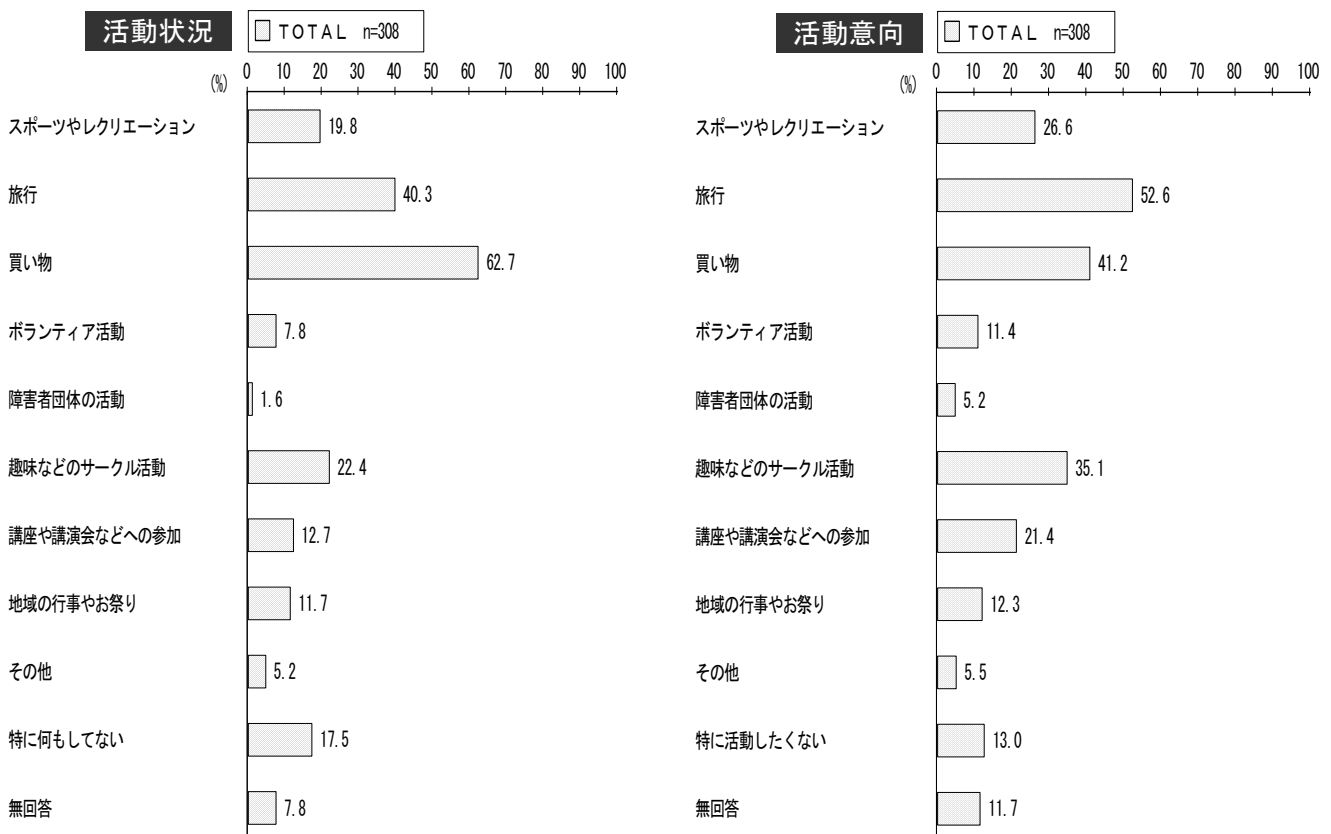
#### (2) 余暇活動の状況・意向

問8 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(〇はいくつでも)

問9 これからどのような活動をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

最も活動意向が高いのは「旅行」で、52.6%の人が活動したいと回答している。

活動状況と活動意向を比較してみると、実際の活動状況に比べて特に活動意向が高いのは、「旅行」(実際40.3%→意向52.6%)、「趣味などのサークル活動」(実際22.4%→意向35.1%)である。

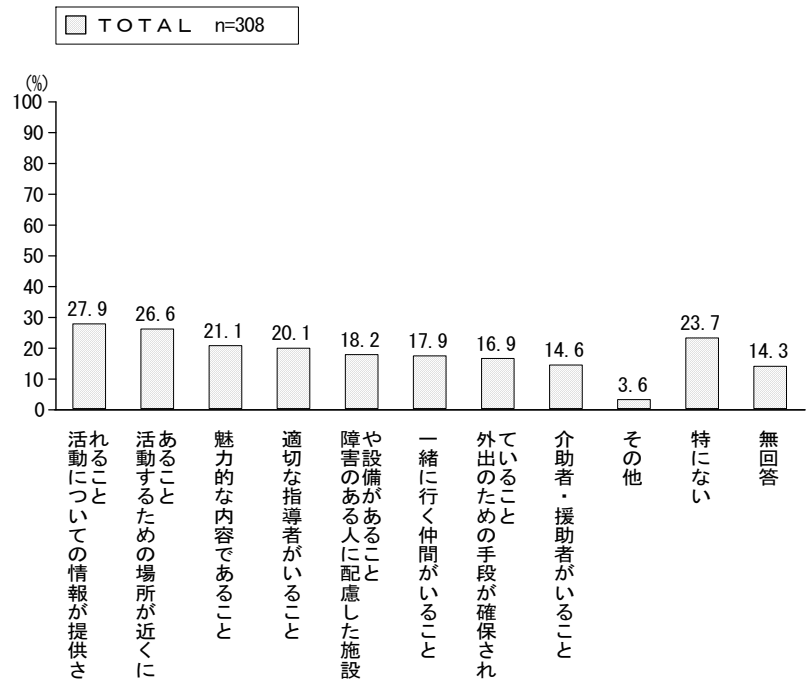


【難病患者】

(3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問 10 問9のような活動をするために、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

希望する余暇活動をするために必要な支援としては、「活動についての情報が提供されること」をあげる人が27.9%と最も多く、ついで「活動するための場所が近くにあること」が26.6%で続いている。

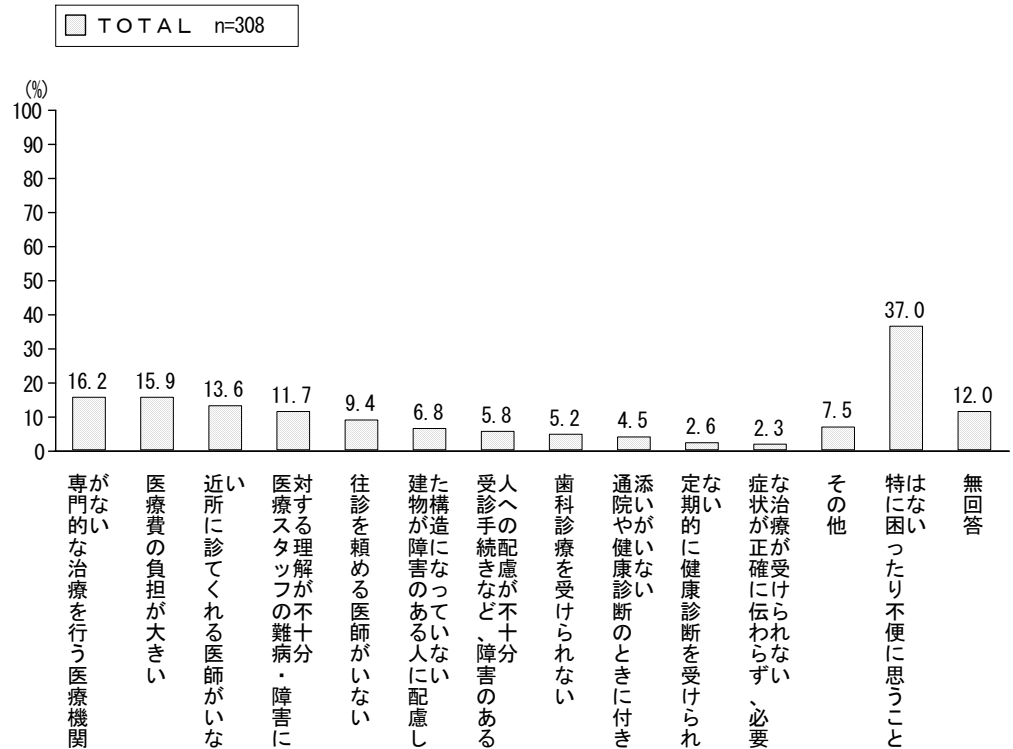


4 健康状態や医療について

(1) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 11 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(〇はいくつでも)

健康管理や医療については、37.0%の人が「特に困ったり不便に思うことはない」と回答しているが、あげられた項目としては、「専門的な治療を行う医療機関がない」が16.2%、「医療費の負担が大きい」が15.9%などとなっている。





## 5 日中の過ごし方

### (1) 日中の過ごし方

問 12 あなたは、主に日中をどのように過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方・居場所は、30代～50代では「自宅にすることが多い」人が3割超、60代以上では「自宅にすることが多い」人が5割超となっている。

	n	幼稚園や保育園、学校などに通っている	病院や施設などで看護・介護を受けている	介護保険のサービスに通っている	福祉のサービスに通っている	働いている	求職中である	自宅にすることが多い	その他	無回答
TOTAL	308	1.6%	7.5%	4.5%	1.0%	24.7%	4.2%	47.4%	1.3%	7.8%
10代	3	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-
20代	5	40.0%	-	-	-	20.0%	20.0%	20.0%	-	-
30代	25	-	-	-	-	60.0%	8.0%	32.0%	-	-
40代	30	-	10.0%	-	-	50.0%	6.7%	33.3%	-	-
50代	55	-	1.8%	-	-	47.3%	10.9%	34.5%	1.8%	3.6%
60代	55	-	3.6%	3.6%	-	23.6%	3.6%	58.2%	-	7.3%
70歳以上	120	-	14.2%	10.0%	2.5%	0.8%	-	55.8%	2.5%	14.2%
無回答	15	-	-	-	-	33.3%	-	60.0%	-	6.7%

## 6 幼稚園・保育園、学校等について

### (1) 通園・通学先

問 13 通っているのは次のうちどれですか。(○は1つ)

「幼稚園や保育園、学校などに通っている」と回答した5人の通園、通学先は、「小学校、中学校、高校（普通学級）」が2人（40.0%）、「小学校、中学校、高校（特別支援学級）」が1人（20.0%）、「大学、専門学校」が2人（40.0%）である。

	n	小学校、中学校、高校(普通学級)	小学校、中学校、高校(特別支援学級)	大学、専門学校
TOTAL	5	40.0%	20.0%	40.0%

### (2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること

問 14 幼稚園・学校などに通っていて困っていることはありますか。(○はいくつでも)

幼稚園や学校などに通っていて困っていることとしては、5人中2人（40.0%）が「まわりの児童・生徒たちの理解が得られない」ことをあげている。

	n	まわりの児童・生徒たちの理解が得られない	通うのがたいへん	先生の理解や配慮が足りない	友だちができない	その他	特に困っていることはない
TOTAL	5	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%

### (3) 学校教育に望むこと

問 15 学校教育に望むことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

学校教育に望むこととしては、「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」、「能力や難病・障害の状況に合った指導をしてほしい」、「個別指導を充実してほしい」、「普通学級との交流の機会を増やしてほしい」をそれぞれ5人中1名があげている。

	n	就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい	能力や難病・障害の状況に合った指導をしてほしい	個別指導を充実してほしい	普通学級との交流の機会を増やしてほしい	その他	特に望むことはない
TOTAL	5	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%

【難病患者】

(4) 介助員制度の認知状況

問 16 市では、通常の学級に在籍する障害のある児童に関して、学校生活の安定や保護者による介助負担の軽減を図るため、介助員を配置する制度を実施していますが、そのような制度が  
 問 17 介助員制度へのご意見等があれば、自由にお書きください。

介助員の制度を「利用している・利用したことがある」人は5人中1人(20.0%)、「制度があることは知っているが、利用したことはない」人は1人(20.0%)である。

	n	利用している・利用したことがある	制度があることは知っているが、利用したことはない	知らない・わからない
TOTAL	5	20.0%	20.0%	60.0%

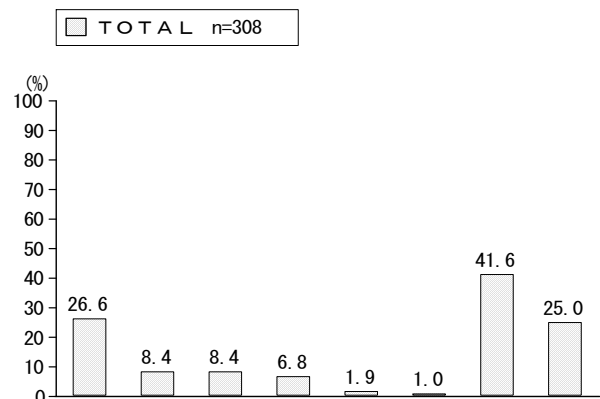
**7 雇用・就労について**

(1) 就労に関するサービスの認知状況

問 18 就労に関する次のサービスを知っていますか。(○はいくつでも)

就労に関するサービスの中で、最も知られているのは「田無庁舎内のハローワーク出張所による求人閲覧サービス」(26.6%)。

18~64歳では、「田無庁舎内のハローワーク出張所による求人閲覧サービス」を知っている人は35.7%、「西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援」を知っている人は7.1%となっている。

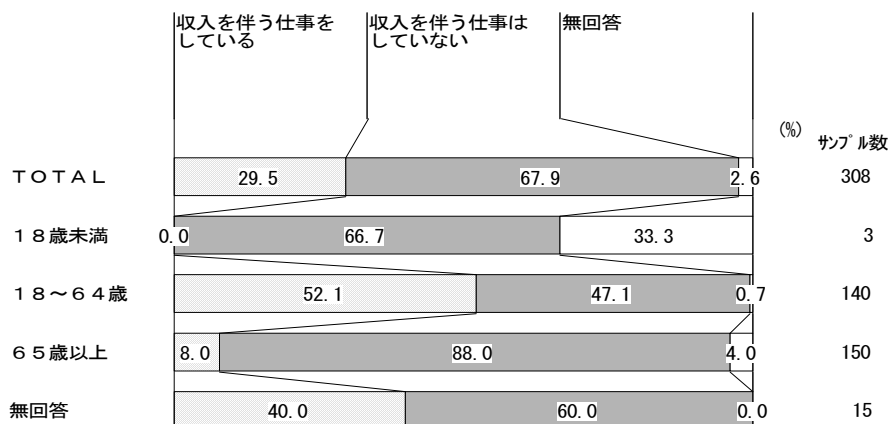


問3 年齢 (3区分)	n	4	1	5	2	6	3	7	8
		田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス	西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援	ハト障害者求人閲覧サービス	東京障害者職業センターによる就労支援	就労移行支援事業所による就労支援	ジョブコーチ制度	上記の中に、知っているもの	無回答
0 TOTAL	308	26.6	8.4	8.4	6.8	1.9	1.0	41.6	25.0
1 18歳未満	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
2 18~64歳	140	35.7	7.1	10.0	7.1	1.4	0.7	52.1	5.7
3 65歳以上	150	17.3	8.7	5.3	4.0	2.7	1.3	33.3	44.0
4 無回答	15	40.0	20.0	26.7	33.3	0.0	0.0	20.0	13.3

(2) 就労状況

問 19 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

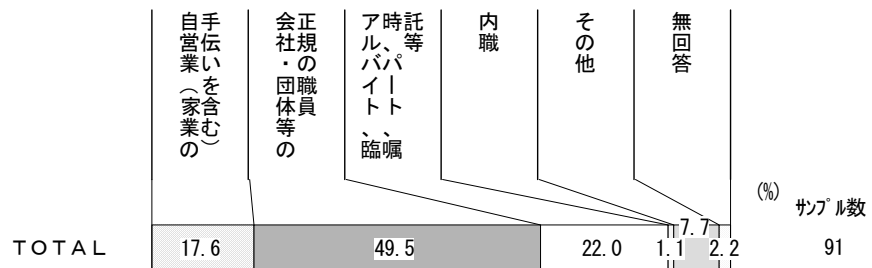
収入を伴う仕事をしている人の割合は、18~64歳では52.1%である。



(3) 就労形態

問 20 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

就労形態は、「会社・団体等の正規の職員」が約半数(49.5%)を占める。



(4) 給与・賃金額

問 21 あなたご自身の1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金はいくらですか。

全体でみると、1ヶ月あたりの平均的な給与・賃金は、平均 221,763 円である。

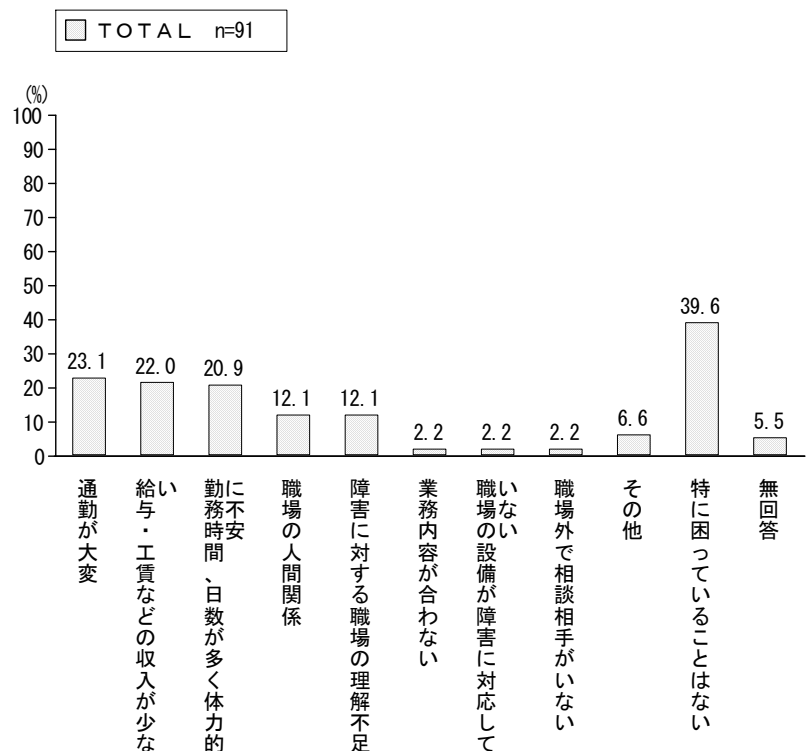
就業形態別にみると、「会社・団体等の正規職員」では 302,057 円、「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」では 97,222 円となっている。

		10,000~50,000円	50,001~80,000円	80,001~100,000円	100,001~200,000円	200,001~300,000円	301,000~400,000円	400,001~500,000円	500,001~1,000,000円	無回答	平均
TOTAL	91	11.0%	9.9%	4.4%	18.7%	17.6%	8.8%	6.6%	2.2%	20.9%	221,763円
自営業(家業の手伝いを含む)	16	12.5%	25.0%	6.3%	12.5%	6.3%	12.5%	-	-	25.0%	150,000円
会社・団体等の正規の職員	45	-	-	-	17.8%	33.3%	13.3%	11.1%	2.2%	22.2%	302,057円
アルバイト、臨時、パート、嘱託等	20	25.0%	20.0%	15.0%	30.0%	-	-	-	-	10.0%	97,222円
内職	1	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	50,000円
その他	7	14.3%	14.3%	-	14.3%	-	-	14.3%	14.3%	28.6%	351,000円
無回答	2	50.0%	-	-	-	-	-	-	-	50.0%	40,000円

(5) 仕事をする上で困っていること

問 22 仕事をする上で困っていることは何ですか。(○はいくつでも)

約4割の人は、仕事をする上で「特に困っていることはない」(39.6%)が、あげられた項目としては、「通勤が大変」(23.1%)、「給与・工賃などの収入が少ない」(22.0%)、「勤務時間、日数が多く体力的に不安」(20.9%)などがある。

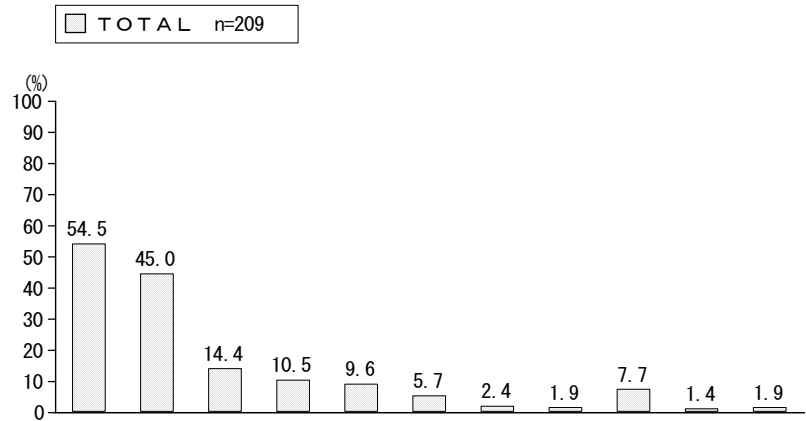


【難病患者】

(6) 働いていない理由

問 23 働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

18～64歳の人では、「病気や障害のために働くことができる状態ではないから」を理由としてあげる人が57.6%と最も多く、次いで「働く自信がないから」(34.8%)、「希望に合った求人が見つからないから」(24.2%)と続いている。

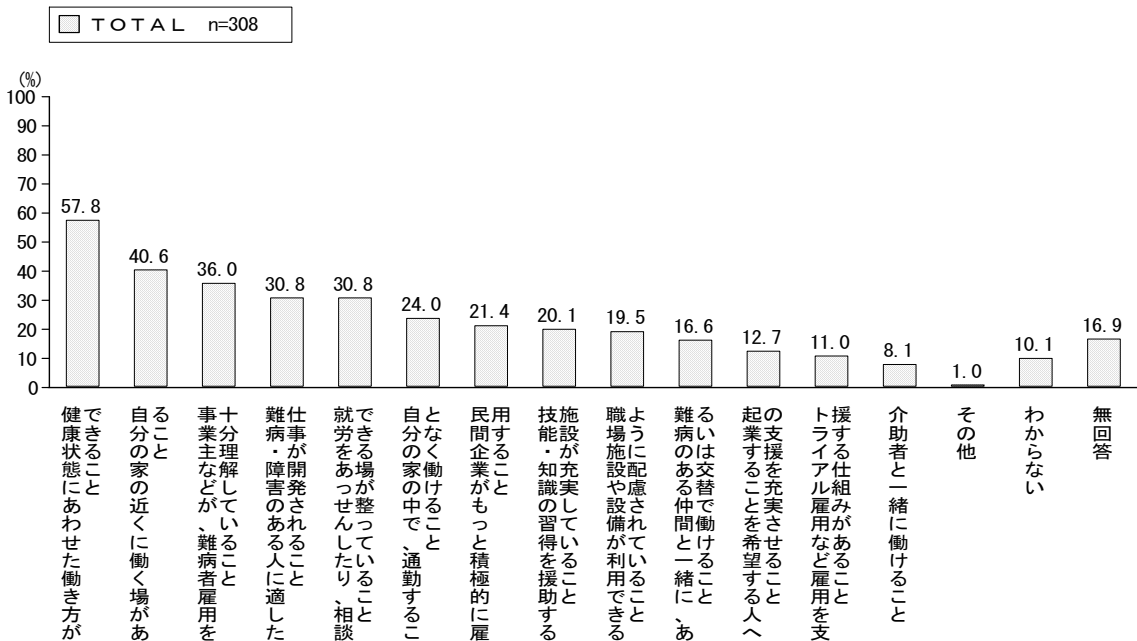


問3 年齢 (3区分)	n	7	1	2	8	3	6	4	5	9	10	11
		高年齢だから	病気や障害のために働くことができない状態ではないから	働く自信がないから	働く必要がないから	希望に合った求人が見つからないから	医師や家族に止められているから	技術が未熟だから	企業面接を受けているが採用されない	その他	特に理由はない	無回答
0 TOTAL	209	54.5	45.0	14.4	10.5	9.6	5.7	2.4	1.9	7.7	1.4	1.9
1 18歳未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
2 18～64歳	66	12.1	57.6	34.8	7.6	24.2	13.6	6.1	6.1	7.6	3.0	0.0
3 65歳以上	132	75.0	40.9	4.5	12.1	1.5	2.3	0.0	0.0	6.1	0.8	2.3
4 無回答	9	77.8	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0

(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 24 難病・障害のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

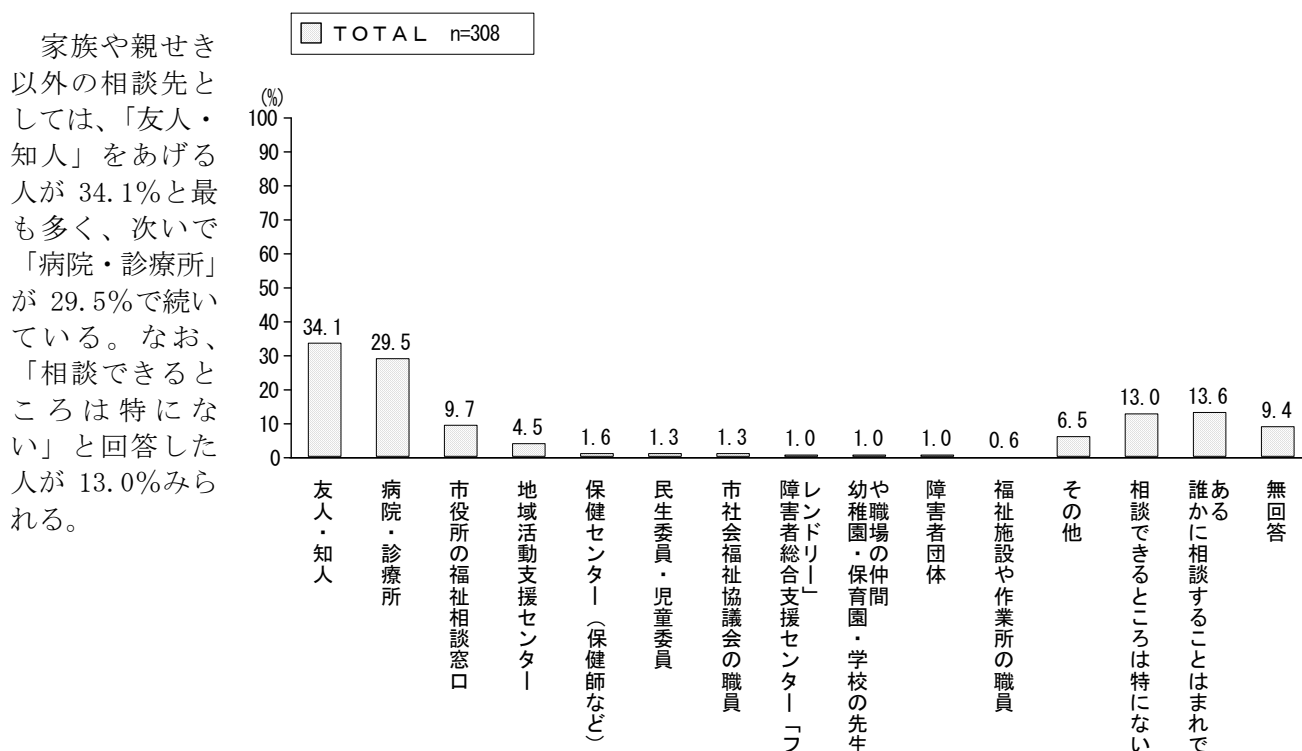
難病・障害のある人が働くために必要な環境等としては、「健康状態にあわせた働き方ができること」をあげる人が57.8%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」(40.6%)、「事業主などが難病患者・障害者雇用を十分理解していること」(36.0%)と続いている。



## 8 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとの相談先

問 25 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。(〇はいくつでも)



### (2) 希望する相談先や相談体制

問 26 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

希望する相談先や相談体制について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

#### ① 相談者・相談先

- ・ 友人・知人・医療機関の医師に相談の上、市役所内に行きます。(女性・59歳)
- ・ 市役所(女性・69歳)
- ・ まず身近にいて信頼できるケアマネさんやヘルパーさんに相談したい。大きな悩み事であればカウンセラーの先生や病院を紹介していただくことができるのではと思います。(女性・72歳)
- ・ 市役所の福祉課などに気軽に相談できるという。(女性・56歳)
- ・ 高齢なので先々のことなど市役所の相談窓口で相談したいと思っています。(女性・76歳)
- ・ セラピスト。市の公報で助けてくれる窓口や組織知らせて欲しい。(女性・83歳)

#### ② 相談体制

- ・ 病気を良くわかってくれる方がいて、話をじっくり聞いてくれる。(女性・55歳)
- ・ 病院や役所などに病気に関して正しい知識を持つ人が窓口にいるといいと思います。(女性・67歳)
- ・ 病気については気軽にセカンドオピニオンが得られるように病院・診療所間で連携していただけるといいと思います。(男性・40歳)
- ・ 医療コーディネーターや、社内の保健師の充実。(男性・50歳)

## 【難病患者】

- ・ 病院に相談窓口があれば助かります。病気、障害に対する知識や理解を持った方が相談を受けてくれる窓口があれば、患者側も少し救われる気がします。(女性)
- ・ 相談する方が医療の知識も備えていると、より心強い相談もできると思います。(女性・63歳)
- ・ 身体障害者手帳を持った時点で、総合的相談できる人を紹介してくれるシステム。(女性・61歳)
- ・ 病気の事、将来の不安、家族の事など心配がつきませんが、ただ思っている事を聞いてくれるだけで良いので、そのような電話相談などがあると良いと思っています。(女性・52歳)
- ・ 市役所の福祉相談窓口や障害者総合支援センターなどの人的充実(知識または、企業との仲介などができるなどのネットワークも含めて)(男性・59歳)
- ・ 市役所福祉相談員窓口告知体制の整備。(女性・75歳)
- ・ 窓口があり、専門知識があり、ゆっくり時間をかけて相談できる場所があること(女性・50歳)
- ・ 市の窓口では、プライバシーに配慮した対応があれば、相談等にも行きやすい。(女性)
- ・ 市役所出張所等、出向かなくとも悩みや心配ごとを話せるホットライン的なもの。(女性・58歳)
- ・ 相談窓口が用意されていても、独居や高齢者世帯、高齢の介護者との2人世帯などは、足を運ぶ力を失っています。行政が個別の状況を把握して、積極的に関わっていく事が必要。(男性・51歳)
- ・ アンケートみたいな感じで、きいてもらえる体制があればよいかなと思います。(女性・35歳)
- ・ 気兼ねなく相談できる電話相談。必要あれば各専門を紹介していただけたら。(女性・49歳)
- ・ 疾患を持っているが子どももいます。病院への通院・治療の際に子どもを預ける所がなく悩んでいます。そういう事もアドバイスがほしい。1本の電話で解決できるのが希望。(女性・39歳)
- ・ ワンストップの相談窓口が必要。(女性・65歳)
- ・ 理解のある職員の方がいらっしゃる施設や団体。(男性・38歳)
- ・ 同じ難病者のコミュニティーがあるとうれしい。(男性・30歳)
- ・ 社会福祉士など制度等の専門の方がいて個室、時間が十分に取れること。(女性・52歳)
- ・ 悩み事に対してのアフターフォロー、解決するまで、見届けて欲しい。(女性・77歳)
- ・ 人の目を気にせず、安い料金で、専門家によるメンタルやキャリアのカウンセリングやコンサルテーションを受けられること。
- ・ 治らない病気である事を知っている人や機関があれば相談したい。理解されないことがストレスになります。(女性・38歳)
- ・ ネット等を利用した相談サイトを設け気軽に相談できる環境がほしい。(男性・36歳)
- ・ 相談窓口は一つで相談内容にそれぞれの機関が連携し、出口でいくつかの選択肢を選べるようなシステム。(女性・65歳)
- ・ 相談したいと思ったときにすぐに相談できる体制。(女性・30歳)
- ・ カウセリングルーム。補助金が出ると利用しやすい。(男性・61歳)

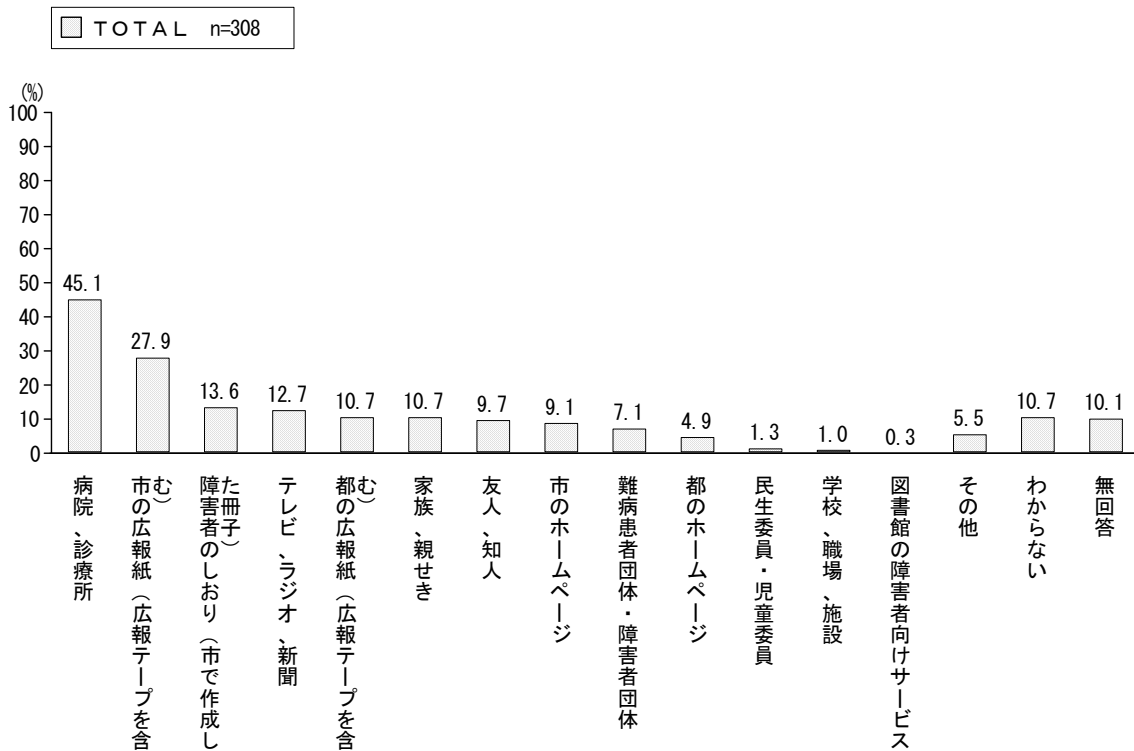
## ③ その他

- ・ 周囲の人に知られたくないので、自分で考えるしかないと考えています。第三者に相談するとしても、自分の生活状況や病状を短時間で説明したり、わかってもらえないと思います。(女性・35歳)
- ・ 主治医に定期的に相談できている。公共機関に相談しようとは思ったことがない。(女性・33歳)
- ・ 役所に難病の届けを出した時、相談できる団体等を紹介してほしい。(女性・63歳)
- ・ 市役所の相談窓口は詳しいことはわからないようで、直接そちらで聞いてくださいと言われてたりする。答は出なくてもせめて親身になって話を聞いてくれると納得します。(女性・96歳)

(3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 27 難病・障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

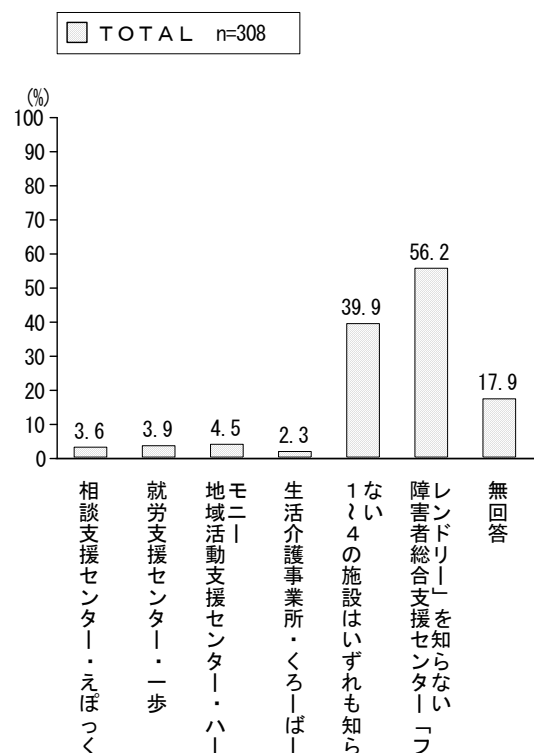
難病・障害福祉サービスなどの情報の入手先としては、「病院、診療所」をあげる人が 45.1%と最も多く、次いで「市の広報紙」が 27.9%で続いている。



(4) フレンドリー内施設の認知状況

問 28 あなたは、西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

フレンドリー内施設の認知度は、「相談支援センター・えぼっく」3.6%、「就労支援センター・一歩」3.9%、「地域活動支援センター・ハーモニー」4.5%、「生活介護事業所・くろーばー」2.3%となっている。



## 9 福祉サービスについて

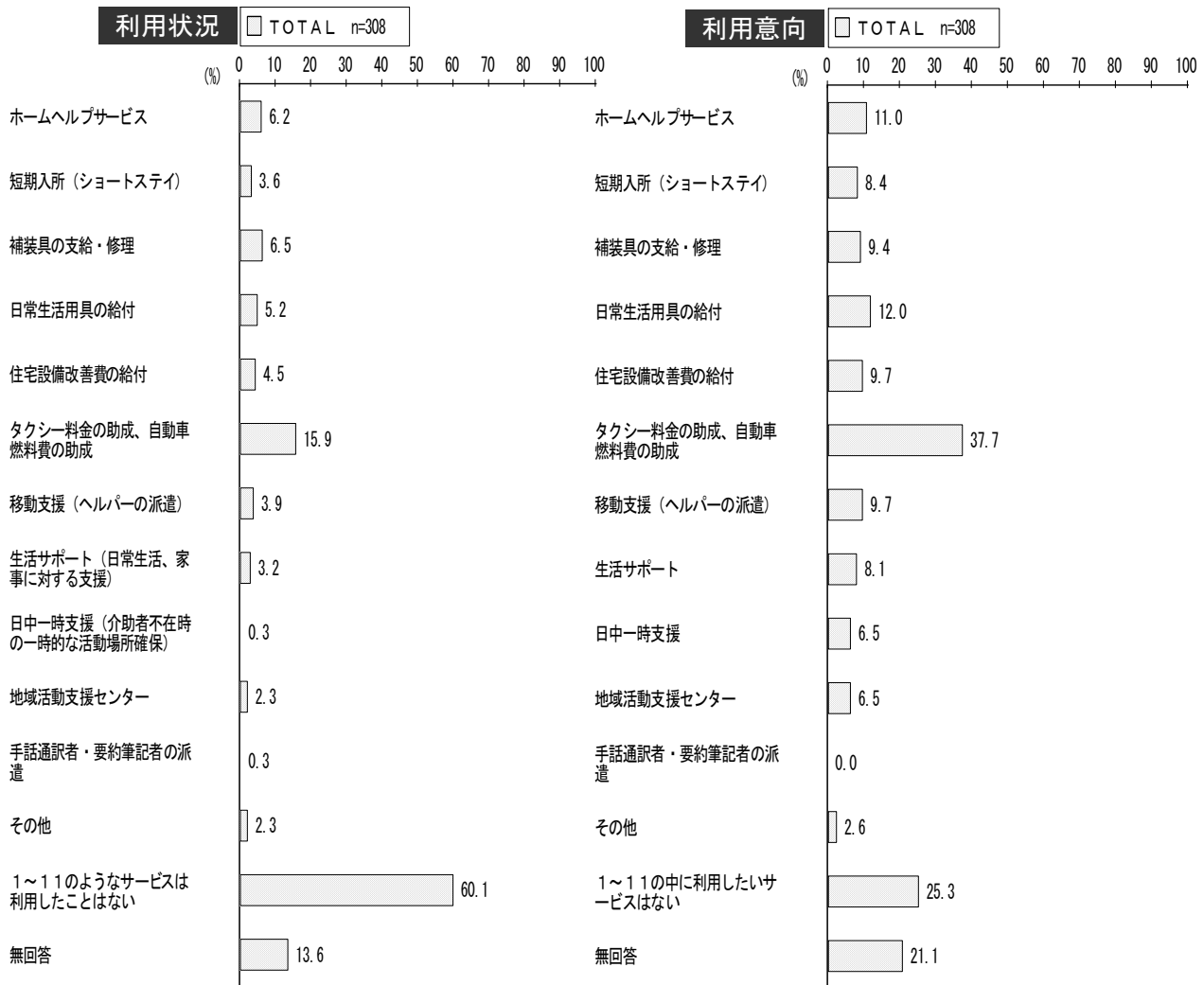
### (1) 福祉サービスの利用経験・利用意向

問 29 あなたは、この1年くらいの間に、次のサービスを利用したことがありますか。利用したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

問 30 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

最も利用されているサービスは「タクシー料金の助成、自動車燃料費の助成」(15.9%)。

実際のサービスの利用状況と今後の利用意向を比べると、「手話通訳者・要約筆記者の派遣」以外のサービスはいずれも利用意向が利用状況を上回っており、潜在的な利用意向がうかがえる。



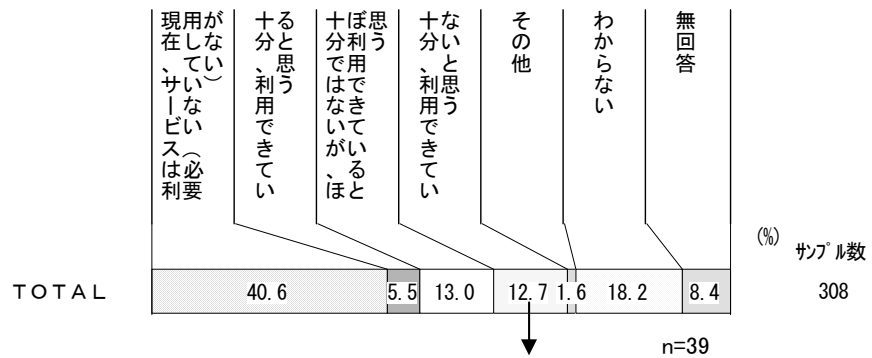


(2) 必要なサービスの満足度

問 31 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)  
 問 32 「十分、利用できていない」と思うサービスはどのサービスですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」人は5.5%、「十分、利用できていない」と思う人は12.7%である。

「十分、利用できていないと思う」具体的なサービスは、「タクシー料金の助成、自動車燃料費の助成」が53.8%と最も多く、次いで「ホームヘルプサービス」(30.8%)、「生活サポート」(25.6%)、「移動支援」(23.1%)と続いている。

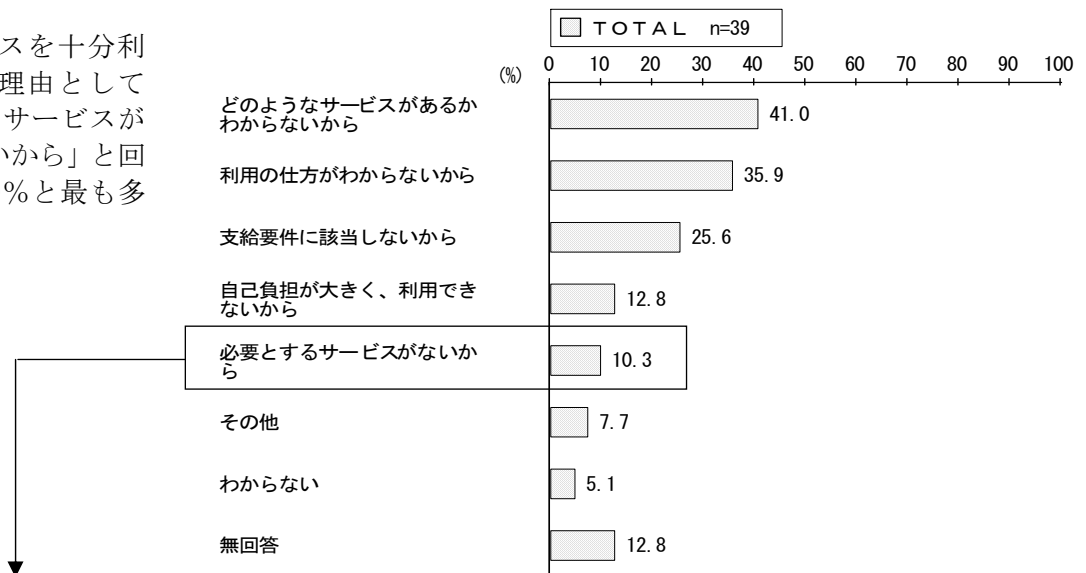


サービス	件数	割合 (%)
タクシー料金の助成、自動車燃料費の助成	21	53.8%
ホームヘルプサービス	12	30.8%
生活サポート(日常生活、家事に対する支援)	10	25.6%
移動支援(ヘルパーの派遣)	9	23.1%
日常生活用具の給付	7	17.9%
短期入所(ショートステイ)	6	15.4%
日中一時支援(介助者不在時の一時的な活動場所確保)	6	15.4%
補装具の支給・修理	5	12.8%
住宅設備改善費の給付	5	12.8%
地域活動支援センター	4	10.3%
手話通訳者・要約筆記者の派遣	1	2.6%
その他	3	7.7%

(3) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 33 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(○はいくつでも)  
 問 34 必要とするサービスとはどのようなものですか。

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」と回答した人が41.0%と最も多い。



「必要とするサービスがないから」と回答した人に対して、「必要とするサービス」の具体的な内容について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 交通手段(タクシー)の利用・料金助成。(女性・50歳)
- ・ タクシー料金の助成・自動車燃料費の助成。(男性・72歳)
- ・ 一日の大半を横にならなければならないが、頭はまだ少々しっかりしている人でも受け入れてくれるデイサービスと夜間サポートのある施設。(女性・92歳)

【難病患者】

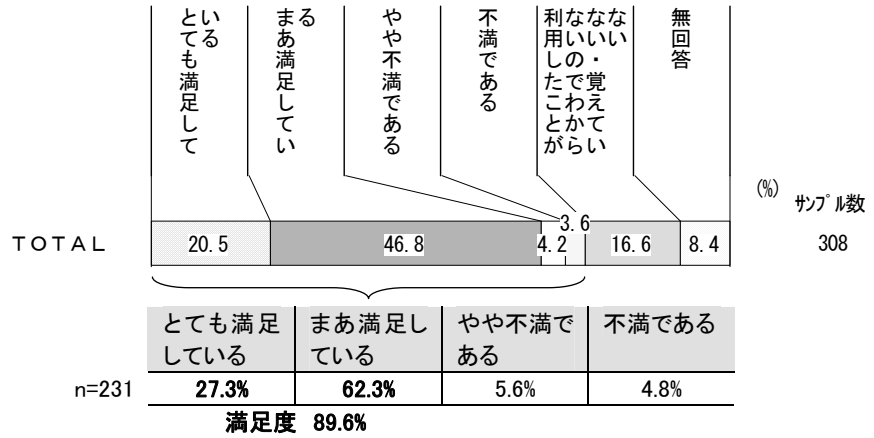
(4) 障害福祉課窓口の満足度

問 35 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きします。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 36 問 35 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

障害福祉課の窓口利用の満足度は、「とても満足している」が 20.5%、「まあ満足している」が 46.8%である。

「利用したことないのわからない・覚えていない」及び「無回答」を除いて、満足している人の割合を計算すると、窓口利用者のうち 89.6%が満足していることがわかる。



満足あるいは不満と回答した理由について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

① とても満足している・まあ満足している

- ・ わかりやすく、質問に応じてくれる (男性・71 歳)
- ・ 窓口対応は、親切丁寧に行なわれている。(男性・79 歳)
- ・ 担当してくれた方が、やさしく丁寧にこちらの立場も考えて対応してくれたから。(男性・47 歳)
- ・ 相談した事柄についてちゃんと解決できている。(男性・78 歳)
- ・ 職員は手続についてよく理解していて、手早く済ませてくれ、対応も丁寧だから。(男性・40 歳)
- ・ 訪問の際、気持ち良く対応してくれるから。(男性・61 歳)
- ・ 説明がわかりやすく、質問していないサービスも紹介してくれました。(男性・40 歳)
- ・ 書類提出の際、開始前にもかかわらず、す早く窓口に来て対応してくれました。(男性・54 歳)
- ・ 初めてのためいろいろ親切にいただきました。(男性・74 歳)
- ・ 皆さんとても親切で、他の地域から来られた方もびっくりしています。笑顔で対応されると、ほんとうに安心です。(女性・65 歳)
- ・ 申請時にとっても親切に長時間かけて一緒に手続きしていただけた。(男性・47 歳)
- ・ 対応してくれる方はほとんど親切な方。こちらの知識が及ばないときも丁寧に説明してくれた。(女性・33 歳)
- ・ 事務処理をてきぱきとしてくれる。質問、等対応はまずまずである。(男性・57 歳)
- ・ 認定申請についてていねいに教えていただいた。(女性・63 歳)
- ・ 職員の方にもよるが、ていねいで詳しく、説明し、対応してくれる。(女性・58 歳)
- ・ 事務的にきちんとやって下さっている。(女性・82 歳)
- ・ 最近、窓口に行ってあまり待つことがなくなり助かっています。職員の窓口処理能力に少しバラツキがあるように感じる場合があります。(男性・74 歳)
- ・ 必要書類の中のコピーを忘れた時に市でコピーしていただいた。(女性・66 歳)
- ・ 書類の申請等で、郵送の方法の説明等、電話の対応がわかりやすく良かったので。(女性)

- ・ 対応に対して、不快な思いをしたことはありません。(女性・38歳)
- ・ 必要な手続きを速やかに行ってくれるため。(男性・36歳)
- ・ とても親切でしたが、障害年金についての知識がなかったため、他の機関で聞いた。(男性・50歳)
- ・ 職員によって私の言語障害がわからない人がいるため。(男性・59歳)

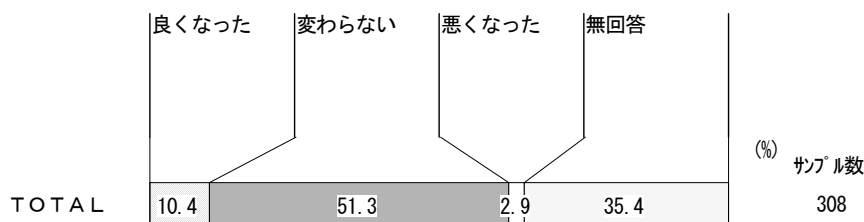
## ② やや不満である・不満である

- ・ もっといろいろな事を聞き出してほしい。何が必要か何をしてくれるかわからない。もっと時間をさいてほしい。(女性・61歳)
- ・ 事務的な手続きだけでなく、「困り事はないか」とか、ヒアリングをして欲しい。そこから何が必要かをアドバイスする等立場に立った対応を職員の方はするべきだと思います。(男性・38歳)
- ・ 書類提出など、働いていると時間内に行けない。時間をのばすとか郵送で受けつけるとかしてほしい。どのようなサービスがあるのか情報をもっと流してほしい。(女性・30歳)
- ・ もっと情報を提供してほしい(女性・63歳)
- ・ 期待にそのような答がもどってこない。(男性・86歳)
- ・ 待ち時間が長い。(女性・44歳)
- ・ 仕事の内容がわかっている職員の方が少ないので長い時間待たされる。(女性・47歳)
- ・ 対応した職員が不親切に感じた人がいる(女性・72歳)
- ・ 対応が悪い。知識がない。(男性・60歳)
- ・ 職員の知識に偏りがある。対応に誠意を感じられない人がいた。(男性・28歳)
- ・ 意を決して相談に行ったにもかかわらず聞き耳を持ってもらえなかったこと。(女性・73歳)
- ・ 田無庁舎でものすごく不親切で二度と行きたくない思いをしました(女性・65歳)
- ・ 働いている中で、書類の届出が郵送はできず、持参というのが不便である。(女性・39歳)
- ・ 本人(家族が替わって)の自己申告以外に福祉課から利用方法、手段の提示が無い。情報交換の場が欲しかった(家族が積極的に行動してくれた)。(男性・79歳)
- ・ 保谷庁舎、田無庁舎共に同じサービスを望む。(男性・40歳)

## (5) 5年前との比較

問 37 約5年前(平成20年)と比べて、難病患者に対するサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)  
問 38 問 37 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

5年前と比べて、難病患者に対するサービスが「良くなった」と感じている人は10.4%、「悪くなった」と感じている人は2.9%である。



5年前に比べて障害者のサービスが良くなった、あるいは変わらない・悪くなったと回答した理由について、自由回答形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

### ① 良くなった

- ・ 詳しくは知らないので評価できないが、多分、良くなっていると思う(男性・59歳)
- ・ 対応がやさしく、わかりやすくなった。(男性・43歳)

## 【難病患者】

- ・ 少しずつですが生活の充実につながっていると感じています。(男性・52歳)
- ・ 必要が満たされている故に。(男性・78歳)
- ・ 障害者に対するサービスが増えて来ている。(女性・67歳)
- ・ 種々なサービスが増えた様な気がする(自分はサービスを利用経験なし)(女性・58歳)
- ・ 5年前は担当の方も「知らない」という感じでしたが(あたりまえと思います)、今は、特にとまどう表情もなくスムーズに対応し、手続きを進めてくださるようです。「役所に行く」ことさえ困難で無理をしているのでスムーズな手早い対応に感謝します。(女性・56歳)
- ・ 病気に対する知見が増えてきたことが大きいと思うが、運用面でも相当に改善されてきていると考える。(男性・76歳)
- ・ 未だ充分ではないが、移動中の段差が減った様に思う。(女性・85歳)

### ② 変わらない

- ・ 特に変化を感じない(女性・52歳)
- ・ 変わったか変わっていないかの情報がないので変わらないです(女性・39歳)
- ・ 改善しているかどうかはよくわからない。決して悪くなっているという訳ではない。(男性・57歳)
- ・ 医療費の助成についてのみサービスを受けていると思うが、5年位はたぶん変わっていないと思う。(女性・76歳)
- ・ 受けているサービスがほぼ同じ(女性・82歳)
- ・ 補助金が出ているが、他の区と比べて金額が低い。(女性・39歳)
- ・ 基本的には状況がかわっていないからだと思います。福祉に対する支出を削る方向で議論がなされていたので現状維持できているだけでも御苦労は多いかと思います。(男性・40歳)
- ・ 財政悪化ながら、現状維持できている(女性・80歳)
- ・ 同様な対応だったから(男性・46歳)
- ・ 社会保障費が増加している中、変わらず難病患者福祉手当を給付して下さり、助かっています。(男性・27歳)
- ・ 自分の体の病状があまり進行しないからです。(女性・79歳)
- ・ 受けているサービスは、5年前と同じで、同居家族がいると生活支援は(家事ヘルパー)受けられず自費でしている。(女性・64歳)

### ③ 悪くなった

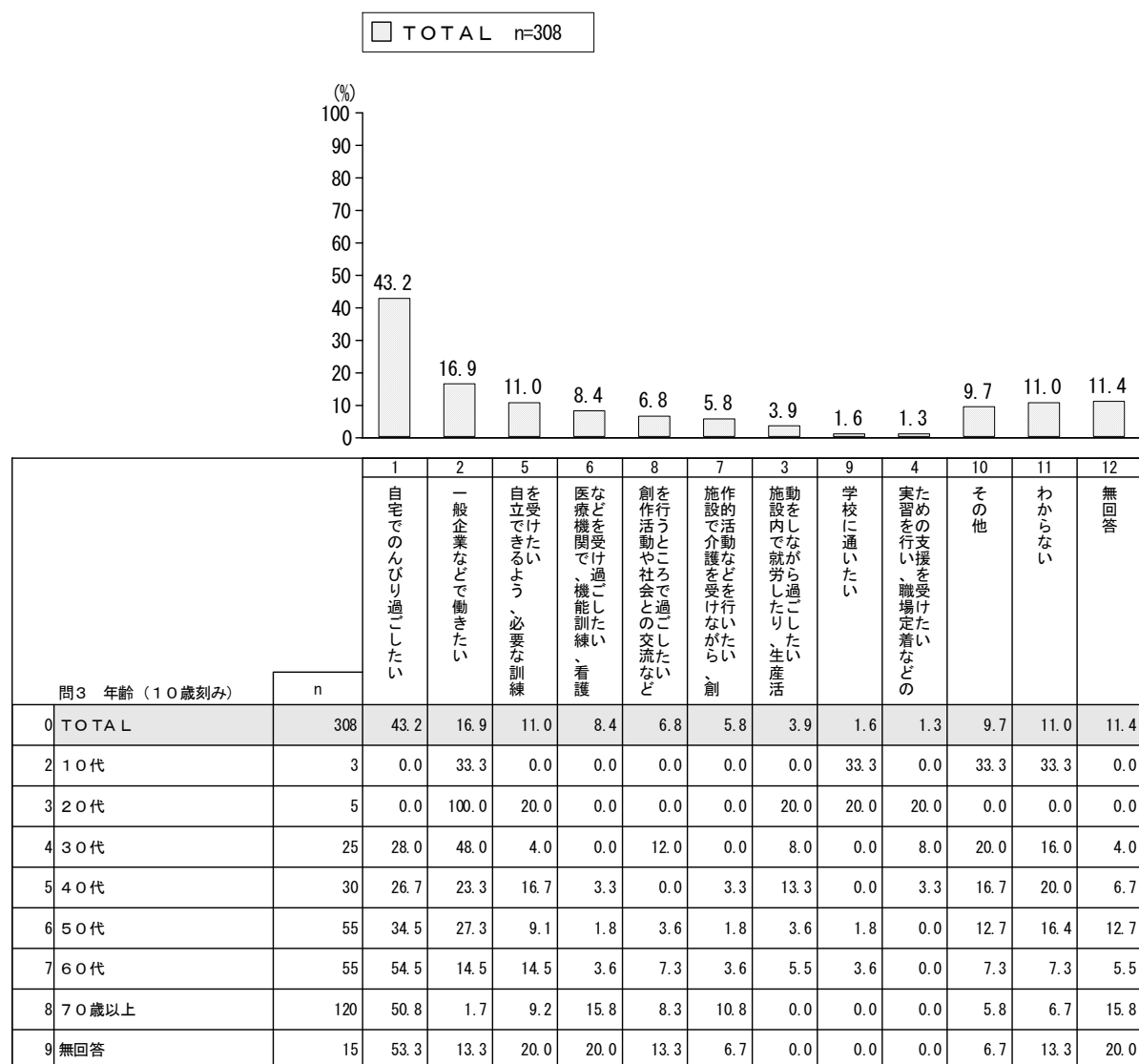
- ・ 病気による副作用や後遺症は、医療費の助成からはずされて、大変困っている。(女性・65歳)
- ・ 難病申請時の検査等がきびしくなったように思われます。(女性・74歳)
- ・ 財政的に都・市も厳しいと思うが、自己負担が増えた。(女性・62歳)
- ・ 区から市に移転してから難病手当が半分になってしまったのと、タクシー券の支給がなくなってしまったのにはビックリしました。区と市の違いは何とかならないものなのでしょうか。(女性・72歳)
- ・ 毎年の手続きになり、準備する書類も増えて、毎年診断書を書いてもらったり、めんどうになった。(女性・36歳)

## 10 将来の希望

## (1) 今後希望する日中の過ごし方

問 39 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。(○はいくつでも)

今後希望する日中の過ごし方としては、43.2%の人が「自宅でのんびり過ごしたい」と回答している。年齢別にみると、60代以上では「自宅でのんびり過ごしたい」が半数以上、30代では25人中12人(48.0%)は「一般企業などで働きたい」と回答している。



【難病患者】

(2) 将来(今後)、希望する暮らし方

問 40 将来(今後)、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。(〇は1つ)

将来(今後)、希望する暮らし方としては、約7割の人が「現在と同じように暮らしたい」(69.5%)と回答している。

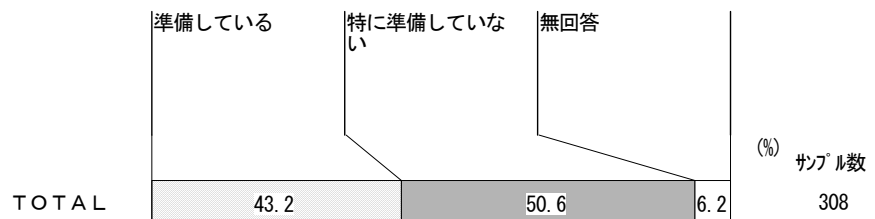
	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	現在は一緒に住んでいない家族と一緒に暮らしたい	日常生活の援助を受け共同生活する住居で暮らしたい	施設に入りたい	その他	わからない	無回答
TOTAL	308	69.5%	2.6%	6.2%	1.6%	2.6%	1.6%	7.8%	8.1%
10代	3	66.7%	-	-	-	-	-	33.3%	-
20代	5	60.0%	20.0%	-	-	-	-	20.0%	-
30代	25	72.0%	4.0%	4.0%	-	-	4.0%	8.0%	8.0%
40代	30	63.3%	-	16.7%	-	3.3%	3.3%	13.3%	-
50代	55	80.0%	3.6%	3.6%	1.8%	1.8%	-	5.5%	3.6%
60代	55	72.7%	3.6%	5.5%	1.8%	3.6%	-	3.6%	9.1%
70歳以上	120	66.7%	1.7%	5.0%	2.5%	3.3%	2.5%	7.5%	10.8%
無回答	15	53.3%	-	13.3%	-	-	-	13.3%	20.0%

11 災害対策について

(1) 災害への備え

問 41 災害に備えて何か準備をしていますか。(〇は1つ)

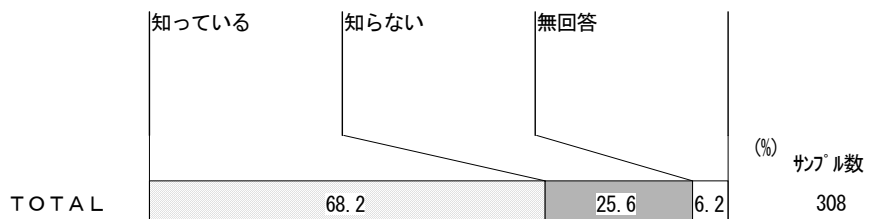
災害に備えて何か「準備している」人は43.2%である。



(2) 避難所の認知状況

問 42 避難所を知っていますか。(〇は1つ)

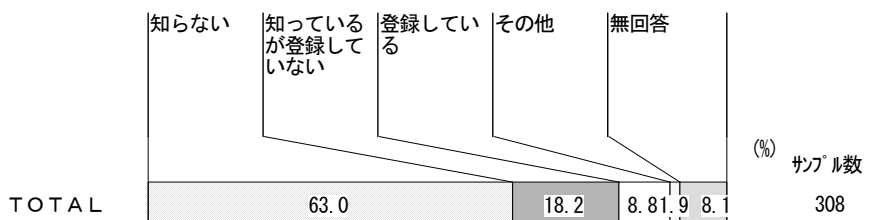
避難所を「知っている」人は68.2%である。



(3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 43 災害時要援護者登録を知っていますか。(〇は1つ)

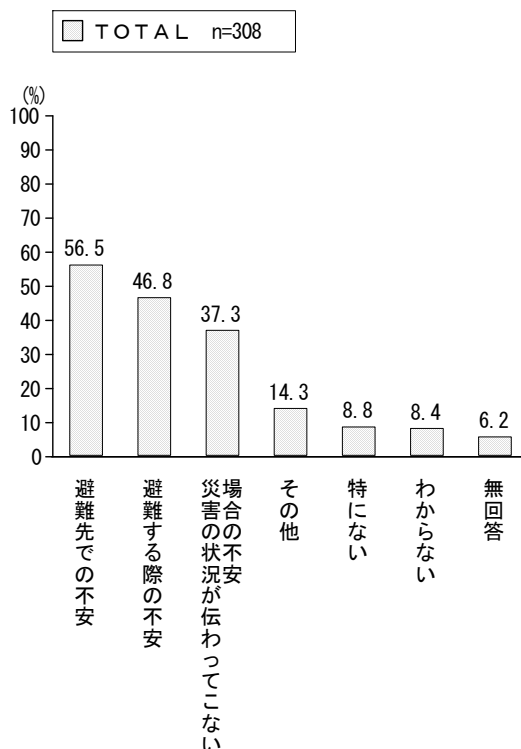
災害時要援護者登録については、63.0%が「知らない」と回答しており、「登録している」人は8.8%である。



(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 44 地震や台風などの災害が起こった際の不安は何ですか。(○はいくつでも)

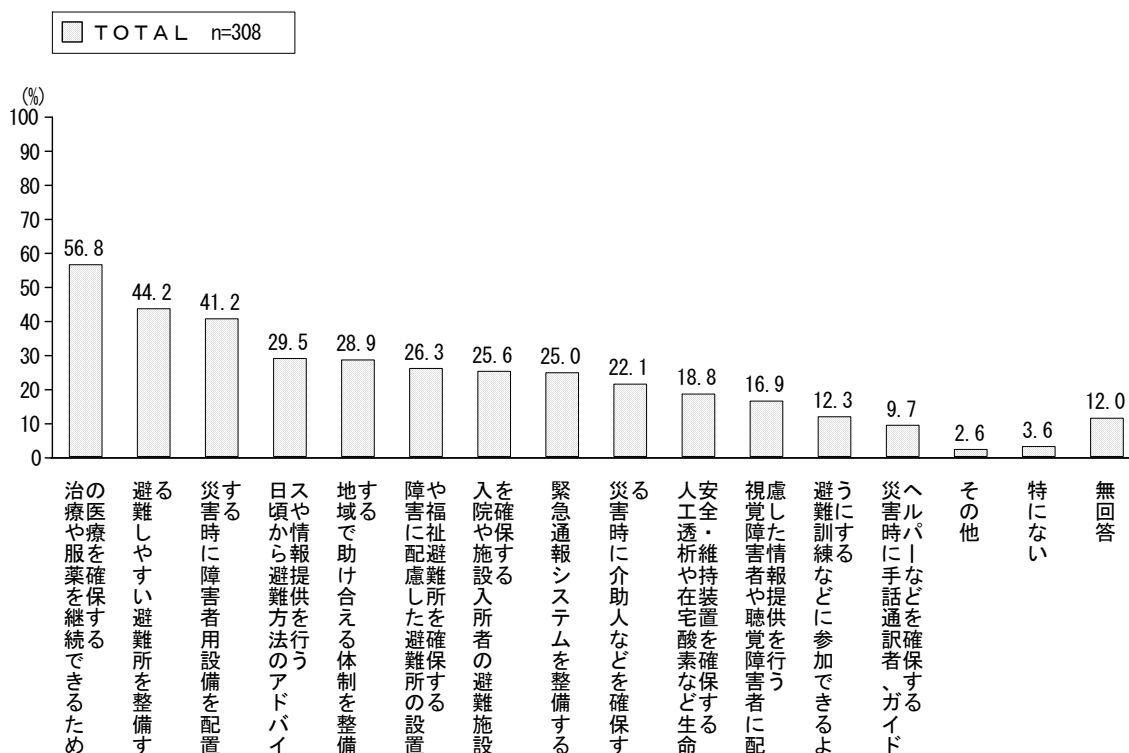
地震や台風などの災害が起こった際の不安としては、「避難先での不安」をあげる人が 56.5%と最も多く、次いで「避難する際の不安」(46.8%)、「災害の際の状況が伝わってこない場合の不安」(37.3%)と続いている。



(5) 必要な災害対策

問 45 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

必要な災害対策としては、「治療や服薬を継続できるための医療を確保する」ことをあげる人が 56.8%と最も多く、次いで「避難しやすい避難所を整備する」(44.2%)、「災害時に障害者用設備を配置する」(41.2%)と続いている。



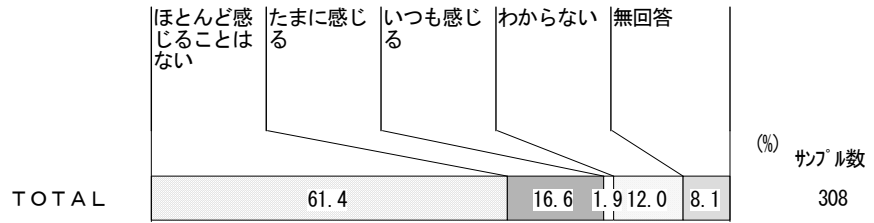
## 12 差別や人権侵害について

### (1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 46 難病や障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 47 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害、虐待については、約6割の人は「ほとんど感じることはない」(61.4%)が、1.9%は「いつも感じる」、16.6%は「たまに感じる」と回答している。



#### 【参考】平成13年度調査結果との比較

「ほとんど感じることはない」は13年度に比べて5.0ポイント減少、「いつも感じる+たまに感じる」は3.9ポイント増加。

	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
13年度 n=715	66.4%	13.8%	0.8%	9.7%	9.2%

差別や人権侵害、虐待の内容としては、具体的に以下のような記入があった。

#### ① 言葉・視線

- ・ 体形が変。背骨がうき出ている、前もうしろも肉がなく見すばらしいから、虐待はないが目線で感じる。(女性・86歳)
- ・ 休憩時間等の会話の中で、疾患や、薬に対する話があり、「この薬を服用している人は○○よねえー」などと否定的な言い方がある。(女性・50歳)
- ・ 日光過敏にて、夏でも長袖や、帽子、マフラーなどしていると他の視線を感じる。(女性・50歳)
- ・ 歩行に杖が必要で、歩行の速さも通常の人のお半分程度で、すれ違いの時等に差別と思う言葉を言われる。人ごみの中には出られない。(男性・61歳)
- ・ 動作がのろいのを、みくだしたような様子。ひとくちではいえない。(女性・64歳)
- ・ 歩いていてじゃまと言われる。スーパーなどで商品が高い所においてある。(女性・73歳)
- ・ 子どもが障害者です。人工ぼうこうが見えるので何かと目が気になった。(女性・53歳)

#### ② 就労・職場

- ・ 難病があると仕事は、むりだと言われる。(女性・51歳)
- ・ 職場での昇進など。(男性・50歳)
- ・ 前もって体調の急変の恐れの話をするとうちに響くことがほとんど。人より気を付けることが多い分、公私ともに不自由さを感じるし、わからないことが多い病気ということで、理解されることも当然難しい。(女性・33歳)
- ・ 職場での理解不足。特に上司。(男性・63歳)
- ・ パートの仕事を見つけることでさえ、病気のことを伝えると採用されにくいと思う。(女性・49歳)
- ・ 病気により就労が困難なことを、怠けているようにとられる。(男性・36歳)



③ 交通機関

- ・ バスに乗る時、障害者手張を見せて半額になるのですが、もたもたしているといやな顔をされる。特にバスの運転手。(男性・82歳)
- ・ バス、電車の乗り下りの時、早くと云われても思うように動けない。(男性・43歳)

④ 障害に対する理解不足や誤解

- ・ 理解してもらえない。(女性・49歳)
- ・ 一見、元気そうに見えるので、体が動けない状態でもわかりづらく、理解してもらえるのが大変です。(女性・54歳)
- ・ 家族の無理解。(女性)
- ・ 難病=こわいもの、死に近い人と思われがちです(女性・56歳)

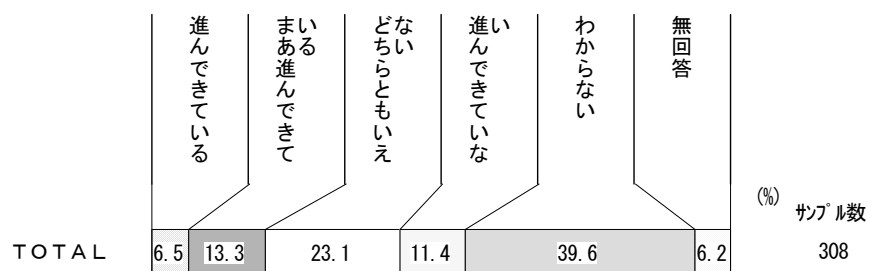
⑤ その他

- ・ 外見では障害があるとは見えないので差別等は感じないが、逆につらい場合もある。(男性・60歳)
- ・ 障害や難病患者が読み書きするにもかかわらず、健者用になっている物が多い。(男性)
- ・ 障害にかかわらず、社会全体の弱者に対する配慮のなさに時々怒りを覚える。例えば電車の優先席の利用のされかたなど。(男性・59歳)
- ・ 以前、高校の合格を取り消しになった。(女性・42歳)
- ・ 内部障害は見た目ではわからないので調子が本当におわるいときでも、元気な人間が何をしているといった感じで(よかれと思ってのことかと思いますが)注意されると、説明するのが大変ですし、説明も聞いてもらえない場合があります。(男性・40歳)
- ・ 障害者となっても誰かの役に立てるかも、そう考えて、できそうなボランティアや講座等に参加してみましたが、ことわられることも多くあります。(女性・56歳)

(2) 市民理解の進捗

問 48 難病・障害や、難病・障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

難病・障害や、難病・障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と考えている人は6.5%、「まあ進んできている」(13.3%)をあわせると、約2割の人は市民の理解が進んできていると考えていることがうかがえる。

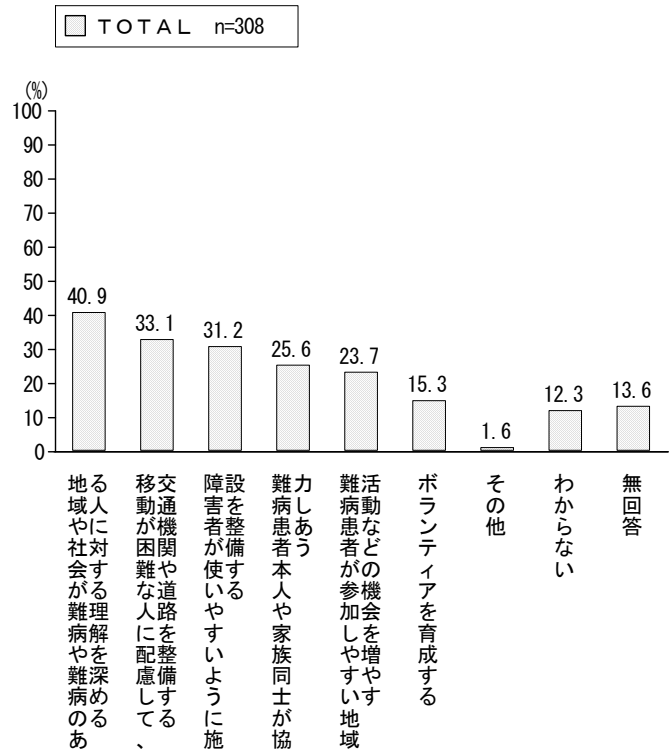


【難病患者】

(3) 難病・障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 49 難病・障害のある方々が地域や社会に積極的に参加するために、特に大切なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

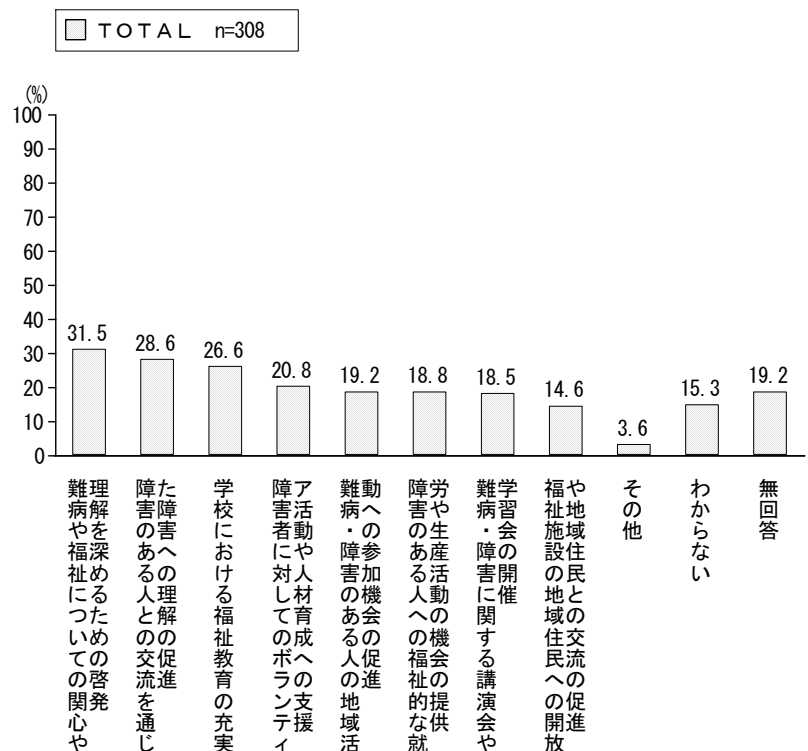
難病・障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこととしては、「地域や社会が難病・障害や難病・障害のある人に対する理解を深める」ことをあげるのが40.9%と最も多く、次いで「移動が困難な人に配慮して、交通機関や道路を整備する」(33.1%)、「障害者が使いやすいように施設を整備する」(31.2%)と続いている。



(4) 難病・障害や難病・障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 50 難病・障害や難病・障害のある市民への理解を深めるためには、何が重要だと思えますか。(〇はいくつでも)

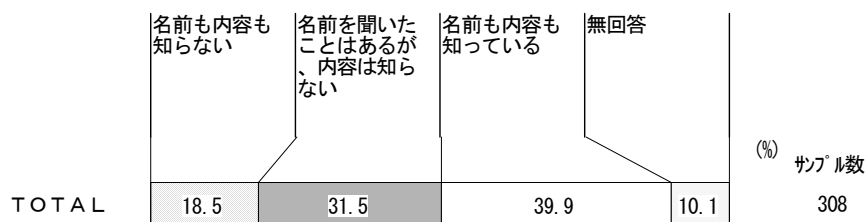
難病・障害や難病・障害のある市民への理解を深めるためには、「難病・障害や福祉についての関心や理解を深めるための啓発」が必要だと考えている人が31.5%と最も多く、次いで「難病・障害のある人との交流を通じた障害への理解の促進」が28.6%で続いている。



## (5) 成年後見制度の認知状況

問 51 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

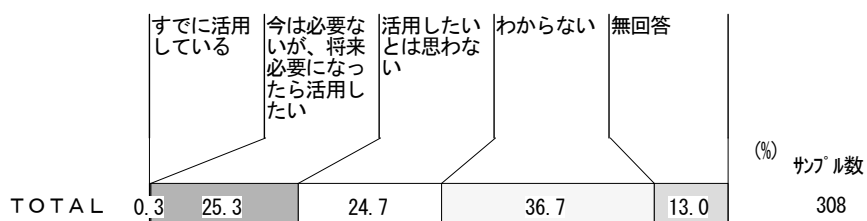
成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は 39.9%、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」人は 31.5%であり、約2割は「名前も内容も知らない」状況である。



## (6) 成年後見制度の利用意向

問 52 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

4人に1人は「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と回答している。

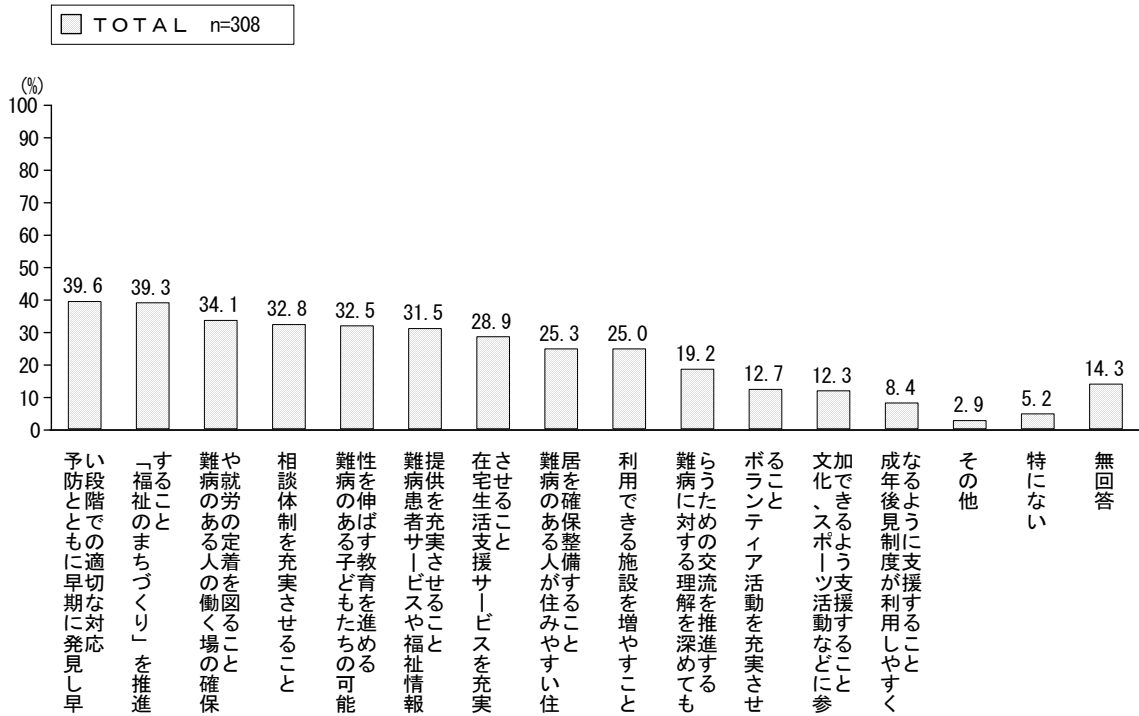


13 市への要望等

(1) 充実させていくべき難病者施策・障害者施策

問 53 今後、難病者施策・障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

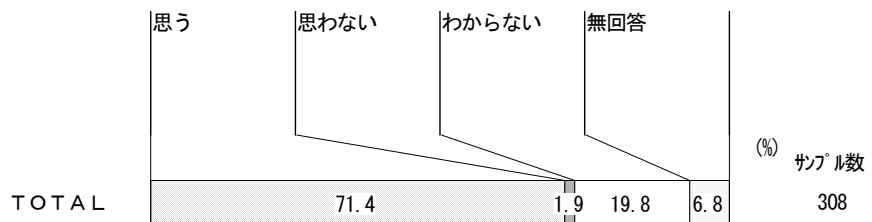
今後、市が充実させていくべき難病者・障害者施策としては、「事故や疾病による障害の発生を予防するとともに、難病・障害を早期に発見し、早い段階での適切な対応（リハビリテーションや療育等）に努めること」をあげる人が 39.6%と最も多く、次いで「福祉のまちづくりを推進すること」(39.3%)、「難病・障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(34.1%)と続いている。



(2) 居住継続意向

問 54 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

71.4%の人は、今後も西東京市に住み続けたいと「思う」と回答している。



【参考】平成 13 年度調査結果との比較

「住み続けたいと思う」は 13 年度に比べて 4.0 ポイント増加。

	住み続けたいと思う	住み続けたいと思わない	わからない	無回答
13 年度 n=715	67.4%	4.5%	23.5%	4.6%

### (3) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

#### ① 移動や交通機関に関すること

- ・ 西東京市は道路、歩道が狭く、さらに電柱の設置で余計に狭く、人がすれ違うにも困難な場所が非常に多い。また、トイレの数も少ない。改善の余地あると思います。(男性・77歳)
- ・ 障害者手帳を持っていてバスは半額なのですが、不自由な上に押車を持って乗る時など手帳を見せるのに時間がかかりとてもいやな思いをします。(男性・82歳)
- ・ 難病であっても、いろいろな心配をせずに、ふつうに外にでていくことができるまちになっていてもらいたいと思います。(女性・50歳)

#### ② 情報提供に関すること

- ・ どんな福祉サービスが利用できるか知らされていないので、今まで一度も利用をしたことがありません。今回はじめて知ったので、わかりやすいハンドブックを配布してほしい。(女性・86歳)
- ・ 受けることが可能なサービスを積極的に開示してほしい。(女性・77歳)
- ・ こちらが聞かないとそのままサービスが受けられずじまいになっていることが続いたので、もう少し情報提供をして下さい。(女性・30歳)
- ・ 市役所(田無)の福祉課にフレンドリーや障害者のしおりをとりに行きましたが、ありませんでした。すぐ手にとれるようなパンフレットの所において下さい。(女性・56歳)
- ・ 難病は同じ病気でも重さや症状の違いがあり、なかなか理解することは難しいことと思います。患者本人たちが、難病を詳しく説明しきれない歯がゆさも感じています。まずは本人や身近な人が最新の情報をキャッチできる仕組みを確立してほしい(女性・33歳)
- ・ 災害時、特に大地震等でインフラにダメージがある場合、医療機関をどの程度頼りにしてよいかかわからず不安である。災害時の行動はどのようにしたらよいか、どのような体制作りがあるか。情報の提供をしていただきたい。(男性・28歳)

#### ③ 手続きや相談に関すること

- ・ 様々な手続きが必要になるのですが、窓口が平日しか対応していないので休みを取って窓口に行かないと手続きができない。土日の対応もできるようにして欲しいです。必ず実現させて下さい。(男性)
- ・ 難病の手続きを毎年行うことを改正してほしい。医者先生に關係書類を依頼するだけでも3千円かかり、市役所に毎年毎年同じ書類を出しに行くのも大変。(男性・36歳)
- ・ 障害者福祉は、その内容が多岐にわたることから、市役所に専門窓口(難病等)をおくことも良い。現在、窓口では、事務的仕事が十分に行なわれていると思うが。(男性・67歳)
- ・ 身体障害者になって初めて、社会との関わりが必要と思いました。また、その様な相談をゆっくりする場所がほしいです。(女性・61歳)
- ・ 困ったことが起きた時に、相談できる体制を望みます。両親とも80歳を越えて高齢で、病気もそれぞれあり、私自身も長年病気をかかえて生活しているため、福祉に力を入れていただけるとありがたいと思います。(女性・54歳)
- ・ 地域に関する件で民生委員に依頼したことがあるが、以前から思っていたことだがプライバシーの名のもと、何の解決も見い出せなかった経験あり。(女性・58歳)

## 【難病患者】

### ④ 各種サービスに関すること

- ・ 4月に改正された法により、難病患者も障害者と同じサービスや援助を受けられるように一刻も早くしてください。(男性・47歳)
- ・ サービスの内容が受けたいサービスと受けるサービスは違っていると思います。高齢で長患いしておりますと、毎日の生活も本人でなければわからぬことと思いますが、もう少しゆったりとした介護はわがままでしょうか。(女性・81歳)
- ・ 病院へ定期検診に行ってきましたが、タクシーを使いました。難病者、障害のある人にはタクシーの割引券のようなものを発行していただけたらあり難く思います。(女性・85歳)
- ・ 身体介護や生活支援という言葉があるけれど、たまたま家族で仕事とどこおった時、「身体で入っているので家事はできません」と、寒い日に灯油を入れてもらえず寒い思いを。時として、手をかしてくれたら、どんなに心があたたかかったことか。(女性・64歳)
- ・ 網膜色素変性症で視野が徐々に狭くなり、どうしても一人で出かけなくてはならない時があります。なるべくできる事は一人でしたいと思っています。乗り物に乗るのにつきそいと二人だと半額、一人でいくと普通料金、意味がわかりません。(女性・65歳)
- ・ 私は難病者なのですが、手帳を持っていない為、あらゆるサービスを利用する事ができません。障害者雇用等の国の法律が関わってくる部分はどうしようもないのですが、難病者に対して西東京市独自のサービスをしてくださるとありがたいです。(男性・27歳)
- ・ 介護者が病気したとき、緊急にショートステイができるとよいと思っています。実際に体験して困りました。(男性・82歳)
- ・ その時その時のサポートではなく、長期的にサポートしてくれるとよいと思います。(男性・21歳)
- ・ 現在ホームヘルパーさんに身体介護をお願いしています。胃ろうを使って栄養を与えていますが、経管の仕事ヘルパーさんをお願いできると随分助かります。(女性・81歳)
- ・ 大きな建物を1つ作るより、地域毎に利用しやすい施設を多く作る方が、利用する側からすると有難いです。また、相談・交流が多くできるしくみを充実していただけるとありがたいと思います。(女性・85歳)

### ⑤ 住まいに関すること

- ・ 今シルバー住宅に住んでいるけれど、いつまで1人で生活ができるかがわからないので不安です。老人ホームに入るには大金が必要だし、シルバーピアには1人で生活できないと出なければならないので、色々考えてしまうようになるかと思っています。(女性・86歳)
- ・ 高齢者ケア付住宅等の充実を是非にと期待します。利用できる月々の料金も高額でもなく安くもなく適当な利用料(年金でまかなえて少し自由になるお金が残るくらいの設定がうれしい)での運営システムをお願いします。(女性・62歳)
- ・ 共同生活をするようなことがあるといい。家賃を出して食事作りは交代で。(女性・82歳)

### ⑥ 教育に関すること

- ・ トイレの話ですが、田無2中は和式ばかりで、洋式の個室があればと子どもが言っていましたので、徐々に増やしていただければありがたい。小学校はほとんどが洋式だったそうです。(男性・43歳)
- ・ 子どもたちが他者に敬意を払える人間に育つように、家庭や学校では、道徳教育を充実させて欲しいです。(男性・51歳)

### ⑦ 雇用・就労に関すること

- ・ 支援団体と称して障害者を雇用し、店舗を開店させ、土日祝日に休むのは、交付金目当てとしか思えない。普通は稼ぎ時ではないか。そのほうが働く障害者の収入増につながるのではないか。(男性)
- ・ 現在、求職中。難病の薬を飲んでいけば、問題は無いので、普通に働きたいのですが、高齢で技術が無い為に仕事が見つからず。何とか探して働きたいと思っています。(男性・51歳)

- ・ 難病患者の各人に適した仕事の紹介を充実させて欲しい。自宅でのパソコンのデータ入力等の仕事を希望しているので、自宅勤務等の仕事を斡旋していただくと生活を充実させることができると思っています。(女性・50歳)
- ・ 若い人が難病になったとき、その病状で働ける場を持つことが生きがいに通じると思っています。社会や会社の理解、啓発が重要と考えています。(女性・60歳)
- ・ 障害者の経済的問題の軽減、働くことでの社会への参加・貢献意識の醸成、健常者の理解をすすめるため、両者の相互理解を深める為にワークシェアを積極的に推進すべき。障害者と健常者が自然に行き来／交流できる場の創出である。(男性・57歳)

## ⑧ 経済的な援助に関すること

- ・ 市、区により、助成金の差がありすぎる。西東京市は少ないです。(女性・48歳)
- ・ 収入が不十分なので国民健康保険料がすべて払えていない。何度も督促されて、精神的に参ってしまふ。難病の者に対して経済支援が欲しい。難病ということで職を失った者からすると経済的支援が一番欲しい。(男性・53歳)
- ・ 難病認定を受けているお陰で投薬が無料等々の経済的援助をいただき、本当にありがたく思っております。特に西東京市の補助金は病院への交通費として使わせていただいています。(女性・65歳)
- ・ 仕事をしたくも病院に通う日数が多いため働けないが、主人の年金と私の年金合わせても生活保護を受けている人よりも生活が苦しい。生活保護を受けている人がないしょで働いている人が多く、私達みたいに年金でがんばっている人の事も考えてほしい。(女性・66歳)
- ・ 医療費が高く、完治することがなく、一生薬を飲み続けなくてはならないので、補助がなくなったりしたら困ります。しかも、現状においても、医療費が負担です。(女性・35歳)
- ・ 私は、難病と診断されて、約10年がたちますが、見た目では、普通に見えるので気付かれることはありません。しかし日光に当たらないように、運動禁止、人混みを避ける、マスクをするなど、守らなければならないことは多く、また、検査や診察などで病院中心の生活で、普通の生活とは程遠いのが現実です。施設などよりも、金銭面で、直接助けていただく方が、将来の不安も少しは、気持ちの面で楽になるのではないのでしょうか。(女性・35歳)
- ・ 私は難病といっても障害者ではなく、治らない病気になっていて将来それがガン化する可能性があるという見た目は健常者です。継続して薬をのみ、年1回検査を受けなければいけません。その為、都の医療費助成はもちろんのこと、西東京市の補助金もとても助かっています。そういったサービスを継続していただきたいと思えます。(女性・43歳)
- ・ 病気で落ちた体力筋力アップのため、体育館のトレーニングに通っているが、有料なので補助があるといいと思う。(女性・55歳)
- ・ 生活のために無理をして働いています。病気でありながら、健康な人と同じ仕事をすると、それ以外に体力が残りません。たった4時間のパートのために、一日が終わってしまいます。給料も必要ですが、レクリエーションもできません。金銭的な援助があつたら良いのと思えます。(女性・50歳)

## ⑨ 医療・リハビリに関すること

- ・ 医療費の軽減は経済的に助かっています。私の場合は、薬があれば正常な人と変わらず生活できます。病気になった時は特別な配慮(ホルモン投与)が治療には必要としますが、情報がないかぎり普通の医師にも分らない状況です。医師の理解がもっと必要と思われれます。(男性・59歳)
- ・ リハビリを安く(または無料で)毎日受けたい。(女性・52歳)
- ・ 何よりも専門の医師が近くにいれば、それも、どこで聞けば、いいのかわからない。遠くまでは、とても通院できないので。(女性・76歳)
- ・ 難病、障害者用のリハビリテーション、専門の人が多く居ると良い。一日一日と自由が、うばわれて行く、自分に不安自分を介助してくれる人、医療機関などが必要若い人の力が必要なので、育成にも勤めてほしい。(女性・54歳)

## 【難病患者】

### ⑩ 理解や権利擁護、差別・人権侵害等に関すること

- ・ 外見ではわからないつらさをわかって下さい。
- ・ アンケートがくる事自体差別を感じる。好きで難病になったわけではありません。(女性・44歳)
- ・ みんな口ではキレイな事を言っているが、難病の障害を持つ人間に対して、色んな差別と偏見を持っている事がムカつく。本人の気持ちなんて知ろうとしないくせに。(男性・44歳)
- ・ 見た目は普通の人と変わらないため、電車で座ったり、エレベーターを使うとお年寄りから冷たい目で見られるのがつらいです。妊婦さんのようにキーホルダーがあったら良いと思うのですが、人に知られるのも嫌なので、何か良い方法はないでしょうか。(女性・41歳)

### ⑪ 障害者施策の推進、計画策定等に関すること

- ・ 難病は多岐にわたり、有効な治療法がないので、医学的には救えない対象であるが、これを福祉行政のなかで少しでも難病者に役立つことをするべきであり、救助することの意義は大きいと考える。(行政は難病患者に対して)治療法がなく、本人はもとより家族は将来に大きな不安を抱えて過し、その不安と闘っていることを銘記すべきである。(男性・76歳)
- ・ アンケートを取って、どのように活用されたかの情報提供と、今後もこの取組みを続けてもらえるとういと思いました。(男性・28歳)

### ⑫ その他

- ・ ミニデイのように気軽に交流できる所で、社会とつながりを持った生活ができたらと思う。又そうしたグループ、組織の啓蒙が必要。(女性・82歳)
- ・ 私の場合、難病でも症状が軽い方だと思うので、症状が出た時はつらいが、比較的日常生活は普通に過している。障害のある方へのサポートは財政の許す限り、継続的にお願いしたい。(女性・62歳)
- ・ 日本は本来「和」を大切にした国の伝統があります。他者のために何か良いことをすれば自分の足下も明るくなる、という考えを子ども達の教育に活かして下さい。(男性・60歳)
- ・ 障害者もそれぞれ違う状態にあると思うので、各々において、きめ細かい対応が必要であると思います。障害者の立場で考慮していただきたいと思います。(女性・69歳)



## 1 基本的な属性等

### (1) 調査票の記入者

問4 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(〇は1つ)

	n	本人が記入、または、本人が答え代筆者が記入	家族(本人の立場に立って記入)
TOTAL	8	37.5%	62.5%

### (2) 性別・年齢

問5 あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

問6 年齢(4月1日現在)を記入してください。

	n	男性	女性					平均年齢
TOTAL	8	37.5%	62.5%					
	n	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	平均年齢
TOTAL	8	25.0%	-	25.0%	37.5%	12.5%	-	66.3歳

### (3) 他の障害の状況

問7 次のうち、あてはまるものに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

	n	身体障害者手帳を持っている	愛の手帳(療育手帳)を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	難病医療費等助成対象疾病を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	無回答
TOTAL	8	37.5%	-	25.0%	-	-	50.0%

### (4) 高次脳機能障害の診断の有無

問1 あなたは、これまでに「高次脳機能障害(記憶障害、注意障害、遂行機能障害等)」と診断されたことがありますか。あてはまるものに〇をつけてください。(〇は1つ)

	n	ある	ない	わからない
TOTAL	8	75.0%	12.5%	12.5%

### (5) 日常生活に支障をきたすこと

問2 次のような症状により、日常生活に支障をきたすことがありますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

	n	物事に集中できない、ミスが多い	計画が立てられない、作業が予定どおりにしあがらない	約束、昨日のことを忘れる、新しいことを覚えられない	知っている道でも迷いやすい、目的地にたどりつけない	言葉がうまく話せない、話がわからない、会話できない	暗算や計算ができない、字が読めない、書取りできない
TOTAL	6	83.3%	50.0%	66.7%	33.3%	16.7%	16.7%
		左(右)側にある物にぶつかる、マヒがわからない	イライラしやすい、トラブルが多い	気分が落ち込みがち、やる気がでない	上記以外の症状で日常生活に支障をきたすことがある	日常生活で支障をきたしている症状は特にない	無回答
		33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	-	-

### (6) 充実されるとよい施策

問3 上記のようなときに、あなたを支援するためには、どのようなことが充実されるとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

	n	医療や福祉についての相談体制の充実	年金や手当など所得保障の充実	リハビリなど訓練内容と機会の充実	通所施設や作業所など日中活動の場の充実	就労や就労支援の充実
TOTAL	6	66.7%	50.0%	50.0%	50.0%	16.7%

## 2 介助・援助の状況

### (1) 介助・援助を受けている場面

問8 あなたは、どのようなときに介助・援助を受けていますか。(〇はいくつでも)

n	介助・援助は受けていない	食事をするとき	家事(調理、掃除、洗濯)をするとき	着替えをするとき	家の中の移動をするとき	外出するとき
TOTAL : 8	-	12.5%	50.0%	37.5%	-	75.0%
	学校や職場、作業所などへの送り迎えのとき	服薬するとき	生活費などお金の管理	暮らしに必要な事務手続き	相手の話を知りたいときや自分の話を伝えたいとき	その他
	25.0%	37.5%	37.5%	62.5%	25.0%	12.5%

## 3 外出や社会参加について

### (1) 外出の際に困っていること

問9 外出の際に困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

n	付き添ってくれる人がいない	他人との会話が難しい	目的地への経路(道順)が覚えられない	障害に気づかれにくく、手助けを求められない	歩道が狭く、道路に段差が多い	道路に放置自転車などの障害物が多く、歩きにくい
TOTAL : 8	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%	25.0%	12.5%
	建物などに階段が多く、歩きにくい	気軽に利用できる移送手段が少ない(福祉タクシー等)	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい	障害者用のトイレが少ない	その他	特に困っていることはない
	37.5%	25.0%	25.0%	37.5%	37.5%	-

### (2) 余暇活動の状況・意向

問10 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(〇はいくつでも)

問11 これからどのような活動をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

#### 【活動状況】

n	スポーツやレクリエーション	旅行	買い物	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動
TOTAL : 8	12.5%	37.5%	62.5%	-	-	25.0%
	講座や講演会などへの参加	地域の行事やお祭り	その他	特に何もしてない	無回答	
	12.5%	-	25.0%	12.5%	12.5%	

#### 【活動意向】

n	スポーツやレクリエーション	旅行	買い物	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動
TOTAL : 8	-	50.0%	12.5%	-	-	25.0%
	講座や講演会などへの参加	地域の行事やお祭り	その他	特に活動したくない	無回答	
	12.5%	-	-	-	37.5%	

### (3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問12 問11のような活動をするために、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

n	活動についての情報が提供されること	一緒に行く仲間がいること	活動するための場所が近くにあること	外出のための手段が確保されていること	魅力的な内容であること
TOTAL : 8	37.5%	50.0%	62.5%	50.0%	25.0%
	適切な指導者がいること	障害のある人に配慮した施設や設備があること	介助者・援助者がいること	無回答	
	50.0%	25.0%	50.0%	12.5%	

## 4 健康状態や医療について

### (1) 最近の健康状態

問 13 最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

	n	健康である	通院している	無回答
TOTAL	8	12.5%	62.5%	25.0%

### (2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 14 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(○はいくつでも)

	n	専門の医療機関がどこにあるかわからない	専門的な治療を行う医療機関がない	通院や健康診断のときに付き添いがいない	歯科診療を受けられない	定期的に健康診断を受けられない
TOTAL	8	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%
		医療スタッフの障害に対する理解が不十分	その他	特に困ったり不便に思うことはない	無回答	
		12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	

## 5 日中の過ごし方

### (1) 日中の過ごし方

問 15 あなたは、主に日中をどのように過ごしていますか。(○は1つ)

	n	福祉のサービスに通っている	介護保険のサービスに通っている	求職中である	自宅にすることが多い	その他	無回答
TOTAL	8	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%

## 6 雇用・就労について

### (1) 就労に関するサービスの認知状況

問 16 あなたは、次のサービスを知っていますか。(○はいくつでも)

	n	西東京市障害者就労支援センター一步による就労支援	東京障害者職業センターによる就労支援	ジョブコーチ制度	田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス	ハローワークのインターネット障害者求人閲覧サービス	就労移行支援事業所による就労支援	上記の中に、知っているものは1つもない	無回答
TOTAL	8	37.5%	12.5%	-	-	-	-	37.5%	12.5%

### (2) 就労状況

問 17 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

	n	収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事はしていない	無回答
TOTAL	8	12.5%	75.0%	12.5%

### (3) 就労形態

問 18 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

	n	自営業(家業の手伝いを含む)
TOTAL	1	100.0%

【高次脳機能障害】

(4) 給与・賃金額

問 19 あなたご自身の1ヶ月当たりの平均的な給与・賃金はいくらですか。

回答なし

(5) 仕事をする上で困っていること

問 20 仕事をする上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

回答なし

(6) 働いていない理由

問 21 働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

n	障害や病気のために働くことができる状態でないから	自分に合った仕事や働き方がわからないから	希望に合った求人が見つからないから	高齢だから	働く必要がないから
TOTAL : 6	50.0%	33.3%	16.7%	50.0%	16.7%

(7) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 22 障害のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

n	自分の家の近くに働く場があること	自分の家の中で、通勤することなく働けること	健康状態にあわせた働き方ができること	障害のある人に適した仕事が開発されること	就労をあっせんしたり、相談できる場が整っていること	技能・知識の習得を援助する施設が充実していること	民間企業がもっと積極的に雇用すること
TOTAL : 8	62.5%	50.0%	87.5%	62.5%	25.0%	37.5%	37.5%
	起業することを希望する人への支援を充実させること	事業主などが、障害者雇用を十分理解していること	職場施設や設備が利用できるように配慮されていること	介助者と一緒に働けること	障害のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	トライアル雇用など雇用を支援する仕組みがあること	
	25.0%	37.5%	25.0%	37.5%	50.0%	25.0%	

## 7 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先

問 23 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、夜間や休日に急に具合が悪くなったときなど、困ったときに誰かに相談しましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

問 24 差し支えなければ、相談しなかった理由をお書きください。

n	家族や親せきに相談した	友人・知人に相談した	通院している病院や入院したことのある病院に相談した	地域活動支援センターに相談した
TOTAL : 8	87.5%	12.5%	37.5%	25.0%

### (2) 希望する相談先や相談体制

問 25 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また、相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

- ・ かかりつけの医師 (女性・84 歳)
- ・ 近所の方 (男性・75 歳)

### (3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 26 障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(○はいくつでも)

n	障害者のしおり(市で作成した冊子)	市の広報紙(広報テープを含む)	都の広報紙(広報テープを含む)	病院、診療所	家族、親せき	その他
TOTAL : 8	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	25.0%	25.0%

### (4) フレンドリー内施設の認知状況

問 27 あなたは、西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

n	相談支援センター・えぼっく	就労支援センター・一歩	地域活動支援センター・ハーモニー	生活介護事業所・くろーばー	1～4の施設はいずれも知らない	障害者総合支援センター「フレンドリー」を知らない	無回答
TOTAL : 8	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	37.5%	25.0%

## 8 福祉サービスについて

### (1) 福祉サービスの利用経験・利用意向

問 28 あなたは、この1年くらいの間に、次のサービスを利用したことがありますか。利用したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

問 29 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

#### 【利用したことがあるサービス】

n	ホームヘルプサービス	短期入所(ショートステイ)	移動支援(ヘルパーの派遣)	生活サポート	日中一時支援
TOTAL : 8	37.5%	25.0%	-	12.5%	-
	地域活動支援センター	手話通訳者・要約筆記者の派遣	その他	1~7のようなサービスは利用したことはない	無回答
	12.5%	-	12.5%	25.0%	-

#### 【今後利用したいサービス】

n	ホームヘルプサービス	短期入所(ショートステイ)	移動支援(ヘルパーの派遣)	生活サポート	日中一時支援
TOTAL : 8	25.0%	25.0%	-	25.0%	-
	地域活動支援センター	手話通訳者・要約筆記者の派遣	その他	1~7のようなサービスは利用したことはない	無回答
	25.0%	-	-	-	25.0%

### (2) 必要なサービスの満足度

問 30 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

問 31 「十分、利用できていない」と思うサービスはどのサービスですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

#### 【サービスの利用の満足度】

n	現在、サービスは利用していない(必要がない)	十分、利用できていると思う	十分ではないが、ほぼ利用できていると思う	十分、利用できていないと思う	無回答
TOTAL : 8	12.5%	25.0%	37.5%	12.5%	12.5%

#### 【十分、利用できていないサービス】

n	ホームヘルプサービス	短期入所(ショートステイ)	地域活動支援センター
TOTAL : 1	100.0%	100.0%	100.0%

### (3) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 32 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

問 33 必要とするサービスとはどのようなものですか。(○はいくつでも)

回答なし

## (4) 障害福祉課窓口の満足度

問 34 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きします。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 35 問 34 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

	n	とても満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	利用したことがないのでわからない・覚えていない
TOTAL	8	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	25.0%

- ・ 障害者ハンドブックのようなものを送ってほしい。何が利用できるのかわからない。(女性・48歳)

## (5) 5年前との比較

問 36 約5年前(平成20年)と比べて、障害者のサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)

問 37 問 36 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

	n	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答
TOTAL	8	12.5%	25.0%	-	62.5%

## 9 将来の希望

## (1) 今後希望する日中の過ごし方

問 38 今後、どのような生活をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

	n	自宅でのんびり過ごしたい	施設などで実習などを行い、職場定着の支援を受けたい	医療機関で、能訓練、看護などを受けながら過ごしたい	無回答
TOTAL	8	62.5%	12.5%	12.5%	25.0%

## (2) 将来(今後)、希望する暮らし方

問 39 将来(今後)、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。(○は1つ)

	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい
TOTAL	8	87.5%	12.5%

## 10 災害対策について

### (1) 災害への備え

問 40 災害に備えて何か準備をしていますか。(○は1つ)

	n	準備している	特に準備していない	無回答
TOTAL	8	62.5%	37.5%	-

### (2) 避難所の認知状況

問 41 避難所を知っていますか。(○は1つ)

	n	知っている	知らない	無回答
TOTAL	8	62.5%	37.5%	-

### (3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 42 災害時要援護者登録を知っていますか。(○は1つ)

	n	知らない	知っているが登録していない	登録している
TOTAL	8	62.5%	25.0%	12.5%

### (4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 43 地震や台風などの災害が起こった際の不安は何ですか。(○はいくつでも)

	n	災害の状況が伝わってこない場合の不安	避難する際の不安	避難先での不安
TOTAL	8	50.0%	87.5%	87.5%

### (5) 必要な災害対策

問 44 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

	n	避難しやすい避難所を整備する	避難訓練などに参加できるようにする	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	緊急通報システムを整備する	地域で助け合える体制を整備する
TOTAL	8	62.5%	50.0%	50.0%	75.0%	87.5%



## 11 差別や人権侵害について

## (1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 45 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 46 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

	n	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない
TOTAL	8	37.5%	25.0%	12.5%	25.0%

- 理解できない言葉が使われた時。特に役所関係。その場所で見えなくなった時、机の物が(ノート)一冊がしばらくあると言っても、何分もかかる事もあり、手の感触がない。障害についての理解をしてもらっていないと感じる。(女性・66歳)

## (2) 市民理解の進捗

問 47 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

	n	進んできている	まあ進んできている	どちらともいえない	進んできていない
TOTAL	8	37.5%	37.5%	12.5%	12.5%

## (3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 48 障害のある方々が地域や社会に積極的に参加するために、特に大切なことは何だと思えますか。(○はいくつでも)

	n	障害者が参加しやすい地域活動などの機会を増やす	障害者が使いやすいように施設を整備する	移動が困難な人に配慮して、交通機関や道路を整備する
TOTAL	8	37.5%	62.5%	50.0%
		地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深める	ボランティアを育成する	障害者本人や家族同士が協力しあう
		62.5%	37.5%	25.0%

## (4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 49 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、何が重要だと思いますか。(○はいくつでも)

	n	障害や福祉についての関心や理解を深めるための啓発	障害者に対してのボランティア活動や人材育成への支援	障害のある人との交流を通じた障害への理解の促進	学校における福祉教育の充実
TOTAL	8	75.0%	75.0%	25.0%	50.0%
		障害に関する講演会や学習会の開催	障害のある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供	福祉施設の地域住民への開放や地域住民との交流の促進	障害のある人の地域活動への参加機会の促進
		25.0%	37.5%	37.5%	62.5%

## (5) 成年後見制度の認知状況

問 50 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

	n	名前も内容も知らない	名前を聞いたことはあるが、内容は知らない	名前も内容も知っている
TOTAL	8	25.0%	50.0%	25.0%

## (6) 成年後見制度の利用意向

問 51 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

	n	すでに活用している	今は必要ないが、将来必要になったら活用したい	活用したいとは思わない	わからない
TOTAL	8	-	25.0%	25.0%	50.0%

## 12 市への要望等

### (1) 充実させていくべき障害者施策

問 52 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

n	予防とともに早期に発見し早い段階での適切な対応	障害に対する理解を深めてもらうための交流を推進する	障害のある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進める	障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	在宅生活支援サービスを充実させること	利用できる施設を増やすこと	「福祉のまちづくり」を推進すること
TOTAL   8	75.0%	50.0%	37.5%	25.0%	37.5%	75.0%	75.0%
	障害のある人が住みやすい住居を確保整備すること	文化、スポーツ活動などに参加できるように支援すること	ボランティア活動を充実させること	障害者サービスや福祉情報提供を充実させること	相談体制を充実させること	成年後見制度が利用しやすくなるように支援すること	無回答
	37.5%	25.0%	50.0%	50.0%	62.5%	12.5%	12.5%

### (2) 居住継続意向

問 53 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

n	思う	思わない	わからない
TOTAL   8	100.0%	-	-

### (3) 意見・要望等

- ・ 妻が高次脳機能障害と左マヒをもっています。仕事につきたい気持ちはあるのですが、社員のような週5日は無理（疲れやすい）で、いわゆるアルバイト週2～3日（1日4～5H）が適切と考えています。そのような仕事は障害を持つ人にもあるのでしょうか。（女性・48歳）
- ・ 西東京市は農家が多く、後継者がいるところも多いと聞きます。西東京市に住みながら農家のお手伝いから将来的に事業の引継のような形がとれないものかと考えています。夫婦で農家をやりながら、自給自足ができればいいなあと思っています。障害者の人でも起業できる積極的な制度、対策があるといいなあと思います。（女性・48歳）
- ・ 高次脳機能障害の遂行機能で海馬に損傷があるため、突然目が見えなくなる、自分の今いる場所がわからなくなる、味覚がなくなる、考えたことをまとめられない、感情の起伏があるなど症状があり、そこを理解してもらえないため、対人関係での問題が大きくなっている。家族の会に毎月参加しています。（女性・66歳）

## 1 基本的な属性等

### (1) 調査票の記入者

問4 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(〇は1つ)

	n	本人が記入、または、本人が答え代筆者が記入	家族(本人の立場に立って記入)
TOTAL	15	46.7%	53.3%

### (2) 性別・年齢

問5 あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

問6 年齢(4月1日現在)を記入してください。

	n	男性	女性
TOTAL	15	80.0%	20.0%

	n	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢
TOTAL	15	46.7%	-	26.7%	13.3%	6.7%	-	6.7%	20.7歳

### (3) 他の障害の状況

問7 次のうち、あてはまるものに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

	n	身体障害者手帳を持っている	愛の手帳(療育手帳)を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	難病医療費等助成対象疾病を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	無回答
TOTAL	15	-	-	46.7%	-	-	53.3%

### (4) 発達障害の診断の有無

問1 あなたは、これまでに「発達障害(自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害等)」と診断されたことがありますか。あてはまるものに〇をつけてください。(〇は1つ)

	n	ある	ない	わからない
TOTAL	15	66.7%	26.7%	6.7%

### (5) 日常生活に支障をきたすこと

問2 日常生活を送る上でどのような支障がありますか。

- ・ 人間関係で仕事や学校、交友で困っている。LDで英語や漢文、くずしができないため、ゆめを一つあきらめた。ADHDでケアレスミスや早とちり、確実性の欠陥で困っている。(男性・26歳)
- ・ 複数名で臨機応変に連けいして行う作業で、自分がどう動けばよいか判断できず、皆の動きを見るだけで立ち尽くしてしまう。(男性・38歳)
- ・ 作業の要領や指示、雑談を飲み込むのに時間がかかり、作業がもたついたり、返答に困ったり、自分の感情や考えが分からなかったりする。(男性・38歳)
- ・ 集中力または記憶力等がひくく、注意される事が多いです。集中力が低い事で、物にぶつかったり、しやがせまくなったりしがちです。(男性・25歳)
- ・ 五感がナーバス。自分勝手な行動。相手の話が理解できない。自分の話が上手く伝わらない。(男性・24歳)
- ・ 理解力が弱い。スムーズな会話が困難。対人関係が築きにくい。(男性・22歳)
- ・ 幼稚園等の集団生活が苦手。(男性・5歳)
- ・ 要求が通らないと泣き叫ぶ。お友だちとの関わり方がヘタで、相手にされない。指示が理解できない、聞いていない。(男性・4歳)

**【発達障害】**

- ・ 言葉の遅れ。理解力の不足もあり、同年齢の子どもと同じレベルでの活動はできない状況です。(男性・4歳)
- ・ 学校生活を送るのがつらい。勉強がわからない。(男性・7歳)

**(6) 充実されるとよい施策**

問3 上記のようなときに、どのような支援があるとよいと思いますか。

- ・ これらのおかげで生きていくうえで、困難になっているので、正社員であろうともサポートを付けていただければと思う。(男性・26歳)
- ・ 作業をいくつかパターン化してから割り振ってもらうなど、臨機応変さがやわらいだり、作業内容の単純化、明確さが上がると助かる。指示を飲み込んだり、話の内容を飲み込んで返答を考える時間をもらえると助かる。(男性・38歳)
- ・ 良く声をかけたりして注意をうながしたり、同じことを何回も聞かれた場合でも、くり返し教えて記憶をはんぷくしてうながしたりすると助かると思います。(男性・25歳)
- ・ そういう子どもたちがのびのびと遊べる公園やホール (男性・4歳)
- ・ 話が伝わらない時や作業で行き詰った時に、容易な説明・打開方法をしてもらえること。(男性・24歳)
- ・ (仕事等では相手の方との間に入って) 障害の特性を理解し、わかりやすく話、またじっくり話しを聞いて下さる支援人の方がいて下さると助かります。(男性・22歳)
- ・ 個別にわかりやすく伝えてくれる補助の先生がいれば、集団生活も問題ないので支援してもらいたい。(男性・5歳)
- ・ 保育園や幼稚園に通う時に特別な配慮を受けられるような支援があるとよい。発達障害(本人)を要件で公立保育園(加配がつくので)に入園。ひいらぎやひよっこで児童の受け入れ人数や1人あたりの利用時間を多くできるように、先生の人数を増やす等。(男性・4歳)
- ・ 発達の遅れのある子どもへの支援ができる体制が不足していると感じます。入所したくても場が無いです。(男性・4歳)
- ・ 通級に通っていても、親の希望で必要あれば学習支援員をつけてほしい。(男性・7歳)

**2 介助・援助の状況**

**(1) 介助・援助を受けている場面**

問8 あなたは、どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

n	介助・援助は受けていない	食事をするとき	家事(調理、掃除、洗濯)をするとき	着替えをするとき	外出するとき	学校や職場、作業所などへの送り迎えのとき
TOTAL : 15	20.0%	13.3%	26.7%	13.3%	13.3%	13.3%
	服薬するとき	生活費などお金の管理	暮らしに必要な事務手続き	相手の話を知りたいときや自分の話を伝えたいとき	その他	無回答
	13.3%	20.0%	20.0%	20.0%	26.7%	26.7%

### 3 外出や社会参加について

#### (1) 外出の際に困っていること

問9 外出の際に困っていることはありますか。(○はいくつでも)

n	付き添ってくれる人がいない	他人との会話が難しい	他人の視線が気になる	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮が足りない
TOTAL : 15	13.3%	40%	13.3%	20.0%
	電車やバスなどの交通機関が利用しづらい	特に困っていることはない	無回答	
	20.0%	20.0%	20.0%	

#### (2) 余暇活動の状況・意向

問10 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

問11 これからどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

##### 【活動状況】

n	スポーツやレクリエーション	旅行	買い物	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動
TOTAL : 15	53.3%	26.7%	73.3%	-	-	26.7%
	講座や講演会などへの参加	地域の行事やお祭り	その他	特に何もしてない	無回答	
	6.7%	33.3%	-	-	13.3%	

##### 【活動意向】

n	スポーツやレクリエーション	旅行	買い物	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動
TOTAL : 15	46.7%	53.3%	53.3%	6.7%	13.3%	33.3%
	講座や講演会などへの参加	地域の行事やお祭り	その他	特に活動したくない	無回答	
	20.0%	40.0%	13.3%	-	13.3%	

#### (3) 余暇活動をするために必要とする環境・条件

問12 問11のような活動をするために、どのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

n	活動についての情報が提供されること	一緒に行く仲間がいること	活動するための場所が近くにあること	外出のための手段が確保されていること	魅力的な内容であること
TOTAL : 15	33.3%	33.3%	40.0%	6.7%	46.7%
	適切な指導者がいること	障害のある人に配慮した施設や設備があること	介助者・援助者がいること	特にない	無回答
	66.7%	46.7%	26.7%	6.7%	13.3%

### 4 健康状態や医療について

#### (1) 最近の健康状態

問13 あなたの最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

n	健康である	通院している
TOTAL : 15	46.7%	53.3%

【発達障害】

(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 14 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(〇はいくつでも)

n	近所に診てくれる 医師がいない	専門的な治療を 行う医療機関が ない	通院や健康診断 のときに付き添い がない	往診を頼める医 師がいない	定期的に健康診 断を受けられな い	症状が正確に伝 わらず、必要な 治療を受けられ ない
TOTAL : 15	26.7%	20.0%	6.7%	20.0%	13.3%	13.3%
	受診手続きなど、 障害のある人へ の配慮が不十分	医療費の負担が 大きい	医療スタッフの障 害に対する理解 が不十分	その他	特に困ったり不 便に思うことはな い	無回答
	13.3%	13.3%	6.7%	6.7%	26.7%	20.0%

5 日中の過ごし方

(1) 日中の過ごし方

問 15 あなたは、主に日中をどのように過ごしていますか。(〇は1つ)

n	幼稚園や保育園、学 校などに通っている	福祉のサービスに通 っている	求職中である	自宅にすることが多 い	その他
TOTAL : 15	46.7%	20.0%	13.3%	13.3%	6.7%

6 幼稚園・保育園、学校等について

(1) 通園・通学先

問 16 通っているのは次のうちどれですか。(〇は1つ)

n	幼稚園、保育園	小学校、中学校、高校(普通学級)
TOTAL : 7	85.7%	14.3%

(2) 幼稚園・保育園、学校等に通っていて困っていること

問 17 幼稚園や学校などに通っていて困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

n	通うのがた いへん	介助体制が 十分でない	先生の理解 や配慮が足 りない	まわりの児 童・生徒た ちの理解が 得られない	友だちがで きない	その他	特に困って いることは ない	無回答
TOTAL : 7	14.3%	28.6%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	57.1	14.3%

(3) 学校教育に望むこと

問 18 学校などに望むことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

n	就学相談や進 路相談など、 相談体制を充 実させてほし い	能力や障害の 状況に合った 指導をしてほ しい	施設、設備、 教材を充実し てほしい	個別指導を充 実してほしい	障害の状況に かかわらず普 通学級で受け 入れてほしい	その他	特に望むこと はない
TOTAL : 7	28.6%	71.4%	28.6%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%

## (4) 介助員制度の認知状況

問 19 市では、通常の学級に在籍する障害のある児童に関して、学校生活の安定や保護者による介助負担の軽減を図るため、介助員を配置する制度を実施していますが、そのような制度があることを知っていますか。(○は1つ)

問 20 介助員制度へのご意見等があれば、自由にお書きください。

n	利用している・利用したことがある	制度があることは知っているが、利用したことはない	知らない・わからない
TOTAL : 7	-	28.6%	71.4%

- ・ 支援級未満の子どもに対しての配慮として通常クラスの介助員という制度は大変に心強いと思います。(男性・4歳)
- ・ 時々「お母様が小学校の普通級に付き添っている」という話を聞くので、本当に機能しているのか疑問です。(男性・5歳)
- ・ 知っていて利用したいが、実際には制限があって、利用できない。(男性・7歳)

## 7 雇用・就労について

## (1) 就労に関するサービスの認知状況

問 21 次のサービスを知っていますか。(○はいくつでも)

n	西東京市障害者就労支援センター・一歩による就労支援	東京障害者職業センターによる就労支援	ジョブコーチ制度	田無庁舎内ハローワーク出張所による求人閲覧サービス	ハローワークのインターネット障害者求人閲覧サービス	就労移行支援事業所による就労支援	上記の中に、知っているものは1つもない	無回答
TOTAL : 15	53.3%	6.7%	13.3%	33.3%	33.3%	13.3%	26.7%	13.3%

## (2) 就労状況

問 22 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

n	収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事はしていない	無回答
TOTAL : 15	13.3%	73.3%	13.3%

## (3) 就労形態

問 23 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

n	内職	授産施設、福祉作業所など(就労支援事業)
TOTAL : 2	50.0%	50.0%

## (4) 仕事をする上で困っていること

問 25 仕事をする上で困っていることは何ですか。(○はいくつでも)

n	給与・工賃などの収入が少ない	勤務時間、日数が多く体力的に不安	業務内容が合わない	職場の人間関係
TOTAL : 2	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	職場の設備が障害に対応していない	障害に対する職場の理解不足	職場外で相談相手がいない	
	50.0%	100.0%	50.0%	

## 【発達障害】

### (5) 働いていない理由

問 26 働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

n	障害や病気のために働くことができない状態でないから	働く自信がないから	希望に合った求人が見つからないから	技術が未熟だから
TOTAL : 11	27.3%	18.2%	18.2%	18.2%
	企業面接を受けているが採用されない	医師や家族に止められているから	その他	無回答
	9.1%	9.1%	27.3%	36.4%

### (6) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 27 障害のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

n	自分の家の近くに働く場があること	自分の家の中で、通勤することなく働けること	健康状態にあわせた働き方ができること	障害のある人に適した仕事が開発されること	就労をあっせんしたり、相談できる場が整っていること	技能・知識の習得を援助する施設が充実していること	民間企業がもっと積極的に雇用すること
TOTAL : 15	60.0%	26.7%	60.0%	53.3%	60.0%	66.7%	60.0%
	起業することを希望する人への支援を充実させること	事業主などが、障害者雇用を十分理解していること	職場施設や設備が利用できるように配慮されていること	介助者と一緒に働けること	障害のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	トライアル雇用など雇用を支援する仕組みがあること	無回答
	20.0%	73.3%	66.7%	13.3%	33.3%	53.3%	6.7%

## 8 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先

問 28 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、夜間や休日に急に具合が悪くなったときなど、困ったときに誰かに相談しましたか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

問 29 差し支えなければ、相談しなかった理由をお書きください。

n	家族や親せきに相談した	友人・知人に相談した	通院している病院や入院したことがある病院に相談した	現在通っている福祉施設に相談した	地域活動支援センターに相談した
TOTAL : 15	53.3%	33.3%	53.3%	40.0%	13.3%
	障害者総合支援センター「フレンドリー」に相談した	多摩小平保健所に相談した	家族会や障害者団体に相談した	誰にも相談しなかった	無回答
	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%	13.3%

- ・ 普段お世話になっているところが、平日しか営業していないため（私の場合は一歩やその系列）、特に就労している場合だと、さらに難しくなるので、人員を増やしてほしいので、行政にこの面の予算を増額してほしい。（男性・26歳）
- ・ 相談しても最良なアドバイスを貰えず、助けてもらえなかったから。（男性・24歳）

### (2) 希望する相談先や相談体制

問 30 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

- ・ 支援センター（男性・39歳）
- ・ 専門医。簡易なアドバイス、支援をしてくれるところ。（男性・24歳）



- ・ 一歩のような所で保証人のあっせんや、24 時間体制で就労の事中心でもかまわないので、すぐ相談できるような体制にしてほしい。自治体ももう少し助成金を増やしていただきたいです。(男性・26 歳)
- ・ 医師や福祉施設などの専門家。もっと身近に多く、簡単に分かる場所にあるとうれしい。(男性・38 歳)
- ・ 病院や職業支援の施設等。簡単に相談できる体制や施設の有無を知ることができる手段。(男性・25 歳)
- ・ 親、信頼のできる場所や体制 (男性・4 歳)
- ・ 気軽にいつでも立ち寄れて、雑談にでも相手をしていただければ幸いです。障害を理解し、親身に話しを聞いてくれる支援施設があればよいと思います。(男性・22 歳)
- ・ 休日でも相談できるところがあると良いです。(男性・42 歳)
- ・ ひいらぎ。職員の人数を増やす。(男性・4 歳)
- ・ (子どもなので) 地域の児童館に相談する体制があればいいなと思います。専門のカウンセラーの配置など希望致します。(男性・4 歳)
- ・ お役所仕事ではなく、障害を持った人に対して、親身になって対応してくれる体制。(男性・7 歳)
- ・ 地域の子ども相談にお話して、いろいろアドバイスがもらえたが、予約がないと相談できないのが残念。予約なしでもすぐにいつでも OK などところがほしい。(女性・5 歳)

### (3) 障害福祉サービス等の情報の入手先

問 31 障害福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

n	障害者のしおり(市で作成した冊子)	市の広報紙(広報テープを含む)	市のホームページ	都のホームページ	テレビ、ラジオ、新聞	障害者団体
TOTAL : 15	13.3%	26.7%	20.0%	20.0%	6.7%	6.7%
	学校、職場、施設	病院、診療所	家族、親せき	友人、知人	その他	
	33.3%	40.0%	13.3%	6.7%	13.3%	

### (4) フレンドリー内施設の認知状況

問 32 あなたは、西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

n	相談支援センター・えぼっく	就労支援センター・一歩	地域活動支援センター・ハーモニー	生活介護事業所・くろーばー	1～4の施設はいずれも知らない	障害者総合支援センター「フレンドリー」を知らない
TOTAL : 15	40.0%	53.3%	26.7%	13.3%	13.3%	33.3%

## 9 福祉サービスについて

## (1) 福祉サービスの利用経験・利用意向

問 33 あなたは、この1年くらいの間に、次のサービスを利用したことがありますか。利用したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

問 34 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

## 【利用したことがあるサービス】

n	ホームヘルプサービス	短期入所(ショートステイ)	移動支援(ヘルパーの派遣)	生活サポート	日中一時支援
TOTAL : 15	-	6.7%	-	6.7%	-
	地域活動支援センター	手話通訳者・要約筆記者の派遣	その他	1～8のようなサービスは利用したことはない	無回答
	26.7%	-	13.3%	46.7%	6.7%

## 【今後利用したいサービス】

n	ホームヘルプサービス	短期入所(ショートステイ)	移動支援(ヘルパーの派遣)	生活サポート	日中一時支援
TOTAL : 15	-	-	-	-	6.7%
	地域活動支援センター	手話通訳者・要約筆記者の派遣	その他	1～8の中に利用したいサービスはない	無回答
	26.7%	-	6.7%	40.0%	20.0%

## (2) 必要なサービスの満足度

問 35 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

問 36 「十分、利用できていない」と思うサービスはどのサービスですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

## 【サービス利用の満足度】

n	現在、サービスは利用していない(必要がない)	十分、利用できていると思う	十分ではないが、ほぼ利用できていると思う	十分、利用できていないと思う	わからない	無回答
TOTAL : 15	-	26.7%	40.0%	20.0%	6.7%	6.7%

## 【十分、利用できていないサービス】

n	短期入所(ショートステイ)	生活サポート	その他
TOTAL : 3	33.3%	33.3%	66.7%

## (3) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 37 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

問 38 必要とするサービスとはどのようなものですか。

n	自己負担が大き く、利用できない から	支給要件に該当 しないから	必要とするサー ビスがないから	どのようなサー ビスがあるかわ からないから	その他	無回答
TOTAL : 15	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%	66.7%

- ・ 他人に自分の部屋へ入られるのはいやなのと、まえ他の自治体に頼んだとき、ある程度でかたづいていることが前提だと言われたから。(男性・26歳)

#### (4) 障害福祉課窓口の満足度

問 39 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きします。職員の対応や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 40 問 39 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

n	とても満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	利用したことがないのでわからない・覚えていない	無回答	
TOTAL	15	13.3%	33.3%	-	-	40.0%	13.3%

- ・ ていねいにおうたいしてくださるので。(男性・26歳)
- ・ 福祉サービス受給者証について相談に伺った際に、とても親切な対応していただいた。(男性・4歳)
- ・ 比較対象がないのでよく分からないが、特に不満を感じていないので。(男性・38歳)
- ・ 利用したさいに、分かりやすいように説明してもらったから。(男性・25歳)
- ・ 今までの対応は親切にして下さったように思います。(男性・22歳)

#### (5) 5年前との比較

問 41 約5年前(平成20年)と比べて、障害者のサービスはどのように変わったと思いますか。(○は1つ)

問 42 問 41 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

n	良くなった	変わらない	悪くなった	無回答	
TOTAL	15	26.7%	40.0%	6.7%	26.7%

- ・ デイケアなどの活動が充実してきた。(男性・62歳)
- ・ 対応が良くなった。(男性・42歳)
- ・ 正直、発達障害者に対するサービス(特に成人)に対して、どの辺が変わったか特に実感できるものがない。(男性・26歳)
- ・ 当時がどうだったか知らない。(男性・38歳)
- ・ そのようなニュースを聞いたことがないから。(男性・24歳)
- ・ 正直よくわかりません。少しは良くなっているのかもしれませんが。(男性・22歳)
- ・ 発達障害と診断される子どもの人数は増えているのに、ひいらぎやひよっこで受け入れられる人数は増えていないから。(男性・4歳)

## 10 将来の希望

#### (1) 今後希望する日中の過ごし方

問 43 今後、どのような生活をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

n	自宅でのんびり過ごしたい	一般企業などで働きたい	施設内で就労したり、生産活動をしながらかつてほしい	施設などで実習などを行い、職場定着の支援を受けたい	身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	
TOTAL	15	13.3%	53.3%	26.7%	33.3%	26.7%
	医療機関で、能訓練、看護などを受けながら過ごしたい	創作活動や社会との交流などを行うところで過ごしたい	学校に通いたい	わからない	無回答	
	6.7%	13.3%	40.0%	6.7%	13.3%	

#### (2) 将来(今後)、希望する暮らし方

問 44 将来(今後)、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。(○は1つ)

n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	現在は一緒に住んでいない家族と一緒に暮らしたい	わからない	無回答	
TOTAL	15	26.7%	6.7%	26.7%	26.7%	13.3%

## 11 災害対策について

### (1) 災害への備え

問 45 災害に備えて何か準備をしていますか。(〇は1つ)

	n	準備している	特に準備していない	無回答
TOTAL	15	46.7%	46.7%	6.7%

### (2) 避難所の認知状況

問 46 避難所を知っていますか。(〇は1つ)

	n	知っている	知らない	無回答
TOTAL	15	46.7%	46.7%	6.7%

### (3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 47 災害時要援護者登録を知っていますか。(〇は1つ)

	n	知らない	知っているが登録していない	登録している	無回答
TOTAL	15	93.3%	-	-	6.7%

### (4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 48 地震や台風などの災害が起こった際の不安は何ですか。(〇はいくつでも)

	n	災害の状況が伝わってこない場合の不安	避難する際の不安	避難先での不安	その他	特になし	わからない	無回答
TOTAL	15	40.0%	33.3%	53.3%	20.0%	6.7%	13.3%	6.7%

### (5) 必要な災害対策

問 49 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	n	避難しやすい避難所を整備する	避難訓練などに参加できるようにする	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	緊急通報システムを整備する	地域で助け合える体制を整備する	その他	無回答
TOTAL	15	46.7%	33.3%	40.0%	20.0%	40.0%	20.0%	13.3%

## 12 差別や人権侵害について

### (1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 50 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(〇は1つ)

問 51 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

	n	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
TOTAL	15	26.7%	20.0%	26.7%	20.0%	6.7%

- ・ 障害に対する理解が特例子会社でさえ足りないところが多く、何か問題が起きてもこちら側が一方的に悪いという事にして、隠蔽することが横行している会社もある。(男性・26歳)
- ・ 自覚症状のない、発達に対する対策が全然足りない。今のままだとむしろ自覚のある発達障害者の方が自覚のない人の為に損をする状況が今後続くので何とかしてほしい。(男性・26歳)
- ・ 一方的に問題の改善を自分だけに求められる場合。ネット上での偏見的なレッテルはりなど。(男

性・38歳)

- ・ 一般企業で障害の説明をした時、難色をしめされ、面接を受けたにもかかわらず、合否の連絡すらなかった時。(男性・25歳)
- ・ 他人との会話・他人からアドバイスを貰う時。(男性・24歳)
- ・ 日本の社会の理解がまだまだ足りない。(男性・42歳)
- ・ 外見で障害があるのか判断されにくい場合が多く、公共の場で実際に遊び始めると「おかしい子」として避けられる事が多くあります。(男性・4歳)

## (2) 市民理解の進捗

問 52 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

n	進んできている	まあ進んできている	どちらともいえない	進んできていない	わからない	無回答
TOTAL 15	-	13.3%	20.0%	26.7%	33.3%	6.7%

## (3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 53 障害のある方々が地域や社会に積極的に参加するために、特に大切なことは何だと思えますか。(○はいくつでも)

n	障害者が参加しやすい地域活動などの機会を増やす	障害者が使いやすいように施設を整備する	移動が困難な人に配慮して、交通機関や道路を整備する	地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深める	ボランティアを育成する	障害者本人や家族同士が協力しあう	その他	無回答
TOTAL 15	46.7%	53.3%	33.3%	66.7%	20.0%	33.3%	6.7%	6.7%

## (4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 54 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、何が重要だと思えますか。(○はいくつでも)

n	障害や福祉についての関心や理解を深めるための啓発	障害者に対してのボランティア活動や人材育成への支援	障害のある人との交流を通じた障害への理解の促進	学校における福祉教育の充実	障害に関する講演会や学習会の開催
TOTAL 15	53.3%	26.7%	53.3%	80.0%	60.0%
	障害のある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供	福祉施設の地域住民への開放や地域住民との交流の促進	障害のある人の地域活動への参加機会の促進	その他	無回答
	60.0%	26.7%	20.0%	6.7%	6.7%

## (5) 成年後見制度の認知状況

問 55 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

n	名前も内容も知らない	名前を聞いたことはあるが、内容は知らない	名前も内容も知っている	無回答
TOTAL 15	20.0%	26.7%	46.7%	6.7%

## (6) 成年後見制度の利用意向

問 56 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

n	すでに活用している	今は必要ないが、将来必要になったら活用したい	活用したいとは思わない	わからない	無回答
TOTAL 15	-	40.0%	13.3%	40.0%	6.7%

## 13 市への要望等

### (1) 充実させていくべき障害者施策

問 57 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

n	予防とともに早期に発見し早い段階での適切な対応	障害に対する理解を深めてもらうための交流を推進する	障害のある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進める	障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	在宅生活支援サービスを充実させること	利用できる施設を増やすこと	「福祉のまちづくり」を推進すること
TOTAL : 15	80.0%	53.3%	73.3%	66.7%	53.3%	40.0%	53.3%
	障害のある人が住みやすい住居を確保整備すること	文化、スポーツ活動などに参加できるよう支援すること	ボランティア活動を充実させること	障害者サービスや福祉情報提供を充実させること	相談体制を充実させること	成年後見制度が利用しやすくなるように支援すること	無回答
	53.3%	40.0%	26.7%	60.0%	66.7%	26.7%	6.7%

### (2) 居住継続意向

問 58 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

n	思う	思わない	わからない	無回答
TOTAL : 15	53.3%	-	26.7%	20.0%

### (3) 意見・要望等

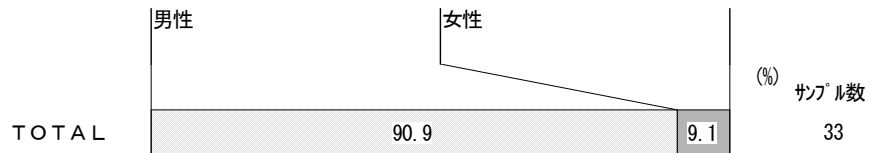
- ・ 障害者個人が支援を受けたり知ったりする場合に、まわりの手伝いが無ければ難しいのが現状です。自分から行動をおこしたりするのがむずかしい人もおおぜいいる中で、そういう人たちが活動に参加しやすいとはいえないです。もっとネットやチラシだけでなく、気がるに参加できる企画や、地域へのはたらきかけを強化していただければ、障害者としてもありがたいです。(男性・25歳)
- ・ ひいらぎやひよっこで受け入れられる人数を多くしたり、1人辺りの利用時間を増やしてほしい。ひいらぎやひよっこへの予算(職員を増やせるように等)増やしてほしい。(男性・4歳)
- ・ 公立保育園では、加配の先生(予算)がつかず。本人が発達障害を理由に公立保育園には入れない。公立の幼稚園はない。→公立のこども園などができるのか?(男性・4歳)
- ・ 自立支援組織「ハーモニー」に通うようになって4年目を向かえますが、施設、内容、スタッフ共に素晴らしい。(男性・62歳)
- ・ 子どもの発達障害に関しての理解はなかなか得られない現状です。身体的な障害については他者も分かりやすい部分があるのかも知れませんが、心の病は見えませんので…。公共の公園で遊ばせたいけど、トラブルになるので無理なんです。発想がおかしいかもですが、障害を持った子ども専用の公園を作ってほしいです。(男性・4歳)
- ・ 自閉症と診断されましたが、現在、精神障害者手帳を持っています。精神障害とは少し違うように感じますので、適した手帳があればと思います(男性・22歳)
- ・ 息子は2～5才の現在までひいらぎに通っています。来年は小学校入学、ひいらぎも卒業です。相談先が学校だけになってしまうのでは?と不安です。小学校に入ってからの方が、第三者に相談したいことが増えそうなので、何か継続して親身になってくれる機関があると助かります。(男性・5歳)
- ・ 私のように親に恵まれず、社会にてきごう出来ず、天涯こどくの人には他にもいるはずなので、障害者が住みやすい社会を作るかんきょうが難しいのなら、成人の発達障害者には、人生を続けるか、それとも終止符をつけるか本人の自己判断で決定できるようにしてください。(男性・26歳)

# 1 基本的な属性等

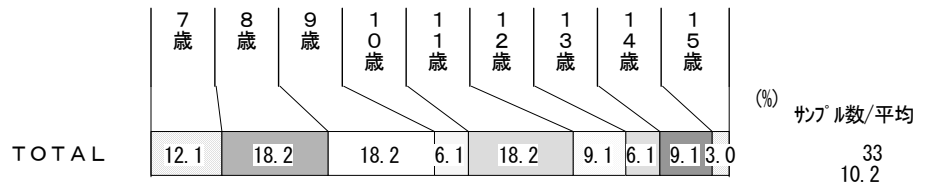
## (1) 性別・年齢

問1 お子さんの性別をお答えください。(○は1つ)  
 問2 お子さんの年齢(6月1日現在)を記入してください。

性別は、男性が 90.9%、  
 女性が 9.1%。



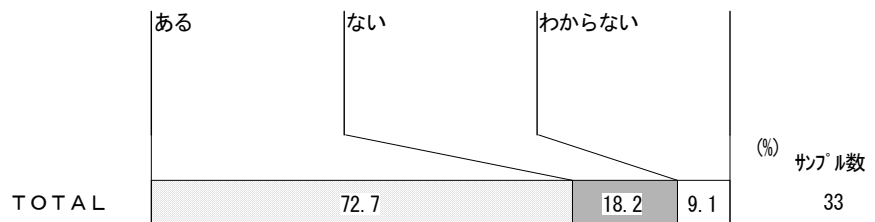
年齢は、7歳から15歳までで、  
 平均年齢は10.2歳。



## (2) 発達障害の診断の有無

問3 お子さんは、これまでに「発達障害(自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害等)」と診断されたことがありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

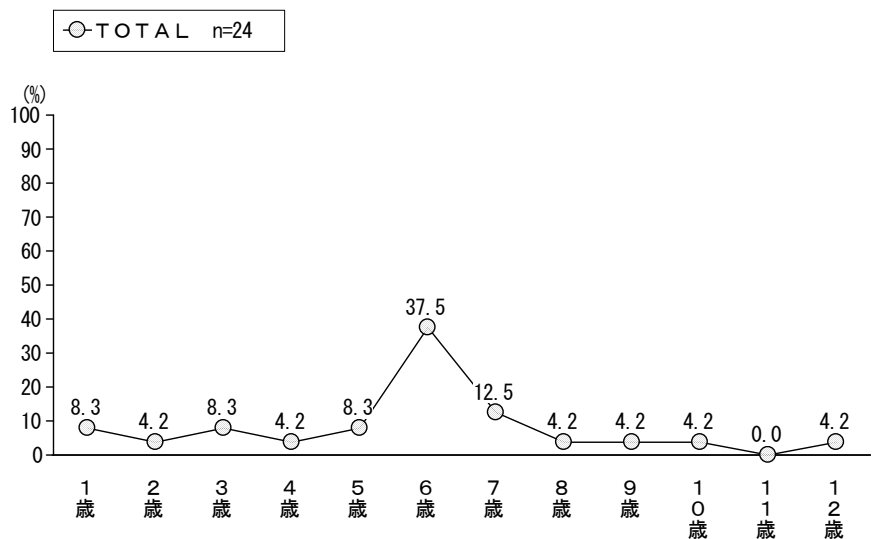
72.7%の人が発達障害と診断されたことが「ある」と回答している



## (3) 発達障害の診断・判断を受けた年齢・きっかけ

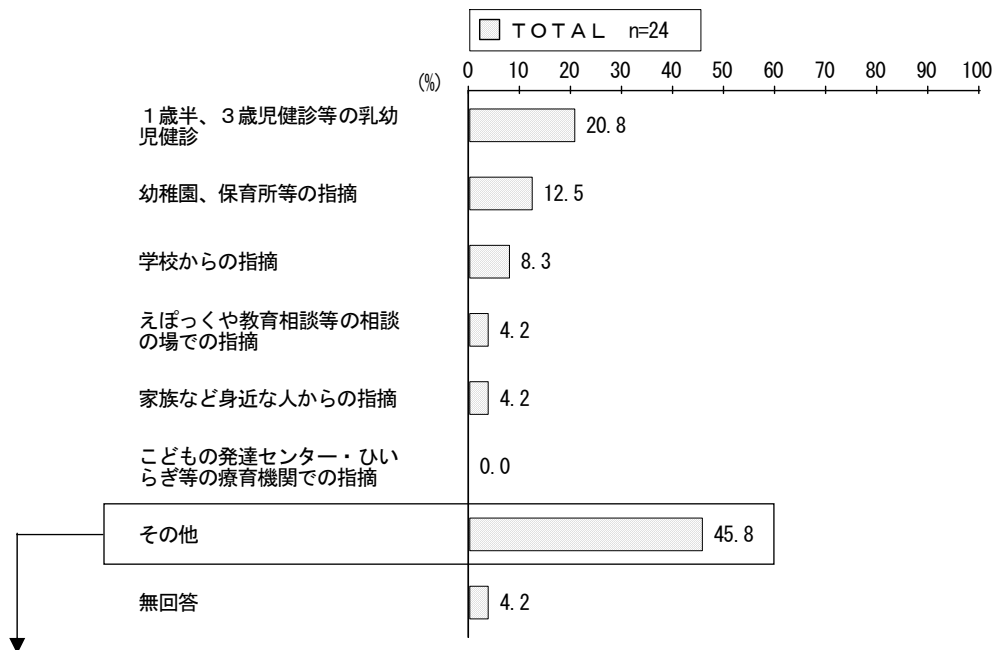
問4 問3の診断・判定を受けたのは何歳の頃ですか。  
 問5 お子さんが発達障害ではないか考えるようになったのは、どんなきっかけでしたか。(○はいくつでも)

発達障害の診断・判定を受けた年齢は、「6歳」が37.5%と最も多い。



## 【通級指導学級】

お子さんが発達障害ではないかと考えるようになったきっかけは、「1歳半、3歳児健診等の乳幼児健診」が20.8%、「幼稚園、保育所等の指摘」が12.5%となっている。



「その他」としては、具体的に次のような内容があった。

- ・ 上の子との比較。まわりの子との様子。(公園、幼稚園など) (男性・12歳)
- ・ 子どもの様子を見て。(男性・11歳)
- ・ 他児との比較 (男性・7歳)
- ・ 病院で。(男性・8歳)
- ・ 集団生活になじめないので。(男性・11歳)
- ・ 兄が指摘された時、似ている部分があったので気付いた。(男性・12歳)
- ・ 日常の生活の中で2歳半ごろ。(男性・15歳)
- ・ 運動会などの行事で、一人だけ歩き回っているのを親が見たとき。(男性・8歳)
- ・ 子育てをされていて。(男性・11歳)
- ・ ふだんの生活から。育児しづらい面から。(男性・9歳)
- ・ 幼稚園での様子を見て自分でおかしいと思った。(男性・8歳)

### (4) 日常生活を送る上での困難さ

問6 日常生活を送る上でどのような困難がありますか。

日常生活での困難さについて、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 友人関係が上手にできない。集中力の持続ができない。痙攣を起こす。(男性・7歳)
- ・ 人とのコミュニケーションをはかるうえで、人との距離感がわからず、相手にイヤな思いをさせてしまうこと。テスト等で時々何を聞かれているのか、わからないこと。(男性・14歳)
- ・ 友だちの気持ちを推し量ることが苦手で、状況を考えずに帰ってきてしまう。(男性・11歳)
- ・ 友だちとうまくすごせない。ストレスに弱くイライラしてしまう。(男性・7歳)
- ・ 他の人とのコミュニケーションが苦手。(女性・11歳)



- ・ 同世代とのコミュニケーションがうまくできない。(特に休み時間、グループ活動等) (男性・7歳)
- ・ 会話が一方的になりやすく、お友だちとの関係がうまくいかない。(男性・12歳)
- ・ 学校(教室)で先生からの全体支持が通りにくい。(男性・7歳)
- ・ 口頭での指示を聞いて理解や行動することが遅い(苦手)。「あれ」「それ」「さっき」などの言葉はどれを指すのか迷う。同時に物事をできない、優先順位がわからない。(男性・12歳)
- ・ 質問の意味がわからなかったり、答え方がわからなかったりして、話がかみ合わない事がある。沢山の指示だと忘れてしまう。大勢の人に対して話をするとう聞きとれない。(女性・14歳)
- ・ 宿題・勉強を全くやらない。集中力は(好きな事のみ)のに困る。場の空気を読めず、ダメなトコロで目立つ行意をするなど。(男性・13歳)
- ・ 指示が通らない、返事をしない、人の真似をして作業ができない。イヤな事をするのになかなか気持ちを切り替えられない。何度も同じ事で注意される。(男性・8歳)
- ・ 集中すること、片付けること、たくさんの指示を一度に行なえないなどのことから、勉強の遅れ、その他に支障が出ています。(男性・9歳)
- ・ なかなか新しい事に挑戦できず、ほんの少しの失敗でくじけてしまう。くじけるとなかなか立ち直れない。字を書く事が遅かったり、物を見付けるのが苦手、辞書を引くのが苦手だったり、作文が書けない。泣く、パニックになる。(男性・11歳)
- ・ 行動の切り替えがすぐにできない。時間の意識が低く、守れないことがある。(男性・10歳)
- ・ 物事の切りかえが悪く、同じことを自分が納得するまで言い続けるので、終わった話でもしつこく我を通してくるときが本当に大変です。(男性・11歳)
- ・ 大きな音に過敏(音楽を使ったレクリエーション、体育館での集会等が苦手)(男性・7歳)
- ・ 学校など大勢の中でいろいろな音が気になり集中できない。時計(針)が読めない。(男性・11歳)
- ・ 自分がどのような状況にいるか説明する力が、普通の幼稚園児にも劣る。(男性・15歳)
- ・ 家庭生活の上では、時間のきりかえができないところが多少困っています。(男性・10歳)
- ・ 生活習慣を身に付けることが、なかなかできない。(女性・11歳)
- ・ 身近の物に気がまわらず、持ち物の管理ができない。物をよくなくす。目先の物ばかり気になり、先の見通しが出来ずパニックになる。(男性・9歳)
- ・ 学校での連絡事を覚えてない、忘れ物が多い。片づけができない。偏食(男性・8歳)
- ・ 気が散って集中できない。宿題に2時間かかる。・じっとしてられないので、常に1歳児前後のように見守らなくてはならない。(男性・9歳)
- ・ 日々早とちりをしてしまう。きんちょうすると空間がゆがんで見える。(男性・11歳)
- ・ 状況にかかわらず、話しつづける。わからないことがとパニック状態になり、ものを投げたり、乱ぼうになる。(男性・12歳)
- ・ 外出時、ささいな理由で興奮したり、パニック状態になりやすく、周囲で制止しにくい。本人はパニックになると記憶がなくなっている。(男性・13歳)
- ・ 場違いな言動で他人から失笑をかうことがある。(男性・14歳)
- ・ 親が叱りすぎてしまう。本人のがんばりを認めてあげられる余裕がない時がある。(男性・8歳)
- ・ 同じ事を何度も言わないとならないので、ついつい怒りがちになってしまうこと。(男性・8歳)
- ・ 夫の理解、協力を得られないこと。常に追われてしまうこと。(男性・8歳)
- ・ 見た目には健常児(健康児)なのに、年齢にはそぐわない態度(落ち着きのなさ、だらしない格好、手づかみで食べる、パンツ見えても平気など)で、しつけしてないと思われる。(男性・9歳)
- ・ 子どもをあずかってくれる所がなく、いつも2人でるすばん。(男性・8歳)

## 【通級指導学級】

- ・ 学校の授業（特に算数）の理解力がゆっくりであること。（女性・8歳）
- ・ 言葉の表現力が少し遅れている。（女性・8歳）

### （5）日常生活で困難があるときに必要とする支援

問7 上記のようなときに、どのような支援があるとよいと思いますか。

困難に直面した際に必要とする支援について、自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

- ・ 通級にも通っているのでも、そこでもお願いしたいと思います。（男性・14歳）
- ・ 学校で宿題を終えてくる。（放課後指導）（男性・9歳）
- ・ 学校などで忘れ物、持ち物への声かけを小まめにしてほしい。（男性・9歳）
- ・ 放課後の通級。（男性・9歳）
- ・ 時間を十分にかけて、本人の言葉を引き出す必要性を理解してくれる周囲の先生方の手助け。（男性・15歳）
- ・ 補助担任の先生等の見守り（必要なときは声かけ）が本当に助かります。授業中だけでなく、長い休み時間も大人の目があり、状況を見守っていただければと望んでいます。（男性・7歳）
- ・ 今は学級の先生一人で大丈夫ですが、もう1人学習支援員の先生がいらっしやると、もっと色々な事ができたり、本人も困らないと思いました。（男性・11歳）
- ・ 入試の時に、空間に慣れるまでの時間を余分に入試時間にプラスして欲しい。アメリカの方では、そういった処遇をしてもらえるそうです。（男性・11歳）
- ・ 状況に応じて、やって良いこと、悪いことを、何でも教えつづける。パニックになった時、どうしたらよいか、いくつかのパターンを準備し、落ちつけるようにする。（男性・12歳）
- ・ 冷静になれるように働きかけてほしい。（男性・13歳）
- ・ 視覚的に示す→書いてもらう。本人を注目させてから教えてもらう。ゆっくり言ってもらう。具体的に言ってもらう（男性・12歳）
- ・ 他の子より1度多く伝えてくれたり（本人に対しだけ）、簡潔に書いたメモ、プリントを渡してくれる様な、サポートしてくれる人や物があるとよい。（女性・14歳）
- ・ デジタル表示の時計の設置。又は持込ができるとうい。（男性・11歳）
- ・ 視覚からのわかりやすい情報。時間を守ったり、切り替えを早くしたほうが良いことを教える。（男性・10歳）
- ・ 第三者のプロの指導者が対応していただくのが良い。家では母（私）と1対1なので、話をしても話が見つからない時がある。きちんと順序良く話を聞いてくれるときは解決します。（男性・11歳）
- ・ どのような支援があれば日常生活が送れるか分からないので現在試行錯誤しています。（男性・7歳）
- ・ 支援は難しい状態だと思う。（男性・14歳）
- ・ もう何年も同じ事で困っているので、もう分からない。（男性・8歳）
- ・ その場によって、きちんと説明をし、言ってきかせる事。（男性・13歳）
- ・ どうすればいいか見通しつく声掛けや援助。良いところをすぐに認め自信につなげる。（男性・7歳）
- ・ こうすると良くなった等の情報が欲しいです。（男性・8歳）
- ・ コミュニケーションの指導があると良いと思います。寸劇を取り入れ、見たり体感することで相手の気持ちを理解できるような体験を積み重ねてほしいです。（男性・12歳）
- ・ 行政だけでなく、メディアで発達障害（わかりやすい自閉やアスペルガーではなくて）、一見する

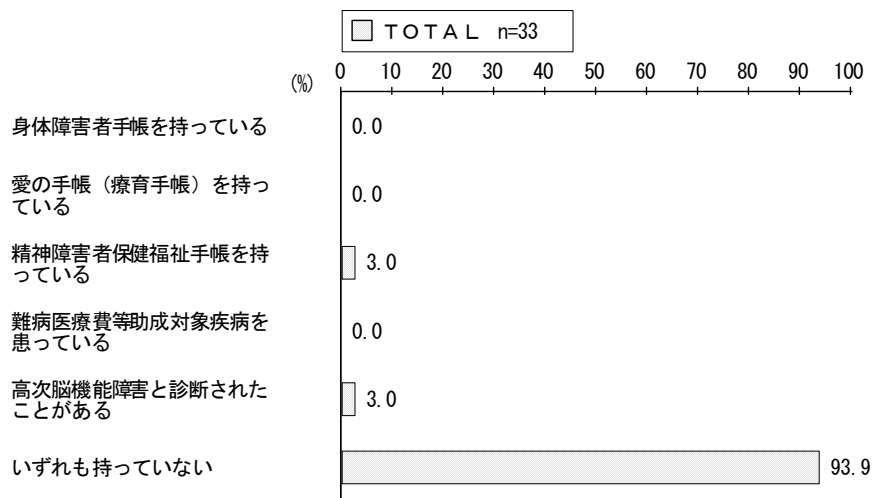
と健常児だけど、ADHD、PDD などこんな子もいるんだなということが周知されれば、周りもこういう子を見かけた時、しつけではなく〇〇障害なのかなと暖かく見てくれるかも。(男性・9歳)

- ・ 支援よりも先に周囲の理解が欲しい。支援を受ける際の統一窓口が欲しい。(女性・11歳)
- ・ グレーゾーンの子どもは子どもをあずかってくれる所がない。(男性・8歳)
- ・ 親が余裕を失ったときの子どもの居場所、また家族支援の場が増えてほしい。(男性・8歳)
- ・ 母親の心のケアをしてくれるところ。心を休める場所がないが、マヒしている、させているので、いつか爆発するのではと常に不安です。(男性・8歳)
- ・ 授業をフォローしてくれる専門の先生がいると助かると思います。在学に通いながら、その時間外で塾のように通えたら良いと思う。先生と1対1が良いです。(女性・8歳)

(6) 障害者手帳の取得状況等

問8 次のうち、お子さんにあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

身体障害者手帳、愛の手帳(療育手帳)を持っている人はいなく、精神障害者保健福祉手帳を持っている人は1名である。

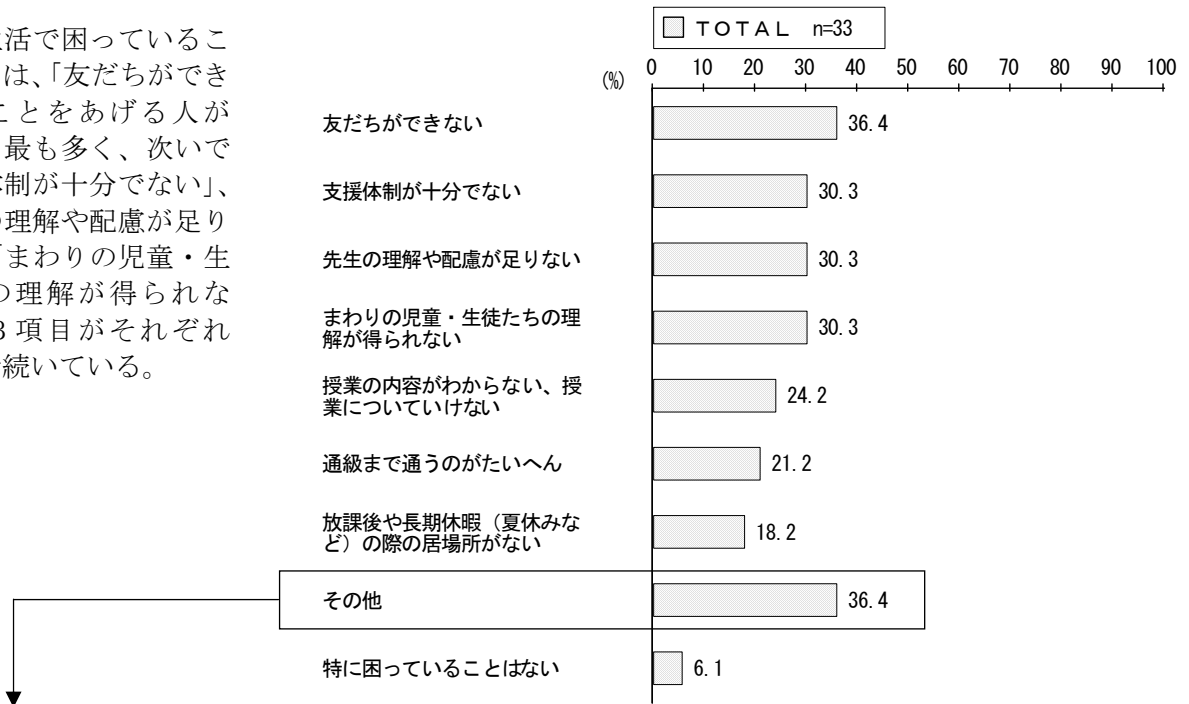


2 学校について

(1) 学校生活で困っていること

問9 学校生活の中で、お子さんが困っていると思われることはありますか。(〇はいくつでも)

学校生活で困っていることとしては、「友だちができない」ことをあげる人が36.4%と最も多く、次いで「支援体制が十分でない」、「先生の理解や配慮が足りない」、「まわりの児童・生徒たちの理解が得られない」の3項目がそれぞれ30.3%で続いている。



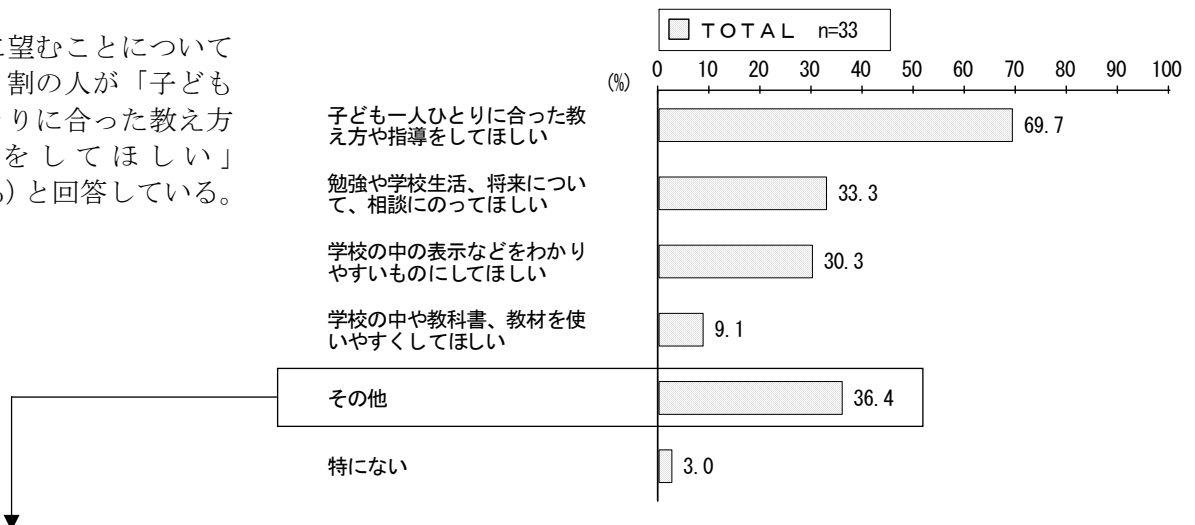
「その他」としては、具体的に次のような内容があった。

- ・ 自分の考えや気持ちを相手に伝えることができない。(男性・7歳)
- ・ 友だちともめ事になる事が多い。(男性・9歳)
- ・ 言葉が不自由なことによる対人関係のトラブル。(男性・7歳)
- ・ 学校の宿題に毎日大変な時間がかかっている。パニックをおこす。(男性・11歳)
- ・ 物を失くしてしまう。LDのため漢字が読めないことがある。(男性・10歳)
- ・ 先生は悪い子という思いが先にあるのか、何かあると理由も聞かず怒るので、何度も心に傷を負っています。先生が嫌いと言っています。(男性・11歳)
- ・ 思い通りにならない時にかんしゃくを起こしてしまう。(男性・7歳)
- ・ 生徒たちの理解は大人の伝え方で変わる→良くも、悪くも。(男性・12歳)
- ・ 子どもが困っているというよりも問題行動があったときに担任の先生に負担が多くかかってしまうのを改善できればと思います。(男性・8歳)
- ・ 通級していることをまわりに知られたくないと本人の気持ちが強い。(いじめられた事があるため)(男性・12歳)
- ・ 本人は在学校へ毎日行きたがっている。仲良しの友人に会いたいし、授業を休んでしまうので、本人も母も在学校へ行かない日が週に一回あるのは困る。(女性・8歳)

## (2) 学校教育に望むこと

問 10 あなたが、学校などに望むことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

学校に望むことについては、約7割の人が「子ども一人ひとりに合った教え方や指導をしてほしい」(69.7%)と回答している。



「その他」としては、具体的に次のような内容があった。

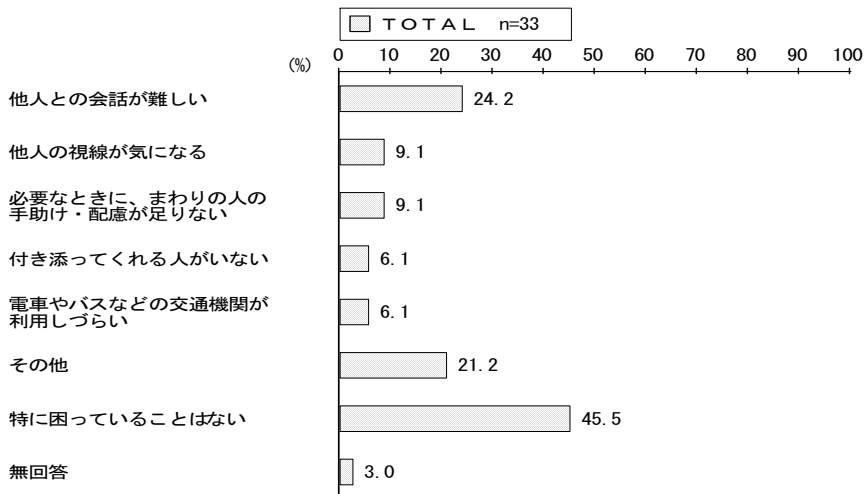
- ・ 学校での生活は先生の理解で成り立つので、もしできないのであれば外部からの支援を受け入れて協力してやってほしい。(男性・12歳)
- ・ 先生の(学校)移動が多すぎて、その度にいろいろ説明や理解を求めなくてはならない。それは通級でも同じです。(男性・9歳)
- ・ 先生は相談にのってくださるが、先生自体が今の学校は忙しすぎて、何となく相談しづらい。(男性・11歳)
- ・ 学校によるのかもしれないが、特別支援教育コーディネーターの制度が機能するようにしてほしい。(機能しているようには思えない)(女性・11歳)
- ・ クラス内での生徒の様子に目を配る意欲と能力のある教員の増配。(男性・15歳)
- ・ 補助担任の配置(クラスに一人でも可なので)(男性・7歳)
- ・ 障害名の有無にかかわらず「困っている子」の支援を(小さなことでも)できるようにしてほしい。(男性・8歳)
- ・ 通級の日の授業内容を取り戻すのが大変。(男性・8歳)
- ・ わからない教科の補習授業を義務付けてほしい。(女性・14歳)
- ・ 忘れ物チェックや連絡チェックの配慮をしていただけたら本当に助かります。(男性・8歳)
- ・ 教科書にルビがふってあると助かります。(男性・11歳・ある)
- ・ 授業中や教室移動の指示を、段取りを追って的確に言ってほしい。(男性・9歳)
- ・ 支援ツールが必要な子には、ツールを使うことを理解し許可してほしい。(タブレットやホワイトボードなど)(男性・7歳)
- ・ 高学年には障害についての啓蒙、学習活動。(男性・7歳)
- ・ 通級に対する子どもたちの偏見がなくなるよう、小さい頃からの教育をしてほしい。(男性・12歳)

### 3 外出や社会参加について

#### (1) 外出の際に困っていること

問 11 お子さんが、外出の際に困っていると思われることはありますか。(〇はいくつでも)

外出の際に困っていることは、45.5%の人が「特にない」と回答しているが、24.2%の人は「他人との会話が難しい」ことをあげている。

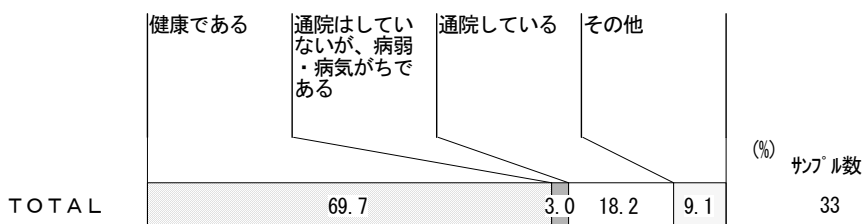


### 4 健康状態や医療について

#### (1) 最近の健康状態

問 12 お子さんの最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか(発達障害以外の一般の疾病(風邪なども含む)。あてはまるものに〇をつけてください。(〇は1つ)

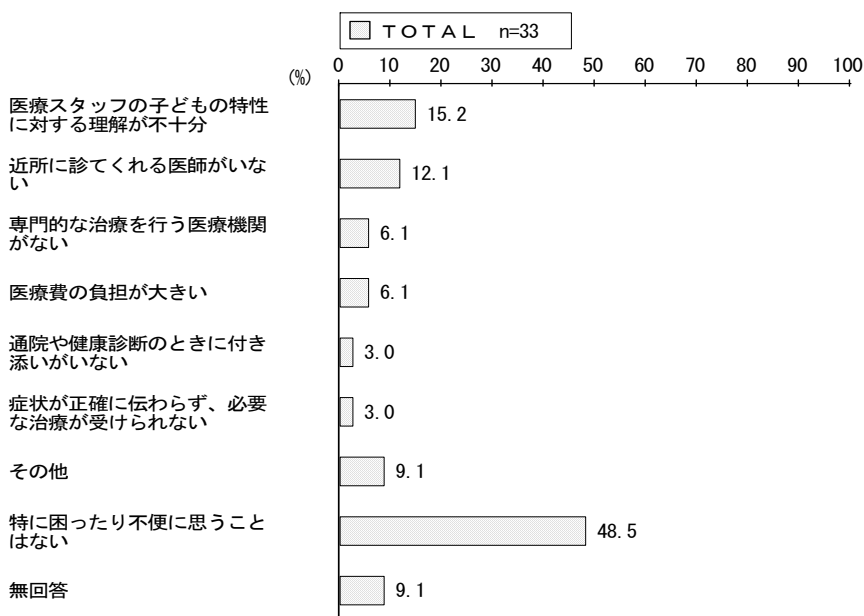
最近の健康状態については、約7割の人が「健康である」(69.7%)と回答している。



#### (2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 13 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(〇はいくつでも)

健康管理や医療について困ったり不便に思うことについては、48.5%の人は「特にない」と回答しているが、15.2%の人は「医療スタッフの子どもの特性に対する理解が不十分」なことをあげている。

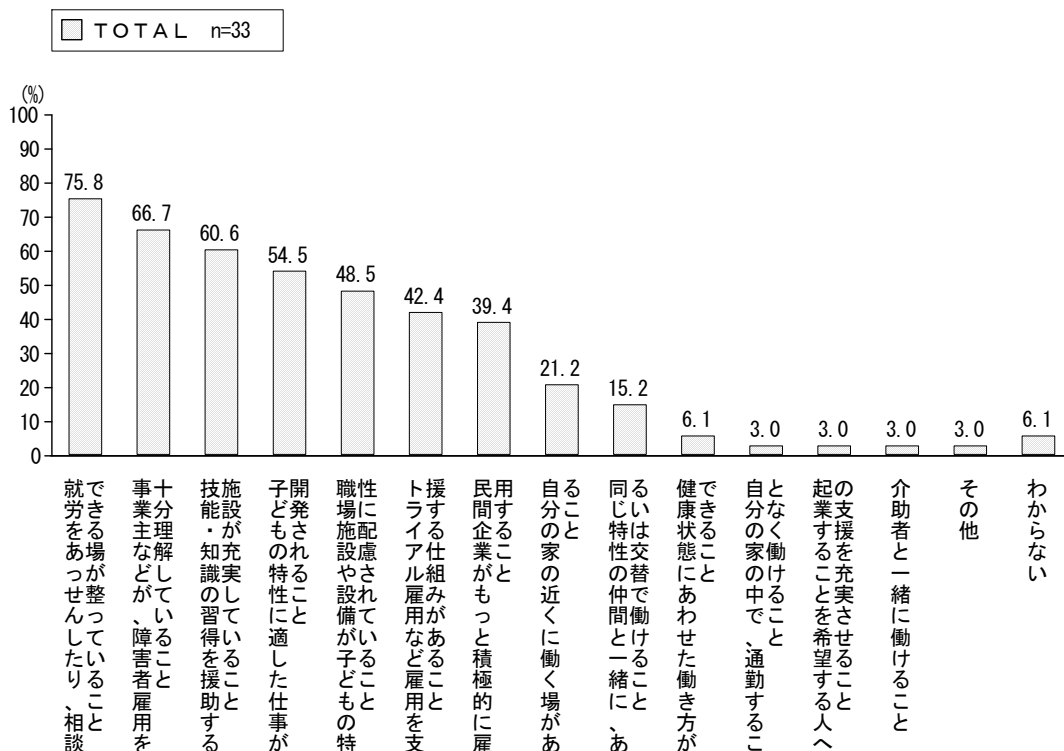


## 5 雇用・就労について

### (1) 障害のある人が働くために必要な環境・条件

問 14 お子さんが今後社会に出たときに、働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後、働くために整っていることが大切な環境・条件としては、「就労をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」をあげる人が75.8%と最も多く、次いで「事業主などが、障害雇用を十分理解していること」(66.7%)、「技能・知識の習得を援助する施設が充実していること」(60.6%)と続いている。

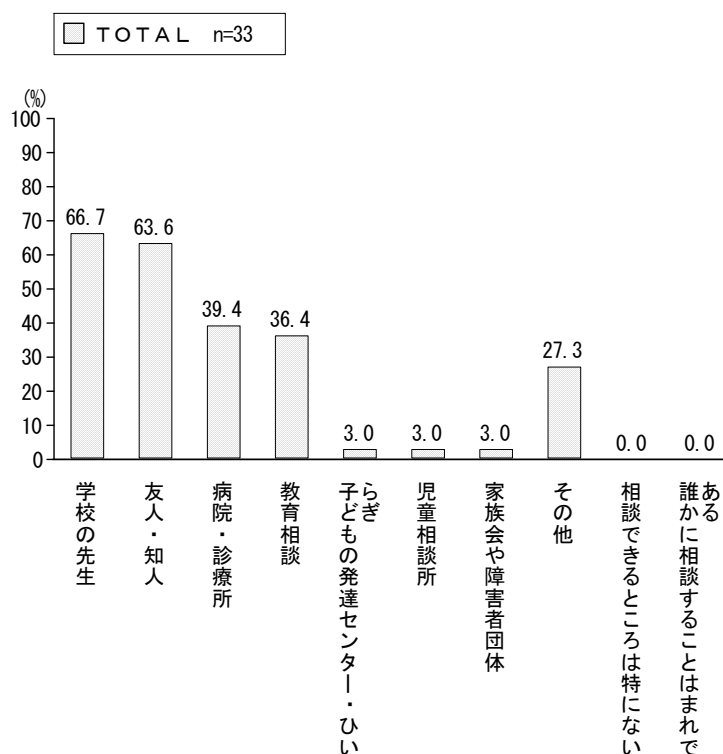


## 6 相談や情報入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとや、困ったときの相談先

問 15 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

家族や親せき以外の相談先としては、「学校の先生」(66.7%)と「友人・知人」(63.6%)をあげる人がそれぞれ6割を超え、多くなっている。なお、「相談できる場所は特にない」と回答した人はいなかった。



## 【通級指導学級】

### (2) 希望する相談先や相談体制

問 16 悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また、相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

希望する相談先や相談体制について自由記入形式で回答を求めたところ、以下のような記入があった。

#### ① 相談先

- ・ 傾聴ボランティアさんが身近にいてくれればと思う。発達障害や親子、家族関係に理解のあるカウンセラーさんが増えてほしい。(男性・8歳)
- ・ 通級の先生、学校カウンセラーに相談しています。病院の医師はほとんど相談にのれませんので、幼児期だけでなく、「ひいらぎ」などがもっと青年期までの相談、療育をしていただけるとありがたいです。(男性・11歳)
- ・ 専門知識のあるスタッフ。自治体の支援。(男性・7歳)
- ・ 子どもへの心理療法、指導。家族への心理療法の指導、カウンセラー。(男性・9歳)
- ・ 同じ悩みを持つ親同士。子どもを理解してくれている通級の先生。親同士集まりやすいサロンのような場と時間が用意されていると集まって情報交換しやすい。(男性・12歳)
- ・ 発達障害の特性を詳しくわかってきているところ。子どもの特性を理解してもらえるまで、時間がかかるので継続して通えるところがあるとよい。(男性・9歳)

#### ② 相談体制

- ・ 教育相談でも良いのですが、学校の対応でこちらがかなり厳しい状況になっても、ただ聞いてくださるだけなので、もう少し状況が良くなる様に動ける、働ける体制を整えてほしいです。(男性・8歳)
- ・ 相談する窓口が、悩みによってハッキリ別れていて直通ですぐ相談できると助かると思います。以前、教育相談に電話した時に、あっちこっち回って何度も同じ話を話し、それだけでヘトヘトになってしまった経験があったので、すぐに話が通じればよいと思う。(女性・14歳)
- ・ 専門知識を持った方がいればどこでも良いのですが、障害を持つ子ども達の親が気軽に話し合う場があると良いと思います。(子どもを預ける事ができるとうれしいです)(男性・11歳)
- ・ 同じ様な特長をもつ子の親同士の交流する場が欲しい。(男性・11歳)
- ・ どこに相談したい、というのはないが、統一、一ヶ所の窓口で相談すると、内容にそくした病院や、カウンセリング施設の紹介を受けられるような体制が欲しい。(女性・11歳)
- ・ 引っ越したり、年齢が上がったりすると、それまでの相談者となつなかりがなくなるので、国内ならどこへ行ってもそれまでの情報が共有でき(一から話し始めるのは大変)、成人後も必要に応じて、引き続き相談できる体制がほしい。(男性・13歳)
- ・ 一人一人特性がちがうので、子どもと一緒に相談できるのがベストだと思う。子どものことを知っている人に相談できるのが望ましいと思う。(男性・14歳)
- ・ 公民館や市役所に気軽に行けるといい。同じような悩みを持つ人たちと話せる場があると、安心するのでは。(男性・10歳)

#### ③ その他

- ・ どこに相談したら良いのか分からない。体制が整っているのかすら分からないので、明確な資料等の配布を希望します。(男性・7歳)
- ・ 子どもの特性を理解している人があまりいない。マニュアル通りにやってもダメだったからみんなこまっているのです。本なんて、親は皆読んでいます。ネットも沢山調べています。(男性・8歳)
- ・ どこでも良いので気軽に話せることが大事だと思います。(男性・9歳)
- ・ 学校にてしおりなどを配る。専門の人に直に問い合わせできること。(男性・12歳)

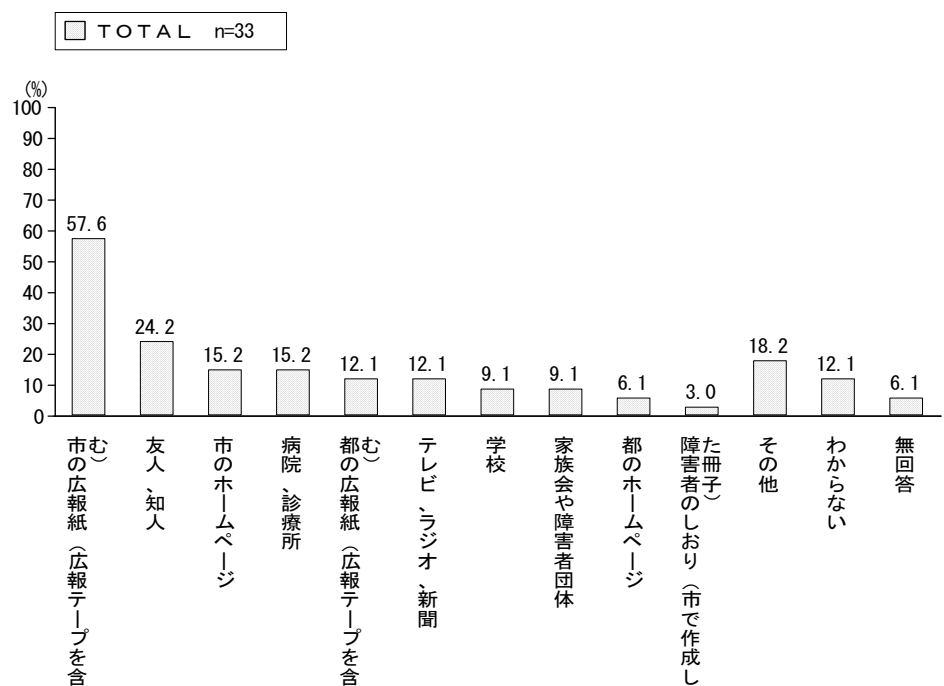


- ・ 子どもについては学校の先生に相談したいというのが本音です。何をしてほしいかは別として親の知らない部分を知っている大事な情報です。しかし先生が代りすぎる為、1年間しか持たない場合は、ちゃんと見る気（子ども一人一人を）があるのかと疑問に思います。（男性・9歳）
- ・ 通級しているそよかぜや通院している病院に相談し、自分なりに総合し悩みを解決しているので、担任は理解があるように対応するが、本当に理解しているように思えず、一番は担任が頼りになると良い。分からない指導があると、心が折れるほど苦しい思いをしました。（男性・11歳）
- ・ 親同士集まりやすいサロンのような場と時間が用意されていると集まって情報交換しやすい。サークルを作って公民館に登録して予約を取って…とするのはハードルが高いです。市で毎月などサロンを開催してほしい。（男性・12歳）
- ・ 病院に行っても、診察して先生に話しても薬をもらっての繰り返し。子どもの気持ちをどう考えているのか。親はどうしたらいいのか。子の大変さをどうしたらいいのか悩み相談。（男性・9歳）

（3）障害福祉サービス等の情報の入手先

問 17 あなたは、福祉サービスなどの情報を主にどこから得ていますか。（○はいくつでも）

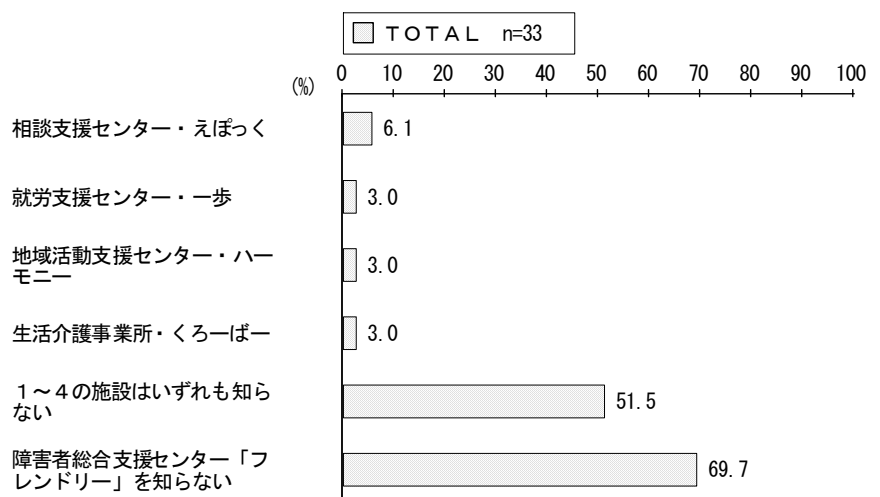
福祉サービスなどの情報の入手先としては、「市の広報紙」をあげる人が57.6%と最も多い。



（4）フレンドリー内施設の認知状況

問 18 あなたは、西東京市の障害者総合支援センター「フレンドリー」にある次の施設を知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

約7割の人は「障害者総合支援センター「フレンドリー」を知らない」と回答している。



## 7 福祉サービスについて

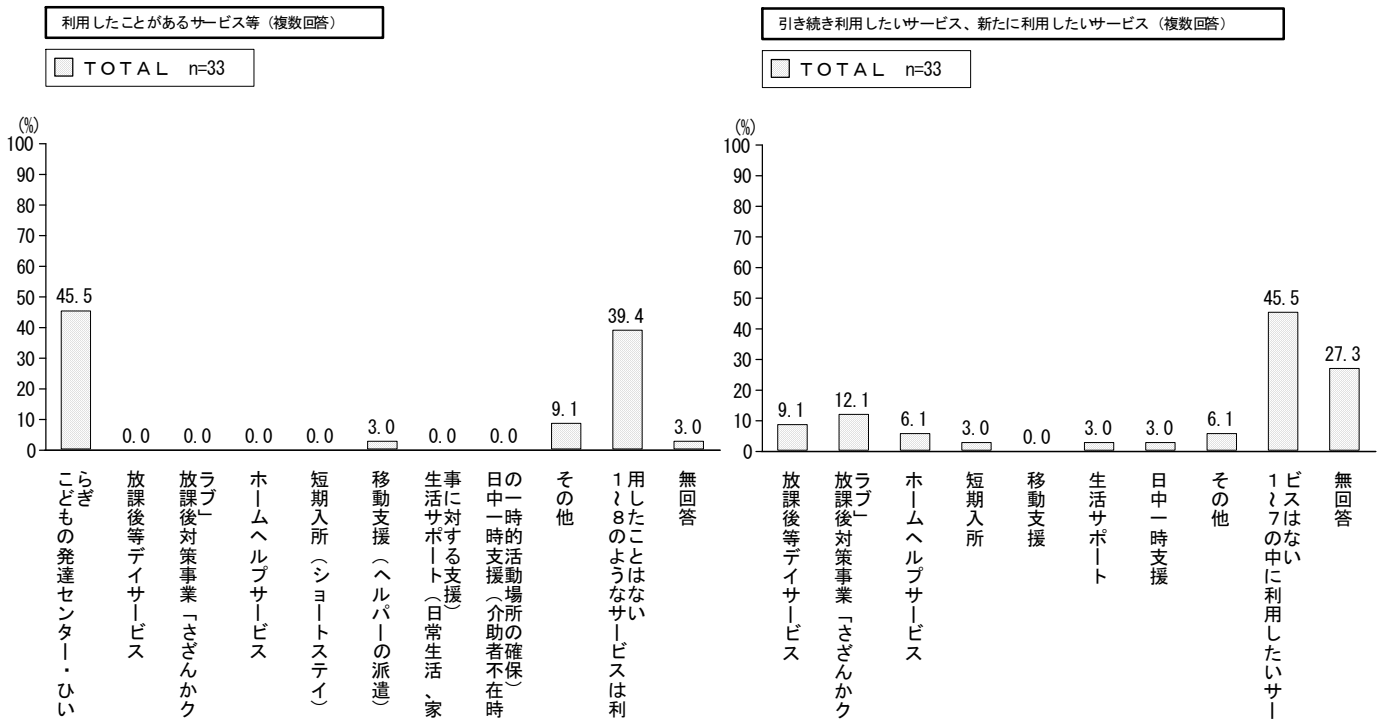
### (1) 福祉サービスの利用経験・利用意向

問 19 お子さんは、今までに次のサービス等を利用したことがありますか。利用したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

問 20 次のサービス等の中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今までに利用したサービスとしては、「こどもの発達センター ひいらぎ」が45.5%と最も多い。

「放課後対策事業「さざんかクラブ」」については、利用したことがある人はいないが、12.1%の人は今後新たに利用したいと考えている。



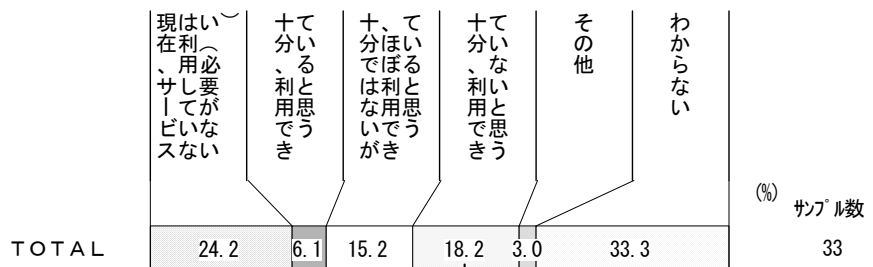
### (2) 必要なサービスの満足度

問 21 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

問 22 「十分、利用できていない」と思うサービスはどのサービスですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

18.2%の人が、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答している。

十分利用できていないサービスは、「放課後等デイサービス」等である。



	放課後等デイサービス	放課後対策事業「さざんかクラブ」	ホームヘルプサービス	短期入所(シヨートステイ)	移動支援(ヘルパーの派遣)	生活サポート(日常生活、家事に対する支援)	日中一時支援(介助者不在時の一時的活動場所の確保)	その他
n=6	2	2	1	1	2	2	2	2
100%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%

### (3) 必要なサービスを十分利用できていない理由

問 23 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

問 24 必要とするサービスとはどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

必要だと思うサービスを十分できていない理由としては、6人中4人が「必要とするサービスがないから」(66.7%)、3人が「利用の仕方がわからないから」(50.0%)、1人が「自己負担が大きく、利用できないから」(16.7%)と回答している。

さらに、「必要とするサービスがないから」と回答した4人に、必要とするサービスの内容を尋ねたところ、以下のサービスがあげられている。

- ・ 療育機関 4人
- ・ 日常生活のスキルを身につける支援 4人
- ・ 発達障害専門の医療機関 3人
- ・ 発達障害に関する専門相談機関 3人
- ・ペアレント・トレーニング等の支援 3人
- ・ 子育てについての相談支援機関 2人
- ・ 子どもを預けられる場所 1人

### (4) 障害福祉課窓口の満足度

問 25 障害福祉課の窓口利用(保谷庁舎・田無庁舎)についてお聞きいたします。職員の応対や相談環境などについて満足していますか。(○は1つ)

問 26 問 25 のようにお答えになったのは、どのような理由からですか。

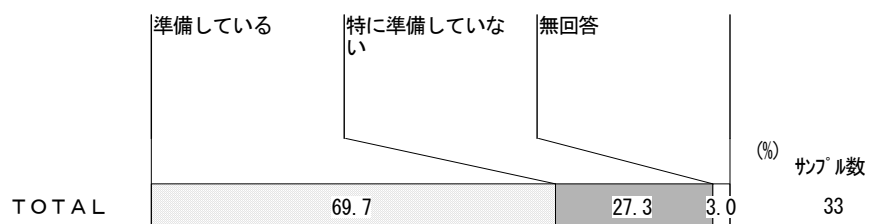
障害福祉課の窓口利用については、33人中30人が「(利用していないので) わからない・覚えていない(無回答含む)」と回答しており、残り3人のうち1人は「とても満足している」、2人は「まあ満足している」と回答している。

## 8 災害対策について

### (1) 災害への備え

問 27 災害に備えて何か準備をしていますか。(○は1つ)

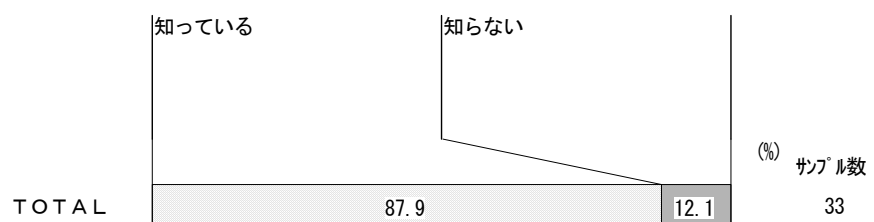
災害に備えて何か「準備している」人は約7割(69.7%)である。



### (2) 避難所の認知状況

問 28 避難所を知っていますか。(○は1つ)

避難場所を「知っている」人は87.9%である。

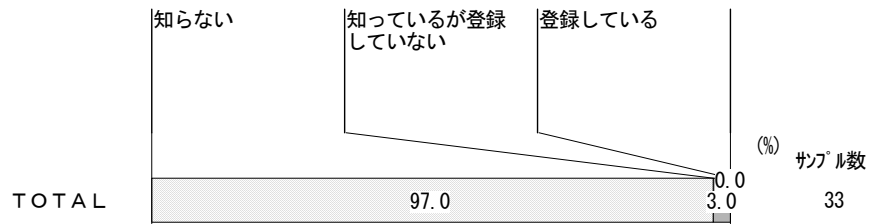


【通級指導学級】

(3) 災害時要援護者登録の認知状況

問 29 災害時要援護者登録を知っていますか。(○は1つ)

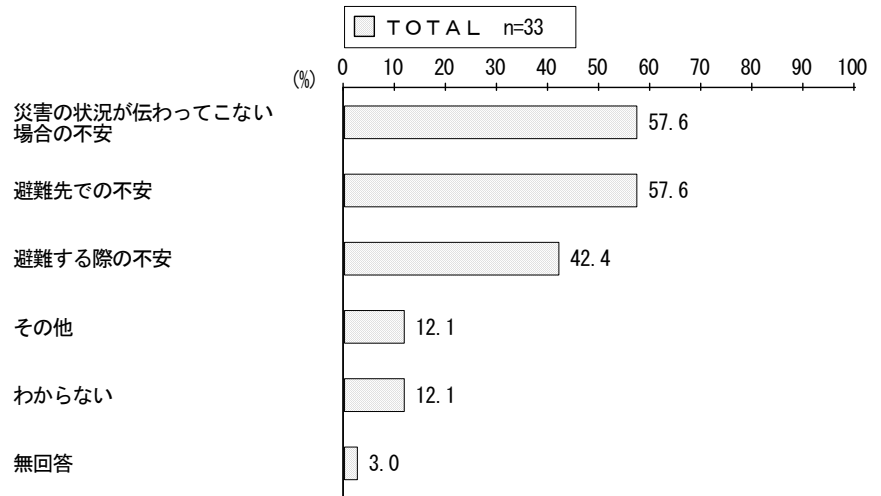
災害時要援護者登録については、97.0%が「知らない」と回答している。



(4) 地震や台風などの災害が起こった際の不安

問 30 地震や台風などの災害が起こった際の不安は何ですか。(○はいくつでも)

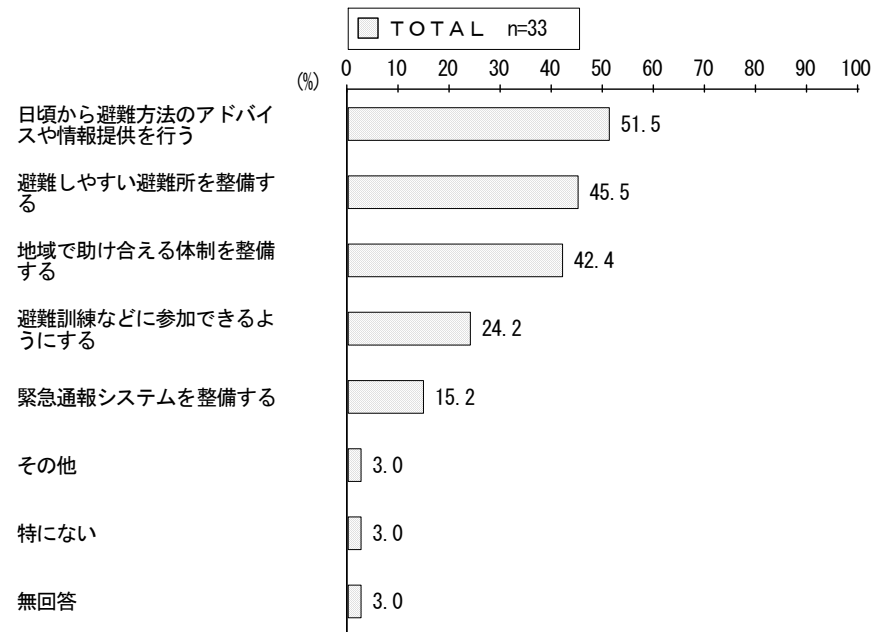
地震や台風などの災害が起こった際の不安としては、「災害の状況が伝わってこない場合の不安」と「避難先での不安」をあげる人がそれぞれ 57.6%と多くなっている。



(5) 必要な災害対策

問 31 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

災害に備えて、または災害時に必要な対策としては、「日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う」ことをあげる人が 51.5%と最も多く、次いで「避難しやすい避難所を整備する」(45.5%)、「地域で助け合える体制を整備する」(42.4%)と続いている。



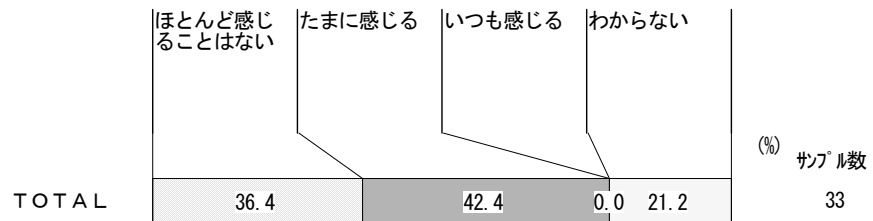
## 9 差別や人権侵害について

## (1) 差別や人権侵害、虐待の状況

問 32 お子さんが、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

問 33 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。

差別や人権侵害、虐待を受けていると「いつも感じる」人はいなかったが、42.4%の人は「たまに感じる」と回答している。



差別や人権侵害、虐待の内容としては、具体的に次のような記入がみられた。

- ・ 同級生数名に「害児（障害児）」と、時々言われるらしいです。(男性・14歳)
- ・ 友人にからかわれている。(男性・8歳)
- ・ たくさんの友だちにきつく注意される。トラブルが続き、子の親たちから苦情がくる。(男性・7歳)
- ・ 露骨な無視や屈辱的な言葉を言われた時。(男性・15歳)
- ・ ごくたまに字が読めないことを、周りの子に言われて、仲間に入りづらそうなことを見かけた時。(男性・10歳)
- ・ 小学生の時、似たような子や本人の話から通級に通っていることで差別的な事を言われたと言ったのを聞いた。(男性・12歳)
- ・ 通級に行っていることで、まわりからの視線が違うとき。担任からも何か先入観を感じたとき。(男性・11歳)
- ・ 通級に通っていることを、友だちにからかわれたと子どもから聞いたとき。(男性・9歳)
- ・ 子ども同士の関係の中で、通級している事自体をからかわれたり、せっかく支援を受けることを子ども自身がためらう環境があります。昔からあることではありますが、将来的にはなくなってもらわなくては困ることだと思っています。(男性・12歳)
- ・ 学校で軽いいじめに合っています。相談して、良い方向に行くよう先生とも話し合いです。(男性・9歳)
- ・ 先生に「お宅のお子さんに友だちがいるのが、なんできらわれないか不思議でしょうがない。子どもって寛大ですよー。」と言われた時。学校の先生からの差別が一番多い。先生たちしか差別する人に会ったことありません。(男性・8歳)
- ・ 先生から話を聞いている時など、他の人にも同じ心配をされているのか。心配のされ方が普通の子と違うと感じたとき。(男性・13歳)
- ・ 先生が発達障害かも思っている「人権問題になりますから」ということでハッキリと言ってくれませんでした。その為、検査等がおくれ学校で大あばれをするまで対応ができませんでした。言わないことの方が人権問題だと思います。(男性・11歳)
- ・ 介助員の申請をしたが、受理されなかったとき。(男性・7歳)

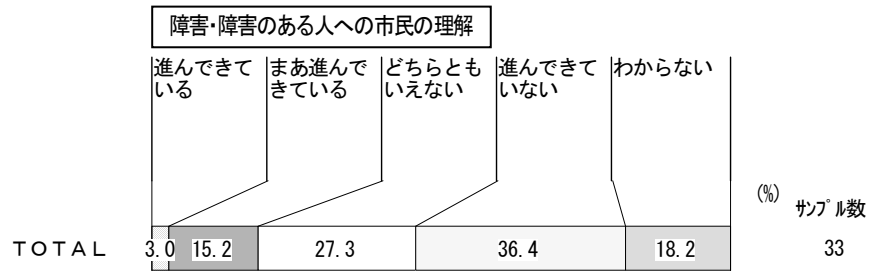
【通級指導学級】

(2) 市民理解の進捗

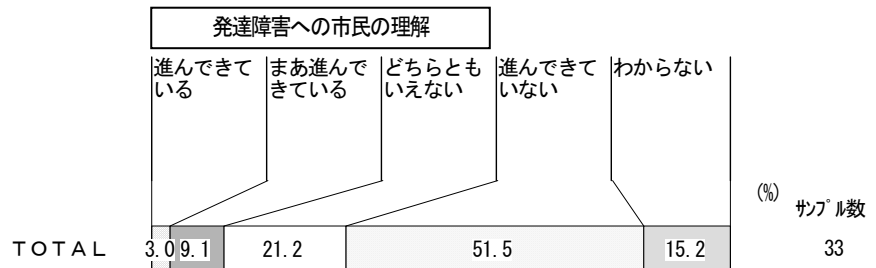
問 34 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

問 35 「発達障害(自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等)」に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

障害や障害のある人に対する市民の理解については、36.4%の人が「進んできていない」と考えている。



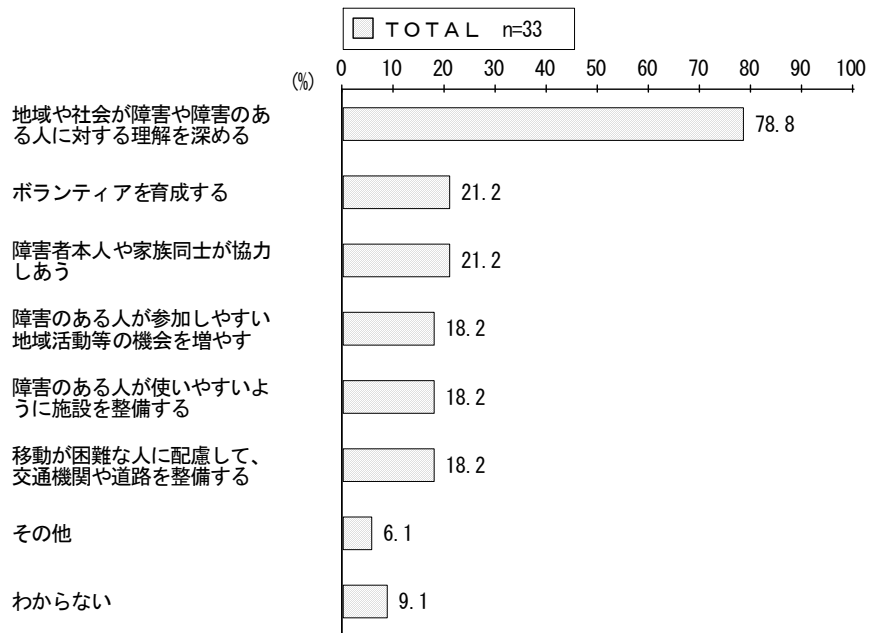
発達障害に対する市民の理解については、51.5%の人が「進んできていない」と考えている。



(3) 障害のある人が地域や社会に参加するために大切なこと

問 36 障害のある方々が地域や社会に積極的に参加するために、特に大切なことは何だと思えますか。(○はいくつでも)

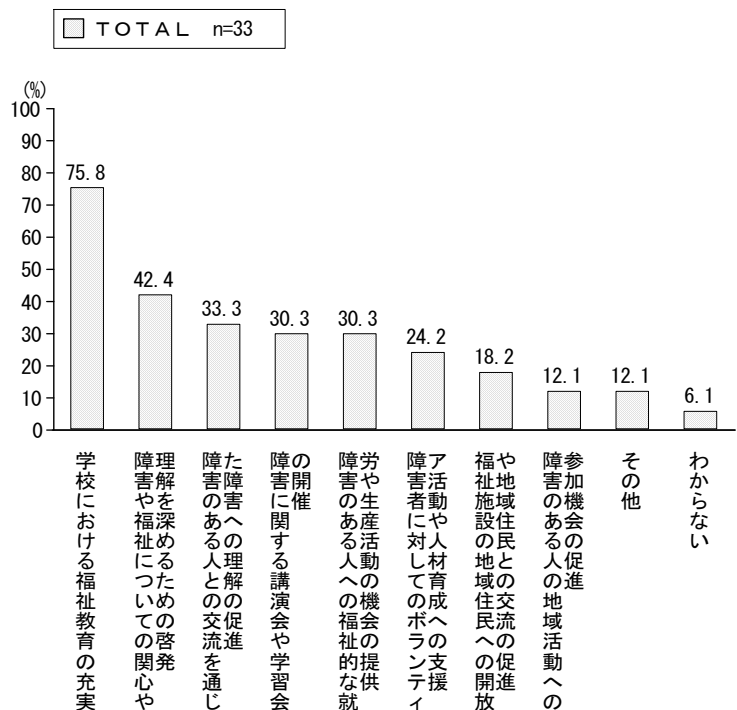
障害のある人が地域や社会に積極的に参加するために大切なこととしては、「地域や社会が障害や障害のある人に対する理解を深め」ことをあげる人が 78.8%と特に多くなっている。



(4) 障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 37 障害や障害のある市民への理解を深めるためには、何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

障害や障害のある人への理解を深めるために必要なこととしては、「学校における福祉教育の充実」をあげる人が75.8%と最も多く、次いで「障害や福祉についての関心や理解を深めるための啓発」(42.4%)、「障害のある人との交流を通じた障害への理解の促進」(33.3%)と続いている。

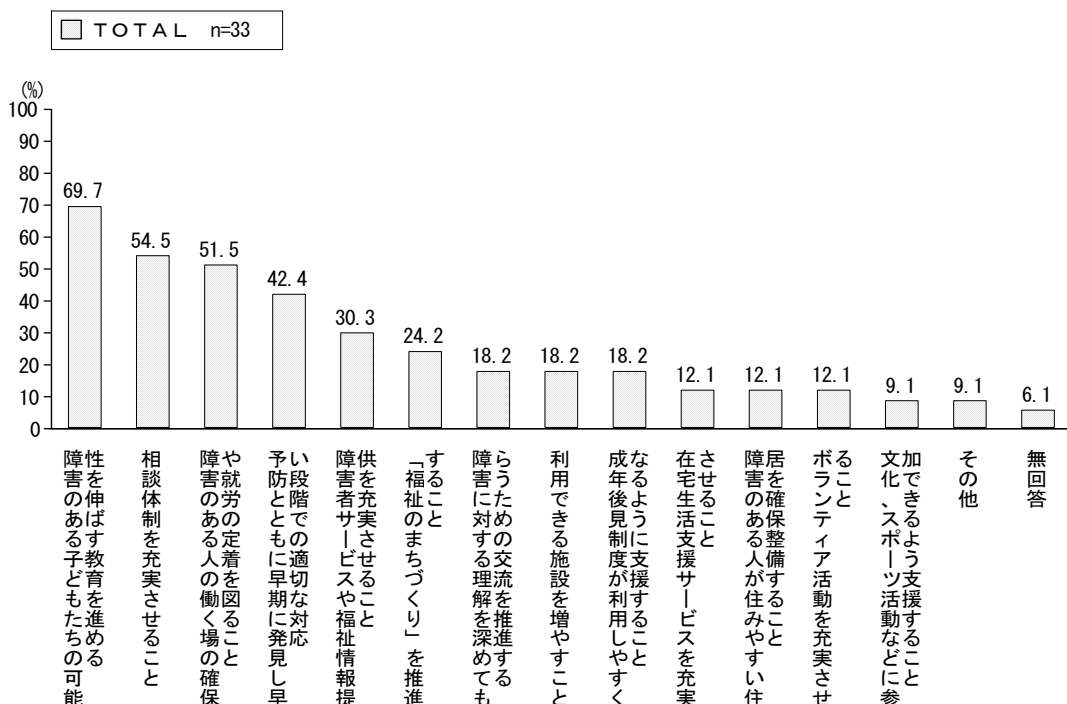


10 市への要望等

(1) 充実させていくべき障害者施策

問 38 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

今後、市が充実させていくべき障害者施策としては、「障害のある子どもたちの個性を伸ばす教育を進める」ことをあげる人が約7割(69.7%)と最も多い。

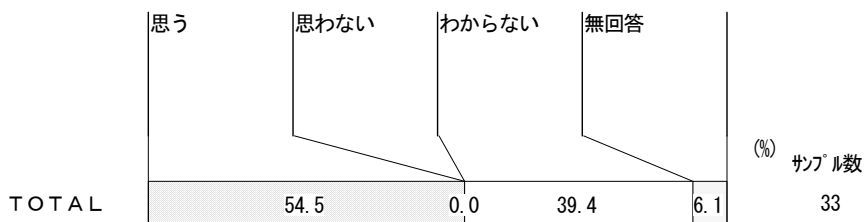


【通級指導学級】

(2) 居住継続意向

問 39 今後も西東京市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

54.5%の人は、今後も西東京市に住み続けたいと「思う」と回答しており、住み続けたいと「思わない」という人はいなかった。



(3) 意見・要望等

調査票の最後に、意見、要望、計画に盛り込みたいことなどを自由に記入できる欄を設けたところ、次のような記入があった。

- 市でどのようなサービスがあるのかの説明を受けたこともなく、自分の子どもに適切なサービスがあるのかも分かりませんでした。(男性・7歳)
- 学校においては1番に先生の理解にかかっていると思います。こちらから先生にお願いすることは他の子との特別扱いではなく、支援と思っていますが、先生側としてはそんな事までとされている感じを受ける事もあります。少なくともその子を見て支援を協力しながらやっていってもらえたらと思います。(男性・12歳)
- 療育、医療機関はまったくと言っていい程、西東京市にはあまりありません。(ひいらぎは幼児までなので)療育も個人差があるので1人で何ヶ所も行っている場合もあり、費用はとてまかかります。(場所は都内が多いので交通費も含め)例えば通級の放課後時間を使って、ボランティアや経験者、専門家の人に協力してやってもらう。この時は通級以外の困り事がある生徒にも活用できたらと思います。市内に早急に療育機関を作っていただきたいと思います。(男性・12歳)
- 小学通級より中学で固定を選んだ親御さんの中には学力は年相応ですが固定で決まっている勉強をしなければならない事で悩んでいる人(親子とも)もいます。(男性・12歳)
- 多くの人は通級ということも知らないのでもいつも説明していました。中には通級というだけで通わせたくないと思う方もいると思います。(男性・9歳)
- 学校も先生も通級の先生もたった一人の為にいろいろと尽くしてくれていると私は実感しています。ただ1つだけ、障害に関係なく先生方の学校の転出、転入の多さだけが残念です。(男性・9歳)
- どうしても子どもより親の方が先に死ぬのです。親がいなくなっても生きていけるよう、最低限の思いやりを市民も西東京市も持って支えて下されば幸いです。(男性・9歳)
- 特別支援学級の増設、支援の充実 未診断児、グレーゾーン児へのさりげない支援→通常学級で『困っている子』を学校全体で支援できる体制(というより雰囲気)作り。(男性・8歳)
- 発達障害は見た目ではわかりません。障害があると言っても信じてもらえない、それを周囲に理解させるのは身内にさえむずかしい事なので、アカの他人には無理でしょうね。手帳も持っていないグレーゾーンの子ですから、親としても普通に接してしまい日々お互い上手く行きません。私達が「普通」にできてしまう事を「困難」と思い生活している子です。何をやるにも人1倍時間・お金・協力がまんがが必要です。(男性・8歳)
- 東大和の東京小児まで月1回お薬をもらいに行くのもパートを休み1時間かけて行っています。通級もパートを早退し送迎です。雨、冬の日下の子を連れて通うのも大変ですし、ファミサポだって有料ですよね?チケットなどで無料で何度か利用できませんか?通級のバス代だって、子どもの分しか払ってくれませんよね?親の分も頂けませんか?(男性・8歳)
- 発達障害だと明らかには分からないグレーゾーンの子どもに対しては親も在籍校の先生も「(通級は)必要ないのでは?」と思いがちだと思います。自分の子が発達障害だと思っても、ただ手のかかる変わった子と思ひ込みで育ててしまい、小2で通級に通うまでつらい思いをさせ、後悔していま



す。幼稚園に通っていた頃にこのような場があること、学校へ行って困りを感じる子どももいることを知っておきたかったと思います。(男性・11歳)

- ・ 学校で「困りを感じているな」と思う子に出会う度に受けられるケアを受けられていないのでは、とせつなくなります。周囲の人も学校の先生もデリケートな問題だけに言いづらくなるのは仕方ないのですが、通りいっぺんの案内を配布するのではなく、もっと具体的な中身の分かる案内を配るなどしていただきたいです。親にとっても知る機会が少ない「高次脳機能障害」をもっと身近に感じてもらえればいいなと思います。(男性・11歳)
- ・ 皆、どこかに相談をして通級へいっています。相談する窓口や相手はいるのです。むしろ自分の子どものこれからのライフステージでの具体的な支援を、必要としているのだと思います。中学校にサポートするエキスパートの設置、高校での学習内容が就職をきちんとできるものにして欲しいなど。そういう声をもっとひろって、基本計画内にちりばめて欲しい。(男性・10歳)
- ・ 自治体サービス全般は、こちらが働きかけないと、なかなか機能しないように思う。計画書も閲覧できることになっているが、こちらが休みの曜日・時間は役所も休みで、いつ行って見れば良いのでしょうか？ホームページでの公開などをもっと行なって欲しいと思います。(女性・11歳)
- ・ 発達障害は他人には理解されにくく、まだ新しい障害で年配の方々にはさらに理解してもらえませんが、学校の教育を通して子ども達から理解を深めてもらえれば将来もっと住みやすい街になると思います。(男性・9歳・ある)
- ・ グレーゾーンと言われる子どもへのサービスを充実させてほしい。学童に行かせても、親が休みだとあずかってくれない。親も休みたいときがある。(男性・8歳)
- ・ ヘルパーとか、使えたら通院をたのめるのに誰にもたのめなく、親の負担が大きい。(男性・8歳)
- ・ 軽度発達障害の子ども達の多くは手帳が取れません。手帳を持っている人しか参加できない障害者対象のサービスが受けられず、習い事なども理解のある所をさがすのが大変です。学校も普通学級では、難しく先生も忙しすぎてゆとりがありません。(男性・11歳)
- ・ 支援学級では発達障害の子に適した教育がされていません。支援学級へ行くと高校へ行く事が難しくなり、手帳のないまま不安定な状態に置かれます。療育センターもいつも一杯で、頼りになるのは通級の先生だけです。小学校では、たとえ軽くても学習支援員の先生がいらっしやると助かります。有料で良いと思いますのでもう少しわくを広げていただきたいです。そして軽度発達障害の子の可能性を広げる為に中学での支援を充実させていただきたいです。(男性・11歳)
- ・ 先生達が少しでも子どもと向きあえる様に、クラスの人数を少なくする、行事を減らすなどの工夫が必要だと思いました。又、発達障害を持つ子の親は精神的にとっても大変です。手帳がなくてもレスパイトサービス(有料でかまわないので)があると良いです。(男性・11歳)
- ・ 子どもは学校の給食をほとんど食べる事ができません。去年は担任の先生も、どうしたら食べようという気持ちになるか考えて下さいました。ところが3学期になり校長先生が、給食だけで偏食は治せないとされました。今年は、偏食は家庭で対応するので、給食では食事の時間がストレスにならないよう、食べられるものを食べさせて、野菜や果物等に少しでもチャレンジした時は誉めて欲しいとお願いしました。5月まではスープ、野菜を全く食べなくてもおかわりできていました。6月になった時、クラスで山もおかわりした児童がいたとかで、給食のルールがかわり、子どもはスープ一口、野菜一口食べないとおかわりできない事になってしまいました。担任の先生に「食べられる物が出た時くらいは、お腹いっぱい食べさせたい」と申しました。返事は「お腹すいているなら、食べたらいじやないですか。野菜、汁物、沢山ありますよ」でした。発達障害への理解がまだ行き届いていない状況がよく分かりました。バランスよく食べる事は大事なのは分かります。でもそれができなくて苦しんでいる子どもの気持ちも察していただきたいと思います。(男性・8歳)
- ・ 学校へ入学してからアスペルガーとわかり、低学年では付き添いをしていましたが、親の付き添いがなく普通学級に通えれば、それにこしたことはないと思います。特別支援学級が知的の情緒別学級でそれぞれに合った指導が受けられるなら、そちらに通わせても良かったのですが、中学の特別支援学級では知的指導の中で情緒の子にも対応している様子で、全く意味が見出せません。知的には問題なく、行動面での指導が必要な立場の子は適切な学校がないといってよい状態です。(男性・13歳)
- ・ 障害、障害と言っておりますが、外見だけの障害が障害だと思っておりますか。本当に障害者の気持

## 【通級指導学級】

ちが分かりますか（障害と言われた気持ち）。軽く言うのは間違いです。軽く言われてどれだけ傷付いたか分かりません。（男性・11歳）

- ・ 学校、教育委員会、カウンセラー、通級、もっとコミュニケーションを取り、それぞれの知識を共有し、その人に合う指導をするべきです。何かうまくまわってない気がします。学校の先生はもっとこれからこういう指導を理解し、勉強し安心して子どもが過ごせるように取り組んでいただきたいです。今は不安で仕方がないです。（男性・11歳）
- ・ 現在の西東京市では通級入級の審査がきびしく、幼年時にひいらぎに通っていた仲間や近所のお子さん等、通級の入級が認められず、固定級への決断も難しく、支援を受けられない状況にある方を複数見かけます。私が通院している専門の病院の医師の話からも現在、西東京市は特に厳しいと感じます。通級への間口を広げてほしいと感じます。（男性・7歳）
- ・ 愛の手帳のでない広汎性発達障害、高次脳機能自閉症の子どもは、病院でも多くの場合、療育により適応することで一般就労を目指すようにと求められます。都立高校への進学と考えると普通学級にこだわらざるを得ない事情もあります。将来、幅広い進路を望める情緒固定級があれば良いのですが。（男性・7歳）
- ・ 自閉症などの発達障害のための手帳が作られることを望みます。（男性・7歳・ある）
- ・ 発達障害に限らず、教室での支援の必要な子どもには支援の手が差し伸べられるようになってほしい。そのために補助担任の制度を充実させてほしい。でなければ、介助員の枠を広げてほしい。現在の教室では、先生の手が足りなくて、先生、子どもたちの負担が大きすぎると思えます。（男性・7歳）
- ・ 学校の先生の不理解がまだまだあるように思います。まずは先生方に発達障害への理解と配慮方法の周知。配慮が特別なことではなく、その子だけでなく、周りの子ども達にも有効であることを学んでいただきたいです。小学校では、少人数クラスの早期実現をし、先生一人で見える子ども数を減らし、目の行き届く体制をお願いします。（男性・12歳）
- ・ 先生の心無い一言でクラス皆の通級生への見方を悪い方向へ向けてしまったり、いじめを助長している事が「よくあること」であることがとても悲しいですし、子どもも支援を受けたくないと思ってしまう原因になっていることを早急に改善してほしいです。（男性・12歳）
- ・ スクールカウンセラーなど曜日限定ではなく、毎日にしてほしい。（男性・9歳）
- ・ 病院に行かない又はいけない人がハードルの低い場所で話を聞きたい、愚痴を言いたいというのはあると思う。そういう相談機関は夜9時くらいまであいてほしい。（男性・9歳）
- ・ あきらかな障害が外見上わかる方には、周りの眼もやさしいし、援助があると思うけど、グレーゾーンの児に対しては、まだまだな部分があると思う。こんな子もいるんだなって社会が知ってくれば。（男性・9歳）
- ・ 学校での先生方は忙しそうで「話をしたい」と言っても「時間がない」と断られたりしました。通常級での支援や配慮は担任の先生によって天国にも地獄にもなります。どうか、先生による対応の差が少しでもなくなる様に、現場体制を、足元をしっかりと見直していただきたいです。個人的にですが、先生から人権にかかわる様な言動を受け、現在学校へ行くのが恐怖です。（男性・8歳）
- ・ どうしても勉強が遅れがちです。家庭でのフォローはもちろんしていますが、姉妹もいるので当人だけを見ているには限界があります。塾などに入っても学校とあまり変わらないので効果があるようには思えません。当人の困り感を十分に理解している先生から放課後に週に1、2度、1時間くらい苦手な部分だけでも相談したり、フォローしてもらったりできると助かります。（女性・8歳）

## 1 ヒアリング実施内容

5月2日から6月20日まで、次の障害者団体や事業所等に対して、ヒアリングを実施した。

- はっきいねっと
- こどもの発達センター・ひいらぎ
- 石神井特別支援学校
- 大泉・小平特別支援学校保護者
- 市内中学校特別支援教育コーディネーター
- 田無特別支援学校
- でこぼこ
- 西東京市保谷手をつなぐ親の会
- 小鳩会（精神障害者家族会）
- 西東京市保谷身体障害者協会
- 放課後対策事業さざんかクラブ
- 西東京市聴覚障害者協会、西東京市中途失聴・難聴者の会、登録手話通訳者の会
- 就労支援センター・一歩
- 富士町作業所
- 支援センター・ハーモニー
- ケアワーク北多摩（居宅介護事業所）
- 保谷障害者福祉センター（地域生活支援センター（身体））
- コミュニティルーム友訪
- ほうや福祉作業所（就労継続支援B型事業所（知的））
- ハローワーク三鷹
- ケアこげら
- 西東京商工会
- さくらの園（生活介護・就労継続支援B型）
- 田無手をつなぐ親の会
- くるみ学級・あめんぼ青年教室
- だろんこ作業所

## 2 ヒアリング結果

ヒアリングでは、団体等の活動内容や活動の際に困っていること、また、利用者から聞かれる声や行政への要望等を中心に話を聴いた。以下に、意見・要望等を中心に、主な内容をまとめている。

### ① 情報提供について

- ・ 障害者支援サービスについては、ワンストップで情報提供や対応が可能な体制に変更してほしい。
- ・ 必要な情報が必要な人にきちんと伝わる仕組みを考えてほしい。
- ・ 普通に子どもを育てていても、親がアスペルガー等の障害に気づかないケースもある。市内にどのような団体や施設があるかの情報や、障害に関する情報などが不足している。
- ・ 障害者基本計画が策定されていること自体を知らない。情報提供の仕方を工夫したほうがよい。
- ・ 計画書などについては、当事者優先で配ることはできないか。
- ・ 当事者にメールで定期的に情報を発信する方法はどうか。メルマガ希望者に発信していく方法も。
- ・ ホームページでは必要な情報になかなかとり着けない。また、高齢になるとホームページ等を見るのが苦手な人もいる。
- ・ 学校を経由した情報発信は有効である。市報だと見ない人も多いが、子どもが持ってくる配布物はよく見るようだ。
- ・ 発達障害はわかりにくいこともあり、親も受容しにくい。障害者手帳も所持していないので、福祉

## 【障害者団体等ヒアリング】

関係の情報を得ることも難しい。市がもっと積極的に情報提供をしていくべき。

- ・ 団体の活動に関する情報など、以前は学校を通して配布してもらっていたが、最近はチェックが厳しくなっていてなかなか配れない。障害者団体は様々な啓発活動も行っており、その点を理解してほしい。
- ・ 一步で情報を求める人もおり、職員が調べることがある。障害者のしおりには詳細を掲載していないため、詳細を調べる必要がある。情報更新されると調べた情報を蓄積できず、形として残せていない。

### ② 相談体制について

- ・ 担当者とのコミュニケーションが大事。困っているから窓口に行くのだから、人の話を聞いてくれることが大事。(窓口の人はそのような態度で対応してほしい。)
- ・ 通常学級から高校と、地域とはあまり接触なく過ごしてきた場合、卒業後、どこに何を相談したらよいかわからない人もいる。そのへんが発達障害などの難しさの1つ。
- ・ 相談支援については、事業所、医療機関、療育機関、行政(学校、障害福祉課)の連携をうまくとって行ってほしい。
- ・ 乳幼児期の相談支援の充実(保健師や医療機関との連携)。
- ・ フレンドリーに相談の場所があることは知っているが、手話のできる相談員がいないため利用しにくい。その他の相談場所にも手話通訳者を置くことで、聴覚障害者が安心して相談できるようになる。
- ・ 市役所には行政の手続きだけでなく、生活全般の困りごとなどを話すことができる手話通訳者を設置してほしい。
- ・ 今後はサービス利用者一人ひとりに利用計画の策定が求められるが、その際には計画を作成する(マネジメントする)人材の育成が問題になる。複数の事業者が指定事業者になると思うが、横の連携などはどのようにやっていくのか。自分のところの利用者の計画を他の事業者が立てるケースなどは、どのように連携・調整をしていくのか。検討してほしい。
- ・ えぼっくから相談を受けるケースが増えている。未治療や受診中断者はえぼっくが担う割合が高い。相談があった場合はハーモニーで受けている。えぼっくが本人との関係を築いた中から、病院やハーモニーに連携し、徐々につながり、外に出てくるという動きができつつある。
- ・ 障害者サービスについては、今後、指定相談支援事業者による計画(ケアマネジメント)策定が義務付けられる。市がタイミングよく、いろいろな情報を提供してくれるとありがたい。

### ③ 療育について

- ・ こどもの発達センター・ひいらぎの待機者をなくし、早期療育を行える体制を整えてほしい。
- ・ ひいらぎは、現在は週4日だが、週5日にしたり、各日の預かり時間を1時間でも長くしてもらえると、親も自分の時間や家庭の時間をとることができる。
- ・ ひいらぎは、とてもよくみてもらっていると感じているが、言語指導については不十分だと思う。PT、OTはいるが、STが不足しているのではないかな。
- ・ 市内では、どこの病院でも子どものリハビリをやっていないため、他市の病院・施設に通っている子どもも多い。市内でも子どものリハビリが受けられる体制が必要ではないかな。
- ・ 幼稚園で受け入れてくれないためにひいらぎに来る子どももいる。幼稚園では、先生に余裕がないことを理由として受け入れを断られる場合があり、「加配」が重要だと感じている。
- ・ ひいらぎには、障害者手帳を取得する前に来る人がほとんどで、その点では障害福祉課との接点が少ないが、今後は連携を強めていくことが大切。
- ・ 障害の早期発見・早期療育が重要と言われているのに、待機者がいる状況はあり得ない。送迎も含めて、必要な人がサービスを利用できる環境を整えてほしい。学区内に1か所、というように、より身近なところに通える施設が点在すれば、送迎も問題も少しは減少するかもしれない。

## ④ 教育について

- ・ 普通学級での障害児の受け入れ体制を仕組みとして充実させてほしい。障害児を教育委員会としてどう受け入れるか、姿勢・考え方をきちんと出すべきだと思う。
- ・ 特別支援学級については、児童数増加に伴う職員等の増加を迅速に対応してほしい。
- ・ 通級については、利用希望者の要望をできるだけ実現できる体制を整えてほしい。
- ・ 副籍制度を利用していたが、先生の力量によって対応がずいぶん変わってしまう
- ・ 特別支援学級に進むか、特別支援学校に進むか、その境界線がわからない。進路を「選べる」ことが大切だと思う。
- ・ 特別支援学級はどこの小学校にもあると思っていたが、そうではないので、距離のあるところだと通わせることができるかどうか不安。
- ・ どの学校にも特別支援学級があれば、子どもたちの障害者に対する意識も高まるのではないか。
- ・ 副籍がうまく機能すると、本人にも周りの子どもたちにもよい影響を与えると思うが、学校（校長先生・担任の先生）によって、対応がまちまちであり、うまく機能しない場合もある。先生の質の向上が求められる。
- ・ 通級指導学級から特別支援教室へ変わると、子どもが通わなくても自分の学校で支援を受けられるというよい面もあるが、一方、そこに携わる教員の数が抑えられてしまうという面もある。
- ・ 通常学級に通っていても授業にはなかなかついていけず、かといってIQから手帳も所持できない子どもは、医師の意見書がなければ特別支援学校高等部には進めない。
- ・ 固定級にも通級にも行けないで、普通学級に通っている子どもも多くいる。小学校全体で、どのような子どもでも通いやすくなるような認識を持って進めてほしい。

## ⑤ 放課後対応について

- ・ 「放課後の活動の場が少ない」、「児童デイサービスを利用したい」、「緊急一時預かりが少ない」等の意見が聞かれる。学校が終わってから、概ね5時半くらいまで子どもを預かることができれば、お母さんたちの負担はかなり減るのではないか。
- ・ お母さんは子どもを一生みていくのだから、気分転換のひとつとして、放課後の預かり（活動場所の提供）や、レスパイトサービスを充実していくことが必要。
- ・ 市内に放課後デイサービスを行うところがあるとよい。現在は市外の施設に通っているが、市内にあれば安心できるし、助かる。
- ・ 放課後を過ごす場所を整備することは、子どもだけでなく、親たちも集まる機会ができて情報交換の場にもなるので、10年計画の中でぜひ実現してほしい。
- ・ 放課後対策事業（さざんかクラブ）が水曜日と土曜日しかない。土曜日はバスが出るが、水曜日は自力で行かないといけない。放課後活動ができる場は貴重なので、送迎も含めて考えてほしい。
- ・ さざんかクラブの送迎は土曜日のみで、水曜日は行っていない。送迎がないために、参加したいが参加できないという声が聞かれる。

## ⑥ 就労について

- ・ 就労に関しては、選択の幅が狭いと感じている。従来の作業にこだわらずに、様々なタイプの作業を行えるようになるとよい。
- ・ 行政は単に就労支援を行うだけでなく、障害者の就労の場を提供してほしい。
- ・ 生徒の力には非常に差があり、それぞれの力を活かしながら働ける場がたくさんあるとよい。
- ・ 障害者手帳が取得できないと、「障害者枠」として就職できない。また、発達障害はコミュニケーションの障害なので、就職できても続かないケースも多い。

## 【障害者団体等ヒアリング】

- ・ 他区の事例では、自治体の支援で、市内の高齢者介護施設などで挨拶や共同作業の訓練をしながら、仕事のマッチングを行っていく例もある。
- ・ 作業所の工賃が安すぎる。やっとの思いで通所しても、賃金が低いため働く気力をなくす人が大勢いる。何か魅力のある仕事を開拓できないか。一步の充実に期待する。
- ・ 就労した場合でも、アフターケアが重要になる。
- ・ 職場でのコミュニケーションに苦労している。大事な面接等であっても、個人情報や守秘義務の関係で、手話通訳が同席することを認めてもらえない。
- ・ 将来的に、市内の作業所等と、作業の発注や授産品の販売等で連携を取っていく可能性は考えられる。しかし、障害者がどのような作業がどの程度できるか、といった情報が入ってきていない。
- ・ 就労移行支援事業所は一箇所のみで、また協力連携機関の地域資源が少ないため、職員のマンパワーでまかなっている部分がある。そのために手いっぱいになり、業務を効率的に回せられない。
- ・ 一步で全ての障害を担保できない部分もある。専門性を必要とする場合（例えば聴覚障害であれば、コミュニケーション機器や手話通訳者）、利用者に不便をかけているところはある。
- ・ 年金や生活保護などの申請、手続き等、就労支援とは別の支援（生活支援にかかる）も一步でやらざるを得ない部分がある。相談や手続きに時間を取られてしまい、就労支援が進まないケースもある。
- ・ 地域での就職を望んでいる人が多いが、障害者雇用に関して中小企業では体力的に難しく、地域で就職が進まない大きな原因の一つである。地域での新規雇用開拓は継続して輩出できるだけの障害者の確保やネットワークが必要。
- ・ 地域で障害者就労スキルを身につけたり、学べる場所がほしい。専門性を高めるために学べるところを探すのが、地域から外れており、交通費や通うためには働けないといった問題がある。
- ・ 施設や機能が田無に偏っているため、保谷地区居住者は近くにほしいという声がある。
- ・ 精神障害者は雇用への意欲が非常に強く、雇用は増加傾向にある。企業では障害者雇用として週あたり時間数の基準など安定を求められるが、雇用パターンや時間数、週の勤務回数によっては、働ける人に当てはまる求人は法的に難しく、精神障害には不利な部分もある。
- ・ 企業の規模に関わらず、いろいろな雇用パターンを創出し、障害者が選択できるようにしてもらいたい。
- ・ 就労支援センターの増設は難しいと思うが、支店として機能を分けることは可能だと思う。同じ理論で就労支援するという趣旨の施設がもうひとつできればと思う。
- ・ 企業実習は本人にとって大きなポイントにもなり、企業側にも人物を知ってもらえ有効。実習先の確保、啓発などは市にお願いしたい。企業での実習は一步からよりも市のほうが受ける確率が高い。
- ・ 内職だけでは頑張っても月2万円なので、内職以外の仕事もできれば（市役所の業務の受注等）。
- ・ 一般就労への移行を支えるには、企業に障害者を受け入れる環境整備が必要。ハード面だけでなく、コミュニケーション手段などのソフト面の整備も必要。数値目標だけを追うのではなく、障害者に対する理解と企業の環境整備が大事。
- ・ 障害者雇用の実績がない企業では、障害者に対するイメージも様々であり、障害者雇用の阻害要因として「障害者に適した職種がない」とする企業が多い。「障害者に向いている仕事」「向いていない仕事」というものではなく、個々の障害状況やスキルの習得状況、本人の希望・意欲に応じて様々な職種で雇用の検討をする必要がある。
- ・ 定着のためには、本人と企業が共に障害特性を理解していなければならない。特に精神障害者は目に見える障害ではないため、本人が「もう無理」と気付いた時には仕事を休まなければならないこともある。断ったり頼んだりすることが苦手な人も多いので、周りからの声かけが必要である。
- ・ 就労前に生活支援が必要な人、生活が成り立たない人もいて、障害者年金や利用できる社会資源を知らない、それを家族も知らないという人もいる。その部分を市や生活支援機関で支援していただき、就職活動に繋げていただきたい。

- ・ 地元での就職を希望する人が多いことから、職場実習など就職に向けたきっかけ作りなど地元企業との協力体制を構築できたらよいと思う。
- ・ 内職作業がないので、行政から「ダイレクトメール」等の仕事を回してもらえればありがたい。

### ⑦ 余暇活動等について

- ・ 行政で、障害者にあったスポーツを紹介したり、指導をしてほしい。また、指導をする指導員を要請してほしい。スポーツをすることは、障害の悪化防止や健康維持につながる。
- ・ (一歩には) 余暇支援の問い合わせが多い。就労と同時に生活パターンの充実を求めている。仕事以外での活動を希望する声はある。
- ・ 余暇活動を行う場所・機会が不足している。土日の遊び場所がない。団体で遊べるところがあるとよい。グループホームで暮らしている人でも、土日をもて余している人もいる。
- ・ 作業所が休みの土日の余暇活動の要望がある。親も高齢になって、連れて行くことができない。
- ・ くるみ学級、あめんぼ青年学級は待機している人も多い。

### ⑧ 市民の理解や協力について

- ・ 市民や地域の健常者にもっと障害者のことを知ってほしい。そのためには障害者・家族がもっと街へ出て行くことも大切だが、いろいろなイベントにおける障害者の受け入れ体制を整備してほしい。
- ・ 発達障害は目に見えないため、認知度が低く、また、親も子どもの障害を認めがたらない。特に、祖父・祖母や親せきから、「子育てが悪いから」と非難される苦しみはとて大きい。また、発達障害といっても、自閉症、アスペルガー、高機能自閉症、LDなど様々なものがあり、求めるサービスや日常生活上の困難さもそれぞれ異なるのが特徴。
- ・ ケアホームを作ろうと考えているが、地域の人々の理解がなかなか得られない。福祉教育の機会や講演会の開催などをしてもらって、地域の人々の福祉への理解を深めてもらいたい。
- ・ 行政には、障害を理解してもらおうイベントや、市民後見人育成のための講習会を開催してほしい。
- ・ 市民には、市民後見人への参加と、障害者と接する機会（ボランティア等）を持ってもらうことで障害者への理解を深めてほしい。
- ・ 学校での障害に対する啓発（職場体験などで、作業所等も体験できるようなプログラム）。
- ・ 学校教育の場では、ほとんど精神疾患についての勉強が行われていないようだ。精神病院の先生が講演すると、中学生などがたいへん理解が進む。そのようなことはできないか。
- ・ 手話通訳への理解が薄い。市が講演会等を行うときは、聴覚障害者が参加するかどうかにかかわらず、必ず手話通訳者をつけることで、市民への啓発にもなる。西東京市は、J-COMと契約しているので、番組に手話通訳や文字情報をつけるように働きかけてほしい。
- ・ 障害のある人を真に文化的に地域に受け入れていくことは、長い期間がかかると思う。いろいろな人の意見を取り入れてほしい。日常的な相互交流をつくっていくことも必要である。
- ・ 地域の人に理解してほしい。ボランティアなどに係わってくれる人が多くなってきたが、特別などき（障害者週間事業、市民まつり等）だけでなく、日常生活の中でも理解してもらえる機会があるとよい。
- ・ 障害者学級の運営にはボランティアが不可欠だが、絶対数が足りない。現在は個人的な「つながり」で来てもらうことが多い。子どもや高齢者に対するボランティアに比べて、障害者に対するボランティアは、普段から触れ合う経験も少なく、若干ハードルが高いと思っている人が多いかもしれない。
- ・ すべての国民は平等なのに、障害者だけが施設に住むときに周りに了解を得なければいけないのはおかしい。市民の理解者を増やすことが一番大事。例えばガイドヘルパーの養成講座などで、実際に触れ合うと理解してもらえる。障害者を理解する、学ぶチャンス、触れ合えるチャンスがあればと思う。相互理解の体験ができる機会を作してほしい。

## 【障害者団体等ヒアリング】

- ・ ボランティア体験や、一緒に作業をするなどのほか、日常での接点を増やす。一番よいのは学校で、給食やプール、運動会を一緒にやれば、小さい頃から何の偏見もなく育つことができる。小学生は柔軟に受け入れる。子どものときからの接点の問題だ。共存するうちに理解してもらえればと思う。
- ・ 身体障害者への理解はある程度あるが、知的障害、精神障害に対する理解がほしい。不幸な事故や事件があると、すぐに通院歴などを報道されてしまい、障害者を区切ってしまう傾向がある。
- ・ グループホームについては、現在通っている人の中でも必要としている人がおり、新たに作ることを検討しているが、近隣住民の同意が得にくい。市として何か手立てはないのか。実際に建った後に暮らしていくことを考えると、無理強いするわけにもいかない。

### ⑨ サービス利用について

- ・ 市内でショートステイを利用できる施設がなく不便。また、市内に肢体不自由が使える場所（バリアフリー環境が整っている施設・設備）が少ない。
- ・ ショートステイや移動支援は、人手不足で断られることがある。また、障害者は男性が多いが、同性（男性）の介護者を確保できないことも多い。
- ・ 自転車を利用している人も多いため、駅の駐輪場の利用料を減免してもらえるとありがたい。
- ・ 移動支援については、利用できる量が少ないという声がよく聞かれる。
- ・ 障害の程度が軽く、身体障害者手帳を取得できない人は、要約筆記者や手話通訳者のサービスが利用できずに困っている。
- ・ 現在、重度身体障害者緊急通報システムは、18歳以上の肢体不自由者が対象になっているが、聴覚障害者のとっても有益なものなので、適用を広げてほしい。
- ・ 聴覚障害者の家に行くヘルパーは、手話のできるヘルパーにするか、または手話通訳者が一緒に行くことができるような制度も考えてほしい。また、手話のできるヘルパーを養成してほしい。
- ・ 西東京市では通所に対する移動支援の利用は認められていないが、今は事業所の送迎で利用している利用者の中には、ヘルパーがつけば一人で通所できるのではないか、と思われる人もいる。事業所通所に移動支援を認めてもらえれば、出席率の向上にもつながるのではないか。
- ・ 働いている保護者も多く、通所の際の支援に移動支援が使えるよう、融通していただきたい。
- ・ 同行援護に関して。高齢化に伴って視覚障害者に身体介護のニーズが出てきているケースもあるため、「身体介護を伴うか否か」を判断するための調査をしていただきたい。
- ・ 移動支援、生活サポートサービスに係わる報酬の引き上げを望む。
- ・ 居宅介護では、買い物や余暇活動等の際にヘルパーに同行を求められないが、一緒に行えるようにしてほしい。
- ・ 同行援護では、「時間数が足りない」「移動支援では認められていた月をまたいでの利用を認めてほしい」「ヘルパーが少ないために利用したいときにサービスを利用できない」という意見が聞かれる。
- ・ 余暇活動の際、移動支援を使うが、ヘルパー不足で断られることも多い。
- ・ 生活状況や暮らし方、本人の状態を定期的に知る、見守りの意味も含めて必要な人には家事援助等のホームヘルプサービスの導入をお願いしたい。
- ・ 高次脳機能障害者で、一人で出かけてしまっただけで帰れなくなってしまうような人については、GPSの支給を行ってほしい。
- ・ 親は自分たちがすべて抱え込んでやってきたが、高齢になって無理が出てくる。365日ずっと介護をするのは疲れるので、レスパイト的にショートステイを利用するとか、うまくケアマネジメントができる仕組みができるとうい。



## ⑩ 人材の育成について

- ・ 人材を養成するための研修（ガイドヘルプ、喀痰吸引等）を行政で実施してほしい。
- ・ 市民後見人等の人材の育成・活用を図っていく研修を実施してほしい。
- ・ 重度訪問介護に関する喀痰吸引等サービスへの研修・支援をしてほしい。
- ・ 現在困っているのはヘルパーの高齢化と、特にガイドヘルパーの不足。ガイドヘルパー講習会等の場で民間の事業者があることを紹介してもらえるとありがたい。
- ・ 精神障害に対応するヘルパーを養成し、利用できるようにしてほしい。定期的に訪問ヘルパーが入り、話をしたり、一緒に部屋を整理するなどかかわることにより、生活も安定する。
- ・ 移動の際に支援を必要とする人が多いので、ボランティアを育成してもらえるとありがたい。

## ⑪ 施設・設備について

- ・ 保谷障害者センターが災害時の二次避難所になったが、保谷地区ではそこだけになるので、肢体不自由者でも施設・設備を災害時の二次避難所として利用できるよう整備してほしい。
- ・ 作業所の機能と生活介護の機能をもつ、多機能型の施設が市内にあるとよい。
- ・ 廃校する小学校を肢体不自由者が活用できる施設に転用できないか。他区では、発達支援センターとして活用しているところもある。
- ・ 市内に就労継続支援A型の施設があるとよい。
- ・ 就労継続支援A型を希望する人はいる。福祉要素やフォローが入りながら最低賃金が確保されるという意味では、存在意義は大きい。しかし、事業所の体力的なこと、地域のフォローが必要なので、企業誘致するなどのレベルでやっていかないと難しい。
- ・ さざんかクラブが田無総合福祉センターとフレンドリーで活動しているが、どちらも他の団体等も利用している施設であり、のびのびと遊ばせることができないこともある。また、施設・設備が大人仕様になっているため、子どもには使いにくい点もある（トイレなど）。
- ・ フレンドリーには、緊急連絡用のFAXがないが設置してほしい。
- ・ 田無方面に精神の施設が偏在している状況があるように感じる。均一に点在するのが理想だがまずは、社会調査などを行い、地域に浸透できるようなネットワークや必要性が高い資源開発や地域体制は必要である。
- ・ 市内に同じような障害者センターを作るのは難しく、また効率的ではないので、ニーズに合わせて機能を絞った施設を他に作ったほうがよい。例えば、期限のある訓練事業等。

## ⑫ 住まいの場の整備について

- ・ 加齢による機能低下の問題もある中、知的障害者が生涯地域で暮らせる場所（ケアハウスなど）が非常に少ない。
- ・ 親が亡くなったあと、グループホーム・ケアホームに全員入れてもらえるのか。また、そのようなときに突然、行政の人が家に入ってきて、うまくグループホーム等につながることもできるのか。
- ・ 福祉ホームのような生活場所があるとよい。
- ・ 重度（身の自立ができない）の人でも利用できるようなグループホームを作るのはまだまだ難しい。市で、誰でも（重度でも）入れるグループホームを推奨してほしい。そこは障害者団体の力だけでは難しい。
- ・ 現在のグループホームは身の回りのことができる人が前提になっているが、重度の知的障害者の対応についても考えていく必要がある。
- ・ グループホームとケアホームを作してほしい。賃貸マンションを借り上げる方法であれば、地域での理解を得なくても、大家の理解が得られればよい。

## 【障害者団体等ヒアリング】

- ・ 現在のグループホームは通過型だが、入居してから安定するまでに時間がかかるため、3年の期間は短いと感じている。3年では退所が難しい人は継続でいてもらえるような制度があるとありがたい。グループホームに入る人はほとんど病院からで、3年経過後は一人暮らしになることを想定している。

### ⑬ 市内のネットワーク、連携について

- ・ 特別支援学校に通う子どもたちの「学齢期会」のような組織を作って、PTAも集まって、市と連携をしながら、情報交換や福祉のことを学ぶ機会として活用できたらよい。
- ・ 3歳児健診等で、障害の可能性等が認められ、その後、ひいらぎ、学校等と進み、卒後は福祉関係の支援を受けることになる。健康（母子保健）、教育、福祉と、支援がぶつ切りになっている。一人の発達障害者を子どもの頃から大人まで一貫して追いかけていけるような支援策が求められる。
- ・ 教育支援課には専門のカウンセラーがいるので、その人を活用して障害福祉課と連携を進める方法もある。庁内で異動があっても担当者が代わっても、引継ぎができていない組織にする必要がある。
- ・ 発達障害者・保護者と行政の懇談会を定期的で開催してはどうか。その際には、発達障害に限らず、他の障害者団体も含めた懇談会とすることで、お互いの理解も深まるのではないか。
- ・ 生まれてから青年期まで通った様々な機関が連携して、どこの機関に行くときも同じことを説明（子どもの状況等）しないで済むようにしてほしい。情報をどこか1つのところで管理できるとよい。
- ・ ハーモニーの利用対象者は、原則として精神保健福祉手帳を所持又は、精神科医療機関に定期的に通院している方であるが、未治療状態の方については保健所を含めた関係機関と連携しながら対応をおこなっている。同じ障害者総合支援センターフレンドリーにある相談支援センターえぼくとも連携を確認し支援を行う場合もある。
- ・ 西東京市は障害者団体の活動があまり活発ではない感じがする。市が中心になって、様々な団体や事業者が集まる会を立ち上げてほしい。作業所にいると狭い世界でものを考えてしまうので、横のつながりももって活発化させていきたい。
- ・ 公民館と障害福祉課とで普段から定期的に情報交換をする場があれば、くるみ学級、あめんぼ青年教室の学級生の生の声を伝えたり、生活支援サービスへの橋渡しがスムーズにできたりと、お互いにプラスになる。
- ・ 教育と福祉の連携も課題の一つで、教育機関から福祉サービスにつながる際に継ぎ目のない支援体制を今後は地域になじむ形で構築していく必要がある。

### ⑭ バリアフリー・ユニバーサルデザイン環境について

- ・ 市内には車いすでの利用が難しい道路がいくつもある。また、音声案内が整備されていない信号や施設、スロープがあっても傾斜がきつくて上れない施設など、点検・改善が必要な箇所がある。
- ・ 市内の道路には、肢体不自由者にとっての歩行環境が整っていない場所がいくつもある。特に、保谷駅前。
- ・ 市に要望を出して、段差を改善してもらったり、警察に言って、音響式の信号に替えてもらったこともある。バリアフリー環境を整備してほしい。

## ⑮ 災害時の対応について

- ・ 災害時の救助方法・通報の仕方なども考えてほしい。
- ・ フレンドリーには、聴覚障害者に配慮した設備がない。例えば、地震や火災など緊急の場合、普通は赤いフラッシュライトで知らせるが、そのような整備もない。また、電光掲示板など、文字情報で知らせる設備もない。聴覚障害者は、館内放送があってもわからない。
- ・ 小中学校などの一次避難所や、福祉避難所の整備をお願いしたい。あまり考えたくないが、喫緊の課題であると思う。
- ・ 災害のときに、知的障害者は一般の人と混じって避難できない。作業所については、安全性を確認した上で問題がないなら、すべてを避難所に指定してほしい。知的障害者の場合は、慣れているところなら安心して避難できる。臨時的に避難所とできるような条例を作してほしい。

## ⑯ 医療について

- ・ 肢体不自由で、医療ケアを必要とする子どもは、卒後、行き場所がない。障害の程度にかかわらず、住み慣れた・生まれ育った地域で生活させたいので、市として施設の参入を促して行ってほしい。
- ・ 個人の医療機関での障害児・者の診療受け入れをお願いしたい。
- ・ 市内には、訪問診療をしてくれる病院がない。精神障害の場合は、病院に連れて行くことがまず難しい。行政から働きかけてもらえないだろうか。
- ・ 病院は3か月で患者を退院させるが、定期的に通院させるなどのフォローが必要。退院させるときには、つながりをきちんと作ってからにしてほしい。家族任せにされても難しい。
- ・ 医療的ケアが必要な子どもの居場所を整備してほしい。
- ・ 医療の必要とする人たちの受け皿として、ケアホームの設置も同時に進めていく必要がある。高齢化も進んでおり、いずれ医療を必要とするときもくる。市内にケアホームや病院などを作ってほしい。
- ・ 医療につながらない人や、治療を途中で止めてしまう人を地域で支えていくようなシステムを作るのが基本計画のポイントだと思う。

## ⑰ 高齢障害者への対応について

- ・ 「65歳になったから介護サービスへ行ってください」ではなく、その先の道筋をつけないといけない。知的の人は介護のサービスへ行きたがらない。入所施設として特別養護老人ホームなどと提携しながら、知的の高齢者の行き先を探っている。
- ・ 知的障害者が高齢になった場合、一般の高齢者と一緒のところで支援を受けるようになるが、知的障害者の場合は「場所」に強いこだわりがある場合などもある。障害者の高齢者対策はどうなっているか。
- ・ 障害のある人が65歳になると介護保険によるサービスに移る。今まで障害のほうで手厚くサービスを受けていた人が、介護保険のほうのサービスになり、サービスの範囲が変わってしまう。介護保険に移る際には、高齢福祉課と障害福祉課がきちんと連携をとって、本人に十分説明していただけるとありがたい。

## ⑱ 親・家族への支援について

- ・ 障害児の親のケアをしっかりとした中長期的なプログラムとして、行政が提供してほしい。
- ・ 子どもの障害の受容がなかなかできない親もいる。子どもが小さいうちに、親に対して障害等に関する情報を十分提供していくことが必要。
- ・ 高次脳機能障害の場合は本人が十分に自分の障害を受容できていないケースも多く、難しいこともある。高次脳機能障害の場合は、本人だけでなく家族も含めて、理解を進める必要がある。

## 【障害者団体等ヒアリング】

### ⑱ 事業所の運営について

- ・ 法内事業では利用者の利用回数によって報酬が左右されるので、利用者が体調を崩したり、ショー・トステイ等を利用して欠席すると、その分報酬金額が下がることになる。しかし、利用者やその家族の事情もあり、毎日の利用は難しい。
- ・ 生活介護は、利用者が毎日出席することが難しく、人件費のことを考えると運営が難しい（出席率は70%~80%）。
- ・ 作業所で仕入れ栽培した植物や自主製品の手づくり陶器・アクセサリ等の授産品を販売している。市役所内では、定期的に鉢花を販売しているが、売り上げが伸び悩んでいる。障害者週間事業等のイベントでの出店を行っているが、売り上げ向上のため、こうした機会が増えたり、販売用のスペースが利用できたりすると良いと思う。
- ・ 一番大変なのは事業拡大。新規事業の物件を押さえる、作ることに苦勞している。金銭面が厳しく、当初予想よりかかる。国の法律が年々厳しくなっており、建築基準法、消防法、バリアフリー法、東京都安全条例など、何かに引っかかってしまい、進まない。
- ・ 児童発達支援はニーズがある。相談支援事業所も必要になってくるので、今後、場所を見据えて行いたい。日中活動では作業所が少なく、卒業後の選択肢が少ないので働き場を提供したい。（作業所と違って）人数の縛りはないので、当事業所で発達障害者を雇用したいと考えている。
- ・ 一般就労だけでなく制度内の就労継続支援B型を行いたい。作業所だから工賃が安いではなく、お金をもうけられて、出張できる場所も作り、変化もあるという、楽しみを持てる作業所を作りたい。
- ・ 今後、公共施設を使用している団体は家賃（使用料）を払うようになると聞いたが、そのようになるのであれば早めに情報を教えてほしい。（中長期の計画・予算が建てやすくなる。）
- ・ 事業を拡大していきたい気持ちはあるが、「作業場所の問題」「職員の問題」が解決しないと難しい。
- ・ 就労継続支援B型を利用する前に、就労移行支援を受けるようになってきているが、初めから一般企業等への就労が難しいと思われるケースもあり、現場からすると無駄な時間に感じられることもある。現在、就労移行支援には8人の利用者がいるが、訓練スペースはすでに手狭になっている。
- ・ 現在、仕事が切れることはないが、「利用者が予定通り出てこられるかわからない」ことや「物品を保管する場所を確保できない」等の理由から、大きな仕事は受けられない状況。また、外に出て行く仕事の場合は、職員も付き添うことになるので、職員の数から多くの仕事に対応できないという面もある。かといって、安定的な収入があるわけではないので、職員をこれ以上増やすのも難しい。

### ⑳ その他

- ・ 学齢期は、成長に合わせて毎年車いすを作る必要があるが、新しくする（替える）前の車いすについては、リサイクル等の活用ができるとよい。
- ・ 親が亡くなったあとの支援策を充実させてほしい。（住まいの場や日中活動の場の整備）
- ・ 発達障害者としての手帳を作れないものか。手帳を作れば、支援が明確になり、数も把握できる。
- ・ 市内にも数多くの発達障害者がいると考えられる。西東京市においても発達障害者の現状の把握が必要である。
- ・ 計画策定において、発達障害者あるいはその保護者の話を聞くことも有効ではないか。（策定部会へのオブザーバー参加等はどうだろうか。）
- ・ 障害者が地域で孤立しないような施策を計画に盛り込んでほしい。
- ・ ノーマライゼーションはまだ浸透していない。社会資源は整備されてきたが、それらを結びつけるコーディネーター機能が弱いと感じる。
- ・ 障害者本人が選択できることが重要。そのためには選択肢はしっかりしたものである必要がある。障害者の自立を妨げるものや苦勞することは、選択肢の少なさが原因ではないか。各分野で必要な選択肢を用意することの意味を検討する必要がある。

- ・ 障害者に対する理解は進んできているとはいえ、いまだにバスで乗車拒否をされたり、飲食店で入店拒否をされることも少なくない。ハンドル式の車椅子の利用者は乗車できないことを会社として明言しているバス会社もあり、新幹線などでも利用の制約がある。言い古された表現かもしれないが、「完全参加と平等」の実現に今後も取り組んでいただきたい。
- ・ 最近は障害者を見てくれるようになったが、いざというとき、例えばグループホームを作るときに反対されるようなことがある。障害者は「危ない人」と特別に見られることがある。国、自治体が、差別をなくす環境づくりを進めてほしい。市で条例を作ることも可能だと思う。地域移行と言っても、そこが解決されないと進まない。一般の人はそこに住むのに周囲の許可はいらないのに、障害者だから許可がいるというのは人権侵害。法の理念だけで終わらない「共生社会」の実現を望む。
- ・ メンタル面を病んでしまい、仕事をやめざるを得なかった人なども通っている。作業所で訓練し社会復帰した人から、作業所で人と接して、病を克服できてよかったと言われたことがある。通える場があり、仲間がいて交流できたことで、その人の生活や心にメリハリや変化ができ、社会復帰につながった。技術の習得や訓練だけが目的ではなく、そういう面もあることはとても大切だ。
- ・ 地域に障害者の居場所が必要。助けが必要ならば、その人に合わせた援助をするということが、自然にできるようになればよい。
- ・ 支援を必要としている人に対し手帳ありきではなく、地域で支援できる体制、窓口が必要かと思う。
- ・ 知的障害者及び精神障害者が、地域社会における共生社会を実現していく上で、法的に保護し、支えていくため、財産を適正に管理し、身上監護を目的とする成年後見制度の利用促進。
- ・ 自立支援法になってから提出する書類が多くなった。保護者も高齢になると書くのが難しい。もう少し簡素化できないものか。
- ・ 田無庁舎と保谷庁舎が分かれているため、行くのが大変という声がある。障害福祉課で用事を済ませるときに、相談内容によっては保谷庁舎に行かなければならないことがあり、時間的にも経済的にも負担との声がある。
- ・ 24時間対応の場所ができるとよい。緊急事態が発生したときに、電話で受けるだけでなく、実際に人が動ける体制があることが望まれる。一人暮らしの人に緊急事態が発生した場合、「救急車には誰と一緒に乗るのか」、「救急隊はどこに連絡をすればよいのか」などの問題があり、現在は事業所が対応しているような大変な状況もある。
- ・ 精神障害者は、実際に仕事に就くことを希望している人が多いが、「働いていないとダメ」ということではない。定職に就いていなくても、できる限りのことをやって、価値を認めてもらえるようになるとうい。